

道徳と福祉の心（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング GHU101

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（人文系）

授業科目名 道徳と福祉の心（地）

科目責任者 野口 芳宏

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 11001001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

DVDの視聴や様々な社会的・道徳的・福祉を題材とした資料を通して、福祉や社会に積極的に携わろうとする人々の「人間としての生き方・あり方」について考える。また、これまでの自分の生き方・あり方を振り返り、将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲を高める。

学生の達成目標

1. 自分の目標に向かって、将来の目標を持つことができる。
2. 各分野の専門家(含 福祉)の生き方にふれ、自分のこれからの人生と重ね合わせる。
3. 新聞や雑誌の掲載された社会事象に関心を高める。
4. 今後の自分の生活や将来に向けた展望を持つことができる。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション「現在の自分とこれからの自分の生き方」について小論文を書く。
第2回 植草学園短期大学の歴史「社会の変遷とともに見つめてきた教育」
第3回 建学の理念を語る「植草学園短期大学が目指すもの」
第4回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第5回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。

第6回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第7回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第8回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第9回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第10回 福祉に関する新聞記事を読み，意見文を書き，発表する。
第11回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。
第12回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。
第13回 高齢者福祉に関する情報に関心を持つ。
第14回 DVについて話し合い，考えを深める。
第15回 まとめ 次年度への課題

予習・復習の内容	予習	予告に基づき，用語の概念，あらましなどを事典によって調べてくる。
	復習	授業を受けて印象に残る3点を毎回確認，記述する。
	展開	インターネットを活用し，関連事項についての知識を深める。
成績評価	評価の基準	下記3点を100点満点で採点する。
	評価の方法	正式な礼状，最上ノート，課題論文の提出による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書・参考URLについては，適宜紹介する。	

文章表現法

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（人文系）

授業科目名 文章表現法

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
山田 美知代

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 11002201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 専門教科ごとに担当教員が講義を行い、学生は文章にまとめ、知識の再確認をする。

学生の達成目標 1. 介護福祉士として必要な基礎知識習熟のために基本的な知識を文章を用いて表現できる力をつける。

授業内容
第1回 第1回 オリエンテーション：「文章表現法」の学習の目的と授業計画
第2回 「介護の基本とは」（布施）講義からテーマを決めて文章にまとめて提出する。
第3回 提出された文章を解説しながら、基礎知識の考え方まとめ方を学ぶ。
第4回～第5回 多世代交流（7/8予定）
第6回 「人間関係とコミュニケーション」（川村）講義から

テーマを決めて、文章にまとめて提出する。

第7回 提出された文章を解説しながら、基礎知識の考え方まとめ方を学ぶ。

第8回 「生活を支援することⅠ」（清宮）講義からテーマを決めて文章にまとめて提出する。

第9回 提出された文章を解説しながら、基礎知識の考え方まとめ方を学ぶ。

第10回 「生活を支援することⅡ」（中西）講義からテーマを決めて文章にまとめて提出する。

第11回 提出された文章を解説しながら、基礎知識の考え方まとめ方を学ぶ。

第12回 「こころとからだのしくみ」（今井）講義からテーマを決めて文章にまとめて提出する。

第13回 提出された文章を解説しながら、基礎知識の考え方まとめ方を学ぶ。

第14回 「認知症の理解」（布施）講義からテーマを決めて文章にまとめて提出する。

第15回 提出された文章を解説しながら、基礎知識の考え方まとめ方を学ぶ。

予習・復習の内容	予習	対象科目に目を通しておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出する。
	展開	講義を受けた内容をもとに，最新の情報を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	レポート評価80%，授業参加状況20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	詳細については，ガイダンス時配布	

法学（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS302

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 法学（地）

科目責任者 金津 謙

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 12000001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

社会福祉制度は法律に根拠を置いている場合が多く、社会福祉と法律は密接に関連している。福祉の現場を担当するものとして法律を「知らなかった」では済まされない。本講においては特に社会福祉と密接した法律問題について検討し、次のステップの一助とすることを目的とする。

学生の達成目標

1. 社会福祉制度と法律との関わり
2. 成年後見制度についての習熟
3. 介護現場におけるトラブルと法的対処への習熟

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第1回 | 第1回 法律の全体像 |
| | 第2回 憲法に規定される基本的人権概論 |
| | 第3回 生存権と社会福祉 |
| | 第4回 高齢者と悪質商法①／消費者契約法，特定商取引法概論 |
| | 第5回 高齢者と悪質商法②／特定商取引法各論 |
| | 第6回 悪質商法と損害の回復 |
| | 第7回 高齢者の権利擁護①／成年後見制度概論 |
| | 第8回 高齢者の権利擁護②／成年後見制度の実務 |
| | 第9回 日常生活自立支援事業と法律の関わり |
| | 第10回 福祉と行政（法）の関わり |
| | 第11回 相続と遺言 |

第12回 福祉と労働（法）
第13回 福祉現場における事故と法的責任①／損害賠償制度概論
第14回 福祉現場における事故と法的責任②／損害賠償制度各論
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	授業前に指摘した教科書を熟読すること。
	復習	授業で配布したプリント、教科書を活用して授業ノートを整理すること。
	展開	新聞などで報道される福祉に関する問題について、法的視点から考察する。

成績評価	評価の基準	中間テスト（50％）、期末テスト（50％）
	評価の方法	中間テスト（50％）、期末テスト（50％）

教科書	書籍名	権利擁護と成年後見制度
	著者名	社会福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規出版
	価格	2310
	ISBN・ISSN	978-4805835685

推薦図書等	書籍名	法学への一歩（第3版）
	著者名	河原 格 編著
	出版社	八千代出版
	価格	2415
	ISBN・ISSN	978-4842915012

参考URL

備考

コンピュータ概論（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO102
開講年度	2014年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論（地）
科目責任者	緒方 佐紀子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	12000501
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	テキストを参考に練習問題に取り組み、その後プリントによる演習問題を自由に作成する。
-----------	---

学生の達成目標	1.	Windowsの基本操作方法，Word，Excelの実習により文章作成，表計算を学ぶ。
	2.	教科書を理解して、応用力を身につける。
	3.	演習では基礎知識をもとに自由にレポートを作成できるようにする。

授業内容	第1回	第1回 コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識 第2回 メモ帳，Wordによる入力，保存，ファイル管理 第3回 Wordの基本操作1（文字，文章入力，文書保存） 第4回 Wordの基本操作2（編集機能） 第5回 Wordの基本操作3（表，罫線） 第6回 Wordの基本操作4（ビジュアルな文書，図形） 第7回 総合的な文章の作成 第8回 Excelの基本操作1（ワークシート，セル，表） 第9回 Excelの基本操作2（計算式を用いた表の作成，挿入／削除など） 第10回 Excelの基本操作3（グラフの作成） 第11回 Excelの基本操作4（グラフの変更，装飾など）
------	-----	--

第12回 Excelの基本操作 5（関数の使い方）
第13回 Excelで基本操作 6（データベース機能）
第14回 WORDとEXCELの操作（差し込み印刷：WORDで作成され
た文章にEXCELのデータを埋め込む）
第15回 まとめ（総合問題の提出）

予習・復習の内容	予習	教科書の操作機能を理解しておくこと。
	復習	新しく出てきた機能については完全に操作できるようにしておくこと。 期間中 4、5 回のレポート課題に関しては仕上げておくこと。
	展開	授業で直接使用しないソフトに関しても積極的に操作してみる。

成績評価	評価の基準	WORDでは演習レポートで与えられた機能をどのように工夫して使用しているか。 EXCELではシートごとにまとめられ、数式、関数を適切に利用しているか。 ファイル間の受け渡しができるか。以上の事を合格基準とする。
	評価の方法	演習レポート，授業出席，授業参加態度を考慮して行う。 おおよその基準としてWORD 4 0 %、EXCEL 4 0 %、総合力 2 0 %とする。

教科書	書籍名	『30時間でマスター Word&Excel2010』
	著者名	
	出版社	実教出版株式会社
	価格	9 0 0 円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

キャリアガイダンスⅠ（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング GSO104

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 キャリアガイダンスⅠ（地）

科目責任者 川村 博子

担当教員
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 12000801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

1. 自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。
2. 将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回	情報収集（キャリア支援室の利用）
	第3回	自己理解を深める
	第4回	キャリアプラン
	第5回	グループワーク
	第6回	マナー講座
	第7回	卒業生のお話を聞く会
	第8回	アサーティブ講座
	第9回	作文添削

		第10回	講演会
		第11回	ストレスマネジメント講座
		第12回	職場の話を聞く会
		第13回～第14回	講演会
		第15回	内定者報告会
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。	
	復習	指示されたレポート等の課題を期限までに提出のこと。	
	展開	最新の図書等を読み、理解を深める。	
成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等	
	評価の方法	提出レポート、授業参加態度等、総合的に評価する	
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

キャリアガイダンスⅡ（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング GSO301

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 キャリアガイダンスⅡ（地）

科目責任者 川村 博子

担当教員
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 12001001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

1. 自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。
2. 将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。

授業内容

第1回

第1回
択について

オリエンテーション、自己理解を深める、職業選

第2回
着について)

進路について考える（キャリアについて・職場定

第3回

情報収集

第4回～第5回

グループワーク

第6回

アサーティブ講座

第7回

卒業生の話を聞く会

第8回

講演会

		第9回 ストレスマネジメント講座 第10回 ライフプラン（保険）講座 第11回 職場定着のための労働・社会保障関係法の知識 第12回 ハラスメント講座 第13回～第14回 グループ面談（進路希望） 第15回 現場の話を聞く会
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題等を期限まで提出のこと。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等
	評価の方法	提出レポート、授業参加態度等、総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

環境と人間（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS401

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（自然系）

授業科目名 環境と人間（地）

科目責任者 村上 公信

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 12000901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

身近な自然環境や環境問題から地球規模で抱える環境問題まで、人間社会や健康とのかかわりから学ぶとともに、人間をはじめ多くの生物が、この地球を維持するための基盤となる必要な情報について探究活動を通して学習する。

学生の達成目標

1. 自然環境や環境問題に関する基本概念について、身近な生活をとおして理解する。
2. 環境問題と人間生活との関わりについて、地球生態系の観点から科学的に学習する。
3. 地球が、すべての生き物にかけがいのない住みかであることを学び、私たち人間の役割について理解する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 環境とは何か・環境問題とは何か |
| | 第2回 | 環境を形づくるもの－生態系 |
| | 第3回 | 自然界の物質循環 |
| | 第4回 | 体内環境の調節 |
| | 第5回 | 大気の汚染・原子力発電所事故による放射線汚染 |
| | 第6回 | オゾン層の破壊と地球温暖化問題 |
| | 第7回 | 水の汚染と水質浄化 |
| | 第8回 | 酸性雨 |
| | 第9回 | 土壌の汚染 |

		第10回 環境ホルモンとダイオキシン 第11回 騒音・振動・悪臭と健康 第12回 環境と食の問題 第13回 環境汚染に対する行政上の対応 第14回 環境問題のための新技術 第15回 「環境と人間」のまとめ
予習・復習の内容	予習	授業で予定している内容について、教科書を読み、事前に学習内容のイメージを持つ。
	復習	講義で配布されたプリントや教科書で、学習内容を確認し、理解できなかったところは調べる。前時の授業で提出した確認レポートを見直して、学習内容の定着を図る。
	展開	環境問題に関する新聞記事やDVD視聴を通じて、興味・関心を持ち、授業内容の一層の理解を深める。 環境問題と人間について基本的な知識を習得すると共に、日常生活での関連について気づくことができる。
成績評価	評価の基準	講義内容が理解できていること。授業態度や出席状況、毎時に提出する確認レポートの提出等。
	評価の方法	期末の筆記試験60%、毎時の確認レポート20%、平常点（出席状況、授業態度等）20%の成績を加味して総合的に評価する。ただし、この比率は若干変更することもある。
教科書	書籍名	地球環境がわかる
	著者名	西岡秀三 宮崎忠國 村野健太郎
	出版社	技術評論社
	価格	本体1880円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7741-3786-5C3044
推薦図書等	書籍名	特になし。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	授業は講義形式で行う。毎授業時に、資料プリント、新聞記事、確認レポート等を配布するので、保存のためにA4版クリアファイルを用意するとよい。	

総合英語（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS103

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（外国語）

授業科目名 総合英語（地）

科目責任者 北條 洋子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 14000001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護に関わる身近な話題で、外国語（英語）での簡単なコミュニケーションができるようになる。その為に、英語圏社会を知り、基礎的な英会話を練習し、健康社会についての基本的なPresentationの練習を行う。

学生の達成目標

1. 英語を話す人々の生活習慣や考え方を説明することができる。
2. 英語を使って簡単なコミュニケーションをすることができる。
3. 健康生活に関する話題を取り入れながら、易しい英語で自分の考えを発表することができる。

授業内容

第1回 第1回 授業目標と進め方 英語の特徴・英語学習の理由は？（目標1,2,3）
第2回 世界を見てみよう①St.Patrick 健康生活とは？発表(1)（目標1,2,3）
第3回 世界を見てみよう②Festivals 体の部位の英語は？（目標1,2,3）
第4回 困った時の訴え①Symptoms 体調を気遣う英会話は？（目標1,2,3）
第5回 困った時の訴え②Barrier-Free/UD バリアフリー・UD？（目標1,2,3）
第6回 食の国民性①Breakfast 食前に手洗いする理由は？（目標

		1,2,3) 第7回 食の国民性②Snacks & Tea 最適な昼食に1-発表(2) (目標1,2,3) 第8回 日本との違い①Castles ? 健康な生活習慣とは? (目標1,2,3) 第9回 日本との違い②Post Box 体を守る方法は? (目標1,2,3) 第10回 共に生きる①Animals 補助犬とはどんな犬か? (目標1,2,3) 第11回 共に生きる②School Lives 非言語コミュニケーションとは? (目標1,2,3) 第12回 共に生きる③Community アウトドア活動の意義は? (目標1,2,3) 第13回 共に生きる④Money 休養と睡眠の意義は? (目標1,2,3) 第14回 障害を越える努力 the challengedとはどんな方? (目標1,2,3) 第15回 英語での効果的な発表のヒント 発表原稿持参 発表(3) (目標1,3)
予習・復習の内容	予習	① 授業内容に示されているキーワードや課題について。英語は辞書で、項目については百科事典などで必ず調べて、自分なりの意見を発表できるようにしておく。 ② 次時に行うテキスト本文の下調べをする。
	復習	① 教科書や配布プリントを用いて、授業の要点を毎回必ずまとめておく。 ② 学習した英会話例は、常に友人と対話練習する。 ③ 本時で扱った教科書本文を音読し、練習問題を解く。
	展開	○ 外国人の健康に対する意識について、関心を持って調べたり話したりする。 ○ 毎時間学習した項目について、自分に当てはめて考えたり、健康について知識を深めたりする。 ○ ラジオやTVの英会話に継続して取り組んだり、英語検定やToeicなどに挑戦したりするなど、英語力を高める努力をする。
成績評価	評価の基準	① 英語を話す人々の社会習慣や考え方を説明できる。 ② 場面に応じた英語での簡単なコミュニケーションができる。 ③ 健康についての英語表現を言うことができる。 以上を合格基準とする。
	評価の方法	①3回行うPresentation発表40%, ②会話発表30%, ③英語や英語圏の生活習慣についての期末試験30%の成績を総合する。 ただしこの比率は, 最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	How to Stay Healthy
	著者名	Julie Penn
	出版社	Oxford University Press
	価格	¥ 850
	ISBN・ISSN	978-0-19-464445-7

推薦図書等	書籍名	Word by Word イラスト英和辞典
	著者名	Steven J. Molinsky & Bill Bliss
	出版社	Pearson Longman
	価格	¥ 2957
	ISBN・ISSN	978-0-13-148218-1
参考URL	www.mext.go.jp 文部科学省 外国語活動	
	www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/ 文部科学省 私の健康	
備考	○ 授業は毎回教科書と補充プリントを使って行う。 ○ 活動はできるだけ英語で行いたい、不安な学生は申し出るように。 ○ 授業はPC画像で英語圏の様子を知り、グループやペアでの会話練習を必ず行う。したがって、きびきびと行動し、友人と一緒に「英語学習の雰囲気」を築くようにする。 ○ 最終回で満足いくような発表をし、自信を持って外国人の介護にも取り組むことができるよう、努力を期待する。	

スポーツ・レクリエーション（地）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS104

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（体育）

授業科目名 スポーツ・レクリエーション（地）

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 15000101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、福祉領域で活用できる能力を身に付けてほしい。各種レクリエーション種目の特性やルール名アドを記入するためのノートを用意し、現場でも役立つような資料作りをする。

学生の達成目標

1. 軽スポーツ・レクリエーションを体験し、その種目に対する知識を得る。
2. 組織体のあり方、対人関係のあり方（リーダーとなった場合の）人材育成のあり方についての身につける。
3. 現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、福祉領域で活用できる能力を身に付ける。

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス（目標1・2・3）
第2回 アイスブレイキング（目標1・2・3）
第3回～第5回 フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1）
第6回～第8回 バドミントン（目標1）
第9回～第11回 ソフトバレーボール（目標1）
第12回 インディアカ（目標1）
第13回～第14回 ペタンク（目標1）

第15回 前期まとめ
第16回 スポーツとレクリエーション（目標1・2・3）
第17回～第26回 集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第27回 援助実習振り返り（目標1・2・3）
第28回 ホスピタリティトレーニング（目標1）
第29回 チャレンジ・ザ・ゲーム（目標1）
第30回 まとめ、評価

予習・復習の内容	予習	事前に次回テーマに書いて調べておくこと。
	復習	体験した種目について理解度を図るためのレポートを提出すること。 また、集団レクリエーション援助実習において実践すること。
	展開	他の軽スポーツについても資料や図書等で調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で扱った軽スポーツの内容を理解していること。 集団レクリエーション援助実習
	評価の方法	各種目における理解度（30%） 集団レクリエーション援助実習（50%） 授業への意欲・積極性（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を配付	
推薦図書等	書籍名	やさしいレクリエーション実践
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	レクリエーション・インストラクター養成テキスト
	著者名	
	出版社	（財）日本レクリエーション協会編
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	
	参考URL	
	備考	

人間の尊厳と自立

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSM201
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	人間の尊厳と自立
科目責任者	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20000001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	人間の尊厳と自立が基本的な人権であることを理解する。事例を通して、自分の問題として理解できるようにする。
-----------	--

学生の達成目標	1. 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持を自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。 2. 人間の尊厳、社会参加と自立の理念を理解し、介護・支援する場面で対応できる倫理観と実践力を養う。
---------	---

授業内容	第1回 第1回 介護福祉における人間の尊厳の意義 第2回 介護福祉における自立の意義 第3回 人間の尊厳と介護の関係（マズローの欲求段階説） 第4回 介護における自立の持つ意義（自律と自立） 第5回 介護における自立の持つ意義（ICF、リハビリテーション、自己実現の視点） 第6回 人権思想に基づいた人間の尊厳と自立 第7回 理念価値としての人間の尊厳と自立、生活支援における倫理 第8回 法制度からみた人間の尊厳と自立 第9回 ライフステージに応じた自立の課題 第10回 生活支援における倫理
------	--

- 第11回 介護における尊厳の保持と自立支援
- 第12回 人間の尊厳と自立と介護福祉士養成体系
- 第13回 権利擁護(高齢者、障害者、児童)
- 第14回 課題図書を読んで（グループワーク）
- 第15回 課題図書を読んで（発表）、まとめ

予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。

成績評価	評価の基準	試験70%、レポート・受講態度30%
	評価の方法	試験、レポート、受講態度により評価する。

教科書	書籍名	「人間の尊厳と自立」
	著者名	黒澤貞夫
	出版社	建帛社
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

人間関係の形成とコミュニケーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSR101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 人間関係の形成とコミュニケーション

科目責任者 川村 博子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20000101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 自己理解、他者理解、コミュニケーション能力を高めるために演習を中心に行う。

学生の達成目標 1. 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。

授業内容	第1回	第1回	人間関係の形成：紹介しあう
		第2回	メッセージを共有する意欲をたかめる
		第3回	言語と非言語でメッセージを共有する
		第4回	利用者満足を高めるメッセージを学ぶ
		第5回	聞き方を身につける
		第6回	メッセージを受け取る能力を高める
		第7回	テクニックをスキルとして使いこなす
		第8回	初心者を読み導く方法を学ぶ
		第9回	成長させるアドバイスの方法を学ぶ
		第10回	自己決定の引き出し方を学ぶ
		第11回	職場の人間関係の基本を学ぶ
		第12回	職場の人間関係の基本を学ぶ
		第13回	5つの心を知る
		第14回	理性的・合理的に話合う
		第15回	自分を知り、相手を知る、まとめ

予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	試験80%、レポート、受講態度20%
	評価の方法	試験、レポート、受講態度により評価する。
教科書	書籍名	「人間関係とコミュニケーション」
	著者名	諏訪茂樹
	出版社	建帛社
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活と福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSU101
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活と福祉
科目責任者	根本 曜子
担当教員	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20000201
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

社会の中での介護福祉士を意識しつつ、福祉の側面から、家族、地域、社会、日本全体へ視野を広げ、自分の生活と社会がどうつながっているのかを捉える。なぜ、個人的な生活の問題が社会で支援されているのかを考え、そのための社会保障制度と福祉のしくみと成り立ちについての必要な知識を習得する。

学生の達成目標

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。
2. 自分と自分の家族がどのように社会とつながっているのかを考え、ライフスタイル変化、社会構造の変容を捉えた上で、高齢者、障害者を含めたすべての人の生活と地域、社会の関わりを理解する。
3. それを実現するために我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷の仕組みについて個人と社会の視点から理解する。

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション
第2回 家庭の基本的機能を学び、家族の概念、変容、構造や形態、さまざまな家族の機能や役割と家族の結びつきについて討議し、多様化する家族を捉える視点を養う。 |
|-----|--|

第3回 地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会・過疎化と地域社会などを学び、自分の家族がどのように地域につながっているか地域社会の集団・組織を考える。

第4回 専門職と教育・職業の関わりを学ぶ。少子化は高齢化とどのような関係があるのかを学ぶ。生涯学習とまちづくりへの参加を学ぶ。

第5回 わが国における社会福祉と社会保障のそれぞれの役割について学ぶ。
社会福祉の基本的な理念や役割について、地域福祉の視点から学ぶ。
社会福祉の実施体制や公私の役割分担など、制度の運用の基礎について学ぶ。

第6回 社会保障の定義、その目的や機能について学ぶ。社会保障制度にはどのような再度があるのか理解する。私たちの生活や人生のなかでの社会保障の位置づけについて学ぶ。

第7回 第二次世界大戦後からどのように日本が戦後復興を成し遂げたかを学ぶ。

第8回 日本国憲法のなかの社会保障に関する条文を理解し、どのように社会保障の基盤整備が行われ福祉施策が充実してきたかについて学ぶ。

第9回 社会保障制度の見直し期から社会福祉基礎構造改革を経て、社会保障改革が進められ現代に至っていることを学ぶ。社会保障や社会福祉に対する考え方はどのように変化してきたのかについて理解する。
社会保障制度の発達の時代を知る。

第10回 社会保障制度を支える考え方や財源について学ぶ。社会保障の仕組み方である社会保険と社会扶助について学ぶ。

第11回 社会保障制度の実例①（年金保険）

第12回 社会保障制度の実例②（医療保険、後期高齢者医療制度、労働者関連の社会保険、各種社会扶助の概要）

第13回 社会保障制度の運営に大きな影響を与える人口問題と財政問題について学ぶ。社会保障の給付と負担の関係について学ぶ。

第14回 自分たちが生きて生活することとそれを支える福祉と社会保障がどのように関わり、いかに必要であるかを考える。

第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	普段から社会状況、自分たちの生活状況について関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に4回程度。
	展開	学びと自分やまわりの生活状況を結びつけ、福祉のあり方、社会保障についての知識、理解を深める。

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな社会事象の資料を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。
	評価の方法	テスト（65%） レポート（20%） リアクションペーパー（15%）により評価する。

教科書		
	書籍名	「新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解」
	著者名	

出版社	中央法規出版
価格	2200+税
ISBN・ISSN	978-4-8058-3939-3

書籍名	「社会福祉小六法」
著者名	
出版社	ミネルヴァ書房
価格	1600+税
ISBN・ISSN	978-4-6230-6952-1

書籍名	「介護福祉用語辞典」
著者名	
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2200+税
ISBN・ISSN	978-4-623-03948-7

推薦図書等

参考URL

備考

介護保険制度とその他の諸制度

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSU401
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護保険制度とその他の諸制度
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20000301
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護福祉実践の主な根拠法である「介護保険制度」および「障害者総合支援法」の仕組みや内容を把握し、介護を必要とする利用者の生活実態や介護福祉従事者の業務、役割などを理解する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 介護保険制度の仕組みとサービス内容を理解する。 2. 障害者総合支援法の仕組みとサービス内容を理解する。 3. その他関連する諸制度の目的を理解したうえで、利用者の生活や多職種連携の状況をイメージする。
---------	--

授業内容	第1回	第 1回 オリエンテーション:社会保障制度の概要を確認（復習）する。 第 2回 我が国の介護保険制度創設の背景と目的、変遷について理解する。 第 3回 介護保険制度の仕組みを理解する。 第 4回 介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類を把握する。 第 5回 日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。 第 6回 介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割
------	-----	---

		を理解する。
	第 7回	障害者総合支援法創設の背景と目的，動向を理解する。
	第 8回	障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ）
	第 9回	障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容，組織・団体の役割について学ぶ）
	第10回	介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等を理解する）
	第11回	介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度を理解する）
	第12回	介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度を理解する）
	第13回	介護福祉実践に関連する諸制度④（医療関係者に関する制度・法律，医療関係施設に関する制度を理解する）
	第14回	介護福祉実践に関連する諸制度⑤（生活保護法・老人福祉法・諸外国の社会保障制度を確認する）
	第15回	介護福祉専門職が諸制度を理解することの必要性を確認する（まとめ）
予習・復習の内容	予習	授業前に該当するテキスト範囲を確認し、概要を把握しておくこと。
	復習	レジュメやテキストを用いて重要であると説明された内容や用語をノートに整理すること。
	展開	各制度の仕組みやサービスが、介護を必要とする人々の生活とどのようにかかわっているか、また、日本における各制度の課題等を理解することができる。
成績評価	評価の基準	松井：定期テスト（50%） ミニテスト（25%） 自筆ノート（25%）
		川村：定期テスト（100%）
	評価の方法	担当コマ数と評価持ち点を比例させる形で、教員2名の点数を加算して評価する。 【評価持ち点】松井：80点、川村：20点
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規出版
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3570-8
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書2『人間と社会－社会の理解』
	著者名	小澤温・秋元美世（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円（税別）

参考URL

備考

第1回～第6回/第10回～第15回：松井担当
第7回～第9回：川村担当
〈松井〉
・ 自筆ノートは、定期試験終了時に集める
・ ミニテストは4回実施する予定

介護福祉特論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護福祉特論

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
松井 奈美

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 31002601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 国家試験の合格に相応する内容に準じた卒業時共通試験に合格できる実力を養う。2. 初回に模擬試験を行い、その解答と解説を各授業回で学びながら主体的な学習につなげていく。3. 本試験の直前に再度模擬試験を行い、学習によって養われた自己の実力を確かめる。

学生の達成目標

1. 共通試験合格に必要な知識の習得ができる。

授業内容

第1回 第1回 模擬試験①（目標1）
第2回 人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション（目標1）
第3回 社会の理解（目標1）
第4回 発達と老化の理解（目標1）
第5回 認知症の理解（目標1）
第6回 障害の理解（目標1）

第7回 コミュニケーション技術（目標1）
第8回 介護の基本①（介護福祉論・介護対象論）（目標1）
第9回 介護の基本②（リスクマネジメント ほか）（目標1）
第10回 こころとからだのしくみ（目標1）
第11回 生活支援技術①（総論・環境、移動、食事、入浴）（目標1）
第12回 生活支援技術②（身じたく、排泄、睡眠・終末期）（目標1）
第13回 介護過程（目標1）
第14回 総合問題（目標1）
第15回 模擬試験 ②（目標1）

予習・復習の内容	予習	：模擬試験前には、各科目の振り返りを行っておくこと。 ：模擬試験後は、各科目の授業において示されたキーワードについて調べておくこと。
	復習	：模擬試験の正答について調べておくこと。 ：毎回の授業で示されたポイントについて整理すること。
	展開	：介護福祉士国家試験に関する資料などを参考に各科目毎の理解を深める。

成績評価	評価の基準	共通試験の合格基準に準ずる。
	評価の方法	授業への参加度20%、共通試験での得点80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	見て覚える！介護福祉士国試ナビ2014
	著者名	いとう総研資格取得支援センター
	出版社	中央法規出版
	価格	2,592円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3834-1

推薦図書等

参考URL

備考

災害・緊急時の介護

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS105

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 災害・緊急時の介護

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
山田 美知代

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 20004701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 実際の事例等を通し、状況に応じた災害時の介護実践力をたかめるようにする。

学生の達成目標 1. 災害や緊急時によって生じる直後・中期・長期的な介護の問題を理解し、介護福祉士としての行動がとれるように基礎的知識と技術を養う。

授業内容
第1回
第1回 災害介護の必要性
第2回 災害・緊急時の種類と災害サイクル、トリアージの存在
第3回 人・生活に及ぼす影響
事例に見る生活保障
第4回 災害時のコミュニケーション支援
第5回 災害時支援の視点 からだところ
1) 災害の種類別にみた健康や生活の問題、災害時期別・

避難生活別に見た健康問題、日常生活問題、生活問

題

第6回 災害時の生活支援技術 1)「環境」

第7回 災害時の生活支援技術 2)「食」

第8回 災害時の生活支援技術 3)「排泄」

第9回 災害時の生活支援技術 4)「睡眠」

第10回 災害時の生活支援技術 5)「清潔」

第11回 災害時の生活不活発病の予防

第12回 社会福祉施設における災害時の対応と防災計画

第13回 災害時の働く障害者への支援と災害後の就労・継続支援

第14・15回 HUG演習・まとめ

予習・復習の内容	予習	「災害時の介護」について日常から関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	災害・緊急時の自分の対処法についてその能力を見きわめ、強化していく。

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	授業参加度とレポート、テストの総合評価

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
-----	---------------------------

推薦図書等

参考URL

備考

地域共生論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS106
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	地域共生論
科目責任者	清宮 宏臣
担当教員	宮下 裕一 五十嵐 正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20000401
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

地域共生論という科目名の通り、「地域で生きる」とは何かということについて、講義および学外活動を通して考え、学ぶことを目的とする。

学生の達成目標

1. 短大周辺や学生自身が暮らす地域への活動参加を促し、社会資源の理解や多様な文化・価値観に触れながら地域社会のありようについて理解する。
2. 障害のある方が地域で生活することについて、その支援の在り方や共生のあり方について理解する。
3. 人が自立した生活を営むことについて、個人、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、日々の生活と社会とのかかわりについて理解する。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション（科目の内容、授業の進め方など） |
| | 第2回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（1）
制度にとらわれない暮らし；「ばおばぶ」での生活（目標2） |
| | 第3回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（2） |

		「生活ホーム小島屋」での生活（目標2） 第4回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（3） 重症心身障害とは（目標2） 第5回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（4） 重症心身障害児者の暮らし（目標2） 第6回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（5） 知的障害のある方の暮らし（目標2） 第7回 前期のまとめ（目標2） 第8回 グループワーク（1）学外活動の振り返り（目標1） 第9回 グループワーク（2） 身近な社会資源を知る；社会福祉協議会ほか（目標3） 第10回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（1） 精神障害のある方について（目標2） 第11回 障がいのある子の保護者の方からの話（目標2） 第12回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（2） 諸外国の様子（目標1、2） 第13回 福祉実践者の話（目標1、2） 第14回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（3） 権利擁護について（目標2） 第15回 グループワーク（3） 地域や地域福祉について（目標1、3）
予習・復習の内容	予習	・居住地の自治会について、どのような様子であるのか、どのような活動があるのかなどを、親や近隣住民の方などから情報を得ておく。
	復習	・授業時の内容について、特に、施設種別名や制度名などを福祉六法などで確認をする。
	展開	・居住地の自治会活動に、積極的に参加する。 ・居住地周辺に、どのような福祉施設や地域住民が交流する場があるのかを調べ、参加可能な活動に積極的に参加する。 ・教授内以外の地域においても、興味関心のある活動に参加する。
成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲など）や毎講義後のレポート（30%） 学外活動の時間数、活動後レポートの内容やファイル整理など（70%） などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）や毎講義後のレポート（30%） 学外活動の時間数、活動後レポートの内容やファイル整理など（70%） などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	三人暮らし
	著者名	五十嵐正人
	出版社	水曜社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	・学外活動（居住地の自治会活動や福祉施設での活動など）20時間以上を必須としている。各自が自主的、計画的に活動先を見つけ参加することが必要である。	

介護の基本Ⅰ（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅰ（介護福祉論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
20010501
20010505

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護の歴史を踏まえての現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務が理解できるようにする。諸外国の状況から自国の課題を見出せるようになる。

学生の達成目標

1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。
2. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。
3. 介護におけるチームケア等について、理解する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|--|
| 第1回 | 第1回 | ガイダンス 介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化 |
| | 第2回 | 現代社会と介護—介護問題の背景①—日本の高齢化の特徴、
家族形態、家族機能 |
| | 第3回 | 現代社会と介護—介護問題の背景②—老老介護、孤独死、
高齢者虐待、認知介護 |
| | 第4回 | 尊厳を支える介護 福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、ICF） |
| | 第5回 | 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護 |

		福祉士法 ①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護
第6回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護	
		福祉士法 ②専門職能団体の活動、職業倫理
第7回	介護実践における連携①多職種連携—チームの種類と機能、	
		連携の意義と目的
第8回	介護実践における連携②	—他の福祉職の機能と連携
第9回	介護実践における連携③	—保健医療職との連携、医療行為
第10回	介護実践における連携④地域連携—地域連携の意義と目的	
第11回	介護実践における連携⑤	—インフォーマルな社会
		資源の重要さ
第12回	介護実践における連携⑥	—地域包括支援センター
		の機能と役割、行政
第13回	海外における介護福祉の動向	
第14回	今後の介護福祉の課題	
第15回	まとめ	

予習・復習の内容	予習	家族介護について書かれている本を読み、「介護」についての関心をもつ。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	介護の専門性について最新の図書を調べ、知識理解を深める。

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	試験70%、レポート30%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本Ⅱ（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB102

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅱ（介護対象論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
20010601
20010605

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とどう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知り、その人への介護（特に尊厳を支える介護）について考えていく。

授業内容

第1回

第1回 ガイダンス VTR
第2回 介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）
第3回 介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）
第4回 介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）
第5回 介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）
第6回 介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）
第7回 介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤）
第8回 介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域

		の存在
	第9回	介護を必要とする人の理解 II－VTR「声を取り戻した2年間」
	第10回	介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴
	第11回	介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴
	第12回	介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I
	第13回	介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II
	第14回	介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	・自らの暮らし，高齢者の暮らし，関心を持ち，一日記録してみる。 ・参考図書を読み，「介護を必要とする人」について理解しておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	高齢者，障害者，そして終末期にある人の心理について関連図書を読み，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）

科目責任者 今井 訓子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20010701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。

学生の達成目標

1. リスクマネジメントの目的を理解する。
2. 介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。
3. 施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。

授業内容

- 第1回
- 第1回 ガイダンス、リスクマネジメントの考え方
 - 第2回 セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保）
 - 第3回 リスクコントロール・リスクファイナンス
 - 第4回 介護における安全確保とリスクマネジメント ①ヒヤリハット事例の分析
 - 第5回 介護における安全確保とリスクマネジメント ②施設内の事故の特徴と対策
 - 第6回 介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策
 - 第7回 介護における安全確保とリスクマネジメント ④医療対応時（受療、服薬、医療行為）

		第8回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防 第9回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時の対応 第10回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク 第11回 認知症高齢者の事故対策 第12回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在） 第13回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用） 第14回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の対策と労働安全（関係法規） 第15回 まとめ（セーフティマネジメントとの関連）
予習・復習の内容	予習	過去に起こった介護事故についてその経緯を調べ、対策を考えておくこと。
	復習	授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	利用者、介護者それぞれの視点でのリスクマネジメントを理解する。
成績評価	評価の基準	テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	試験60%、レポート30%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 3 介護の基本
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3500円＋税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	介護分野におけるリスクマネジメント
	著者名	金子努
	出版社	中央法規出版株式会社
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

科目責任者 宮崎 陽夫
山崎 敦

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20010801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

リハビリテーション医学から高齢者の疾患・障害像を把握し、介護におけるリハビリテーションの考え方を理解する。

学生の達成目標

1. 高齢者の肢体不自由をきたす疾患・障害についての知識を身につける。
2. リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を客観的、科学的な思考ができるようにする。

授業内容

- | | | |
|-----|------|------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | リハビリテーション概論 (1.2) |
| | 第2回 | 障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）(1.2) |
| | 第3回 | 障害の医学的基礎知識（神経・生理学）(1.2) |
| | 第4回 | 脳血管疾患に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第5回 | 進行性疾患に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第6回 | 骨折に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第7回 | 運動麻痺に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第8回 | 言語・排尿・嚥下障害に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第9回 | 脊髄損傷・切断に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第10回 | 廃用症候群に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第11回 | 認知症に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第12回 | 終末期に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第13回 | 地域リハビリテーション(2) |

第14回 シーティングについて(2)

第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	毎授業内容に関するテーマを事前に調べておくこと
	復習	毎授業に配布する関係資料の理解を深めること
	展開	臨床実習においてリハビリテーション知識を応用できること
成績評価	評価の基準	授業内容の基礎的理解 毎授業の小レポート内容
	評価の方法	期末筆記試験 小レポート
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論
	著者名	編集 澤村誠志
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	¥ 2730
	ISBN・ISSN	*978-4-8392-3157-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎授業にて必要な資料等は配布する。	

介護の基本Ⅴ（レクリエーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB103

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅴ（レクリエーション）

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論を概説し、介護現場におけるレクリエーション援助の方法を理解する。

学生の達成目標

1. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。
2. 「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるために、生活の一部であるレクリエーション援助の実践のための知識を習得する。

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）（目標1・2）
- 第2回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①（目標1・2）
- 第3回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②（目標1・2）
- 第4回 講義：レクリエーションの活動領域と意義①（目標1・2）
- 第5回 講義：レクリエーションの活動領域と意義②（目標1・2）
- 第6回 講義：レクリエーション活動の主体（目標1・2）
- 第7回 講義：レクリエーション計画作成及び実施（目標1・2）
- 第8回 講義：レクリエーション指導者の配慮（目標1・2）
- 第9回 講義：レクリエーション活動の実践（目標1・2）

第10回 講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際（目標1・2）
第11回 講義：レクリエーションワークの指導法（目標1・2）
第12回 集団レク援助実習1 レク計画作成（目標1・2）
第13回 集団レク援助実習2 レク計画作成（目標1・2）
第14回 集団レク援助実習3 レク計画作成（目標1・2）
第15回 まとめと評価

予習・復習の内容	予習	レクリエーション（余暇活動）に関心をもち、生活の中でどのような役割を果たすかを理解しておく。
	復習	指示されたレポートの提出。 援助実習における実践。
	展開	高齢者・障害者に対するレクリエーションの必要性を考察し、理解・知識を深める。

成績評価	評価の基準	高齢者・障害者のレクリエーション（余暇活動）について、基礎的な内容が理解できていること。また、レクリエーション計画作成及び実施の方法を理解すること。
	評価の方法	レポート課題（30%）、期末筆記試験（50%）、授業への参加度（20%）

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本VI（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB302
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本VI（介護サービス事務）
科目責任者	大塚 克巳
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20011001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	社会保険制度のひとつである介護保険制度の仕組みを理解した上で、介護報酬算定の実務知識を習得する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 介護保険制度全般を学ぶとともに、介護給付費に関わる請求事務に精通する。 2. 介護事務に関わる実務全般を習熟し、即戦力として請求事務に従事できる実力を養う。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 テキスト第一章 共通事項 第2回 テキスト第一章 共通事項 第3回 テキスト第二章 居宅サービス 1.訪問介護 2.訪問入浴介護 第4回 テキスト第二章 居宅サービス 3.訪問看護 4.訪問リハビリテーション 第5回 テキスト第二章 居宅サービス 5.居宅療養管理指導 6.通所介護 第6回 テキスト第二章 居宅サービス 7.通所リハビリテーション 8.福祉用具貸与 第7回 テキスト第二章 居宅サービス 9.短期入所生活介護 10.短期入所療養介護 第8回 テキスト第二章 居宅サービス 11.特定施設入居者生活
------	-----	--

介護 12. 居宅介護支援
第9回 テキスト第三章 地域密着型サービス
第10回 テキスト第四章 施設サービス
第11回 テキスト第五章 介護給付費の請求方法 公費の請求方法
第12回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説
第13回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説
第14回 模擬試験（90分）
第15回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説
及び振り返り

予習・復習の内容

- | | |
|----|---|
| 予習 | ・介護給付費単位数等サービスコード表の活用に当たり、各サービス種類が検索しやすいようにインデックス等で印をつけておくこと。
・各回の項目に沿ってテキストの事前読み込むを行うこと。 |
| 復習 | ・介護保険の仕組みについて理解するため、最寄りの市町村の介護保険にかかるパンフレットを取得し授業内容と照らし合わせながら今一度、振り返りを行うこと。 |
| 展開 | ・事前のテキスト読み込みで介護保険制度の大枠や仕組みを理解すること。
・介護請求事務の実践に欠かすことができない、介護給付費単位数等サービスコード表の活用を迅速かつ適切に行うことができること。 |

成績評価

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 評価の基準 | 出席状況、受講態度により総合的に評価し、認定試験において60点以上。 |
| 評価の方法 | 出席状況、受講態度により総合的に評価し、認定試験において60点以上。 |

教科書

- | | |
|-----------|--------------------|
| 書籍名 | 介護保険事務士養成テキスト（実務編） |
| 著者名 | |
| 出版社 | |
| 価格 | |
| ISBN・ISSN | |
-
- | | |
|-----------|-------------------|
| 書籍名 | 介護給付費単位数等サービスコード表 |
| 著者名 | |
| 出版社 | |
| 価格 | |
| ISBN・ISSN | |

推薦図書等

- | | |
|-----|--------------|
| 書籍名 | 必要に応じて随時資料配布 |
| 著者名 | |
| 出版社 | |

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

コミュニケーション技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSC201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術 I

科目責任者 古川 繁子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20001101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義形式ではあるが、全体的に事例と演習を豊富に交えながら、介護の場面に即応したコミュニケーション技術が習得できる。

学生の達成目標

1. 介護と必要とする者の理解や援助的関係・援助的コミュニケーションについて理解する。
2. また、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。

授業内容

- 第1回 第1回 介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を知る。
- 第2回 利用者・家族との関係づくり（波長合わせ・ラポールの取り方）
- 第3回 介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法、利用者の感情表現を察する技法－気づき、洞察力、その他）
- 第4回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）
- 第5回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）
- 第6回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機

		能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他) 第7回 記録による情報の共有化(介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法, 留意点) 第8回 記録による情報の共有化(記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化) 第9回 情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護。活用 第10回 介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的(報告・通知・相談の方法・留意点) 第11回 会議の意義と目的(会議の種類・方法・留意点。その他) 第12回 話を聞く技法②(傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く) 第13回 話を聞く技法③(家族とのコミュニケーションの実際) 第14回 記録の技法②(マッピング:ジェノグラム・ソシオグラム) 第15回 記録の技法③(評価:アセスメント・エバリュエーション・モニタリング)
予習・復習の内容	予習	授業で指示された語句や事柄を調べる。
	復習	予習内容を含め、自分のノートを作成し、授業の内容を整理する。整理しながら、関連する項目を独自に調べ、「コミュニケーションノート」を作成する。
	展開	対人援助職として、介護場面に限らず、援助場面でコミュニケーションを図ることができる。 必要な事柄を自分で調べ、まとめ、プレゼンテーションすることができる。
成績評価	評価の基準	提出物・演習レポート・定期試験により評価
	評価の方法	提出物・演習レポート・定期試験により評価
教科書	書籍名	新介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
	出版社	中央法規出版
	価格	2,310(税込)
	ISBN・ISSN	ISBN:978-4-8058-3769-6

推薦図書等	書籍名	コミュニケーション技術－人間関係の形成と実践技術
	著者名	黒澤他編著
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

コミュニケーション技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSC301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ

科目責任者 根本 匡文
高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20001201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

コミュニケーション技術Ⅱ・手話（根本匡文）

聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につけ、聴覚補償やさまざまな視覚情報を活用することによってコミュニケーションを充実させる方法を習得する。あわせて、聴覚障害全般についての理解を深める。

コミュニケーション技術Ⅱ・点字（高橋恵子）

基本的な点字を誰でも難しく考えることなく学ぶ。その他、手引き介助については、実践的に学んでいく。

学生の達成目標

1. (根本匡文)
手話や指文字を使った基本的な表現の読み取りができるようになる。
2. 手話や指文字を使った基本的な表現の表出ができるようになる。
3. 聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーションの方法を理解する。
4. (高橋恵子)
点字の基本的な学習を行い、視覚障害を持つがゆえの特性を考慮した介護技術、視覚障害者に関する諸問題、視覚障害リハビリテーションなど、視覚障害全般について学習する。理論だけでなく、実際に役立つ事項を多く学習する。

授業内容	第1回	(根本匡文) 第1回 手話実技：あいさつ、天気/季節の表現(目標1・2) 講義：聴覚障害の原因と二次障害、三次障害の表れ方(目標3) 第2回 手話実技：家族、質問の表現(目標1・2) 講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法(目標3) 第3回 手話実技：好き/嫌い、数/月日の表現(目標1・2) 講義：手話の種類、構造、特徴(目標3) 第4回 手話実技：時間、過去/現在/未来の表現(目標1・2) 講義：聴覚補償の実際(目標3) 第5回 手話実技：動き、食べ物/味覚の表現(目標1・2) 講義：文字や視覚情報の活用(目標3) 第6回 手話実技：形容、気持ちの表現(目標1・2) 講義：聴覚障害者の社会生活(目標3) 第7回 手話実技：思考、可能/必要の表現(目標1・2) 講義：聾重複障害者、盲聾者の支援(目標3) 第8回 手話実技：復習とまとめ(目標1・2) 講義：聴覚障害者の生活の質の向上(目標3) (高橋恵子) 第1回 視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法 第2回 視覚障害者補助器具の種類と機能 第3回 視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法 第4回 視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史制度 第5回 視覚障害者の暮らし 第6回 点字技術演習(1) 第7回 点字技術演習(2) 第8回 総括・討論
	予習	(根本匡文) テキストに目を通し、授業の概要を把握する。 (高橋恵子) テキスト『初めての点訳第2版』56ページからの「視覚障害者の状況」の項を読み、視覚障害のための不自由さ等について関心を持つとともに、当事者である講師に対し、質問を準備する。
予習・復習の内容	復習	(根本匡文) 授業で学習した手話表現の練習を繰り返す。 (高橋恵子) テキストの点字一覧表を繰り返し読み、演習問題に取り組むことにより、点字の読み書きがスムーズにできるようにする。
	展開	(根本匡文) 友人との間で、学習した手話を使ったコミュニケーションを行う。可能であれば、実際に聴覚障害者と会ってコミュニケーションを行う。 (高橋恵子) 公共施設内の点字表示や食品、家電製品などに書かれている点字を読んでみる。また、視覚障害者を見かけたら、積極的に声をかけて援助する。
成績評価	評価の基準	(根本匡文) 基本的な手話表現の読み取りと表出ができること、聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーション手段について理解し、それを説明できることを合格基準とする。 (高橋恵子) 点字の歴史と、視覚障害者にとっての点字の意義について説明できること。また、点字の仕組みと仮名遣いを理解

		し、簡単な読み書きができること。
	評価の方法	(根本匡文) 小レポート20%、受講態度20%、試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。 (高橋恵子) 受講態度(40%)と試験または課題採点結果(60%)の成績を総合的に評価する。
教科書	書籍名	NHKテレビテキスト「みんなの手話」 2013年10月～12月
	著者名	早瀬憲太郎
	出版社	NHK出版
	価格	380円
	ISBN・ISSN	9784149108636
	書籍名	初めての点訳 第2版
推薦図書等	著者名	全国視覚障害者情報提供施設協会編
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	新日本語-手話辞典
	著者名	全国手話研修センター日本手話研究所
推薦図書等	出版社	中央法規出版
	価格	22,000円+税
	ISBN・ISSN	9784805834503
参考URL	http://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/	
備考		

生活支援技術Ⅰ（総論・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅰ（総論・環境）

科目責任者 清宮 宏臣

担当教員 今井 訓子
中西 正人

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20011201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 生活支援にむけて、利用者の住環境や環境づくりについて理解する。
2. 生活行為場面（後期開講科目の「睡眠」「排泄」「清潔・入浴」）について、基本を理解する。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする方の生活や生活しやすい環境整備のあり方について理解することができる。
2. 居住環境整備の一つとして、ベッドメイキングをすることができる。
3. 生活支援におけるICFや社会参加について理解することができる。
4. 生活行為場面ごとの支援のあり方について理解する。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について（目標1）
- 第2回 生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について）（目標1）
- 第3回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習1）

(目標2) 第4回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習2) (目標2) 第5回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習3) (目標2) 第6回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習4) (目標2) 第7回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習5) (目標2) 第8回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習6) (目標2) 第9回 ICFと生活支援について1 (ICFの構成要素、ICFの生活支援への活用) (目標3) 第10回 ICFと生活支援について2 (参加に向けて; 自己実現、生きがい、地域への参加) (目標3) 第11回 居住環境の整備に向けて1 (安全な住まい、快適な室内環境、課題や問題点) (目標1) 第12回 居住環境の整備に向けて2 (暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例) (目標1) 第13回 居住環境の整備に向けて3 (施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン) (目標1) 第14回 生活行為への支援(身じたく、清潔・入浴) (目標4) 第15回 生活行為への支援(睡眠、排泄)とまとめ(目標4)		
予習・復習の内容	予習	・障害(心身機能の状態による違い)のある方が生活しやすい環境や福祉用具にどのようなものがあるかを調べる。 ・障害のある方だけでなく、障害のない方にも便利なものについても調べておく。
	復習	・適宜、指示する課題(レポートほか)を期限までに提出する。
	展開	・ベッドメイキングの習得では、各自あいている時間に自己練習をする。
成績評価	評価の基準	・参加状況(態度や意欲など)、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	・参加状況(態度や意欲、演習時の身だしなみなど)(10%)、課題(レポートほか)(10%)、試験(80%)などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	生活支援技術Ⅰ基本編
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド者
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史・三好春樹

出版社	講談社
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き）、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品は着用しないなど）こと。

生活支援技術Ⅱ（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS102

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅱ（移動）

科目責任者 中西 正人

担当教員 今井 訓子
清宮 宏臣

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批評をしながら理解を進められる機会を設ける。

移動に関するプラス面と安全の大切さについてグループワークを通じて学ぶ機会を設ける。

学生の達成目標

1. 利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解することができる。
2. 移動や移乗介助に必要となる知識と技術を理解することができる。
3. 利用者・介護者にとって安全で安心できる移動や移乗介助を実践することができる。

授業内容

- 第1回
- 第1回 ガイダンス・自立に向けた住環境（目標1）
第2回 移動の介護の基本（目標1・2）
第3回 移動に関するアセスメントと目標設定 ① 本人の観点（目標1・2）
第4回 移動に関するアセスメントと目標設定 ② 「心身機能」「身体構造」からの観点（目標1・2）
第5回 移動に関するアセスメントと目標設定 ③ 「活動」「参

加」からの観点（目標1・2）
第6回 安全で気兼ねなく動けることを支える介護（目標1・2）
第7回 安全で的確な移動介助の方法 ①基本的留意点・アセスメントに基づく介助（体位交換）（目標2）
第8回 安全で的確な移動介助の方法 ②立ち上がり動作（目標2）
第9回 安全で的確な移動介助の方法 ③ベッドからの移乗方法（目標2）
第10回 安全で的確な移動介助の方法 ④車椅子での移動（目標2）
第11回 安全で的確な移動介助の方法 ⑤歩行介助（目標2）
第12回 移動介護演習 ① （ベッド上での体位交換）（目標3）
第13回 移動介護演習 ② （移乗介助・車椅子の移動介助）（目標3）
第14回 移動介護演習 ③ （歩行介助）（目標3）
第15回 他の職種の役割と協働、まとめ（目標1・2）

予習・復習の内容

予習	：障害を持つ人の移動について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
復習	：毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に2回程度。
展開	：移動や移乗介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。

成績評価

評価の基準	移乗や移動に関する介護に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
評価の方法	期末試験60%、授業への参加度20%、平常点（小レポート）20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
著者名	編集 川井太加子
出版社	メヂカルフレンド社
価格	3600円＋税
ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3145-3

推薦図書等	書籍名	看護・介護を助ける姿勢と動作
	著者名	小川 鑛一
	出版社	東京電機大学出版局
	価格	2300円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-501-41860-1
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS103

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅲ（食事）

科目責任者 今井 訓子
山田 美知代

担当教員 清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20011401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

学生の達成目標

1. 食べることが、人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。
2. 食事介護の基本的な進め方について理解する。
3. 安全に、おいしく食事を摂るための介護について理解する。

授業内容

第1回	第1回	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的
	第2回～第3回	食事に関する利用者のアセスメント
	第4回～第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
	第6回	安全で的確な食事介助
	第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
	第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
	第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）

		討)
		第10回 誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点
		第11回 脱水予防
		第12回～第13回 食事介助（演習）
		第14回 他職種の役割と協働（経管栄養を行っている人の介護の留意点）
		第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	嚥下の仕組みについて学習しておく。 おいしい食事につながる環境についてまとめる。
	復習	授業の要旨をまとめる。
	展開	「ここからだのしくみ」の授業とあわせ、理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べるができる。 演習で学んだ技術を習得している。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度 10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）

科目責任者 清宮 宏臣

担当教員 今井 訓子
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

生活支援における「清潔・入浴」における支援のあり方について理解する。（特に入浴について講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台浴槽などに実際に入る。そのほか、寝たまま行う全身清拭や洗髪について演習を行う）。

学生の達成目標

1. 清潔・入浴に関する意義や目的、介護の必要な方の支援の方法を理解できる。
2. 演習を通じて、清潔保持や入浴支援をすることができる。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、支援を要する利用者や清潔について（意義と目的）（目標1）
第2回 入浴における物理作用（効果とリスク）（目標1）
第3回 入浴における留意事項（高齢者の特徴を踏まえて；水分の重要性）（目標1）
第4回 入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点（目標1）
第5回 爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴）（目標1）
第6回 浴槽の種類について（目標1）

第7回～第9回 感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例検討）（目標1） 第10回～第11回 入浴・シャワー浴の介護（演習）（目標2） 第12回～第14回 洗髪、全身清拭、足浴（演習）（目標2） 第15回 グループワーク（演習の振り返り）、まとめ（目標1,2）		
予習・復習の内容	予習	・普段当たり前のように行っている清潔保持や入浴行為について、その意義や目的、諸動作について考えてみる。
	復習	適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	・自宅の入浴環境（脱衣室も含む）について、心身機能の状況に応じた使い勝手について考え、理解を深める。
成績評価	評価の基準	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）、課題（レポートほか）、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	生活支援技術Ⅰ基本編
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史
	出版社	講談社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き）、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品は着用しないなど）こと。	

生活支援技術Ⅴ（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS202

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅴ（身じたく）

科目責任者 中西 正人

担当教員 今井 訓子
清宮 宏臣

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人としての人格を尊重した、身じたくに関する介護技術の内容を理解する

- 学生の達成目標
1. 利用者の視点で身じたくに関する介助の必要性を理解することができる。
 2. 身じたくに関する介助に必要な知識と技術を理解することができる。
 3. 利用者・介護者にとって安全で安心できる身じたくに関する介護を実践することができる。

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス、自立に向けた身じたくの介護：身じたくの意義と目的（目標1）
第2回 身じたくに関する基礎知識（目標1・2）
第3回 身じたくの介護の基本（目標1・2）
第4回 生活習慣と装いの楽しみを支える介護（目標1・2）
第5回 身じたくに関するアセスメントと目標設定（目標1・2）
第6回 整容行動、衣生活の介助の技法①（洗面、整髪、ひげの手入れ、化粧等）（目標1・2）

	第7回 整容行動、衣生活の介助の技法②（口腔の清潔、爪の手入れ）（目標1・2）	
	第8回 整容行動、衣生活の介助の技法③（衣服着脱）（目標1・2）	
	第9回 衣服着脱（演習）（目標3）	
	第10回 洗面、整髪（演習）（目標3）	
	第11回 ひげの手入れ、爪の手入れ（演習）（目標3）	
	第12回 運動機能が低下している人の介助（事例検討）（目標1・2）	
	第13回 感覚機能が低下している人の介助（事例検討）（目標1・2）	
	第14回 認知機能が低下している人の介助（事例検討）（目標1・2）	
	第15回 他職種の役割と協働、まとめ（目標1・2）	
	予習・復習の内容	予習 ：障害を持つ人の身じたくについて日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
		復習 ：毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に2回程度。
		展開 ：身じたくに関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
	成績評価	評価の基準 身じたくに関する介護に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
		評価の方法 期末（筆記）試験60%、授業への参加度10%、平常点（小レポート）10%、実技試験20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3145-3
推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ口腔ケア 第2版: 口をまもる 生命をまもる
	著者名	菊谷 武
	出版社	学研メディカル秀潤社
	価格	2520円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7809-1114-5

参考URL

備考

生活支援技術Ⅵ（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS203

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅵ（排泄）

科目責任者 中西 正人

担当教員 今井 訓子
清宮 宏臣

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人間の尊厳を十分理解し、排泄に関する介護技術の内容を理解する

- 学生の達成目標
1. 利用者の視点で排泄介助の必要性を理解することができる。
 2. 排泄介助に必要となる知識と技術を理解することができる。
 3. 利用者・介護者にとって安全で安心できる排泄介助を実践することができる。

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス、自立に向けた排泄の介護：排泄の意義・目的（目標1）
第2回 排泄に関する利用者のアセスメント（ICFの視点に基づく心身機能と身体構造の視点から）（目標1・2）
第3回 排泄に関する利用者のアセスメント（ICFの視点に基づく活動・参加の視点から）（目標1・2）
第4回 気持ちよい排泄を支える介護①（我慢させない工夫）（目標1・2）
第5回 気持ちよい排泄を支える介護②（環境づくり）（目標1・2）

第6回 気持ちよい排泄を支える介護 ③（その他）（目標1・2）
第7回 安全・的確な排泄の介助の技法 ①（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器）（目標2・3）
第8回 安全・的確な排泄の介助の技法 ②（おむつ）（目標2・3）
第9回 排泄の介助の技法 ①（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器の演習）（目標2・3）
第10回 排泄の介助の技法 ②（おむつ交換の演習）（目標2・3）
第11回 感覚機能、運動機能が低下している人の介助（事例検討）（目標1・2・3）
第12回 認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）（目標1・2・3）
第13回 便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点、尿回数が多い人、失禁時の介護（目標1・2・3）
第14回 他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、人工肛門、留置カテーテル含む）（目標1・2・3）
第15回 まとめ（目標1・2・3）

予習・復習の内容	予習	：排泄行為に不自由している人について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	：毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に2回程度。
	展開	：排泄介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	排泄に関する介護に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末（筆記）試験60%、授業への参加度10%、平常点（小レポート）10%、実技試験20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3145-3

推薦図書等	書籍名	ステップアップのための排泄ケア（おはよう21ブックスー基礎から学ぶ介護シリーズ）
	著者名	西村 かおる
	出版社	中央法規出版

価格	1890円
ISBN・ISSN	978-4-8058-2722-2

参考URL

備考

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS204

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

科目責任者 今井 訓子

担当教員 清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

尊厳の保持の観点から、その人の自立、自律を尊重する態度を学ぶ。睡眠に関するアセスメントができ良眠を促す支援ができる。
緊急時や終末期の介護技術を学び、グリーフケアを理解する。

学生の達成目標

1. 人間にとって睡眠がどのような意味があり、良眠を促す介護方法を理解する。
2. 緊急時の対処方法を理解する。
3. 終末期介護の進め方を学び、介護者としての姿勢を理解する。

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的
第2回 睡眠に関するアセスメント
第3回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境
第4回 利用者の状況による介助の留意点
第5回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習）

第6回 緊急時のアセスメント
第7回 緊急事故時の状況観察と応急手当（演習）
第8回 終末期における介護の意義と目的（事前意思確認）
第9回 利用者のアセスメントと医療との連携（ICFに基づく看取りのための制度）
第10回 終末期における介護、緩和ケア
第11回 臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置
第12回 死後の処置（演習）
第13回 グリーフケア
第14回 事例検討
第15回 事例を通してのまとめ

予習・復習の内容

予習	良眠を促す条件をまとめておくこと。 ターミナルケアについて図書を読んでおくこと。
復習	授業の要旨をまとめておくこと。
展開	睡眠・緊急時の対応・ターミナルケアに関する図書を調べ知識、理解を深める。

成績評価

評価の基準	睡眠の意義や目的、安眠を促す方法を述べることができる。 緊急時の対応をモデル人形を用いて行うことができる。在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて自分の考えを文章にできる。 テスト、レポート、授業態度により評価する。
評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度10%

教科書

書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
著者名	編集 川井太加子
出版社	メヂカルフレンド社
価格	3600円＋税
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅷ（障害別）

科目責任者 今井 訓子

担当教員 清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

心身の障害とその障害を持つ人々の状況を理解し、その人にあった生活支援技術を学ぶ。事例を用いて展開し、運動機能障害、感覚機能障害、内部障害等の障害の内容と生活支援方法を具体的にイメージする。

学生の達成目標

1. 生活支援に必要とされる障害の観察・評価ができる。
2. 各障害がある人のアセスメントができ、コミュニケーションの方法、注意点を述べることができる。
3. 障害別の日常生活の拡大を目指すための生活支援方法を理解する。

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス
第2回 片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人）
第3回 運動および知覚機能に障害がある人の生活支援（例：脊髄損傷の人）
第4回 関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援（例：慢性関節リウマチの人）
第5回 振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援（例：パーキンソン病の人）

- 第6回 失語症や構音障害のある人の生活支援
- 第7回 視覚・聴覚機能障害のある人の生活支援
- 第8回 難病で在宅療養している人の生活支援（例：ALSまたは筋ジストロフィーの人）
- 第9回 発達障害のある人の生活支援
- 第10回 精神障害のある人の生活支援
- 第11回 心臓機能障害のある人の生活支援
- 第12回 呼吸機能障害のある人の生活支援
- 第13回 腎臓機能障害排泄機能障害のある人の生活支援
- 第14回 排泄機能障害のある人の生活支援
- 第15回 生活支援全般における振返・まとめ

予習・復習の内容	予習	基本的な生活支援技術振り返り、確認しておく。 障害のある方の「生活に関する図書をよむこと。
	復習	事業の要旨をまとめること。
	展開	それぞれの障害の特徴を理解し、生活支援方法に関する知識、技術を深める。

成績評価	評価の基準	日常生活の支援において障害別の特徴を述べるができる。 事例に対して自分考えを文章にできる。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、課題レポート20%、授業態度10%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 6 生活支援技術Ⅱ 障害編
	著者名	編集 谷口敏代 中村裕子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円＋税
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

家事生活支援技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS302
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術 I
科目責任者	廣橋 比刀美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	家事の意義や目的，洗濯，掃除，裁縫，家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。
学生の達成目標	1. 自立に向けた家事の援助・介助に関する知識と技術を身につける。 2. 自分自身の生活のなかで自立して家事全般ができること。 3. 快適で豊かな生活を送るにはどうすればよいか考えることができる。

授業内容	第1回	第1回 授業オリエンテーション, 注意事項, 自己紹介 家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント
	第2回	第2回 被服・繊維について…繊維の講義, 繊維の実験の準備
授業内容	第3回	第3回 被服・繊維について…繊維の実験（燃焼性・吸水性）
	第4回	第4回 被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜き準備
	第5回	第5回 しみ抜きの実習
	第6回	第6回 洗濯の実習（セーターの洗濯）
	第7回	第7回 しみ抜き・洗濯のまとめ
	第8回	第8回 被服実習…基本の縫い方・繕いについて
	第9回～第13回	第9回～第13回 被服実習…おむつ・袋を縫う（ボタン付けの練習など）
	第14回	第14回 感覚・運動機能, 認知・知覚機能が低下している人の家事援助の留意点
	第15回	第15回 まとめ…家事援助に求められる事
予習・復習の内容	予習	特になし
	復習	授業で行った家事技術を自宅で再度行ってみる。
	展開	日々の家事を行う事で授業内容を確実なものとし、自分の生活、家事援助へつなげていく。
成績評価	評価の基準	試験60%, レポート・製作物40%, 授業への出席
	評価の方法	試験60%, レポート他40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	生活支援技術 I
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS401

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅱ

科目責任者 三幣 周子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。

学生の達成目標

1. 高齢者,障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。
2. 食生活の中での栄養学,食品学,調理学等の知識を養い,実践的な技術を学び,支援が個々の生活に対応できる能力を養う。

授業内容	第1回	第1回 食生活の意義（健康と栄養，状態別の栄養（年齢と栄養）
	第2回	第2回 高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方（生活習慣病の予防も含む）
	第3回	第3回 献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法）
	第4回～第5回	第4回～第5回 調理実習（1）…日常食から介護職への展開
	第6回～第7回	第6回～第7回 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）
	第8回～第9回	第8回～第9回 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）
	第10回～第11回	第10回～第11回 調理実習（4）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて）
	第12回～第13回	第12回～第13回 調理実習（5）…郷土食
	第14回	第14回 調理実習（6）…支援したい食事をグループで作る。
	第15回	第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	後期の授業内容に基づき、調べる。普段から自分の食事についても関心をもち、介護に関係するニュース、新聞、雑誌などの記事に目をむけて読み、内容を記録する。
	復習	毎回授業内容をまとめて、きちんとノートに整理しておく。ノート・プリント等の提出あり。
	展開	生活技術全般の総理解をもとに、その人の生活歴を含め知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	内容は広範囲になるが、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末テスト80%，欠席レポート提出10%，授業態度10%
教科書	書籍名	生活支援技術Ⅳ
	著者名	
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	これからの調理
	著者名	
	出版社	教育図書
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	食品成分表
	著者名	
	出版社	教育図書

価格

ISBN・ISSN

書籍名

その他必要に応じてプリントを配布

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明します。

介護過程Ⅰ（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSP201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅰ（総論）

科目責任者 川村 博子

担当教員
清宮 宏臣
松井 奈美
根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20012201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容を理解する。

- 学生の達成目標
1. 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。
 2. 介護過程の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回 第4回～第5回 第6回 第7回 第8回	介護過程とは、意義と目的 介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護） 介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程、介護課程のプロセス説明） ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法 アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて） アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム） 計画の立案とは、目標の設定
------	-----	---	---

	第9回	計画の立案の実践
	第10回	実施とは、準備と留意点
	第11回	評価とは
	第12回～第13回	事例に基づく介護課程の展開の実際
	第14回	介護課程の展開の実際（2年生の発表会出席）
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSP301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅱ（演習）

科目責任者 川村 博子

担当教員
清宮 宏臣
松井 奈美
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20012301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護を展開する。

学生の達成目標 1. 様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。

授業内容

第1回	グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。
第1回～第2回	オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成
第3回～第4回	ガイダンス、事例Aの説明
第5回～第6回	アセスメント
第7回～第8回	計画・実施・評価
第9回～第10回	ガイダンス、事例Bの説明
第11回～第12回	アセスメント
第13回～第14回	計画・実施・評価
第15回～第16回	ガイダンス、事例Cの説明
第17回～第18回	アセスメント

	第19回～第20回	計画・実施・評価
	第21回～第22回	ガイダンス、事例Dの説明
	第23回～第24回	アセスメント
	第25回～第26回	計画・実施・評価
	第27回～第28回	発表準備
	第29回～第30回	発表
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ当日発表できるようにする。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	「介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」
	著者名	
	出版社	日総研
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護過程Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSP401

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅲ（チームアプローチ）

科目責任者 川村 博子

担当教員
清宮 宏臣
松井 奈美
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20012401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。

学生の達成目標 1. 他職種の役割や機能を踏まえ、介護場面でのチームアプローチを学ぶ。

授業内容

第1回	第1回	ガイダンス、グループ分け
	第2回	看護業務：役割と連携について
	第3回	ケアマネジャーの役割と連携について
	第4回	OTの業務・役割と連携について
	第5回	PTの業務・役割と連携について
	第6回	歯科医の業務・役割と連携について
	第7回	OJT等について
	第8～11回	研究事例発表大会参加とまとめ
	第12回	教科書以外のチームアプローチ
	第13～14回	チームアプローチの事例
	事例第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を提出。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSP402

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅳ（事例研究）

科目責任者 川村 博子

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20012501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。

学生の達成目標 1. 実習での事例を振り返り、介護過程展開の意義や方法の理解を深める。

授業内容
第1回 第1回 ガイダンス（全体）
第2回～第5回 実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り
第6回～第10回 実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備
第11回 発表準備・印刷（全体）
第12回 発表準備・製本（全体）
第13回～第14回 発表（全体）
第15回 まとめ、感想文（実習担当教員のグループで行う）

予習・復習の内容	予習	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり
	復習	実習で受け持った利用者の介護過程の展開を記録として起こす
	展開	介護過程の展開について図書等で理解を深める
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2 2 0 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」
	著者名	
	出版社	日総研
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護総合演習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSE101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習 I

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実習先である施設やそこで生活する利用者について理解ができ、それらの点を踏まえよりよい介護実習が実施できるよう実習に関する必要な知識について理解する。

学生の達成目標

1. 介護実習の意義と目的を理解することができる。
2. 実習施設の種別毎の理解ができる。
3. 介護実習に関する必要な知識について理解することができる。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）（目標1）
第2回 実習について（意義と目的、心得など）（目標1）
第3回 実習先や利用者について①（知的障害児）（目標1・2・3）
第4回 実習先や利用者について②（肢体不自由児）（目標1・2・3）
第5回 実習先や利用者について③（重症心身障害児）（目標1・2・3）
第6回 実習先や利用者について④（認知症高齢者）（目標1・2・3）
第7回 学生個人標と個人目標について（目標3）

第8回 記録の書き方① 記録の意義・目的（目標3）
第9回 記録の書き方② 基本的な書き方、文体（目標3）
第10回 介護実習Ⅰの実習先別学内オリエンテーション（目標1・2・3）
第11回 実習において予測される諸問題①（感染症について）（目標3）
第12回 実習において予測される諸問題②（守秘義務について）（目標3）
第13回 介護実習Ⅰに必要な物の確認・準備（目標3）
第14回 まとめ（目標1・2・3）
第15回 介護実習（第Ⅰ段階）の直前オリエンテーション（目標1・2・3）

予習・復習の内容	予習	：施設で生活している障がいを持つ児童や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	：毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に2回程度。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	介護実習に関して、授業で扱った内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験60%、授業への参加度20%、平常点（小レポート）20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書8 介護総合演習
	著者名	編集 能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3148-4

推薦図書等	書籍名	よくわかる 介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1

参考URL

介護総合演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSE201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習Ⅱ

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実習先である施設やそこで生活する利用者について理解ができ、それらの点を踏まえよりよい介護実習が実施できるよう実習に関する必要な知識について理解する。

学生の達成目標

1. 介護実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にすることができる。
2. 介護実習Ⅱの意義と目的を理解する。
3. 実習施設の種別毎の理解ができる。
4. 介護実習Ⅱに向けて必要な準備を整えることができる。

授業内容

- | | |
|-----|--------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）（目標1・2） |
| | 第2回 介護実習（第Ⅰ段階）のまとめ反省会①（児童施設）（目標1） |
| | 第3回 介護実習（第Ⅰ段階）のまとめ反省会②（GH）（目標1） |
| | 第4回 介護実習（第Ⅰ段階）の学び（児童施設）（目標1） |
| | 第5回 介護実習（第Ⅰ段階）の学び（GH）（目標1） |
| | 第6回 学生個人標と個人目標について（目標4） |
| | 第7回 実習先や利用者について①（特別養護老人ホーム）（目標2・3・4） |
| | 第8回 実習先や利用者について②（老人保健施設）（目標2・3・4） |
| | 第9回 実習先や利用者について③（障害者支援施設）（目標2・ |

3・4)
第10回 実習先や利用者について④（通所介護）（目標2・3・4）
第11回 記録の書き方（目標4）
第12回 介護実習（第Ⅱ段階）の実習先別学内オリエンテーション（目標2・3・4）
第13回 実習において予測される諸問題(リスクマネジメント)（目標4）
第14回 介護実習（第Ⅱ段階）に必要な物の確認・準備（目標4）
第15回 介護実習（第Ⅱ段階）の直前オリエンテーション（目標2・3・4）

予習・復習の内容	予習	：施設や在宅で生活している障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	：毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に2回程度。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	介護実習に関して、授業で扱った内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験60%、授業への参加度20%、平常点（小レポート）20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書8 介護総合演習
	著者名	編集 能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3148-4

推薦図書等	書籍名	よくわかる 介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1

参考URL

備考

介護総合演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSE301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習Ⅲ

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 20002801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前期は、実習先である施設やそこで生活する利用者、支援する職員の役割などについて理解ができ、また介護実習Ⅱの振り返りから自らの課題を明確にすることでよりよい介護実習が実施できるよう実習にむけての準備を行う。

後期は、これまでの介護実習の振り返りを中心に行い、介護福祉士として必要となる知識や技術の確認と介護観の構築を目指す。

学生の達成目標

1. 介護実習Ⅱを振り返り自己課題を見出した上で、介護実習Ⅲ・Ⅳの意義と目的を理解することができる。
2. 介護実習Ⅲ・Ⅳに向けて必要な準備を整えることができる。
3. 自分の介護観について、整理できるようになる。
4. 介護福祉士として必要となる知識・技術を確認することができる。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）（目標1）
第2回 介護実習（第Ⅱ段階）のまとめ反省会（目標1・2）
第3回 介護実習（第Ⅱ段階）の学び①（入所施設）（目標1・2）
第4回 介護実習（第Ⅱ段階）の学び②（通所介護）（目標1・2）
第5回 介護実習（第Ⅱ段階）の学び③（生活支援技術：排泄）（目標1・2）

- 第6回 介護実習（第Ⅱ段階）の学び④（生活支援技術：移動）（目標1・2）
- 第7回 介護実習（第Ⅱ段階）の学び⑤（生活支援技術：身じたく）（目標1・2）
- 第8回 実習先や利用者について①（訪問介護）（目標2）
- 第9回 実習先や利用者について②（訪問入浴）（目標2）
- 第10回 実習先や利用者について③（在宅介護支援センター）（目標2）
- 第11回 学生個人標と個人目標について（目標2）
- 第12回 記録の書き方（目標2）
- 第13回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階、居宅実習）の実習先別学内オリエンテーション（目標2）
- 第14回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）に必要な物の確認・準備（目標2）
- 第15回 実習において予測される諸問題(リスクマネジメント)（目標2）
- 第16回 実習において予測される諸問題(感染症)（目標2）
- 第17回 介護実習の課題への理解（目標2）
- 第18回 介護実習（第Ⅲ段階）の直前オリエンテーション（目標2）
- 第19回 介護実習（第Ⅳ段階）の直前オリエンテーション（目標2）
- 第20回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）のまとめ反省会（目標3）
- 第21回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の学び①（入所施設）（目標3・4）
- 第22回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の学び②（居宅介護）（目標3・4）
- 第23回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の学び③（生活支援技術：排泄）（目標3・4）
- 第24回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の学び④（生活支援技術：移動）（目標3・4）
- 第25回 テーマ別グループワーク①（ターミナルケア）（目標3・4）
- 第26回 テーマ別グループワーク②（感染症）（目標3・4）
- 第27回 テーマ別グループワーク③（リスクマネジメント）（目標3・4）
- 第28回 テーマ別グループワーク④（アクティビティケア）（目標3・4）
- 第29回 テーマ別グループワーク⑤（研究の視点について）（目標3・4）
- 第30回 まとめ（目標3・4）

予習 予習・復習の内容	：施設で生活している障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
復習	：毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。 ：介護実習の経験をもとにグループワークを実施し、自身の課題や介護観等について明確にする。

成績評価	評価の基準	介護実習に関して、授業で扱った内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験40%、授業への参加度20%、平常点（小レポート）40%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書8 介護総合演習
	著者名	編集 能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3148-4
推薦図書等	書籍名	よくわかる 介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1
参考URL		
備考		

介護実習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング CST101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習 I

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
石原 富子
山田 美知代

授業形態 実習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

認知症対応グループホームにおいて1週間の介護を実践する。
児童福祉施設において1日の見学実習をする。

学生の達成目標

1. 利用者との人間的なふれあいを通じて、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。初歩的援助を通して生活の場における個々の生活リズムや環境を理解する。

授業内容

第1回 前期終了時の8月～9月初旬に実施する。
実習期間は1週間（5日間）と1日の児童福祉施設での見学実習
実習方法①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。
②実習施設の指導プログラムに従って実習する。
③利用者とのコミュニケーションを積極的にとる。

- ④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの
取りやすい利用者の日常生活援助を体験させていただ
く。
- ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受け
る。

予習・復習の内容	予習	グループホーム・児童福祉施設について調べておくこと。介護総合演習での学びを生かし実習目標を作成しておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	グループホーム・児童福祉施設に関する最新の情報をしらべ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	出席日数，実習記録，実習指導者・教員の評価によって決定する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	介護実習の手引き

推薦図書等

参考URL

備考

介護実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング CST201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習Ⅱ

科目責任者 布施 千草

担当教員

井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
石原 富子
山田 美知代

授業形態 実習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 入所施設実習とデイサービス・デイケア実習を併用し実習する。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用、発揮させることの意味を理解する。高齢者のニーズと介護職員の一般的な役割を理解する。基本的な介護技術を習得する。

授業内容

第1回 後期2月に実施する。
実習期間は2週間（9日間で中2日間はデイサービス）
実習方法①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。
②実習施設の指導プログラムに従って実習する。
③利用者・家族とのコミュニケーションを積極的にとる。
④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの

取りやすい利用者の日常生活援助を体験させてもらい、
基本的介護技術を習得する。
⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。

予習・復習の内容	予習	入所施設とデイサービス，デイケアについて調べておくこと。 介護総合演習での学びを生かし，実習目標を作成しておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	入所施設とデイケアサービス，デイケアに関する最新の情報を調べ，知識理解を深める。 利用者の潜在能力をいかに高めるか，エンパワメントについての理解を深める。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	出席日数，実習記録，実習指導者・教員の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング CST301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習Ⅲ

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
石原 富子
山田 美知代

授業形態 実習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20003101

教室

単位数 3

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「実習施設・事業等（Ⅱ）」の施設において13日間の介護実習をおこなう。Ⅳ段階実習も同一場所となる。居宅介護実習の実習期間でもある。

学生の達成目標

1. 障害のレベルに応じた適切な介護技術を身につける。また、種々な介護サービスの状況に応じた提供方法を理解する。利用者を中心とした他職種協働について理解する。

授業内容

第1回 2年前期 9月に実施する。
実習期間は、13日間
実習方法①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。
②実習施設の指導プログラムに従って実習する。
③利用者の障害の程度に合わせた援助方法を実践する。

		④利用者との関わりを通じて、介護過程の必要性を考える。 受け持ち利用者を決定し、情報収集をおこなう。 ⑤利用者を取り巻く様式な職種の働きと連携、支援の方法を 考える。 ⑥実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。
予習・復習の内容	予習	介護技術の総点検を行い、自分の課題を明確にしておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	障害のレベルに応じた介護技術について、他職種協働について文献学習により、知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	出席日数，実習記録，実習指導者・教員の評価によって決定する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		介護実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング CST401

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習Ⅳ

科目責任者 布施 千草

担当教員

井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
石原 富子
山田 美知代

授業形態 実習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003201

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

Ⅲ段階介護実習と同じ施設での実習。介護過程を展開し自己の介護観をまとめる。居宅介護実習の実習期間でもある。

学生の達成目標

1. 施設運営のプログラムに参加し、処遇全般について理解すると同時に個別介護計画を作成し、実施・評価・修正といった介護過程を展開し、的確な記録・記述方法を身につける。自己の介護観を確立する。

授業内容

第1回 2年後期に実施する。
実習期間は4週間（20日間）
実習方法①介護実習Ⅲと同一場所にてオリエンテーションはない。
②実習施設の指導プログラムに従って実習する。
③介護実習Ⅲで得た情報を元に利用者の介護計画を立て、

- 実践評価する。
- ④自己の介護観についてまとめる。
- ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。
- ⑥2日間の居宅実習を介護実習ⅢかⅣの機関に実施する。

予習・復習の内容	予習	介護過程についての事前学習を振り返り、Ⅲ段階での情報整理、分析、課題の抽出を行う。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	「介護観」として「介護論」理解のため、文献学習を行い、知識の定着をはかる。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	出席日数、実習記録、実習指導者・教員の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBG101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達と老化の理解 I

科目責任者 丹羽 真里

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20003301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

高齢者の特徴を心理学的知見をもとに概説し、高齢者の生活支援の環境や支援者のありかたについて理解する。

学生の達成目標

1. 高齢者の心理学的特徴を理解する。
2. 高齢者支援の環境や課題を理解する。
3. 高齢者支援に関わる支援者のあり方を理解する。

授業内容

- 第1回 第1回 講義及びレポート等のガイダンス、高齢社会と高齢者の心理学（目標1）
第2回 高齢社会と高齢者の心理学 高齢者の健康、長寿とライフスタイル（目標1・2）
第3回 老化と認知症について
ビデオを観て学ぶ（目標1・2・3）
第4回 高齢期の認知症と精神疾患、自殺（1）（目標1・3）
第5回 高齢期の認知症と精神疾患、自殺（2）（目標1・3）
第6回 身体・生理・心理機能の加齢変化（目標1）
第7回 高齢者支援に関わる支援者（1）ビデオを観て学ぶ（目標3）
第8回 高齢者支援に関わる支援者（2）ビデオを観て学ぶ（目標3）

第9回 高齢者の知能、創造性、知恵の発達（目標1）
第10回 高齢期の人格、自己概念の特徴（目標1）
第11回 適応理論とサクセスフルエイジング（目標1）
第12回 高齢期の家族、対人関係と社会生活（目標1）
第13回 高齢者の支援（1）（目標1・3）
第14回 高齢者の支援（2）（目標1・3）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	高齢者に関わる事象に日常から関心を持ち、関連する資料や報道について理解する。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	授業で扱った事柄のうち、興味や関心を持った領域についてさらに調べ、理解を深める。

成績評価	評価の基準	高齢者の心理・社会的状態を理解する。授業の内容をもとに高齢者支援の基本的な知識の有無を成績評価の基準とする。
	評価の方法	平常点：レポート＝1：1　ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	高齢者心理学
	著者名	一番ヶ瀬康子監修　下仲順子，中里克治編著
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

発達と老化の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBG201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達と老化の理解Ⅱ

科目責任者 布施 千草

担当教員 今井 訓子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20003401

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 老化による身体的変化、高齢者におこりやすい疾病の特徴および日常生活での予防。

- 学生の達成目標
1. 発達の観点から老化を理解する。
 2. 老化に伴う心理や身体機能の変化を理解する。

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回～第10回 第11回～第13回	ガイダンス、加齢（老化）とは “老い”に対する捉え方・価値 老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系） 老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系） 老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか） 高齢者と健康 高齢者の病気の特徴 生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて） 高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点
------	-----	---	--

		第14回 第15回	介護保険における特定疾病 まとめ
予習・復習の内容	予習	発達と老化について日常から関心を持ち，関連する図書を読むこと。	
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。	
	展開	発達と老化に関する最新の図書を調べ知識・理解を深める。	
成績評価	評価の基準		
	評価の方法	試験60%，レポート30%，出席率10%	
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座11 発達と老化の理解	
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会	
	出版社	中央法規	
	価格		
	ISBN・ISSN		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

認知症の理解 I（認知症総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBD101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解 I（認知症総論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20013501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基く認知症の症状理解を行う。

学生の達成目標

1. 認知症ケアの歴史を理解する
2. 医学的視点に基づく認知症の症状を理解する

授業内容

- 第1回 第1回 認知症を取り巻く状況と認知症ケアの歴史の変遷（認知症の疫学、施策も含む）
第2回 医学的側面から見た認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）
第3回 認知症の検査や治療法を理解
第4回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 そのⅠ 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他
第5回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 そのⅡ 徘徊・妄想・食行動異常・その他
第6回 認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）
第7回 コミュニケーション障害としての認知症
第8回 まとめ

予習・復習の内容	予習	認知症に関連する報道に関心を持つこと。テキストを事前に読むこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。毎回の授業要旨をまとめておくこと。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	レポート提出、期末テスト
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅱ（認知症対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBD201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解Ⅱ（認知症対象論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20013601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症のある人と家族の理解。

- 学生の達成目標
1. 認知症のある人の体験や意思表示の困難特性を理解する
 2. 認知症のある人と家族への支援について理解する

授業内容

第1回	第1回 認知症のある人が抱える心理的な問題（ふかい、不安、混乱、被害感等）
	第2回 認知症のある人にみられるさまざまな行動
	第3回 BPSDの出現原因，介護者との関係
	第4回 認知症のある人の家族の心理と障害受容
	第5回 認知症のある人を介護する家族への支援
	第6回 若年性認知症のある人と家族への支援 そのⅠ
	第7回 若年性認知症のある人と家族への支援 そのⅡ
	第8回 まとめ

予習・復習の内容

予習	認知症を持つ人の体験，その方を介護した方の経験談に関心を持ち学習をすること。
復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果，国の政策などを調べ知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	授業参加度とレポート、テストの総合評価
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅲ（認知症援助論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBD301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解Ⅲ（認知症援助論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20013701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。

- | | | |
|---------|----|---------------------|
| 学生の達成目標 | 1. | 認知症ケアの関する基礎的知識を習得する |
| | 2. | 認知症ケアの今後の展望について理解する |
| | 3. | 認知症の心理療法について理解する |

授業内容

- | | | | |
|-----|------|-----------------------|------------|
| 第1回 | 第1回 | 認知症ケアの理念について | |
| | 第2回 | パーソンセンタードケアについて | そのⅠ |
| | 第3回 | パーソンセンタードケアについて | そのⅡ |
| | 第4回 | 認知症の心理療法 | そのⅠ |
| | 第5回 | 認知症の心理療法 | そのⅡ |
| | 第6回 | 認知症のある人のケアマネジメント | 竹内式 其のⅠ |
| | 第7回 | 認知症のある人のケアマネジメント | 其のⅡ |
| | 第8回 | 認知症のある人のケアマネジメント | センター方式 其のⅠ |
| | 第9回 | 認知症のある人のケアマネジメント | 其のⅡ |
| | 第10回 | 認知症介護ひもときシートについて | |
| | 第11回 | 認知症の予防 | |
| | 第12回 | 認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働） | －尾道市 |

の取り組みの紹介 そのⅠ
第13回 認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 そのⅡ
第14回 認知症ケアの今後の課題
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	認知症に関連する報道に関心をもち、学習すること。テキスト（特に認知症のケアの部分）を事前に読むこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果、図書や研究成果、国の政策などを調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	授業参加度とレポート、テストの総合評価

教科書	書籍名	認知症の理解
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

障害の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBH201
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解 I
科目責任者	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003801
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害の概念、障害者福祉の理念、精神障害・知的障害等の種類と原因と特性、家族への支援を理解する。

学生の達成目標

1. 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。
2. 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

授業内容

第1回	第1回	障害のある人の生活
	第2回	障害の概念（ICFについて）
	第3回	我が国における障害者の定義
	第4回～第5回	障害者福祉の基本理念
	第6回	聴覚障害のある人の理解
	第7～8回	発達障害のある人の理解
	第9～10回	高次機能障害のある人の理解
	第11回	知的障害のある人の理解
	第12回	精神障害のある人の理解
	第13～14回	聴覚障害のある人の理解 （コミュニケーション機器発表）
	第15回	家族への支援・地域におけるサポート・まとめ

予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、発表できるようにしておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等を読み理解を深めること。
成績評価	評価の基準	試験80%、レポート、受講態度20%
	評価の方法	試験、レポート、受講態度により評価する。
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座13 障害の理解」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2 2 0 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBH301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解Ⅱ
科目責任者	松井 奈美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003901
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 障害のある人の生活を理解するために必要な知識を修得すると同時に障害者支援における多様な課題を把握することで、障害のある人の生活を適切に支援する専門職としての意識・技能を養う。

- 学生の達成目標**
1. 障害者福祉の基本理念を理解する（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン等）。
 2. 障害のある人の生活支援における留意点を理解する。
 3. 障害のある人及びその家族に対する具体的な支援のあり方を理解する。

授業内容	第1回	第 1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明） 「障害」とは何かを考える 第 2回 視覚障害のある人の生活を理解する 第 3回 聴覚・言語障害のある人の生活を理解する 第 4回 視覚障害・聴覚・言語障害のある人の生活支援の留意点を理解する 第 5回 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活を理解する 第 6回 障害当事者による講和を通して障害者の社会生活の実態を確認する 第 7回 内部障害者のある人の生活を理解する
-------------	-----	--

- 第 8回 重症心身障害のある人の生活を理解する
- 第 9回 重症心身障害のある人の生活支援の留意点を理解する
- 第10回 障害のある人に対する介護の基本視点を学ぶ
- 第11回 障害のある人の個別支援の具体的な視点を確認する
- 第12回 社会資源の利用と開発の必要性を自立の視点で考察する
- 第13回 チームアプローチの必要性・重要性を理解する
- 第14回 連携及び協働の実際と課題を把握する
- 第15回 まとめ

予習・復習の内容

- | | |
|----|--|
| 予習 | 各回の授業内容に該当するテキスト範囲を確認し、事前に目を通しておくこと。 |
| 復習 | 前回の授業で配布されたレジュメ及び自筆ノートに目を通す等の方法で学習内容を確認すること。 |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだ重要なキーワードを他者に説明できるようになる。 ・ 障害当事者が書いた書籍を読み個別理解を深める。 |

成績評価

- | | |
|-------|---|
| 評価の基準 | 定期テスト（ 70%） ミニテスト（10%）
授業態度等（ 10%） レポート（10%） |
| 評価の方法 | 定期テスト、ミニテスト（2回実施の予定）、授業態度、レポートを用いて総合的に評価する。 |

教科書

- | | |
|-----------|----------------------|
| 書籍名 | 新・介護福祉士養成講座13『障害の理解』 |
| 著者名 | 介護福祉士養成講座編集委員会 |
| 出版社 | 中央法規出版 |
| 価格 | 2200円（税別） |
| ISBN・ISSN | 978-4-8058-3771-9 |

推薦図書等

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 書籍名 | 介護福祉士養成テキストブック『障害の理解』 |
| 著者名 | 小澤 温（編） |
| 出版社 | ミネルヴァ書房 |
| 価格 | 2600円（税別） |
| ISBN・ISSN | 978-4-623-05299-8 |

参考URL

備考

- ・ 学習効果は予習・復習を行うことで高められることを理解した上で自分らしい学習手法を見つけて積極的に学んでほしい。
- ・ 毎回の授業では、達成課題や学習効果を意識して授業に臨んでほしい。

こころとからだのしくみ I（人体の構造と機能）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM101
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみ I（人体の構造と機能）
科目責任者	大野 孝則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人体の解剖と生理の基礎を講義。

- 学生の達成目標
1. 介護に必要な人体の構造や機能についての基本を学ぶ。
 2. 一般教養としての自然科学としても通用する内容を目標とする。

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス。細胞，生体膜，核，DNA，ATP
	第2回	第2回 組織（上皮，支持，筋，神経）
	第3回	第3回 組織（血液），ホメオスターシス
	第4回	第4回 皮膚・骨格系の解剖と生理
	第5回	第5回 筋系の解剖と生理
	第6回	第6回 呼吸器系の解剖と生理
	第7回	第7回 循環器系の解剖と生理
	第8回	第8回 消化器系の解剖と生理
	第9回	第9回 腎・泌尿器系の解剖と生理
	第10回	第10回 血液造血器系，内分泌系，生殖系の解剖と生理
	第11回～第13回	第11回～第13回 脳・神経系の解剖と生理
	第13回～第15回	第13回～第15回 感覚器系の解剖と生理

予習・復習の内容 予習 講義の最後に，次回講義の予告をする。予告したものを予習する。

	復習	講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	
	出版社	南江堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	金芳堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	へるす出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBM201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）

科目責任者 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20014101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 頻度の高い障害・疾患の症候と成り立ち、およびその介護について講義。

学生の達成目標 1. 介護に必要なtakerの身体的・精神的障害の状態（疾病など）の把握に必要なことを学ぶ。

授業内容	第1回	第1回 貧血, 出血
		第2回 呼吸困難, チアノーゼ, ショック
		第3回 消化器症状, 黄疸, 排尿困難
		第4回 脱水, 浮腫
		第5回 意識, 睡眠, 歩行障害
		第6回 疾病総論, 感染症, 免疫異常
		第7回 悪性腫瘍, 虚血性心疾患, 脳血管障害
		第8回 高血圧, 糖尿病, 他の代謝疾患
		第9回 呼吸器, 循環器の疾患, 血液疾患
		第10回 消化器疾患, 腎・泌尿器疾患
		第11回 神経, 筋疾患
		第12回 膠原病, 運動器疾患, 感覚器疾患, 皮膚疾患
		第13回 精神障害
		第14回 先天性疾患
		第15回 代謝, 栄養

予習・復習の内容	予習	講義の最後に，次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
	復習	講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	
	出版社	南江堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	金芳堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	へるす出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBM202

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）

科目責任者 原口 正

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20014201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

精神医学の基礎について概説し、介護や支援において必要な基礎的知識を身につける。

学生の達成目標

1. 精神医学の基本用語や概念を把握し、心と体の関係を理解する。
2. これを元に、心の健康について考え、人と人とのかかわり方、人への支援のしかたを学習する。
3. 支援は心理的な面だけでなく、社会的な支援の仕方、生活支援への応用について考える。

授業内容

- | | |
|-----|---------------------------|
| 第1回 | 第1回 精神医学とは何か |
| | 第2回 気分障害(1) |
| | 第3回 気分障害(2) |
| | 第4回 統合失調症(1) |
| | 第5回 統合失調症(2) |
| | 第6回 不安障害(1) |
| | 第7回 不安障害(2) |
| | 第8回 身体疾患による精神障害 |
| | 第9回 児童・青年期の精神障害（発達障害を中心に） |
| | 第10回 思春期・青年期の精神障害 |
| | 第11回 壮年期の精神障害 |

第12回 老年期の精神障害 第13回 精神科治療(1) 第14回 精神科治療(2) 第15回 日本の精神医療の現状とまとめ		
予習・復習の内容	予習	基本的にテキストの章の順番に従って講義を行うため、事前に一読することが好ましい。
	復習	講義で行った説明を確認しながら、テキストを再読して、理解を深める。
	展開	各章の研究課題について考え、関連する図書や文献を読み、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	出席状況，態度，課題の達成度，期末試験の結果を総合的に評価する
	評価の方法	出席状況，態度，課題の達成度，期末試験の結果を総合的に評価する
教科書	書籍名	精神医学特論
	著者名	石丸昌彦 仙波純一
	出版社	放送大学教育振興会 NHK出版
	価格	2500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-595-13932-1
推薦図書等	書籍名	新版 介護福祉養成講座10 精神保健
	著者名	福祉士養成講座編集委員会編
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	新介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会編
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅣ（日常生活に即したしくみ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBM102

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみⅣ（日常生活に即したしくみ）

科目責任者 今井 訓子

担当教員 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20014301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護技術の根拠となる人体の構造や機能を学び、日常生活に関連したからだのしくみとこころのしくみの関係について理解できる。

- 学生の達成目標
1. 日常生活に関連した身体各部の解剖や生理を理解する。
 2. 人の基本的欲求・社会的欲求が行動に及ぼす影響を理解する。
 3. 介護支援に必要な機能低下と心理面への配慮について理解する。

授業内容

第1回	第1回 人体部位の名称、生命の維持のしくみ 1
	第2回 人体部位の名称、生命の維持のしくみ 2
	第3回 移動に関連した解剖整理
	第4回 移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス
	第5回 食事に関連した解剖整理
	機能低下が食事に及ぼす影響
	第6回 栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点
	第7回 入浴、清潔保持に関連した解剖整理
	皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響
	第8回 入浴、清潔保持の実践

		第9回 身じたくの関連した解剖整理 機能低下が身じたくに及ぼす影響 第10回 身じたくの関連したところのしくみ 第11回 排泄に関連した解剖整理 機能低下が排泄に及ぼす影響 第12回 排泄に関連したところのしくみ 第13回 睡眠の構造と睡眠障害 睡眠に関連したところのしくみ 第14回 終末期の心身の状況・死後の変化 死に対するところの理解 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	日常生活生活における身体機能の働きを理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめ、心身機能つながりを理解すること。
	展開	生活支援技術とかかわりを意識して進める。
成績評価	評価の基準	身体各部の機能低下が日常生活に及ぼす影響が言える。 介護支援に関して、根拠に基づいた自分の考えを相手に伝えることができる。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、課題レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 1 2 ところとからだのしくみ体の
	著者名	編集 小板橋喜久代・松田たみ子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	カラー人体解剖学
	著者名	F. H. マティーニ他
	出版社	西村書店
	価格	7800＋税
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS305
開講年度	2014年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	人間関係論
科目責任者	國生 美南子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004601
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	人間関係について様々な視点から考えることができ、自分自身を見つめ、関係による障害や豊かな人間関係について学ぶ
-----------	--

学生の達成目標	1.	グループワークやディスカッションによって、他者との相違や共通点を知り、人間理解を深める
	2.	対人援助における官益づくりの基本姿勢と重要性について知る
	3.	人間んを取り巻く地域社会の諸問題と「関係」について知り、発見し、思考し、想像し、伝えるを学ぶ

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーションと自己紹介 自己紹介の意義・自分を見つめる・発見する・表現する 第2回 家族の形態と機能の変化と「関係」を探る 第3回 地域社会の変化を見つめ、人間の「生と死」と「関係」について探る 第4回～第7回 社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える ① いじめ・虐待など ② 生活困窮・貧困など ③ マイノリティなど ④ 社会的孤立・孤独死など
------	-----	---

第8回 「人間関係」について納得したこと、膨らんだ疑問、さらに追求したいことなどをレポートに表現し、伝える

予習・復習の内容	予習	「人間関係論」について何を学びたいか整理しておく
	復習	授業の内容についての簡単なレポートを作成し、提出する
	展開	ここと思うところでディスカッションをし、重要な点の思索を深める
成績評価	評価の基準	・ 授業への参加度 （グループワークへの関わり、反応、発表など） ・ レポートの内容
	評価の方法	・ グループワークでの取り組み ・ レポート提出
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	プリント	
推薦図書等	書籍名	べてるの家の「非」援助論
	著者名	浦河べてるの家
	出版社	医学書院
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	
参考URL	: http://www7.ocn.ne.jp/~fukinoto/	
備考		

施設経営 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 選択専門科目

授業科目名 施設経営 I

科目責任者 大澤 直樹

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20004901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

最新の情報に基づいた資料を提示し、改正介護保険の論点整理を行う。知識を体系化して理解したうえで、今回の制度に於ける問題点及び改善点を明確化する。そのうえでケアを提供していくためには、どのようなスキルが必要であるか、グループワークを行い、机上の空論ではなく、実践として活用できるツールを見出して行く。また、ワークシートを各回ごとに使用。これを作成することによって文章力・表現力の向上を図る。基本的には聴講型ではなく、ゼミ方式の講義を行う。

学生の達成目標

1. 2012年度の介護保険の改正に於いて、具体的にどのような方向性で改正が行われたのかを整理する。
2. また、それによって生じるであろう問題に対して、各種の事業所がどのように知り組むべきか検証して行く。
3. さらに「介護の質」や「福祉のあるべき姿」について、法制度に基づき介護を提供して行く、ケアワーカーが日々のケアの場に於いてどのように支援を展開すべきなのか探究していく。
4. タスクゴールとして、各人が自分の言葉によってこれらを表現することができるように、意識レベルの向上及びコミュニケーション力を養成する。

授業内容

第1回 第1回 改正介護保険法(2012年施行)に関する論点整理
第2回 新規サービスに関する論点整理

- 第3回 介護職に望まれるリーダーシップとは何か
第4回 介護老人福祉施設の課題と展望
第5回 地域包括ケアシステムの課題と展望
第6回 困難事例に対する取り組みと解決方法
第7回 福祉が抱える根本的な課題
第8回 施設経営の意義と方向性(グループディスカッション)

予習・復習の内容

- 予習 実習先の施設について、経営母体となっている法人の特性を事前に調べておくこと。
期間中に受講者全員に15分程度の課題に対するプレゼンテーションを行ってもらうので、必ず準備しておくこと。
- 復習 提示したレポート課題を提出すること。期間中に2回。
- 展開 社会福祉法人や医療法人における課題を確認し、現状の問題に対してどのような改善を図るべきであるかを検証していく。

成績評価

- 評価の基準 講義毎に実施するワークシート及び講義最終日のレポート提出により総合的に評価する。
- 評価の方法 講義毎に実施するワークシート及び講義最終日のレポート提出により総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

- 書籍名 特になし
- 著者名
- 出版社
- 価格
- ISBN・ISSN

参考URL

備考

施設経営Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2014年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	施設経営Ⅱ
科目責任者	大澤 直樹
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20004801

教室

単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前半はNPO設立のための基礎的な知識を修得してもらうために、座学中心の講義となる。NPO法に基づく知識を正しく理解して上で、後半は演習を中心とした講義にシフトしていく。なお、介護保険事業を中心とした、事業活動が多いNPO法人の特性を踏まえ、併せて介護保険法に基づく申請のあり方についても指導していく。

学生の達成目標

1. NPO法人を設立するため、具体的な手順や方法について理解する。
2. NPO法人の抱えるメリットとデメリットを理解する。
3. NPO法人のマネジメントについての、基礎的な知識を身につける。

授業内容

第1回	第1回 NPOとは何か
	第2回 福祉NPOの特徴
	第3回 福祉NPOの展望と課題
	第4回 グループホームとコミュニティケア
	第5回 行政のNPO支援策
	第6回 NPOのパートナーシップ
	第7回 事業計画と多角化戦略
	第8回 NPO法人のマネジメント

予習・復習の内容	予習	自分に暮らす地域において、どのようなNPO法人が活動しているのかを調査しておくこと。 期間中に受講者全員に15分程度の課題に対するプレゼンテーションを行ってもらうので、必ず準備をしておくこと。
	復習	提示したレポート課題を提出すること。期間中に2回。
	展開	NPO法人の設立に関する手順を理解し、実際に設立できるまでの知識を修得できるようにする。
成績評価	評価の基準	NPO法人に関する、法律及び設立に至るまでの申請に関する具体的な手順をマスターできていることを合格基準とする。
	評価の方法	講義毎に実施するワークシート及び講義最終日のレポート提出により総合的に評価する。
教科書	書籍名	改訂版 NPO法人設立・申請完全マニュアル
	著者名	福島達也
	出版社	Jリサーチ出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

障害教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS306

開講年度 2014年度

科目区分 選択専門科目

授業科目名 障害教育

科目責任者 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20004501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

発達障害、知的障害、肢体不自由等の基本的な理解と本人・保護者の思いを踏まえた支援の在り方を学ぶ。

学生の達成目標

1. ○各障害の特性及び支援の実際の理解度
2. ○実際の支援方法を身につける。

授業内容	第1回	第1回 障害・特別支援教育の概要(目標1. 2)
	第2回	第2回 特別支援学校・学級について(目標1. 2)
	第3回	第3回 発達障害とは?(目標1. 2)
	第4回	第4回 知的障害を伴わない自閉症(学齢期)(目標1. 2)
	第5回	第5回 知的障害を伴わない自閉症(卒業後)(目標1. 2)
	第6回	第6回 知的障害を伴う自閉症(目標1. 2)
	第7回	第7回 A D H Dについて(目標1. 2)
	第8回	第8回 L Dについて(目標1. 2)
	第9回	第9回 視覚障害について(目標1. 2)
	第10回	第10回 聴覚障害について(目標1. 2)
	第11回	第11回 肢体不自由について(目標1. 2)
	第12回	第12回 病弱について(目標1. 2)
	第13回	第13回 知的障害について(目標1. 2)
	第14回	第14回 言語障害について(目標1. 2)
	第15回	第15回 学校卒業後に向けての支援について(目標1. 2)
予習・復習の内容	予習	○毎回の授業で提示する検討課題について、調べ学習 を行うこと。
	復習	○配付資料を読んで理解すること。
	展開	○図書館に備え付けの発達障害当事者が執筆している 書籍を読むこと。
成績評価	評価の基準	各障害の特性の理解及び基本的な支援方法の習得度
	評価の方法	レポート、授業への参加態度等を踏まえ、総合的に評価する。
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ 50
	著者名	佐藤慎二
	出版社	日本文化科学社
	価格	1 2 5 0 円
	ISBN・ISSN	978-4-8210-6089-4
	書籍名	いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ190選
	著者名	佐藤慎二
	出版社	自費出版
	価格	2 0 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

カウンセリング

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS107

開講年度 2014年度

科目区分 選択専門科目

授業科目名 カウンセリング

科目責任者 大木 みわ

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 41000201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

カウンセリング理論についての講義を基にピアサポートのトレーニングに重点を置く。ロールプレイング・構成的グループエンカウンター体験を通して理解を深めるため、互いにカウンセラー、クライアントを経験し合う。

学生の達成目標

1. カウンセリングの基礎を体験的に学び、日常の人間関係に活用する。
2. 介護者として必要な人間観・対人関係調整力を養う。

授業内容

第1回 第1回 出会い体験（エクササイズ①）－話し合い－
第2回 出会い体験（エクササイズ②）「聴く、話す」を中心に事例の提示 カウンセリングの基本姿勢 －話し合い－
第3回 人間関係づくり（エクササイズ③）「聴く、話す」を体験する －話し合い－
第4回 人間関係づくり（エクササイズ④）「聴く、話す」の体験－話し合い－
第5回 人間関係づくり（エクササイズ⑤）自己理解を深める－エゴグラム作成 －話し合い－
第6回 人間関係づくり（エクササイズ⑥）自己理解を深める－HTP －話し合い－
第7回～第10回 ミニカウンセリングの体験(1)～(4) ロールプレイング
第11回～第13回 ピアサポートの理論と実際

予習・復習の内容

予習	「自分について」「気になる人間関係」「カウンセリングの技法」の1つを選び, 毎回数名が発表する。
復習	「授業のまとめ」に記載し, 提出する。
展開	実習の記録にコメントを付し, 提出する。

成績評価

評価の基準	学習の達成目標に対する到達の度合を評価する。
評価の方法	授業5回ごとに計3回試験をし, 合計する。 授業への参加を合わせ, 総合的に評価する。

教科書

書籍名	ピアヘルパーハンドブックー友達をヘルプするカウンセリング
著者名	日本教育カウンセラー協会編
出版社	図書文化社
価格	1,500円+税
ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名	ピアヘルパーワークブック
著者名	日本教育カウンセラー協会編
出版社	図書文化社
価格	1,500円+税
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

在宅における医療処置

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 選択専門科目

授業科目名 在宅における医療処置

科目責任者 布施 千草

担当教員 井口 ひとみ
今井 訓子
山田 美知代

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 41100801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 在宅における看護技術の基礎知識を養う

学生の達成目標 1. 家族介護者が行う医療処置を支援するために看護技術の基礎知識を養う。

第1回 第1回 ガイダンス：（家庭生活の基本機能・地域の概念）家族介護者と医療処置の現状
第2回～第3回 感染予防（清潔・不潔を含む）、手指消毒、ガウンテクニック
第4回～第5回 創や褥創の処置、自己導尿、膀胱洗浄
第6回～第7回 経管栄養、中心静脈栄養法
第8回～第9回 酸素吸入、人工呼吸療法
第10回～第11回 緊急時の対応、吸引
第12回～第13回 注射法（インシュリン投与、点滴の固定と抜針）
第14回～第15回 補習とまとめ

予習・復習の内容	予習	在宅で行われる医療処置（訪問看護）に関心を持ち，学習する。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	訪問看護に関する最新の図書で，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	毎回の課題レポート（８０％） 授業への参加態度（２０％）
	評価の方法	レポート及び授業への参加態度を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究（布施）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS307

開講年度 2014年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究（布施）

科目責任者 布施 千草

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 51000102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

学生自身の興味、関心を大切にして既存の研究方法に基づいた課題解決を体験する。
主体的に行動できるように努力していく。

学生の達成目標

1. 介護福祉領域における諸問題について深く掘り下げる。その体験を通して研究の基本及び専門職としての姿勢を身につける。

授業内容

第1回	第1回～第2回	オリエンテーション
	第3回～第4回	研究の基本について
	第5回～第6回	研究論文の抄読
	第7回～第8回	研究テーマの設定
	第9回～第10回	研究計画書作成
	第11回～第20回	データ収集と整理
	第21回～第28回	論文作成
	第29回～第30回	研究成果の発表

予習・復習の内容

予習	介護福祉領域の諸問題について自分なりの考えをまとめる。
復習	毎回の授業要旨をまとめる。
展開	自分が関心をもった事項に対し、図書や研究成果などを調べ、知識理解を深める。

成績評価

評価の基準

評価の方法 出席状況、レポート提出などを考慮して総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

地域介護福祉研究（今井）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS307

開講年度 2014年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究（今井）

科目責任者 今井 訓子

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 51000103

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護研究の意義、目的を理解する。
研究の基礎を学び、介護福祉士として役割を知る。

学生の達成目標

1. 介護研究の手順を知る。
2. 文献検索の方法を知り、適切な文献を選べる。
3. 介護研究グループとしての個々が持つ役割とその効果を知る。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回	介護研究のプロセスについて
	第3回～第5回	研究のタイプとデザインについて
	第6回	文献検索について
	第7回～第8回	研究計画書の作成
	第9回～第11回	グループワークによる検討
	第12回～第14回	研究論文の作成
	第15回	中間発表
	第16回～第28回	研究論文の検討と修正
	第29回～第30回	研究成果発表

予習・復習の内容	予習	介護研究報告書を読み、自分が展開したいテーマを決めておく。 研究方法に関する文献を読む。		
	復習	まとめたものを振り返り、さらなる研究へとつなげる。		
	展開	前期はグループ学習後期は主に個人指導をする。 文献検索を行い、知識を深める。		
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	資料配布			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究（川村）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS307

開講年度 2014年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究（川村）

科目責任者 川村 博子

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 51000104

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 は全体指導を中心、後半は個別指導が主となる。

学生の達成目標 1. 障害者、高齢者が豊かで安定した生活を送ることが出来るための支援について、文献及び見学・調査・実践の体験を通して理解を深める。

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション
		第2回～第3回	興味、関心のあるテーマについて話し合い、課題を設定する
		第4回～第7回	資料収集の方法、整理の方法
		第8回～第9回	中間発表
		第10回～第12回	論文の構成、体裁、執筆方法
		第13回～第22回	論文の執筆について
		第23回～第27回	論文の検討、修正
		第28回	論文の提出
		第29回～第30回	論文の発表会

予習・復習の内容	予習	興味、関心のあるテーマについて調べる
	復習	興味、関心のあるテーマについて図書等で学ぶ
	展開	興味、関心のあるテーマについて理解を深める。

成績評価	評価の基準	テーマへの取り組み、論文の内容。
	評価の方法	テーマへの取り組み、論文の内容を総合的に評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究（井口）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS307

開講年度 2014年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究（井口）

科目責任者 井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 51000105

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

基本的な研究の方法を学び、介護福祉領域に関するテーマを設定し、自ら主体的に研究できる。論文としてまとめることができる。

学生の達成目標

1. 主体的な学習・研究的態度でテーマに取り組むことができる
2. グループメンバーと意見交換ができる
3. 論文としてまとめることができる。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回～第3回	研究について
	第4回～第5回	各自の関心について意見交換し、研究テーマ設定の手がかりを探る。
	第6回	テーマの設定
	第7回	研究計画書を作成する
	第8回～第11回	文献検索を行い整理する
	第12回～第14回	文献検索と整理の状況の報告
	第15回	中間発表と今後の計画の調整
	第16回～第20回	データ及び文献、資料等の整理
	第21回～第29回	論文作成と検討・修正
	第30回	研究成果の発表

予習・復習の内容	予習	研究レポートに関連する文献を読んで、概要等理解してくる。 自らのテーマに関連する文献を調べておく。
	復習	他者の意見等踏まえて、自らのテーマについて整理しながら発展的に進めること。
	展開	自らのテーマに関する文献から研究結果等を調べ、それらを基礎に深める。
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 80%） 研究過程（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書等は、適宜提示する。	

地域介護福祉研究（松井）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS307

開講年度 2014年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究（松井）

科目責任者 松井 奈美

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 51000107

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

学習を通して生じた疑問や課題を整理し、自らの興味関心事を明確にしたうえで、自らが設定した研究テーマに基づいて考察を深め、論理的な文章で表現するというプロセスを経て「考えて行動する力」「コミュニケーション能力」を養う。

学生の達成目標

1. 自分の興味関心事（疑問や課題）を明らかにし、研究テーマを絞り込む。
2. 論文執筆のマナーを理解する。
3. 執筆マナーに基づいて、自分の考えを論理的な表現でまとめる。
4. 研究成果を口頭で的確に説明する。

授業内容

- 第1回 第 1回 オリエンテーション
第 2回 研究活動の留意点を理解する
第 3回 興味・関心のあるテーマについて話し合う
第 4回～第7回 資料収集の方法・整理の仕方等を学びつつ、研究テーマの明確化を図る
第 8回～第9回 研究計画（案）の発表を行うことを通して研究計画を見直す
第10回 研究計画書を完成させる（序章を書き始める）
第11回 研究活動予定表を作成する
第12回 研究活動経過報告の発表を行う

第13回～第15回 研究論文の章立てを作成する (序章を完成させる) 第16回～第27回 研究論文の執筆および修正を進める 第28回 研究論文を提出する 第29回 研究成果の発表を行う 第30回 研究成果の発表とゼミ活動の反省会を行う		
予習・復習の内容	予習	研究テーマに関連する書籍を読むこと
	復習	・調べたこと、読んだ本からの学びをまとめておき、ゼミの中で発表する準備を行うこと ・ゼミで話し合ったことや話し合いからの学びをノートにメモし、必要に応じて確認すること
	展開	・自分で設定した研究テーマについて多面的に考えることができる ・自分の考えが深まり、論理的かつ適切な表現（文章、口頭）で学びや思考を説明できる
成績評価	評価の基準	・授業参画状況・研究活動状況（70%） ・論文の内容（30%）
	評価の方法	授業参画状況・研究活動の姿勢および論文の内容で総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	新版 大学生のためのレポート・論文術
	著者名	小笠原喜康
	出版社	講談社現代新書
	価格	720円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-06-288021-3
	書籍名	大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ
	著者名	学習技術研究会（編著）
	出版社	くろしお出版
	価格	1800円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-87424-510-1
参考URL		
備考	・推薦図書は、必要に応じて紹介する。 ・積極的、協調的な参画を期待する。 ・行き詰った時は個別指導を受けること。	

地域介護福祉研究（清宮）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS307

開講年度 2014年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究（清宮）

科目責任者 清宮 宏臣

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 51000108

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 前半は主に全体での講義を中心に、意見交換を行う。後半は主に個別指導をする。

学生の達成目標 1. 社会福祉や介護福祉について、研究したいテーマを主体的に設定し、そのテーマについて深く調べ、それらを論文としてまとめ、提出する。

授業内容

第1回	第1回 オリエンテーション（授業の進め方について）
第2回～第3回	各自の興味関心のある事柄について意見交換をし、研究テーマを設定する。
第4回～第5回	研究計画書（研究をしたくなった経緯や背景、研究目的、研究方法など）を作成する。
第6回～第13回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する。
第14回	中間発表
第15回～第24回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する。
第25回～第28回	研究論文の確認、修正をする。
第29回～第30回	研究論文の提出

予習・復習の内容

予習 ・日ごろから研究テーマに関連した事柄について関心を持ち、関連する資料（新聞記事や書籍、論文など）を集める。

復習 ・毎回の授業の内容を整理する。

	展開	・研究テーマに関連した資料（文献）を丁寧に調べ、集めることができる。また、それらの資料や文献をしっかりと読み理解する。理解できない場合はさらに調べるようにする。
成績評価	評価の基準	研究テーマに関する資料準備や発表の様子、グループワークの参加度、研究論文の内容などを総合的に評価する。
	評価の方法	・研究テーマに関する資料準備や発表の様子（15%）、グループワークの参加度（15%）、研究論文の内容（70%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	はじめての介護研究マニュアルーアイデアから研究発表までー
	著者名	矢原隆行
	出版社	保育者
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究（中西）

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS307

開講年度 2014年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究（中西）

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 51000110

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 授業、実習などから捉えられた課題に基づき研究テーマを決める。
2. 学生の主体的な取り組みと、その問題・課題意識に応じて授業を展開する。
3. 学生の研究進度に応じて適宜発表とゼミ批評ができる機会を設ける。

学生の達成目標

1. 介護福祉実践における介護サービス利用者と介護福祉専門職とのかかわりのあり方を考察する。
2. 基礎的な事例研究の方法論を学び、研究報告書を定められた期限までに仕上げて提出する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----------|---|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション（目標1） |
| | 第2回～第3回 | 介護福祉について各自が抱えている問題意識を語り合う。（目標1） |
| | 第4回～第5回 | 研究テーマを決める。（目標1） |
| | 第6回 | 研究のタイプとデザインについて学ぶ（目標2） |
| | 第7回～第8回 | 研究計画書の作成（目標1・2） |
| | 第9回～第10回 | 各自のテーマに関する文献を検索する。＊図書館にてレクチャーを受ける。（目標2） |
| | 第11回～第14回 | 資料の収集と整理（目標1・2） |
| | 第15回 | 中間発表（目標1・2） |
| | 第16回～第25回 | データの収集および論文作成（目標1・2） |

第26回～第28回 論文の修正（目標1・2）
第29回～第30回 研究発表（目標1・2）

予習・復習の内容

- 予習 : 自身の興味関心を掘り下げ、研究したいテーマについての情報収集に関連する図書や映像を観るなどして行うこと。
: 事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
- 復習 : 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
- 展開 : 学生自身の持つ興味関心について図書や先行研究等を調べ、知識・理解を深める。

成績評価

- 評価の基準 授業で学ぶ基礎的な研究に関する内容（研究のプロセス、研究手法、論文の書き方等）が理解できていること。
- 評価の方法 授業参加度20%、レポート20%、研究論文60%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
必要に応じ適宜紹介する。

推薦図書等

- 書籍名 はじめての介護研究マニュアル～アイデアから研究発表まで～
- 著者名 矢原隆行
- 出版社 保育社
- 価格 2310円
- ISBN・ISSN 978-4-5866-3017-2

参考URL

備考

日本の文化

シラバス基本情報

科目ナンバリング GHU201

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（人文系）

授業科目名 日本の文化

科目責任者 斉藤 靖之

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限
11000501
11000502

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・担当者が、毎時プリントを用意して、その内容について解説することが中心となるが、時には、具体的な文化の内容について、資料や写真等を活用し、学生の意見（感想）等の場を設けたりして、授業の深化を図りたい。

学生の達成目標

1. ・福祉や教育の仕事に携わる学生にとって、自らの教養を高めることは、意義がある。とりわけ、日本人として「日本の文化」について、その内容や歴史等を学ぶことは、人に接する仕事の上で、幅広い知識や教養となり、人間関係を築く上で重要な要因になる。
2. ・生活文化、地域文化、伝統文化等の学校のカリキュラムと関連づけて、日本の文化の特性を探究し、豊かな人間性と日本人の誇りを身につけてほしい。

授業内容

第1回	第1回	15時間の授業の概要について・「文化」とは
	第2回	「日本の文化」を学ぶ意味について
	第3回	「日本の文化」の分類例について
	第4回～第5回	「和モノ」（衣食住）について
	第6回～第7回	「日本のしきたり」について
	第8回～第11回	学習指導要領と伝統文化の取り扱いについて
	第12回	代表的な文化(美術・歌舞伎・建築等)
	第13回	代表的な文化(能と狂言・和歌・短歌等)

	第14回 第15回	日本の文化に関わる人物や遺産等について 「日本の文化」についてのまとめ
予習・復習の内容	予習	次回の講義内容を話し、必要な資料を収集させておく。
	復習	本時の授業の中から大切なことを質問し、その内容を講義資料から見つけ出し、発表させる。
	展開	文化の特性を講義内容から読み取り、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義内容の中から、いくつかの課題を事前に与え、その課題の中から学生本人に課題を選択させ、レポートを書いて提出させる。特に、レポートの内容が講義内容を理解しているか、学生の主張が書かれている事を評価する。
	評価の方法	（70%）出席日数（20%）授業態度（10%）等を考慮して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	参考資料は、プリントを配付する。併せて参考書籍等も授業で紹介する。	
推薦図書等	書籍名	文化の範囲は広く、限定した参考書は固定しない予定。プリント用意
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

道徳と福祉の心（児）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHU101
開講年度	2014年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	道徳と福祉の心（児）
科目責任者	野口 芳宏
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11001002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

DVDの視聴や様々な社会的・道徳的・福祉を題材とした資料を通して、福祉や社会に積極的に携わろうとする人々の「人間としての生き方・あり方」について考える。また、これまでの自分の生き方・あり方を振り返り、将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲を高める。

学生の達成目標

1. 自分の目標に向かって、将来の目標を持つことができる。
2. 各分野の専門家(含 福祉)の生き方にふれ、自分のこれからの人生と重ね合わせる。
3. 新聞や雑誌の掲載された社会事象に関心を高める。
4. 今後の自分の生活や将来に向けた展望を持つことができる。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション「現在の自分とこれからの自分の生き方」について小論文を書く。
第2回 植草学園短期大学の歴史「社会の変遷とともに見つめてきた教育」
第3回 建学の理念を語る「植草学園短期大学が目指すもの」
第4回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第5回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。 |
|-----|---|

第6回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第7回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第8回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第9回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第10回 福祉に関する新聞記事を読み，意見文を書き，発表する。
第11回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。
第12回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。
第13回 高齢者福祉に関する情報に関心を持つ。
第14回 DVについて話し合い，考えを深める。
第15回 まとめ 次年度への課題

予習・復習の内容

予習	予告に基づき，用語の概念，あらましなどを事典によって調べてくる。
復習	授業を受けて印象に残る3点を毎回確認，記述する。
展開	インターネットを活用し，関連事項についての知識を深める。

成績評価

評価の基準	下記3点を100点満点で採点する。
評価の方法	正式な礼状，最上ノート，課題論文の提出による。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

推薦図書・参考URLについては，適宜紹介する。

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング GSO101

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 日本国憲法

科目責任者 金津 謙

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限
12000101
12000102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

憲法は法律の頂点に位置する重要な法律である。保育に関する様々な法律、制度も全て憲法に基づいて制定されており、教員、保育士等の職においてその理解は必須とされる。授業では現在注目されている憲法問題を扱いこれまでの知識、理解を深めることを目的とする。

学生の達成目標

1. 憲法の概要を理解する。
2. 憲法の発展的課題について考察する。
3. 教育、保育に関する憲法問題について理解する。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 憲法の意義 |
| | 第2回 憲法総論／日本国憲法史 |
| | 第3回 国民主権という考え方／明治憲法と現行憲法との比較 |
| | 第4回 平和主義／憲法9条と世界平和 |
| | 第5回 基本的人権とはなにか／人権宣言の意義／基本的人権の限界 |
| | 第6回 個人の思想の自由は制限されるか／法の下での平等・精神的自由権① |
| | 第7回 表現の自由とはなにか／法の下での平等・精神的自由権② |
| | 第8回 中間テスト |

第9回 国民の経済活動を保証するルールとは／経済的自由
第10回 犯罪捜査・刑罰を科す上での基本ルールとは／人身の自由
第11回 ホームレスの存在は憲法違反か／社会権／生存権
第12回 義務教育はなぜ無料なのか／社会権／教育を受ける権利
第13回 国会の地位と権限・内閣の構造／統治機構概論
第14回 地方自治の推進と問題点
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	授業時に指定した教科書該当箇所を熟読すること。
	復習	授業時に配布されたプリント、教科書を活用し、授業ノートを整理すること。
	展開	新聞等で報道される憲法問題について注目し、独自の考察を行う。

成績評価	評価の基準	中間テスト（50％）、期末テスト（50％）の総合評価
	評価の方法	中間テスト（50％）、期末テスト（50％）の総合評価

教科書	書籍名	法学への一歩（第3版）
	著者名	河原 格 編著
	出版社	八千代出版
	価格	2415
	ISBN・ISSN	978-4842915012

推薦図書等	書籍名	ポケット六法 平成26年版
	著者名	
	出版社	有斐閣
	価格	1890
	ISBN・ISSN	978-4641009141

参考URL
備考

コンピュータ概論 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO102
開講年度	2014年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論 児童
科目責任者	緒方 佐紀子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000502 12000503
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	テキストを参考に練習問題に取り組み、その後プリントによる演習問題を自由に作成する。
-----------	---

- | | |
|---------|--|
| 学生の達成目標 | <ol style="list-style-type: none">1. Windowsの基本操作方法，Word，Excelの実習により文章作成，表計算を学ぶ。2. 教科書を理解して、応用力を身につける。3. 演習では基礎知識をもとに自由にレポートを作成できるようにする。 |
|---------|--|

授業内容	第1回	第1回 コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識 第2回 メモ帳，Wordによる入力，保存，ファイル管理 第3回 Wordの基本操作1（文字，文章入力，文書保存） 第4回 Wordの基本操作2（編集機能） 第5回 Wordの基本操作3（表，罫線） 第6回 Wordの基本操作4（ビジュアルな文書，図形） 第7回8回 総合的な文章の作成 第8回 Excelの基本操作1（ワークシート，セル，表） 第9回 Excelの基本操作2（計算式を用いた表の作成，挿入／削除など） 第10回 Excelの基本操作3（グラフの作成）
------	-----	---

		第11回 Excelの基本操作 4（グラフの変更，装飾など） 第12回 Excelの基本操作 5（関数の使い方） 第13回 Excelで基本操作 6（データベース機能） 第14回 WORDとEXCELの操作（差し込み印刷：WORDで作成された文章にEXCELのデータを埋め込む） 第15回 まとめ（総合問題の提出）
予習・復習の内容	予習	教科書の操作機能を理解しておくこと。
	復習	新しく出てきた機能については完全に操作できるようにしておくこと。 期間中 4、5 回のレポート課題に関しては仕上げておくこと。
	展開	授業で直接使用しないソフトに関しても積極的に操作してみる。
成績評価	評価の基準	WORDでは演習レポートで与えられた機能をどのように工夫して使用しているか。 EXCELではシートごとにまとめられ、数式、関数を適切に利用しているか。 ファイル間の受け渡しができるか。以上の事を合格基準とする。
	評価の方法	演習レポート，授業出席，授業参加態度を考慮して行う。 評価の方法：おおよその基準としてWORD 4 0 %、EXCEL 4 0 %、総合力 2 0 %とする。
教科書	書籍名	『30時間でマスター Word & Excel 2010』
	著者名	
	出版社	実教出版株式会社
	価格	9 0 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コンピュータ演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング GSO103

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 コンピュータ演習

科目責任者 荻原 尚

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 12000701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

一人1台のコンピュータを操作し、様々なソフトウェアを用いて、課題コンテンツを作成することで、マルチメディア表現・技術を習得する。

学生の達成目標

1. マルチメディアの基本であるコンピュータ・グラフィックとデジタル・オーディオの技術を身につける。
2. Webデザイン技術を使った情報発信手法を学ぶ。
3. Flashアニメーションを用いた総合的なマルチメディア表現・技術を身につける。

授業内容

- | | |
|-----|-----------------------------|
| 第1回 | 第1回 コンピュータの基本操作（目標1） |
| | 第2回 グラフィックの種類と特徴（目標1） |
| | 第3回 画像のファイル形式（目標1） |
| | 第4回 ペイント系 CG（レイヤーの使い方）（目標1） |
| | 第5回 ペイント系 CG（範囲選択）（目標1） |
| | 第6回 フォトレタッチ（画像の合成技術）（目標1） |
| | 第7回 フォトレタッチ（色相、明度、彩度）（目標1） |
| | 第8回 フォトレタッチ（クイックマスク）（目標1） |
| | 第9回 フォトレタッチ（レイヤーマスク）（目標1） |
| | 第10回 フォトレタッチ（自由作品制作）（目標1） |
| | 第11回 Webデザインの基礎知識（目標2） |

第12回	CSS（文字デザイン）（目標2）
第13回	CSS（レイアウト）（目標2）
第14回	ホームページの作成（TopPage）（目標2）
第15回	ホームページの作成（LinkPage）（目標2）
第16回	コンピュータ音楽の概要（目標1）
第17回	MIDIのしくみ（目標1）
第18回	MIDIファイルの作成（Pianoパート）（目標1）
第19回	MIDIファイルの作成（合奏データ）（目標1）
第20回	デジタル・オーディオの基礎知識（目標1）
第21回	PowerPointの基本操作（目標1）
第22回	プレゼンテーション（資料の作成）（目標1）
第23回	プレゼンテーション（発表）（目標1）
第24回	ドロー系 CG（基本操作）（目標1）
第25回	ドロー系 CG（パス演算）（目標1）
第26回	Flashアニメーションの基本操作（目標3）
第27回	Flashスプライトの使い方（目標3）
第28回	Flashボタンの作り方（目標3）
第29回	Flash紙芝居の作成（自由作品）（目標3）
第30回	Flash紙芝居の作成（作品発表）（目標3）

予習・復習の内容	予習	事前に指示したテーマについて、資料を集め、作品のアウトラインを考えておくこと。
	復習	習作と課題作品を管理すること。 未完成の課題がある場合は、完成させておくこと。
	展開	本講義は、プレゼンテーションや教育指導に応用可能なので、様々な内容の独自作品を作成することを推奨する。

成績評価	評価の基準	各課題作品の完成度を基準として総合的に行う。 各作品が正しく動作することを合格基準とする。
	評価の方法	CG、Audio、Web、Flashの課題作品（各25%）の完成度で評価する。 筆記試験は行わない。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
	データ保存用に USBメモリを用意することが望ましい。

推薦図書等	書籍名	特に指定しない。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

キャリアガイダンスⅠ（児）

シラバス基本情報

科目ナンバリング GSO104

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 キャリアガイダンスⅠ（児）

科目責任者 田村 光子

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 12000802

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

本学のキャリア支援のしくみについて理解し、働くことの意義や職業選択の方法について知り、よりよい職業選択につなげることを目的とする。各職場で働く先輩の話、さらにビジネスマナー等の講習会、担任等との面接を通して、自らのキャリアについて考え、行動していく力につなげたい。

学生の達成目標

1. 社会に必要なコミュニケーション力やビジネスマナーを身につけ、望ましい職業選択ができる能力を高める
2. 自分の長所・仕事観などに理解を深め、どのような職場で自分の長所を発揮できるか考える

3. 講演、講習会および面接等通して、実場的な現場で必要な力を学び、その力を実習やボランティアなど実践の場につなげる

授業内容	第1回	第 1 回	オリエンテーション・ 1 年間の日程について	
		第 2 回	図書館ガイダンス	
		第 3 回	進路ガイダンス（1）進路選択について	
		第 4 回	面接指導－よりよい大学生活に向けて	
		第 5 回	公務員ガイダンス	
		第 6 回～第 7 回	作文添削講座	
		第 8 回～第 9 回	卒業生のお話を聞く会 （公務員講座（1）希望者のみ）	
		第10回	キャリアデザインの作成	
		第11回	マナー講座	
		第12回～第13回	キャリア関連講演会（アサーティブ講座、スト レスマネジメント講座等）	
		第14回	内定報告会	
		第15回	進路ガイダンス（2）2年生にむけて （公務員講座（2）希望者のみ）	
	予習・復習の内容	予習	各回の授業内容を事前に確認しておくこと	
		復習	講義、講座等を振り返りレポートを作成する	
		展開	社会人としての基礎力を身に着けるために、担任の面接や個別指 導、また実習およびボランティア等を経て、各人の目標や課題を明 らかにする。	
成績評価	評価の基準	授業への参加度（60％）、授業内のレポート提出状況とその 内容（40％）		
	評価の方法	授業への参加度と授業内のレポート提出状況およびその内容で 評価する。		
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 進路ガイドブック、キャリアデザインノート			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

キャリアガイダンスⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング GSO301

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 キャリアガイダンスⅡ

科目責任者 黒田 静江

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
浅川 蘭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 12001002

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

社会人としてのコミュニケーション力や就職活動に必要な知識を身につける。また今まで学んだことを活かしながら、保育・福祉・教育などの職場で働いている先輩の話を聞いたり、ゼミ担当者やキャリア支援員との面接を通して、自分に合った進路・適職について考え、積極的に進路を切り拓いていけるようにする。

学生の達成目標	1.	社会人としてのコミュニケーション力や、就職活動に必要な知識を身につける。	
	2.	自分の長所・仕事観などに理解を深め、適職について考えたり自己の能力を高める。	
	3.	社会人として働く際に必要な知識を身につける。	
授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション・報告・伝達について（目標1）
		第2回	マナー講座（目標1）
		第3回～第4回	保育士公務員模擬試験（目標1）
		第5回	作文講座（目標2）
		第6回	履歴書の書き方（目標1）
		第7回～第8回	卒業生のお話を聞く会（目標2）
		第9回	就職活動の進め方（目標1）
		第10回	就職試験対策について（目標1・2）
		第11回	模擬面接講座（目標1・2）
		第12回	労働・社会保障関係法講座（目標3）
		第13回	アサーティブ講座（目標1）
		第14回	ハラスメント講座（目標3）
		第15回	ストレスマネジメント講座・まとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	さまざまなボランティアを体験し自己の職業選択に役立てる。積極的に行動する力を身につける。	
	復習	授業で学んだことをまとめて実践に活かせるようにしたり、自己の選択した職業に必要な知識・技能を高めようとする。	
	展開		
成績評価	評価の基準	提出物・授業への参加度	
	評価の方法	提出物（60%）	授業への参加度（40%）
教科書	書籍名	進路ガイドブック	
	著者名		
	出版社		
	価格		
	ISBN・ISSN		
教科書	書籍名	キャリアデザインノート	
	著者名		
	出版社		
	価格		
	ISBN・ISSN		

推薦図書等

参考URL

備考

総合英語 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング GFO101

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（外国語）

授業科目名 総合英語 I

科目責任者 北條 洋子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限
14000101
14000102
14000111
14000112

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

○ 保育士として児童に英語を親しませることができ、外国人の子どもとも簡単なコミュニケーションを取ることができることを目指す。そのために、英語圏社会を知り、基本的な英会話を練習し、欧米の子どもの好きな歌などを使って英語指導をする練習を行う。

学生の達成目標

1. 英語を話す人々の社会習慣や考え方を説明することができる。
2. 場面に応じた基本的な英会話をすることができる。
3. 欧米の児童に知られている歌やチャンツを題材に、簡単な児童英語指導をすることができる。

授業内容

第1回 第1回 授業目標と進め方 英語の特徴・英語学習の理由は? (目標1,2,3)
第2回 世界を見てみよう①St.Patty's Day 授業開きとは? (目標1,2,3)
第3回 世界を見てみよう②Festivals 話す時のポイントとは? (目標1,2,3)
第4回 日本との違い①Castles 言語の発達状況とは? (目標

	1,2,3)
	第5回 日本との違い②Post & Mail 什”以英語?以英語? (目標1,2,3)
	第6回 困った時の訴え①Symptoms 体調を気遣う英語は? (目標1,2,3)
	第7回 困った時の訴え②Barrier-Free/UDとは何か? (目標1,2,3)
	第8回 食の国民性①Breakfast 真の国際人の条件とは? (目標1,2,3)
	第9回 食の国民性②Snacks & Tea Afternoon Tea? (目標1,2,3)
	第10回 共に生きる①Animals 補助犬とはどんな犬か? (目標1,2,3)
	第11回 共に生きる②School Lives 非言語コミュニケーションとは? (目標1,2,3)
	第12回 共に生きる③Community 道案内の英会話とは? (目標1,2,3)
	第13回 共に生きる④Money 聞き手のマナーとはどんなこと? (目標1,2,3)
	第14回 障害を越える努力 the challengedとはどんな方? (目標1,2,3)
	第15回 英語での効果的な発表のヒント 発表指導案持参 (目標1,3)

予習・復習の内容	予習	① 授業内容のキーワードや課題について、英語は辞書で、項目については百科事典などで必ず調べ、自分なりの意見を発表できるようにしておく。
	復習	① 配布プリントや教科書を用いて、授業内容の要点を、毎回必ずまとめておく。 ② 学習した英会話例は、常に友人と対話練習する。 ③ 教科書で学習した歌や指導方法は、必ず見直しをし、各自歌ったり実践したりする。
	展開	① 毎時間学習した英語の歌やチャンツのメロディを検索して、歌ったり指導例を考えたりする。 ② ラジオやテレビの英会話に継続して取り組み、保育検定や英語検定などの目標を持ち、各自英語力を向上させる努力をする。

成績評価	評価の基準	① 英語を話す人々の社会習慣や考え方の例を理解し、説明することができる。 ② 児童との英語での簡単なコミュニケーションができる。 ③ 簡単な児童英語指導をすることができる。 以上を合格基準とする。
	評価の方法	① 期末試験（英語圏の背景など）40%、② 会話発表10%、③ Presentation発表と提出50%の成績を総合する。 ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	Songs & Chants
著者名	松香洋子
出版社	mpi
価格	¥ 1260

ISBN・ISSN 9784896430172

書籍名 子どもと英語
著者名 松香洋子
出版社 mpi
価格 ￥1260
ISBN・ISSN 9784896434248

推薦図書等

書籍名 Song & Chants 歌とチャンツの 「CD」
著者名 松香洋子
出版社 mpi
価格 ￥2100
ISBN・ISSN 9784896430592

参考URL

www.mext.go.jp 文部科学省 外国語活動

備考

- ① 授業は毎回教科書と補充プリントを使って行う。
- ② 授業はPC画像で英語圏の様子を知り, グループ・ペアでの会話練習, そして音声を伴う歌などを使って行う。きびきびと行動し, 友人と一緒に「英語学習の雰囲気」を築くこととする。
- ③ 活動はできるだけ英語で行いたい, 不安な学生は申し出るように。
- ④ 最終回で満足いくような発表をし, 将来自信を持って児童英語に取り組むことができることを意識して, 努力することを期待する。

総合英語Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング GFO201

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（外国語）

授業科目名 総合英語Ⅱ

科目責任者 マーク レモン

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限
14000301
14000302
14000311
14000312

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Warm-up activity, identification of target language, pair-work practice and mini-presentation or demonstration conversation of learned material.

- 学生の達成目標
1. The goal for this class is to enable students to discuss topics of a daily nature in English, while raising their confidence in being able to communicate in said language.
 2. The students will practice grammatical forms they have previously learned, although in different conversational situations.
 3. Material will be applied to the students' daily lives and practiced in accordance with such themes.

授業内容

- 第1回
- 第1回 Getting to know the teacher. (1,2,3)
第2回 Talking about Japanese holidays/events. (1,2,3)
第3回 Asking and giving personal information. (1,2,3)
第4回 Discussing likes and dislikes. (1,2,3)
第5回 Using countable and uncountables.(1,2,3)
第6回 Adverbs of frequency/ discussing habits. (1,2,3)

第7回 Talking about degrees of ability. (1,2,3)
 第8回 Review and presentation. (1,2,3)
 第9回 Describing and defining things. (1,2,3)
 第10回 Talking about experiences. (1,2,3)
 第11回 Talking about a movie story. (1,2)
 第12回 Asking about family, relatives and sports. (1,2,3)
 第13回 Discussing family, relatives and sports. (1,2,3)
 第14回 Discussing jobs and job functions.
 第15回 Review/preparation of final presentation. (1,2,3)

予習・復習の内容	予習	Students should memorize the conversation from the previous lesson.
	復習	Vocabulary from previous lessons should be reviewed.
	展開	Students should write their presentations in an ongoing manner, employing language learned from each class.

成績評価	評価の基準	Daily evaluation 60%, Mid-term presentation 20%, Final presentation 20%
	評価の方法	Daily evaluation 60%, Mid-term presentation 20%, Final presentation 20%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	特になし。

推薦図書等	書籍名	特になし。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

スポーツ・レクリエーション（講義）

シラバス基本情報

科目ナンバリング GPH201

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（体育）

授業科目名 スポーツ・レクリエーション（講義）

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限
15000201
15000202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会が抱える問題とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について発達段階との関連から取り上げ、それぞれの発達段階において保持・増進をすべき体力要素を理解し、保持・増進のための方策について考察する。また、それぞれの体験や日常生活を省察しながら、ライフステージに合わせたスポーツのあり方や実践方法を獲得してほしい。

学生の達成目標

1. 現代社会の問題点とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について理解し、発達段階に応じた心身の健康や体力の保持・増進の為の方策を理論的に学習する。
2. 加えて、障害にわたってスポーツを指導・実践できる能力を身につけるために、スポーツ活動の必要性を認識し、その実践方法を習得する。

授業内容	第1回	第1回 スポーツとは（目標1・2） 第2回 現代社会の問題点とスポーツ（目標1・2） 第3回 発育発達と運動（目標1・2） 第4回 身体運動のメカニズム（目標1・2） 第5回 運動と障害（目標1・2） 第6回 運動処方（目標1・2） 第7回 障害予防と応急処置（目標1・2） 第8回 まとめ（目標1・2）
予習・復習の内容	予習	スポーツ・レクリエーションの必要性や役割を理解するために、発達段階に応じた心身の健康や体力の保持・増進について関心を持つこと。また、日頃よりスポーツ・レクリエーションに関する報道に着いて理科しておくこと。
	復習	授業の内容を要旨にまとめておくこと。指示されたレポート課題を提出のこと。
	展開	実習等で実技も含めたスポーツ・レクリエーションの研究・実践。
成績評価	評価の基準	現代社会におけるスポーツ・レクリエーションの役割をよく理解し、実践するための知識を理解できていること。
	評価の方法	レポート課題30％・期末筆記試験50％・授業への参加度20％とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に無し	
推薦図書等	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング GPH101

開講年度 2014年度

科目区分 共通基礎科目（体育）

授業科目名 スポーツ・レクリエーション（実技）

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 実技

開講時期

登録コード・曜日・時限
15000301
15000302

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、多方面で活用できる能力を身に付けてほしい。各種レクリエーション種目の特性やルール名アドを記入するためのノートを用意し、現場でも役立つような資料作りをする。

学生の達成目標

1. 軽スポーツを体験し、その種目に対する知識を得る。
2. 組織体のあり方、対人関係のあり方（リーダーとなった場合の）人材育成のあり方について身につける。
3. 現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、活用できる能力を身につける。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（目標1・2・3）
第2回～第3回 アイスブレイキング（目標1・2・3）
第4回～第6回 フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1・2・3）
第7回～第9回 バドミントン（目標1・2・3）
第10回～第12回 ソフトバレーボール（目標1・2・3）
第13回 インディアカ （目標1・2・3）

第14回 ヘルスバレーボール（目標1・2・3）
第15回 スラックライン（目標1・2・3）
第16回 前期まとめ（目標1・2・3）
第17回 支援実習について（目標1・2・3）
第18回 集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第19回 集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第20回 集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第21回 集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第22回 集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第23回 まとめ

予習・復習の内容	予習	事前に次回テーマに着いて調べておくこと。
	復習	体験した種目に着いて理解度を図るためのレポートを提出すること。 また、集団レクリエーション支援実習において実践すること。
	展開	他の軽スポーツについても資料や図書等で調べ知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
	評価の方法	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
教科書	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR101
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育原理
科目責任者	浅川 繭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011101 30011102
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	すこやかな子どもの育ちと子育て支援とを目的・課題とするときの基本的な考え方について学ぶ
-----------	---

学生の達成目標	1.	保育の本質とはどういうことなのか理解する
	2.	保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する
	3.	子どもを理解する際の手がかりとなる視点を習得する
	4.	保育を成り立たせている保育内容や方法の原理を理解する
	5.	子育てを取り巻く社会的な変化を理解する

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション 保育原理の学習の計画と授業計画
	第2回	保育とは何か
	第3回	保育の基盤としての子ども観
	第4回	子ども理解から出発する保育
	第5回	子どもが育つ環境の理解
	第6回	保育内容・方法の原理Ⅰ
	第7回	保育内容・方法の原理Ⅱ
	第8回	保育の計画と実践の原理
	第9回	健康・安全と障がいのある子どもへの対応

- 第10回 保育の歴史に何を学ぶか
- 第11回 保育者に求められるもの
- 第12回 家族援助と子育て支援
- 第13回 保育の評価と苦情処理及び保育者の研修
- 第14回 保育の現状と課題
- 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 積極的に授業に参加している
	評価の方法	レポート，試験，授業参加の姿勢から総合的に評価する
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR102
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育原理
科目責任者	白川 優治
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30000501
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

教育を学ぶなかでは、「教育とは何か」、「人はなぜ学ぶのか」、「学校はどのような意味をもっているのか」を考えることは、避けて通ることはできない。そこで、教育の歴史、理念、制度などの観点からこのことを考えていく。

- 学生の達成目標**
1. 「教育」という行為がどのように考えられてきたのか、基礎的な知識を身につける。
 2. 現在の「教育」にどのような課題があるのか、自分自身で考えることができる。

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション+「教育の意義」①（目標1・2） 第2回 教育の意義②「教育とは何か」「学ぶことと教えること」「学校の意味」（目標1） 第3回 教育の歴史① 西洋での教育と学校の歴史（目標1） 第4回 教育の歴史② 日本での教育と学校の歴史 第5回 教育の理念① 西洋の教育思想の潮流（目標1） 第6回 教育の理念② 日本の教育思想の潮流（目標1） 第7回 教育制度① 教育の法制度：憲法と「教育を受ける権利」（目標1・2） 第8回 教育制度② 日本の学校制度の特徴（目標1・2） 第9回 教育の内容① 教育課程とその変遷（目標1・2） 第10回 教育の内容② 教育内容と文化・社会変容（目標1・2）
-------------	-----	--

第11回 教育と発達① 「子どもの発達段階」「子ども親」
第12回 教育と発達② 子どもの成長と環境（目標1）
第13回 教育課題① いじめと体罰（目標2）
第14回 教育課題② 教育改革と教育格差（目標2）
第15回 授業のまとめ（目標1・2）

予習・復習の内容

予習	教科書の指定する箇所を事前に自分で確認しておく。
復習	授業で指定するミニレポート・ミニテストを復習として行い，提出する。
展開	授業では本や資料等を紹介するので，それらを通じて自ら学んでください。

成績評価

評価の基準	授業で行う内容を理解できているかを達成目標の観点から判断する。
評価の方法	授業で行うミニレポート・ミニテストの提出状況（40%） 最終レポート（60%）

教科書

書籍名	『よくわかる教育学原論』
著者名	安彦忠彦他
出版社	ミネルヴァ書房（2012年）
価格	
ISBN・ISSN	9784623062478

推薦図書等

書籍名	『教育格差の社会学』
著者名	耳塚寛明
出版社	有斐閣（2014年）
価格	
ISBN・ISSN	9784641220133

参考URL

文部科学省 www.mext.go.jp

備考

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR201
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30010901
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 子どもと子育て家庭をめぐる現状と課題について、児童福祉視点から理解する。また、保育者として担うべき役割について、子どもの権利の視点から学ぶ。

学生の達成目標

1. 児童福祉の歴史を知り、制度・施策とを関連づけて、子どもの権利という視点から現代的課題を考察出来るようにする。
2. 保育や保育士のあり方について、地域で子どもと家庭を支える役割としての専門性を考察出来るようにする

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス
	第2回 保育における児童家庭福祉
	第3回 現代社会と子ども・家庭
	第4回 現代社会と児童家庭福祉
	第5回 児童家庭福祉の概念
	第6回 子どもの権利保障の歴史と児童家庭福祉の理念
	第7回 児童家庭福祉の法体系
	第8回 児童家庭福祉の実施体制
	第9回 児童家庭福祉の専門職とネットワーク、権利擁護
	第10回 児童家庭福祉施策の現状と課題①
	第11回 児童家庭福祉施策の現状と課題②
	第12回 児童家庭福祉施策の現状と課題③
	第13回 児童家庭福祉施策の現状と課題④

予習・復習の内容

予習	普段から子ども、子育て家庭問題について関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
復習	授業の要旨をまとめ、資料を整理し、再考する。
展開	児童家庭福祉の課題に向き合い、実践的に考察できる。

成績評価

評価の基準	児童家庭福祉の概念と現状と課題、支援のしくみの理解ができている。子どもと家庭の支援が保育の専門性であることが考察できる
評価の方法	リアクションペーパー 30%、テスト 70%

教科書

書籍名	新 保育士養成講座第3巻 児童家庭福祉
著者名	
出版社	全国社会福祉協議会
価格	1900+税
ISBN・ISSN	978-4-7935-1089-2

推薦図書等

参考URL

備考

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR103
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会福祉
科目責任者	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30000101 30000102
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。 社会福祉の行財政、関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。 利用者保護の仕組みの理解と今後の社会福祉の課題について理解する。	
学生の達成目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉の動向と課題について理解する。	
授業内容	第1回	第1回 社会福祉をめぐる状況 第2回 生活と社会福祉 第3回 社会福祉と社会保障 第4回 社会福祉の理念 第5回 社会福祉の歴史① 第6回 社会福祉の歴史② 第7回 社会福祉の制度と法体系 第8回 社会福祉の行財政と実施機関、施設 第9回 低所得者の福祉 第10回 子どもと家庭の福祉 第11回 障害者の福祉 第12回 高齢者の保健医療福祉 第13回 保育・教育・療育・保健・医療等と地域との連携 第14回 社会福祉の専門職と非専門的社会福祉従事者 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	普段から社会状況、福祉問題について関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。その中で自分で興味を持った事項について、その都度さらに調べること。
	展開	学びと自分、あるいはまわりの生活状況を結びつけ、社会福祉についての知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で扱った基礎的内容が理解できていること。幅広い福祉問題について自分の考えを持ち、説明できる。
	評価	テスト 8 5 % リアクションペーパー 1 5 %

教科書	書籍名	「保育者のための社会福祉」
	著者名	小林育子著
	出版社	萌文書林
	価格	1800+税
	ISBN・ISSN	978-4-89347-084-3
	書籍名	「社会福祉小六法」
	著者名	
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	1600+税
	ISBN・ISSN	978-4-6230-6952-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング SPR104

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 相談援助

科目責任者 根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30010201
30010202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 保育の場面で必要とされる相談援助について具体的に学ぶ。

学生の達成目標

1. 相談援助の意義・目的を理解する。
2. 相談援助の方法を理解し、基本的な相談援助技術を身につける。
3. 相談援助を行うものの有する価値・倫理・倫理綱領を学ぶ。
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

授業内容

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 第1回 | 第1回 相談援助の概要 ①（相談援助の理論） |
| | 第2回 相談援助の概要 ②（相談援助の意義） |
| | 第3回 相談援助の概要 ③（相談援助の機能） |
| | 第4回 相談援助の概要 ④（相談援助（保育）とソーシャルワーク） |
| | 第5回 相談援助の方法とプロセス① |
| | 第6回 相談援助の方法とプロセス② |
| | 第7回 相談援助の歴史 |
| | 第8回 相談援助する人が必要な姿勢と技術① |
| | 第9回 相談援助する人が必要な姿勢と技術② |
| | 第10回 相談援助する人が必要な姿勢と技術③ |

第11回	相談援助する人が必要な姿勢と技術④
第12回	相談援助する人が必要な姿勢と技術⑤
第13回	事例分析①
第14回	事例発表
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	教科書の指定箇所を読んで、ワークシートに取り組む。
	復習	授業で学んだことの要旨をまとめる。さらに調べる必要のあることを調べまとめておく。
	展開	専門職としての相談援助の技術を身につけ、対象への理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で扱った基礎的内容が理解できていること。基本的な相談支援計画を立て、基本的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験80%、課題20%
教科書	書籍名	ワークシートで学ぶ相談援助
	著者名	
	出版社	学文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR202
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会的養護
科目責任者	水鳥川 洋子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30011301 30011302
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子供を巡る現代の社会状況を理解した上で、社会的養護の意義とその制度・実施体系を学ぶ。更に、各種別ごとの児童福祉施設の特徴と入所児の現状を理解し、今後の社会的養護のあり方を考える。
-----------	---

学生の達成目標	1. 子どもの社会的養護をめぐる現状(特に虐待問題)を知り,保育所,学校,施設の新たな役割を認識する。 2. 社会的養護の意義とその制度・実施体系及び歴史を学び,基礎的な知識を身につける。 3. 児童福祉施設の現状と課題を理解し、これからの社会的養護のあり方について自ら考えることができる。
---------	---

授業内容	第1回	第1回 社会的養護とは何か・・・社会的養護の対象と体系（目標1） 第2回 現代の子育てを巡る社会状況（目標1） 第3回 児童虐待の現状と保育所・施設等の役割（目標1） 第4回 社会的養護の歴史（1）古代から明治まで（目標2） 第5回 社会的養護の歴史（2）明治から現代まで（目標2） 第6回 児童相談所の役割（目標1, 2） 第7回 養育環境に問題がある児童の施設養護（1）（乳児院）
------	-----	--

(目標 3)

第 8 回 養育環境に問題がある児童の施設養護 (2) (児童養護施設 母子生活支援施設) (目標 3)

第 9 回 情緒・行動面に問題がある児童の施設養護 (児童自立支援施設 情緒障害児短期治療施設) (目標 3)

第 10 回 障害のある児童の施設養護 (1) (福祉型障害児入所施設) (目標 3)

第 11 回 障害のある児童の施設養護 (2) (医療型障害児入所施設) (目標 3)

第 12 回 家庭的養護 (里親, ファミリーホーム, 自立援助ホーム) (目標 3)

第 13 回 家庭養育を支援する施設 (児童発達支援センター, 児童家庭支援センター) (目標 3)

第 14 回 児童福祉施設の運営管理と被措置児等虐待の防止 (目標 2, 3)

第 15 回 社会的養護の今後の課題とこれからの保育士に求められるもの (目標 1, 2, 3)

予習・復習の内容

予習	虐待等の子どもに係る社会的問題に日頃から関心を持ち, 新聞・テレビ等の報道を理解しておくこと。 授業内容に関連した項目について, 事前に推薦図書を読んでおくこと。
復習	復習 毎回の授業のプリントを見直し, 理解しておくこと。 毎回の授業に関連する推薦図書の内容を読み直すこと。
展開	虐待事件等社会的養護に関係する報道があったときは, 自分なりにその問題の要因や子供への今後の対応について考えてみる。

成績評価

評価の基準	虐待問題を中心とした現代の社会状況及びその中での社会的養護の意義と役割を理解するとともに各児童福祉施設の目的や現状を説明できることを合格基準とする。
評価の方法	期末試験 (70%), 授業への参加・取り組み度 (30%)

教科書

書籍名	保育士をめざす人の社会的養護
著者名	伊達悦子・辰巳隆 編集
出版社	(株) みらい
価格	本体 2, 0 0 0 円
ISBN・ISSN	978-4-86015-258-1 C3036

推薦図書等

書籍名 授業中に紹介する。

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

☐上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

保育者・教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育者・教師論
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30010701
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 幼児期の保育・教育及び障害教育に重点を置き、専門職として子ども理解に基づいた人間性や専門性について学ぶ。 2. 幼稚園・保育園、小・中学校等の育ちの過程で出会った保育者・教師から学んだ事例を取り上げ、指導・支援等の望ましい在り方を具体的に考え、目指す保育者・教師像を深める。
-----------	--

学生の達成目標	1. 保育者や教師が備えるべき条件の基礎となる「保育士・教師観」「子ども観」「授業観」「保育・教育観」等を深める。 2. 保育者・教師の役割と倫理、制度上の位置づけ等を学び、子どもは保育者・教師から多大な影響を受け育つことを認識し、専門職としての使命を理解する。 3. 保育・教育現場での協働で取り組む重要性、専門職としての向上心をもつ大切さ等を学び、保育者・教師として基本的資質を高める。
---------	---

授業内容	第1回	第1回 保育士・教師の制度上の位置づけ－資格・要件・責務等（目標1・2・3） 第2回 保育士・教師観－望ましい保育士・教師像、好きな保育士・教師、優れた保育士・教師、良い教師の条件（目標1・2） 第3回 子ども観－教え指導する子ども、共に生活し支える子ども、子ども主体の保育・教育、子ども主体を支える保育・教育（目
------	-----	---

標 1・2) 第4回 子ども理解－肯定的理解、共感的理解、感じ合い・分かり合い（目標 1・2） 第5回 保育・教育観－障害等の有無に関係なく、全ての子どもに適用できる保育・教育観（目標 1・2・3） 第6回～第7回 保育課程・教育課程観－保育所や学校等の生活の充実・発展のための保育課程・教育課程、保育所や学校等での生活づくりを保育・教育課程編成と捉えて（目標 2・3） 第8回～第9回 日々の保育・授業観－活動・生活支援としての日々の保育・授業、生活の一コマとしての授業、遊びや日常生活等を支える授業（目標 1・2・3） 第10回～第11回 保育者・教師の専門性－保育・幼児教育の専門性、特別支援教育の専門性、養護と教育、資質・能力、技術・技法、保育・教育の展開と自己評価、保育・教育観と専門性（目標 1・2・3） 第12回 保育者・教師の役割と倫理等－倫理、服務・規律、職務内容・役割等（目標 2・3） 第13回 保育者・教師の協働－保育者・教師の支え合い、協働（目標 3） 第14回 保育者・教師の専門職としての育ち－専門性の向上とキャリア形成（目標 3） 第15回 講義のまとめ（目標 1・2・3）		
予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、教科書「大好きな先生に出会えたら」に目を通し、理解を深めるとともに疑問点や自分なりの考えをまとめておく。
	復習	授業内容に応じて、キーワードとなる事柄について毎回小テストを実施し自分の考えをまとめる。必要に応じて、その小テストで述べたことを紹介し、より理解を深める。
	展開	幼稚園・保育園や特別支援学校等で実習した経験を踏まえ、保育者・教師として子どもとの関わり等について、見つめ直し再確認し一層の理解を深める。
成績評価	評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などより総合的に評価する。
教科書	書籍名	「大好きな先生に出会えたら」
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会編
	価格	4 5 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	「感じ合い 分かり合い 支え合い」
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会編

価格 1,000円

ISBN・ISSN

参考URL

備考

障害福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP202
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害福祉論
科目責任者	田村 光子
担当教員	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30000301
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害者福祉の基本理念について、講義、ビデオ視聴等をふまえながら学んでいく。また近年の障害児者福祉における制度の変化やその他福祉サービスの内容についても理解できるようになる。

- 学生の達成目標**
1. 障害者福祉の基本理念、また実質的な制度について理解する
 2. 当事者（障害のある方や保護者）の話や現場の声を通して、実質的な障害者福祉について学ぶ
 3. 障害児者施設への就職を希望する学生は受講をすすめる

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回 第4回～第5回 第6回	オリエンテーション 授業内容・進め方・評価についての理解 障害とは何か ～障害概念の理解～障害児者福祉の発展 障害児者福祉の歴史的変遷 ノーマライゼーション理念の理解 自立生活運動、インクルージョン、特別支援教育へ
-------------	-----	-------------------------------------	---

第7回	障害者基本法の理解
第8回	障害者自立支援法への歩み
第9回～第11回	障害福祉サービスの仕組み
第12回	障害者福祉を支える関連法の理解
第13回	現代の障害者福祉の動向
第14回	事例研究
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	各回の授業内容を確認し、事前にキーワードについて調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと 指示されたレポート課題を期限までに提出すること
	展開	障害のある方への福祉について関心をもち、関連する図書を読んだり、報道について理解しておくこと 特に当事者の話を聞く貴重な機会には欠席しないよう気をつけること

成績評価	評価の基準	出席（１５％）、まとめ（８０％）、レポート提出（５％）を基本とする 選択科目のため、受講状況により評価基準を変更することがある
	評価の方法	レポート、まとめ、授業態度を総合して評価する。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

障害教育論（児）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP302

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育論（児）

科目責任者 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30000601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育・教育現場における「気になる」子ども、発達障害、知的障害のある子ども思いに寄り添い、支える支援の実践について学ぶ。

学生の達成目標

1. ○「困った子ども」ではなく「困っている子ども」と理解する。
2. ○保育における逆転の発想・魔法の言葉の意味と実際について理解する。
3. ○授業で取り上げたゲーム等を身につける。

授業内容

- 第1回
- 第1回 子ども観・障害観の転換(目標1. 2)
 - 第2回 何かに「困っている子ども」という理解(目標1. 2)
 - 第3回 何に「困っている」のかを理解する。(目標1. 2)
 - 第4回 魔法の言葉・子どもの「いいところ応援」とは?(目標1. 2)
 - 第5回 よりよい支援のためのプロセス(目標1. 2)
 - 第6回 手遊びを通した支援の実践(目標1. 2. 3)
 - 第7回 簡単ゲームを通した支援の実践(目標1. 2. 3)
 - 第8回 製作活動を通した支援の実践(目標1. 2. 3)
 - 第9回 対人関係に困難のある子どもの支援(目標1. 2)
 - 第10回 コミュニケーションに困難のある子どもの支援(目標1. 2)

第11回 こだわりの強い子どもの支援の実際(目標1. 2)
第12回 多動性・衝動性のある子どもの支援(目標1. 2)
第13回 逆転の発想での支援(目標1. 2)
第14回 保護者の思いを理解する。(目標1. 2)
第15回 保護者支援の実際(目標1. 2)

予習・復習の内容

予習 ○毎回提示されるテーマについて事前に調べ学習を行うこと。
復習 ○配付資料の整理・見直しをすること。
展開 ○図書館に備え付けの発達障害に関する書籍を読んだり、ボランティアに行ったりすること。

成績評価

評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度及び授業への取り組み態度
評価の方法 毎回提出を課すレポートの内容、配付資料の活用状況等を総合的に評価する。

教科書

書籍名 ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ50
著者名 佐藤慎二
出版社 日本文化科学社
価格 1250円
ISBN・ISSN 978-4-8210-6089-4

書籍名 いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ190選
著者名 佐藤慎二
出版社 自費出版
価格 200円
ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

保育の心理学 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCH301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の心理学 I

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
30011801
30011802

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、視覚的教材や資料などを使い理解を深める。発表や協議など適宜取り入れ実践的な力量を養うことを目指す。

学生の達成目標

1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する
2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 子どもが人との相互的関わりを通して発達していくことを具体的に理解する。
4. 生涯発達の観点から初期経験の重要性について理解する。

授業内容

- 第1回
- 1 発達とは
 - 2 保育を巡る動向
 - 3 胎児期から新生児期の発達的特徴と保育
 - 4 身体機能・言語発達の基礎、母子関係の形成
 - 5 乳児期の運動機能の発達
 - 6 乳児期の言葉の発達
 - 7 乳児期の認知機能の発達
 - 8 乳児期における他者との関わり
 - 9 乳児期の身辺自立と自己コントロール

		10幼児期における集団生活の始まり 11幼児期の遊びと心の発達 12幼児期の思考の発達 13幼児期の言葉の獲得 14幼児期における仲間関係の開始 15生涯発達から見る初期発達の重要性　まとめ
予習・復習の内容	予習	乳幼児の発達について日頃から関心を持つこと
	復習	授業語には教科書の関連箇所を再読し知識を身につけておくこと
	展開	授業で得た知識を実習体験と照らし合わせ、理解を確実にすること
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習態度　提出物　定期試験
教科書	書籍名	保育者のたまごのための発達心理学
	著者名	新井邦二郎
	出版社	北樹出版
	価格	1900円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7793-0278-7
推薦図書等	書籍名	乳幼児発達心理学
	著者名	繁多進
	出版社	福村出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育の心理学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH401
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の心理学Ⅱ
科目責任者	小沢 恵美子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30011501 30011502
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育の心理学Ⅰの内容をふまえ、更に人間に関する発達の知見の理解を深める。 実習等での自分の経験や、保育現場で起こりうる状況を設定し、その状況に対して保育士として「自分ならどのように考えるか？どのように行動するか？」を考えていく。
-----------	---

学生の達成目標	1. 子どもの心理的な発達や変化と保育実践について理解を深める。 2. 生活や経験を通しての学びの過程について理解する。 3. 保育，子育て支援における発達援助について学ぶ。
---------	---

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス& 子どもの理解における発達の把握 第2回 発達段階，発達過程に応じた保育 第3回 子ども同士のかかわりと関係作り ―遊びを中心に― 第4回 環境としての保育者と子どもの発達 第5回 子どもの経験と学び 第6回 学びを支えているやる気 第7回 他者とのかかわりと学び 第8回 生涯にわたる生きる力の基礎を培う 第9回 発達の課題に応じた援助やかかわり 第10回 特別な支援を要する子どもへのかかわり
------	-----	---

第11回	発達連続性と就学への支援
第12回	保護者理解と子育て支援（１）－何を支援するのか－
第13回	保護者理解と子育て支援（２）－実際の対応－
第14回	現代社会における今後の保育の課題
第15回	全体のまとめ

予習・復習の内容	予習	子どもに関する話題（特に発達、教育）について日頃から関心を持ち、関連する資料に触れておく。 保育の心理学Ⅰの内容について、知識や理解が不足している部分は深めておく。
	復習	毎回の授業の内容をまとめ、わからない言葉や専門用語を調べておく。 授業内容と自分の経験を結びつけて考える。
	展開	子どもの心理的発達に関する資料を独力で読み、知識、理解を深める。

成績評価	評価の基準	子どもの心理的発達に関して、授業で扱った内容が理解できていること。 学びの過程についての基礎的な知識を持ち、それらを自分の経験と関連づけて説明できる。 子育て支援や発達援助に関して自分の考えを持ち、それを適切な表現で他者に伝えることができる。
	評価の方法	平常点（授業への参加度）25%、レポート（2回の予定）30%、期末筆記試験45%の総合評価とする。ただしこの比率は若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
-----	---------------------------

推薦図書等	書籍名	必要に応じて授業内で紹介していく。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考	グループワークや発表場面では自分の考えや意見を他者にわかりやすく伝えるとともに、他者の意見や考えを尊重することを心がける。
----	---

子どもの保健 I A

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCH101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 子どもの保健 I A

科目責任者 野村 攝子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
30011901
30011902

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義中心であるが、課題レポート、研究発表なども適宜取り入れる。

学生の達成目標 1. 子どもの心身の健康増進を図るにあたり必要な保健活動の意義と子どもの心身の発達、発育及び疾病、保育環境、安全管理について理解する。

授業内容 第1回 第1回 健康の概念と健康指標について
第2回 生物としてのヒトの成り立ち① 主に生殖について
第3回 生物としてのヒトの成り立ち② 主にリプロダクティブヘルスについて
第4回 母と子の健康に関わる保健活動の意義と目的
第5回 子どもの身体発育と保健
第6回 子どもの運動機能の発達と保健① 主に粗大運動
第7回 子どもの運動機能の発達と保健② 主に微細運動
第8回 子どもの生理機能の発達と保健
第9回 子どもの健康状態の把握と主な症状の特徴及び適切な対応について
第10回 子どもの主な疾病の特徴① 主に感染症
第11回 子どもの主な疾病の特徴② 主に先天性疾患
第12回 子どもの主な疾病の特徴③ 主に慢性疾患
第13回 疾病の予防—免疫と予防接種について

予習・復習の内容	予習	テキストを読んで予習する。
	復習	授業の要点をノートなどにまとめる。
	展開	その他 常日頃, 新聞などを見て子どもの保健についての新しい問題などに留意する。
成績評価	評価の基準	課題レポートの評点, 及びテストの評点により総合評価する。
	評価の方法	課題レポートの評点, 及びテストの評点により総合評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

子どもの保健 I B

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCH201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 子どもの保健 I B

科目責任者 野村 攝子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
30012001
30012002

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義中心であるが、課題レポート、研究発表なども適宜取り入れる。子どもの保健 I Aの内容の修得後が望ましい。

学生の達成目標

1. 子どもの保健 I Aの内容をふまえた上で、さらなる理解と子どもの障害、特別支援教育、医療的ケアについて理解する。

授業内容

- 第1回
- 第1回 子どもの精神機能の発達と保健① 主に知能について
 - 第2回 子どもの精神機能の発達と保健② 主に情緒について
 - 第3回 子どもの心の健康とその課題① 主に児童虐待について
 - 第4回 子どもの心の健康とその課題② 主に児童虐待防止について
 - 第5回 子どもの心の健康とその課題③ 主に心身症について
 - 第6回 子どもの生活環境と精神保健について
 - 第7回 保育環境整備と保健
 - 第8回 保育現場における衛生管理① 主に感染症
 - 第9回 保育現場における衛生管理② その他
 - 第10回 保育現場における事故防止及び安全対策・危機管理
 - 第11回 保育現場において必要な救急処置について
 - 第12回 母子保健対策と保育
 - 第13回 家庭・専門機関・地域との連携

予習・復習の内容	予習	テキストを読んで予習する。
	復習	授業の要点をノートなどにまとめる。
	展開	その他 常日頃、新聞などを見て子どもの保健についての新しい問題などに留意する。
成績評価	評価の基準	課題レポートの評点，及びテストの評点により総合評価する。
	評価の方法	課題レポートの評点，及びテストの評点により総合評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

子どもの保健Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH102
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの保健Ⅱ
科目責任者	栗山 敦子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30012101 30012102
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義および実技演習
-----------	-----------

学生の達成目標	1.	保育現場，障害児指導現場などにおいて，保健衛生についての実践ができるように，具体的な知識や技能を習得する。
	2.	小児の健康状態を把握するための観察のポイントと方法，小児の事故と安全，予防と健康増進，応急処置などの方法について，実習を通して学ぶ。

授業内容	第1回	第1回 小児の身体的特徴，乳児の抱き方，寝かせ方，衣服の着脱 第2回 身体発育の測定と評価およびその後の管理，肥満とやせ 第3回 環境管理（室温，湿度，季節の管理） 第4回 子供の栄養と食事（哺乳，離乳，食に関する諸問題） 第5回 睡眠と生活リズムの援助，おむつ交換，トイレトレーニング 第6回 身体の清潔（歯磨き，爪切り，耳掃除，沐浴） 第7回 健康観察(体温測定)，発熱時の対応と看護 第8回 車いす 第9回 感染の予防（消毒法） 第10回 感染の予防（感染症発症後の対応と感染拡大の予防） 第11回 事故の防止と安全対策と応急処置
------	-----	--

	第12回	事故の防止と安全対策と応急処置
	第13回	アレルギー疾患の日常管理（アトピー性皮膚炎，気管支喘息，食物アレルギー）
	第14回	慢性疾患をもつ子供の援助（川崎病，小児がん，腎臓疾患など）
	第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	第1,2回…①身体各部の名称を調べる。②巻末の乳幼児身体発育値をグラフに描いてみる。③自分の身長と体重からBMIを計算してみる。 第3回…室温と湿度を測ってみる。温度計の設置の高さを測定する。公園の遊具を調べる。 第4回…市販の粉ミルクをリストアップする。 第5回…おねしょについて調べる。睡眠時間と体調を記録してみる。「おいしいの冒険」古田足日著を読む。 第6回…歯磨き後歯垢染色してみる。絵の具で手を染めてから手洗いしてみる。 第7回…体温測定する（朝、昼、夕方、夜） 第9、10回…自分のかかったことのある感染症を書き出す。受けたことのある予防接種を書き出す。 第11、12回…保育室で予想される事故を考える。 第13回…アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギーについて調べる。。 第14回…糖尿病、ネフローゼ症候群、川崎病、小児がんについて調べる
	復習	各回の講義ノートのまとめ
	展開	保育実習中で保健に関することでの「気づき」を記録する。

成績評価	評価の基準	期末試験（60点以上）で評価する。（ただし、授業態度が悪い場合は減点する場合がある。）
	評価の方法	期末試験（60点以上）で評価する。（ただし、授業態度が悪い場合は減点する場合がある。）

教科書	書籍名	保育保健の基礎知識
	著者名	巷野悟郎監修 日本保育園保健協議会編集
	出版社	小児医事出版社
	価格	2800+税
	ISBN・ISSN	978-4-88924-209-6 C3047

推薦図書等	書籍名	子育て支援における保健相談マニュアル 改訂版
	著者名	田中哲郎 監修
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	

書籍名	こどもの病気の地図帳
著者名	鴨下重彦・柳澤正義 監修
出版社	講談社
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	イラストによるおかあさんへの病気の説明と小児の診療 イラスト編
著者名	大塚親哉 編集
出版社	南山堂
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	これならわかる！子どもの保健演習ノート
著者名	榊原洋一監修 小林美由紀執筆
出版社	診断と治療社
価格	2000＋税
ISBN・ISSN	978-4-7878-1883-6 C3047

参考URL

備考

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH302
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	三幣 周子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30012301 30012302
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	教科書を用いた講義や演習とデモンストレーションを含む調理実習を行う。（グループでの活動が多くなる。）
-----------	--

- | | |
|---------|--|
| 学生の達成目標 | <ol style="list-style-type: none">1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について調理実習や演習を通して深く理解する。2. 現代の子どもを取り巻く環境について現状と課題を理解し、保育者や幼児教育に携わる者としてどう対処していくかを考える。3. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。 |
|---------|--|

授業内容	第1回	第1回～第2回 オリエンテーション, 世界の子どもの栄養問題, 日本の栄養法の歴史, 外国の栄養法 第3回～第4回 栄養に関する基礎知識, 子どもの健康な食生活の意義 第5回～第6回 乳児期の食生活（講義と調乳実習） 第7回～第8回 離乳期の食生活（調理実習・・・離乳食1） 第9回～第10回 離乳期の食生活（調理実習・・・離乳食2） 第11回～第12回 幼児期の食生活 第13回～第14回 幼児期の食生活（調理実習・・・お弁当） 第15回～第16回 幼児期の食生活（調理実習・・・間食）
------	-----	---

第17回～第18回 幼児期の食生活（調理実習・・・行事食）
第19回～第20回 児童福祉施設における食事と栄養（調理実習・・・保育所給食）
第21回～第22回 学童・思春期の食生活
第23回～第24回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（調理実習・・・アレルギー対応食）
第25回～第29回 食育の基本と内容（演習）郷土食，行事食含
第30回 まとめ

予習・復習の内容	予習	前期・後期の配布された内容について，授業の最後にテーマをもうけて伝達をするので，その内容の発表をする。
	復習	発表内容に基づいて自分の考えも入れてレポートを書き，提出する。
	展開	授業の中の特徴を理解し，学生自身興味の持てる内容に課題を設けて調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	レポートの未提出，締切に遅れた学生は成績評価しない。 調理実習の際には身支度が整っていない学生は授業への参加を認めない。
	評価の方法	受講態度（出席状況・忘れ物）20% 課題取り組み状況（レポート，口頭発表）10% 期末筆記試験70点
教科書	書籍名	子どもの食と栄養
	著者名	林 淳三 編 上原 誉志夫/大和田 浩子/倉賀野 妙子/三幣 周子他共著
	出版社	建帛社
	価格	2,520円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3283-5
推薦図書等	書籍名	授業内で紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明。	

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH402
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家庭支援論
科目責任者	廣橋 比刀美
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30010801 30010802
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義・課題レポートの提出。 子育てにおいて、家族はどうあるべきかを、現代社会の状況をふまえて、広い視野でみていく。
-----------	--

学生の達成目標	1. 現代社会の家族の変化の中で「家族」はどうあるべきかを考え、子育てにおいて家族をとりまく社会的支援体制である「公的支援」と家族生活（家族関係）からみた「私的支援」の両面から子育て支援について理解し、考察する。 2. それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援、援助ができることを目標とする。
---------	---

授業内容	第1回 第1回 授業説明、注意など（何を学ぶか） 第2回 家族とは何か―家族の現在 第3回 家族の変化―機能・制度 第4回 家族の変化―法律 第5回～第6回 家族問題の現状―家族関係 第7回 家族問題の現状―離婚・ひとり親家庭 第8回～第9回 家族問題の現状―児童虐待 第10回～第12回 家族問題の現状―ドメスティックバイオレンス 第13回 家族問題への対策―公的支援・私的支援
------	--

予習・復習の内容	予習	特にないが、前回の授業で使用したプリントなど忘れずに持ってくる。
	復習	授業で学んだ事のなかで疑問に思ったことなど、自分で調べるなどして、理解を深める。
	展開	現在、家庭や社会で何が起こっており、何が問題になっているか、アンテナをはり、問題意識を持てるような感性を培うこと。

成績評価	評価の基準	レポート，期末試験，出席状況で総合的に評価
	評価の方法	レポート，期末試験，出席状況で総合的に評価

教科書	書籍名	家庭福祉論
	著者名	古川繁子・中川英子編著
	出版社	学文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	随時プリント（資料）を配布
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	新版データで読む家族問題
	著者名	湯沢やす彦・宮本みち子著
	出版社	NHKブックスなど
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

発達障害心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP401
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達障害心理学
科目責任者	佐藤 慎二
担当教員	漆澤 恭子 相磯 友子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30011601 30011602
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 「気になる」子ども及び知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、言語障害、発達障害等のある子どもの心理学的な側面の理解と支援の実践について学ぶ。

- 学生の達成目標**
- 各障害の特性と配慮の基本を理解する。
 - 保育現場における実践的な支援の基本を理解する。

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス・知的障害の子どもの基礎的理解と支援(目標1) 第2回 “気になる子”の保育(目標1. 2) 第3回 “気になる保護者”の理解と支援(目標1. 2) 第4回 自閉的傾向のある子どもの理解と支援(目標1. 2) 第5回 外国人の子どもの基礎的理解と支援(目標1. 2) 第6回 ADHDの基礎的理解と支援(目標1. 2) 第7回 学習障害 (LD) の基礎的理解と支援(目標1. 2) 第8回 アスペルガー症候群・高機能自閉症等の基礎的理解と支援(目標1. 2) 第9回 事例から考える発達障害の子どもの理解と支援(年齢
-------------	-----	--

別保育の中で) (目標 1. 2)
第10回 事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援 (異年齢保育の中で) (目標 1. 2)
第11回 聴覚障害・視覚障害の基礎的理解と支援(目標 1. 2)
第12回 肢体不自由・病弱の基礎的理解と支援(目標 1. 2)
第13回 言語障害・情緒障害・てんかん・ダウン症の基礎的理解と支援(目標 1. 2)
第14回 保育・教育現場での支援的対応の実際 (ユニバーサルデザインの視点から) (目標 1. 2)
第15回 保育・教育現場での支援的対応の実際 (個別的な配慮の視点から) と全体のまとめ(目標 1. 2)

予習・復習の内容

予習	発達障害に関心もち、図書館の雑誌・書籍に目を通すこと。
復習	授業の要点をまとめておくこと。
展開	ボランティア先で会おう子どもの様子や実際の関わりの中で実際に学ぶこと。

成績評価

評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度
評価の方法	試験、レポート、授業への参加態度を総合して評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
授業の中で、随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。

推薦図書等

参考URL

備考

小児栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH202
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	小児栄養
科目責任者	台蔵 彩子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30002201
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

小児の健康や健やかな成長、発育に必要な栄養について、講義を中心にすすめていく。
また、乳幼児期から老年期までの身体的・栄養学的特徴とその重要性について理解を深めるとともに、現代の子どもから大人までの食生活の問題・改善方法なども併せて学んでいく。

学生の達成目標

1. 人間が生きる上で必要な食について、栄養と栄養素から理解し、自分の体がどのような状態にあるのか理解する。
2. 乳幼児期から老年期までの食に関する知識を、栄養と栄養素を中心に理解を深める。
3. 子どもたちを取り巻く食環境の影響について理解を深める。

授業内容

第1回 第1回 授業ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義
第2回～第6回 栄養に関する基礎知識
第7回～第10回 子どもの発育・発達と食生活
第11回～第12回 食育の基本と内容
第13回 家庭や児童福祉士施設における食事と栄養
第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	小児保健学などで学んだ、子どもの身体的・精神的成長について理解を深めておくこと。
	復習	講義でおこなった内容を、教科書・ノートを使用しまとめておくこと。
	展開	興味のある内容については、授業内で回覧している資料や図書館等にある関連図書を活用し理解を深める。
成績評価	評価の基準	小テスト、レポート、定期試験
	評価の方法	小テスト、レポート、定期試験
教科書	書籍名	最新子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－
	著者名	編著：飯塚美和子，桜井幸子，瀬尾弘子，曽根眞理枝 著：五関正江，高橋恭子他
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	授業中に紹介
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO201
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育課程論
科目責任者	浅川 繭子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30011201 30011202

教室

単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について習得する。保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に学ぶとともに、計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえる。
-----------	---

学生の達成目標	1. 保育・教育課程の概要を理解する 2. 保育・教育課程編成も基となる乳幼児の発達や園生活及び学びの特色を理解する 3. 保育・教育課程から指導計画の作成へのプロセスを習得する
---------	---

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション なぜ保育に計画は必要か（目標1） 第2回 保育課程・教育課程とは（目標1） 第3回 幼稚園の教育課程とは（目標1） 第4回 保育所の保育課程とは（目標1） 第5回 幼稚園・保育所の生活と幼児理解（目標2） 第6回 教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なこと（目標2.3） 第7回 保育課程、指導計画を考える上で必要なこと（目標2.3） 第8回 教育課程の編成から長期の指導計画へ（目標3） 第9回 短期の指導計画（目標3）
------	-----	--

第10回 教育課程・指導計画のPDCAサイクル（目標3）
第11回 まとめ①（目標1～3）
第12回 指導計画の作成①（目標3）
第13回 指導計画の作成②（目標3）
第14回 指導計画の実践（目標3）
第15回 まとめ②（目標1～3）

予習・復習の内容	予習	事前に該当するテキストを読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ。
	復習	授業で配布されたプリントを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	実際の保育に触れ、学んだことを実感し理解を深める。保育の実際場面を想定し、指導案を作成する。

成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 授業に積極的に参加している
	評価の方法	試験60% レポート20% 授業に対する意欲・態度・提出物20%

教科書	書籍名	教育課程・保育課程を学ぶ
	著者名	松村和子 近藤幹生 椛島香代
	出版社	ななみ書房
	価格	2000円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	保育をデザインする
	著者名	戸田雅美
	出版社	フレーベル館
	価格	1200円
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育内容総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO401
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容総論
科目責任者	浅川 繭子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30012601 30012602
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	これまで学習した5領域からなる保育内容を、総合的に捉える視点を養う。
-----------	------------------------------------

学生の達成目標	1.	子どもたちを取り巻く現在の状況未を踏まえた上で、未来を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする。
	2.	自分たちの考えをわかりやすく発表する。
	3.	教育課程を編成し、指導計画等を作成する。

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価についての理解（目標1） 第2回 これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする①（目標1） 第3回 これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする②（目標1） 第4回 これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする③（目標1） 第5回 これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする④（目標1） 第6回 中間発表①（目標2） 第7回 中間発表②（目標2）
------	-----	--

- 第8回 デザインした保育を教育課程・指導計画に著す①（目標3）
第9回 デザインした保育を教育課程・指導計画に著す②（目標3）
第10回 デザインした保育を教育課程・指導計画に著す③（目標3）
第11回 デザインした保育を教育課程・指導計画に著す④（目標3）
第12回 幼稚園幼児指導要録の作成にむけて（目標3）
第13回 幼稚園幼児指導要録の作成（目標3）
第14回 発表（目標2）
第15回 まとめ（目標1～3）

予習・復習の内容

- 予習 保育について日常から関心を持ち、新聞報道に目を通したり、図書を読んだりしておく。保育実習、教育実習での学びを整理し、課題を明確にしておく。
- 復習 発表や意見交換を振り返り、自分の考えを明確にする。
- 展開 これまでの保育に関わる授業の中で学んだことを確認し、総合的な理解を深める。保育者としての資質の向上に努める。

成績評価

- 評価の基準
- ・自分なりの理想の保育をデザインすることができる
 - ・グループのメンバーと協力して、自分たちの考えをわかりやすく相手に伝えることができる
 - ・デザインした保育を教育課程・指導計画に著すことができる
- 評価の方法 授業への取り組みの様子30% 発表の内容と方法30% 作成された課題40%

教科書

- 書籍名 幼稚園教育要領解説
- 著者名 文部科学省
- 出版社 フレーベル館
- 価格 1 9 0 円
- ISBN・ISSN

推薦図書等

- 書籍名 保育所保育指針解説書
- 著者名 厚生労働省
- 出版社 フレーベル館
- 価格 1 9 0 円
- ISBN・ISSN

参考URL

備考

保育内容演習（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCO101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（健康）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30012701
30012702

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもの発達を健康の観点から捉え、子どもの健やかな成長について学ぶ。さらに、養護と教育にかかわる保育の内容が相互に関連性を持ち総合的に展開していくための知識や技術、判断力、そして実践力を習得する。

学生の達成目標

1. 子どもの発達を健康の観点から捉える。
2. 幼児の生活スタイルの現状と問題点を探り、生活リズムの向上について学ぶ。
3. 子ども理解を深めながら、保育内容を展開していく知識や技術、実践力を習得する。

授業内容

- | | |
|-----|---------------------------|
| 第1回 | 第1回 領域「健康」のめざすもの（目標1） |
| | 第2回 幼児の健康（目標1）） |
| | 第3回 幼児の発達理解（目標1） |
| | 第4回 幼児のあそびの発達と健康（目標1） |
| | 第5回 幼児の体格・運動能力の現状と問題（目標1） |
| | 第6回 幼児の生活スタイル（目標2） |
| | 第7回 幼児の健康と栄養（目標2） |
| | 第8回 幼児の体格・運動能力測定法と評価（目標2） |
| | 第9回 幼児の安全管理と安全教育（目標3） |

		第10回 応急処置法（目標3） 第11回 運動体験を広げる体育的行事（目標3） 第12回 小グループによる保育計画と指導案の作成（理論）（目標3） 第13回 小グループによる保育計画と指導案の作成・展開・振り返り（目標3） 第14回 保育評価について（目標3） 第15回 まとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや内容について事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	実際に保育現場等で子どもの発達やあそびを観察し、子ども理解を深めていく。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	試験（70%）・発表（20%）・学習姿勢（10%）
教科書	書籍名	保育内容「健康」
	著者名	民秋言・穂丸武臣編
	出版社	北小路書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	事例で学ぶ保育内容領域「健康」
	著者名	無藤隆監修
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容演習（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCO202

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（人間関係）

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30012801
30012802

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

養護と教育に関わる保育の内容を、それぞれに関連性を持ちながら、総合的に展開していくための知識、技術、判断力を習得する。子どもの発達を「人間関係」という観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

学生の達成目標

1. 領域「人間関係」においてはぐくむものを理解する
2. 人とかかわりを捉える視点を習得する
3. 人とかかわる力の発達について理解する

授業内容

- | | | |
|-----|------|---------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 遊びから考える保育内容（1）（目標1.2） |
| | 第2回 | 遊びから考える保育内容（2）（目標1.2） |
| | 第3回 | 領域「人間関係」とは（目標1） |
| | 第4回 | 人とかかわる力の捉え方（目標2） |
| | 第5回 | 乳児期の発達の姿（1）（目標3） |
| | 第6回 | 乳児期の発達の姿（2）（目標3） |
| | 第7回 | 幼児期の発達の姿（1）（目標3） |
| | 第8回 | 幼児期の発達の姿（2）（目標3） |
| | 第9回 | 保育の中での子どもの体験と学び（1）（目標1.2） |
| | 第10回 | 保育の中での子どもの体験と学び（2）（目標1.2） |
| | 第11回 | 人とかかわる力を育てる保育者の役割と援助（目標2） |

第12回 人とかかわる力を育てる大人の人間関係（目標2）
第13回 子どもを理解するために（1）（目標2.3）
第14回 子どもを理解するために（2）（目標2.3）
第15回 まとめ（目標1～3）

予習・復習の内容	予習	子どもについて日常から関心を持ち、新聞報道や図書に触れる。保育所保育指針、幼稚園教育要領に目を通しておく。
	復習	授業で配布されたプリントを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	実際の保育に触れ、学んだことを実感し理解を深める。

成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 積極的に授業に参加している
	評価の方法	試験40% レポート30% 授業に対する意欲・態度・提出物30%

教科書	書籍名	幼稚園教育要領解説書
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	190円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	シードブック保育内容 人間関係
	著者名	榎沢良彦 入江礼子
	出版社	建帛社
	価格	1 8 9 0 円
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育内容演習（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCO301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（環境）

科目責任者 野口 初江
高木 素子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30012901
30012902

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

乳幼児期における環境との触れ合いについて理解し、さまざまな環境の意義や役割を考えていく。

学生の達成目標

1. 環境とかかわる力とは何かを理解する
2. 子どもの環境とかかわり方を具体的に考えていくことができる
3. 季節ごとの植物の栽培等を体験し、園芸を用いた活動の広がりを知る

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス 保育の基本と保育内容（目標1）
第2回 領域「環境」のねらい及び内容（目標1）
第3回 植物をととしての活動①
ジャガイモの袋栽培（植え付け）（目標3）
第4回 「環境とかかわる力」の発達（生活のなかで）（目標1.2）
第5回 「環境とかかわる力」の発達（遊びのなかで）（目標1.2）
第6回 「環境とかかわる力」の発達（保育環境のあり方）（目標1.2）
第7回 植物をととしての活動②

		高齢者、障害者と楽しむ園芸について 芝坊や作り（目標3）
		第8回 「環境とかかわる力」の理解（自然や生き物）（目標1.2）
		第9回 「環境とかかわる力」の理解（身近な物、文字や記号）（目標1.2）
		第10回 「環境とかかわる力」の理解（数量、図形、行事）（目標1.2）
		第11回 環境構成と領域「環境」（目標1.2）
		第12回 保育者の役割と領域「環境」（目標1.2）
		第13回 保育の実際と領域「環境」（目標1.2）
		第14回 指導上の留意点（目標1.2）
		第15回 植物をととしての活動③ ジャガイモの袋栽培（収穫）（目標3）
予習・復習の内容	予習	身近な環境に関心を持ち、観察したり記録したりしておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出する。 植物の育ちの経過を記録する。
	展開	領域「環境」について知識理解を深め、進んで教材研究することができる。
成績評価	評価の基準	平常点（小レポート）、課題の提出、テストの成績を総合して自らの考えを的確にまとめているか評価する。
	評価の方法	授業態度30% 課題提出40% テスト30%
教科書	書籍名	最新保育講座 保育内容「環境」
	著者名	柴崎正行・若月芳浩
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	体験する 調べる 考える 領域「環境」
	著者名	田宮緑
	出版社	萌文書林
	価格	2100
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容演習（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCO203

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（言葉）

科目責任者 栗原 ひとみ

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013001
30013002

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

言葉の獲得に関する領域「言葉」の意義とねらい及び内容を理解する。そして子どもが言葉を獲得していく道筋と、保育者の援助のあり方について考えていく。また言葉の領域に関連の深い素話について体験的に理解していく。

学生の達成目標

1. 子どもの言葉の発達や特徴及び言葉を育てる保育者の援助について学ぶ。
2. 領域「言葉」の意義と内容を理解する。
3. 発達障害児の言葉のつまずきや援助の技法を学ぶ。

授業内容

- | | | |
|-----|------|---------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 領域「言葉」を学ぶオリエンテーション（目標1） |
| | 第2回 | ノンバーバルコミュニケーション（目標1） |
| | 第3回 | 言葉の育つ道筋（目標1・2） |
| | 第4回 | ことばの前のことば（0歳～1歳）（目標1・2・3） |
| | 第5回 | 言葉の育ち道筋（1歳～2歳）（目標1・2・3） |
| | 第6回 | 言葉の育ち道筋（2歳～3歳）（目標1・2・3） |
| | 第7回 | 言葉の育つ道筋（3歳～4歳）（目標1・2・3） |
| | 第8回 | 言葉の育つ道筋（4歳～5歳）（目標1・2・3） |
| | 第9回 | 言葉を育てる教材（絵本）（目標1・2） |
| | 第10回 | 言葉を育てる教材（紙芝居）（目標1・2） |

第11回 言葉を育てる教材（言葉あそび）（目標1・2）
第12回 素話（テーマの探究）（目標1・2・3）
第13回 素話（展開の技法）（目標1・2・3）
第14回 素話（発表）（目標1・2・3）
第15回 総括（目標1・2・3）

予習・復習の内容

予習	ことばの発達について体系的な学習を積み重ね、授業で示す語句の意味や内容を理解しておく。
復習	授業での内容を省察的に振り返り、自己の実習体験等と重ね合わせて理解が深まるように記録しておく。
展開	授業で学習したことを、グループ学習によって拡大理解・理解の定着を図り、発表し合うことで学習内容が更に深まるようにする。保育の多様性と普遍性を言葉を通して理解できるようにする。

成績評価

評価の基準	言葉のなりたちや発達についての理解と援助技術を習得できている。学習内容の定着が図られている。
評価の方法	感想などの提出物（40%）、授業態度（40%）、発表内容（20%） （ただしこの比率は若干変更する可能性もある）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
教科書は使用しない。随時資料を配布する。

推薦図書等

書籍名	授業の中で伝える。
著者名	
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育内容演習（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SCO302

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（表現）

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013101
30013102

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

領域「表現」のねらいや保育の内容について理解し、乳幼児の表現のとりえ方や音楽的な発達について学ぶ。いくつかの表現課題を行いながら、「遊びを通して行う保育」について考える。また自己の感性に気づき、仲間と協力するなかで、認められながら育つ意欲や自己肯定感について体験的に学ぶ。

学生の達成目標

1. 領域「表現」のとりえ方やねらい・内容などを理解する。
2. 乳幼児の感性を刺激し、主体性を促す保育について学ぶ。
3. お互いの意見を尊重しながら積極的に考えあうことで、表現をより豊かなものへと発展させる。

授業内容

- 第1回 第1回 授業概要・目標・方針など・「表現」とは何か（目標1）
第2回 領域「表現」のねらいと内容（目標1）
第3回 乳幼児の発達と音楽や動きにおける表現領域の発達（目標1）
第4回 幼児の主体性を促す保育者の役割（目標1・2）
第5回 動きを伴った遊び歌（1）実技（目標2）
第6回 動きを伴った遊び歌（2）発表・討議（目標2・3）
第7回 環境や人との関わりと表現活動（素材と出あう）（目標1・3）

- 第8回 音楽と動き（リトミック）（目標2・3）
 第9回 わらべうた（1）3歳未満児の場合（目標1・2）
 第10回 わらべうた（2）4歳以上の場合（目標1・2）
 第11回 感覚統合のためのリズム運動（目標1・2）
 第12回 音あそび（保育事例から考える）（目標1・2）
 第13回 楽器あそび（1）楽器奏法・合奏曲の編曲（目標3）
 第14回 楽器あそび（2）4歳前後の場合（目標1・2）
 第15回 楽器あそび（3）5歳児の場合・まとめ（目標3）

予習・復習の内容	予習	実践力を養う課題を出すので、グループで話し合ったり事前準備を行う。
	復習	学習したことや振り返りをノートにまとめたり、レポートを提出する。
	展開	身の回りの環境を子どもの視点でとらえたり、子どものいろいろな遊びを調べる。

成績評価	評価の基準	グループ課題発表・提出レポート・筆記試験で評価する。感想レポートでは、文章表現から課題に対する取り組み方や、授業に対する理解度をみる。		
	評価の方法	グループ発表（20%）	レポート（30%）	筆記試験（30%）授業への参加度（20%）

教科書	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江 著
	出版社	音楽教育研究協会
	価格	2,200+税
	ISBN・ISSN	978-4-87136-717-2

推薦図書等	書籍名	感性をひらく表現遊び
	著者名	岡本 弘子 著
	出版社	北大路書房
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	10-4762827916

推薦図書等	書籍名	事例で学ぶ保育内容 表現
	著者名	浜口 順子 著
	出版社	萌文書林
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	10-4893471007

参考URL

備考

動きの授業の際には、動ける服装で臨み、上靴を用意する。
子どもの新鮮な感覚をイメージしながら、積極的に授業に参加してほしい。

乳児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO102
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	乳児保育
科目責任者	鈴木 のり子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30012401 30012402
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	乳児が基本的欲求を満たし、情緒の安定を基盤に主体的に育っていくための生活・援助のあり方について学び、専門職としての知識と技術の基本を習得する。
-----------	---

学生の達成目標	1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び現状・課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を学び、健やかな成長を支える生活と遊びを理解する。 3. 乳児保育の計画、記録、保育の内容、援助のあり方を学ぶとともに保護者や関係機関との連携について理解を深める。
---------	---

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション 乳児保育の意義(目標1) 第2回 保育の基本・乳児保育のあゆみ(目標1) 第3回 乳児保育の制度と現状(乳児院・保育所・家庭的保育等)(目標1) 第4回 心身の発達(発達の道筋・愛着と自立)(目標2) 第5回 心身の発達(体の発達・探索・試行)(目標2) 第6回 心身の発達(ことば・友達への関心)(目標2) 第7回 乳児保育の特質(目標2) 第8回 乳児の生活と保育内容(目標2・3) 第9回 3歳未満児の発達特徴と保育内容(6ヵ月未満)(目標
------	-----	---

- 2・3)
- 第10回 保育の実際(授乳・おむつ交換の仕方)グループ演習(目標2・3)
- 第11回 3歳未満児発達特徴と保育内容(1歳3ヵ月未満(目標2・3))
- 第12回 3歳未満児発達特徴と保育内容(2歳未満)(目標2・3)
- 第13回 3歳未満児発達特徴と保育内容(3歳未満)(目標2・3)
- 第14回 3歳未満児発達特徴と保育内容(3歳前期)(目標2・3)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 乳児の健康と安全(目標2・3)
- 第17回 生活と遊びの環境(目標2・3)
- 第18回 遊びと環境(手作り玩具)(目標2・3)
- 第19回 遊びと環境(手遊び・ふれあい遊び)グループ演習(目標2・3)
- 第20回 遊びと環境(手作り玩具)(目標2・3)
- 第21回 遊びと環境(絵本・紙芝居)グループ演習(目標1)
- 第22回 乳児の気になる行動とその理解(言葉・運動・行動)(目標2・3)
- 第23回 乳児の気になる行動とその理解(くせ・生活習慣)(目標2・3)
- 第24回 乳児保育の計画と記録(保育過程・指導計画)(目標3)
- 第25回 乳児保育の計画と記録(記録と評価)(目標3)
- 第26回 現場の保育を見て学んだこと(グループ別研修)(目標2・3)
- 第27回 保育者のあり方(保育の専門性・チームワーク)(目標2・3)
- 第28回 保育所と家庭・地域との連携(目標3)
- 第29回 乳児保育の今後課題(目標1・3)
- 第30回 後期のまとめ

予習・復習の内容	予習	教科書に目を通し、あらかじめ内容を理解しておく。 関連する内容についての図書や保育雑誌を読む。
	復習	その日の授業を振り返り、要旨を整理しておく。 わからなかったこと、疑問点は、まとめておく。 レポート課題は期限を守り提出する。
	展開	日ごろから保育に関することに関心を持ち、図書や保育雑誌を読んだり、調べ、知識や理解を深める。 乳幼児に接する機会(近隣、親戚、ボランティア活動等)を意識的に持つようにし、気が付いたこと、疑問に思ったことをノートに書きとめておく。

成績評価	評価の基準	到達目標にあげた内容が理解でき、また、基本的な知識と技術を習得することを総合的に評価し、合格基準とする。
	評価の方法	期末試験70%、課題レポート20%、授業の参加態度10%の成績を総合評価する。ただし、この比率は変更することもある。

教科書

書籍名	新訂第3版「乳児の保育－0・1・2歳児の生活と保育内容－」
-----	-------------------------------

	著者名	千羽喜代子編著
	出版社	萌文書林
	価格	1,995円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

障害児保育Ⅰ（障害児の保育・教育法）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害児保育Ⅰ（障害児の保育・教育法）

科目責任者 高倉 誠一

担当教員 中坪 晃一
漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30012501
30012502

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次・1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害の有無に関わらず、どの子ども個性ともてる力の発揮をめざす保育を進めるためには、どのような支援が必要か、実践的に考える。

学生の達成目標

1. 指導案や個別支援計画などを作成、実際に模擬授業をすることにより、障害のある子どもの保育・教育を実践的に理解する。
2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や支援の方法、望ましい環境構成等について学ぶ。
3. 障害のある子どもの教育方法上の特色を理解し、望ましい教育方法について学び、考える。

授業内容

- 第1回
1. 障害のある子どもの理解と支援（第1回～第3回）
 - ・肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等
 - ・知的障害児
 - ・その他の発達障害－ADHD、LD、PDD等
 2. 障害のある子どもの保育と教育の実践（第4回～第8回）
 - ・個々の子どもの発達を促す生活や遊びの環境

		・子ども同士の関わりと育ちあい ・幼児期の子どもと障害のある子どもの相違 ・障害のある子どもの保育・教育で大切にしたいこと ・集団化と個別化 ・主体的に取り組む生活・活動づくり ・「できる状況づくり」としての支援的対応
		3. 指導計画および指導案の計画と展開（第9回～第15回） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
予習・復習の内容	予習	自身が幼稚園や保育所で、どのような活動があったか振り返り、障害のある子どもがよりよく参加するためにはどのような支援が必要か想定する。
	復習	模擬授業終了後、障害のある子どもへの手立てが妥当であったか。不足するのであれば、どのような支援が必要か考える。
	展開	本講義で学んだ支援を、実習などで生かす。
成績評価	評価の基準	授業の参加姿勢、模擬授業での指導案・発表姿勢等により総合的に評価する。
	評価の方法	授業の参加姿勢25%、模擬授業での指導案・発表姿勢50%、レポート課題25%とする。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜、プリント等を配布する。	
推薦図書等	書籍名	遅れた子どもの指導 基本生活百科
	著者名	小出進・山口薫・宮崎直男編
	出版社	教育出版
	価格	4200
	ISBN・ISSN	4-316-33740-8C3037
	書籍名	遊びの指導 乳・幼児編
	著者名	幼少年教育研究所
	出版社	同文書院
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4810300376
参考URL		
備考		

障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）
科目責任者	高倉 誠一
担当教員	相磯 友子 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30101101 30101102
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 障害のある幼児・児童の福祉と教育について学習しながら、福祉と表裏一体の関係にある教育の社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。

- 学生の達成目標**
1. 障害のある幼児・児童に関わる福祉と教育の場、それぞれの内容や役割について理解を深める。
 2. 障害のある幼児・児童の教育における社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。

授業内容	第1回	第1回～第2回 障害児のある子どもの生活の場－教育と福祉 第3回～第5回 「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷 第6回～第7回 保育所・幼稚園・通園施設・特別支援学校幼稚部等の制度上の関係と社会的機能・役割。それぞれの連携と家族支援のあり方。 第8回～第9回 特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の社会的機能・役割 第10回 特殊教育から特別支援教育へ 第11回～第12回 障害児の教育と福祉を支える社会福祉制度
-------------	-----	---

第13回～第14回 教育と福祉に通じる理念－ノーマライゼーションとインクルージョン
第15回～第16回 まとめ

予習・復習の内容	予習	配付資料や参考文献にあらかじめ目を通し、疑問点等を明らかにしておく。
	復習	授業のポイントについて、整理をする。毎回の小テストの問題と解答を確認する。
	展開	障害児の教育・福祉に関する最新動向について、最新の統計等を参考に学習を深める。
成績評価	評価の基準	小テスト、レポート・発表、期末テストの評点
	評価の方法	小テスト20%、レポート・発表30%、期末テスト50%の評点により総合的に評価する。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	障害教育福祉論 今を豊かに生活する
	著者名	小出進・名古屋恒彦・高倉誠一
	出版社	大揚社
	価格	2100
	ISBN・ISSN	4-7952-4393-X
参考URL		
備考		

社会的養護内容

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO402
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会的養護内容
科目責任者	水鳥川 洋子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30011401 30011402
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	現代の子どもを巡る社会的養護の現状を理解し、児童福祉施設で暮らす子どもたちの養育について基本的な事柄を理解するとともに、広く現代の子どもたちの健全な発達を支援するための具体的な援助の方法を学ぶ。
-----------	---

1. 子どもの社会的養護の実態（現代の社会状況・児童福祉施設入所児の暮らし）を知る。

学生の達成目標

2. 事例検討や援助技術の実習等を通して、子ども理解の方法と現場で役に立つ具体的支援の方法を学ぶ。
3. これからのこどもの社会的養護のあり方と子どもを養育する上での大切なことを自ら考察し説明できる。

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション 自分のストレンクスを知る 第2回 心の発達課題と現代の子どもたち（目標1, 3） 第3回 虐待を受けた子どもたちの心の発達の危機（目標1, 3） 第4回 乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設の子どもの暮らしと支援（目標1, 3）
------	-----	--

第5回 児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の子どもたちの暮らしと支援（目標1，3）
第6回 障害児入所施設の子どもたちの暮らしと支（目標1，3）援
第7回 里親家庭の暮らしと里親支援（目標1，3）
第8回 施設入所時の支援と自立支援計画（目標1，3）
第9回 実習で出会った気になる子どもたち（グループ討議による事例検討）（目標2）
第10回 実習で出会った気になる子どもたち（グループ討議による事例検討と発表）（目標2）
第11回 子どもの自立への支援 リービングケアとアフターケア（目標1，3）
第12回 家庭支援と家族再統合（目標1，3）
第13回 コモンセンスペアレンティング1 怒鳴らない子育て・わかりやすいコミュニケーション（目標2）
第14回 コモンセンスペアレンティング2 良い結果・悪い結果、効果的なほめ方（目標2）
第15回 これからの保育士に求められるもの（目標3）

予習 社会的養護の問題に日常的に関心を持ち、関連する報道を理解しておくこと。
事前に指示されたテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。

予習・復習の内容

復習 毎回の授業のプリントを整理し、自分なりに説明できるようにすること。

ロールプレイの課題について、すべて自分自身でやってみること。

展開 授業で学んだことを実習やアルバイト先での子どもとの関わりの中で実践してみる。

成績評価

評価の基準 社会的養護の現状（社会状況と児童福祉施設の状況）を説明でき、要保護及び要支援児童の支援について理解し、自分の考えとともに説明できる。

評価の方法 期末試験50%，授業中のレポート30%，授業への参加度20%

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名 授業中に紹介する。
著者名
出版社
価格
ISBN・ISSN

☐上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO204
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	田村 光子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30110201 30110202
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育相談支援とは何か、保育相談支援の意義と原則、ならびに保護者支援の基本を理解する。さらに、実際の保育場面を通して、相談支援の必要性や具体的な対応について実践的に学び、現場で生かせる力を身につける。
-----------	---

学生の達成目標	1. 保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本を理解する 2. 現代的な子ども・保護者を取り巻く状況について理解するとともに、保育相談支援の必要性について学ぶ 3. 実際の場面を通して、具体的対応方法について実践的に学び、保護者への相談支援技術を身につける
---------	---

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション 現代の子ども・子育てを取り巻く社会状況の理解 第2回 保育相談支援の意義と原則 第3回 保育相談支援の基本理念① 子どもの最善の利益と福祉 第4回 保育相談支援の基本理念② 保護者の養育力の向上のための支援 第5回 保育相談支援の基本理念③ 日々の保育を通じた相談支援 第6回 保育相談支援の方法① 信頼関係を基礎とした対人援助の技術
------	-----	---

第7回 保育相談支援の方法② 保護者支援の技術・方法
第8回 保育相談支援の展開① 日々の保育における相談支援
第9回 保育相談支援の展開② 保育相談支援の展開過程
第10回 保育相談支援の展開③ 保育相談支援における評価（アセスメント）
第11回 保育相談支援の展開④ 保育相談支援の実施および記録、事後評価
第12回 保育相談支援の実際① 保育における苦情と対応
第13回 保育相談支援の実際② 特別な対応を要する家庭への対応
第14回 保育相談支援の実際③ 要保護児童の家庭への対応
第15回 保育相談支援の実際④ 障害のある子・気になる子の家庭への対応

予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードにうちて事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 日々の授業において課題レポートが課されるので、期限までに提出すること。
	展開	毎回レポートの提出があるため欠席の内容に務めること。 現代の子ども・子育てを取り巻く社会状況について、関連する図書や報道から理解を深めておくこと。

成績評価	評価の基準	出席（１５％）、レポート（８０％）、その他授業態度等（５％）
	評価の方法	演習科目のため試験はないが、授業の参加とその中で提示されるレポート提出が必須となる。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

レクリエーション理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング SC0303

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 レクリエーション理論

科目責任者 中島 悠介

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30012201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方, そのための指導理論, 組織論, 事業論などの学習を通じ, 指導者としての実践能力を高める。理論的学習が主となるので座学中心になるが, 学生の経験に照らして考えられるよう進め, 自分の生活と関連づけて理解し実践できるようにする。

学生の達成目標

1. レクリエーションは, 全ての人々の人生を心身共に豊かに送るために不可欠な社会的重要課題である。そこで本授業では, 福祉的・保育的な視点を持ちつつ, レクリエーションの理論的な側面について学習する。
2. レクリエーション・インストラクター資格取得のための理論科目である。

授業内容

第1回 【レクリエーションの基礎理論】
第1回 オリエンテーション, レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史①
第2回 レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史②, これからのレクリエーション運動
第3回 レクリエーション支援の考え方
第4回 レクリエーション・インストラクターの役割
【レクリエーション支援論】
第5回 ライフスタイルとレクリエーション①
第6回 ライフスタイルとレクリエーション②

第7回 高齢社会の課題とレクリエーション
第8回 少子化の課題とレクリエーション
第9回 地域とレクリエーション
【レクリエーション事業論】
第10回 レクリエーション事業とは
第11回 事業の展開方法
第12回 事業計画Ⅰ
第13回 事業計画Ⅱ
第14回 レクリエーション活動の安全管理
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	幼稚園や小学校、特別支援学校、福祉施設などで、なぜレクリエーションが重要となるのかを、事前に書籍などを読み調べておくこと。
	復習	授業で配布された資料、ワークシートをもとに復習ノートを作成すること。
	展開	目的に合わせたプログラムを作れるようにするために、各レクリエーション材の効果を調べて、知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	授業を通じて課題やレポートの提出と定期試験を実施する。さらに、出席状況や学習態度・意欲を加味して総合評価する。
	評価の方法	授業を通じて課題やレポートの提出と定期試験を実施する。さらに、出席状況や学習態度・意欲を加味して総合評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし（必要に応じてプリントを配布する）	
推薦図書等	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	日本レクリエーション協会
	出版社	
	価格	
ISBN・ISSN		
参考URL		
備考		

カウンセリングの基礎と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO103
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	カウンセリングの基礎と方法
科目責任者	大木 みわ
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30011701 30011702
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	カウンセリングの基礎理論を基に、ピアサポートのトレーニングに重点を置く。 体験を通して理解を深めるためグループを構成、互いにカウンセラー、クライアントを経験し合う。
-----------	---

学生の達成目標	1. カウンセリングの基礎を体験的に学び、日常の人間関係に活用する。 2. 保育士に求められる相談支援にむけた応用を図る。
---------	--

授業内容	第1回 第1回 オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価についての理解 第2回 カウンセリングの基礎 第2回 (1) 出会い体験 第3回 (2) 自己理解・自己開示 第4回 (3) 基本姿勢、「聴く・話す」の体験 第5回 (4) シェアリング 第6回 ピアヘルピングの理論と実践 第6回 (1) ピアヘルピングとは 第7回 (2) ピアヘルピングの過程 第8回～第9回 (3) ピアヘルピングの技法 第10回 青年期の課題（学業問題） 第11回 青年期の課題（進路問題）
------	--

第12回 親支援の課題
第13回～第14回 振り返り
第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習	「自分について」「気になる人間関係」「カウンセリングの技法」の1つを選び、毎回数名が発表する。
復習	「授業のまとめ」に記載し、提出する。
展開	実習の記録にコメントを付し、提出する。

成績評価

評価の基準	学習の達成目標に対する到達の割合を評価する。
評価の方法	授業5回ごとに計3回試験をし、授業への参加を合わせ総合的に評価する。

教科書

書籍名	ピアヘルパー・ハンドブック
著者名	日本教育カウンセラー協会編
出版社	図書文化社
価格	1,500円＋税
ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名	「ピアヘルパーワークブック」
著者名	日本教育カウンセラー協会編
出版社	図書文化社
価格	1,500円＋税
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

障害児の生活

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP101
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児の生活
科目責任者	高倉 誠一
担当教員	山本 邦晴
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30013501
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	小学校学習指導要領の生活科と特別支援学校小学部（知的障害）学習指導要領の生活科の各内容と、その内容の扱い方について学び、さらに、生活科との関連で児童期から卒業後までの望ましい生活のありようを考える。
-----------	---

学生の達成目標	1. 知的障害教育の教科「生活」の指導法について、学生自らテーマを定め発表する。 2. 小学校学習指導要領の生活科と特別支援学校小学部（知的障害）学習指導要領の生活科の共通点と違いについて理解する。
---------	---

授業内容	第1回	内容 第1回～第2回 生活と生活科。 第3回～第4回 小学校学習指導要領の生活科の内容と、その扱い方について。 第5回 特別支援学校（知的障害）の学習指導要領の生活科の内容と、その扱い方について。 第6回～第7回 小学校・特別支援学校小学部の生活科教育の課題。 第8回～第15回 生活科の指導計画と展開。具体的指導法について学生個々に発表する。
------	-----	---

第1回～第4回までは主に高倉が、第5回～第7回までは主に山本が担当する。
学生の発表では、調査、発表、討論等を多くし、考える演習を目指す。

予習・復習の内容	予習	あらかじめ配付資料や文献に目を通し、疑問点などを確認しておく。
	復習	授業のポイントを整理する。
	展開	特別支援学校での実習等を交え、児童生徒の適切な支援について理解を深める。

成績評価	評価の基準	発表内容、授業参加の姿勢・意欲、レポート課題等を考慮して評価する。
	評価の方法	発表内容70%、討論等での授業参加の姿勢・意欲15%、レポート課題15%を考慮して評価する。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
-----	---------------------------	--

推薦図書等	書籍名	遅れた子どもの指導 基本生活百科
	著者名	小出進・山口薫・宮崎直男
	出版社	教育出版
	価格	4200
	ISBN・ISSN	4-316-33740-8
	書籍名	日常生活の指導の手引き
	著者名	文部省
	出版社	慶応通信
	価格	968
	ISBN・ISSN	978-4766405569

参考URL	
-------	--

備考	
----	--

保育の表現技術Ⅰ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅰ（身体表現）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013801
30013802

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次・1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実際に身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わう。運動あそびを題材にし、理論を交えながら演習を進めていく。また授業における実技ノートを作成し、記録する重要性を認識していく。

学生の達成目標

1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開に必要な知識や技術を習得する。
2. 身体表現に関する知識や技術を習得する。
3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
4. 実際の保育場面での指導法を具体的に学ぶ。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（目標1）
第2回 仲間づくりとその指導ポイントの確認（目標1）
第3回 集団あそび（ゲーム）と指導ポイントの確認（目標1）
第4回 からだを使ったあそびと指導ポイントの確認①（2人組）（目標1・2）
第5回 からだを使ったあそびと指導ポイントの確認②（グループ）（目標1・2）
第6回 フォーク・ダンスの基本用語と実践（目標2）

		第7回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ①（目標2） 第8回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ②（2人組）（目標2） 第9回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ③（3人組・グループ）（目標2） 第10回 用具（ボール）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標3） 第11回 用具（フープ）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標3） 第12回 身近なもの（タオル）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標3） 第13回 身近なもの（新聞紙）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標3） 第14回 小グループ活動による保育シミュレーションと反省（目標4） 第15回 まとめ（目標4）
予習・復習の内容	予習	関連する図書を読んだり、日頃から身体表現に関心を持ち理解をしていくこと。
	復習	毎回、授業の要旨を実技ノートに図解してまとめる。
	展開	実際に保育現場で活用できるよう、知識や技術を身につける。
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や成果を総合的に加味して評価する。
	評価の方法	実技試験（50%）・実技ノート（30%）・授業への参加度（20%）
教科書	書籍名	幼児体育 理論と実践（初級）
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	幼児体育 基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	1,900円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育の表現技術 I（音楽表現）ピアノ

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP102

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術 I（音楽表現）ピアノ

科目責任者 黒田 静江

担当教員
石井 恵子
柴辻 純子
石橋 葉子
木村 憲子
水村 明子
山中 和穂
石井 博子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013201
30013202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育の場で音楽は欠かせないものである。保育者として幼児の音楽表現活動を援助・指導するために必要な（１）音楽の基礎的な理論と、（２）器楽（ピアノ）演奏の技術を習得する。２グループに分け、45分ずつ音楽の基礎理論とピアノ実技を交互に行う。基礎的な理論については、子どもの歌を使ったり身体表現などを交えながら学び、ピアノ実技については、小グループでの授業を行う。

学生の達成目標

1. 音楽の基礎的な理論を学び、楽譜の書き表されていることを理解する。
2. 保育に必要な音楽技術（ピアノ実技）を身につける。
3. 発達を踏まえながら、簡単な動きを伴った音楽（あそび歌）について学ぶ。

授業内容	第1回	(1) 音楽の基礎的理論 第1回 授業概要・達成目標 や楽器の	(2) ピアノ実技 ピアノを弾く時の心構え
	第2回	音名(目標1) (1)	基礎知識 4分音符を中心とした曲 (目標1・2)
	第3回	音符・休符の名称(目標1) 中心とした	4分音符と8分音符を中 心とした
	第4回	拍子(目標1) (目標2)	曲(2)(目標1・2) いろいろなリズムの曲
	第5回	音階・調号(目標1) (3/8,6/8,2/2)	いろいろな拍子の曲
	第6回	音程(目標1) 1・2)	拍子(目標1・2) ヘ・ト長調の曲(目標
	第7回	楽語・演奏順(目標1)	二長調の曲(目標2)
	第8回	コードの成り立ち(目標1) (目標	コードの確認(ハ長調) 2)
	第9回	コードネーム(1)(目標1) 2)	移調奏(ト長調)(目標
	第10回	コードネーム(2)(目標1) 目標2)	移調奏(ヘ長調)(目
	第11回	音楽理論まとめ(目標1) 目標2)	移調奏(二長調)(目
	第12回	子どもの発達・音楽的な発達(目標3) 「簡単な動きを 伴った歌」	の伴奏(目標
	第13回	発達を考慮した音楽遊び(目標3) 「簡単な動きを 伴った歌」	弾き歌い(目標
	第14回	発達を考慮した音楽遊び(目標3) 「子どもの歌の 弾き歌い」	(目標2・3)
	第15回	課題曲発表準備 (1)(2)合同授業(目標1・2)	
予習・復習の内容	予習	毎回出される音楽理論の小課題を学習する。 課題曲が合格するよう毎日練習する。	
	復習	授業で指摘されたことを確認しながら、練習する。 合格した曲を復習し、友だちと発表し合ったり家人に聞いてもら う。	
	展開	自分の技術で弾ける曲をテキストの中から選び、自発的に練習す る。	

成績評価	評価の基準	音楽の基礎的理論を理解し、各自の進度に合わせた課題曲を仕上げる。 筆記試験・ピアノ実技試験・各自の進度に合わせた課題曲の達成
	評価の方法	筆記試験(30%) 実技試験(40%) 課題曲達成度 (30%)
教科書	書籍名	おとなのためのバイエル
	著者名	坂東 貴余子 著
	出版社	ドレミ楽譜出版
	価格	1,200円+税
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江 著
	出版社	音楽教育研究協会
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	987-4-87136-717-2-C3073
推薦図書等	書籍名	やさしい伴奏によるこどものうた
	著者名	東 保 編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,600円+税
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6
参考URL		
備考		

保育の表現技術 I（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP103

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術 I（造形表現）

科目責任者 吉野 泰男

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013301
30013302

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもの感動や想像に基づく表現意図を，造形的な表現活動を通じて創造的に表現する基礎技能を学びながら，指導法を考える。

学生の達成目標

1. 乳幼児期の造形活動に関して、授業で扱った基礎的な内容や技能を理解する。
2. 子どもの視点、興味、関心、発達段階をふまえ、素材や表現方法を工夫し、新たな造形活動を創造する感性を養う。
3. 制作を通じて子どもの創造活動を発想し、具体的な指導方法や支援を考え、実践的な力を養う。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|--|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション
ワークシート課題①創造を楽しむ心
ワークシート課題②+粘土制作 自然や身近なものに
関わり
子どもの視線になって (目標1・2) |
| | 第2回 | さまざまな技法の基礎を学ぼう1
色の混色、グラデーション、デカルコマニー、
ドリップング、にじみ (目標1・2) |

	第3回	さまざまな技法の基礎を学ぼう2 ステンシル, スクラッチ, バチック (目標1・2)
	第4回	さまざまな技法の基礎を学ぼう3 切り絵, 貼り絵, 紋切り (目標1・2)
	第5回	さまざまな技法の基礎を活用してみよう 実物からイメージをふくらまして描いてみよう (目標2・3)
	第6回	さまざまな技法の基礎を応用してみよう1 絵本の1場面を想像して描いてみよう (目標2・3)
	第7回	さまざまな技法の基礎を応用してみよう2 絵本の1場面を想像して描いてみよう (目標2・3)
	第8回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～1 材料・素材からの発想 (目標1・2)
	第9回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～2 季節や行事の動くカード作り(1) (目標2・3)
	第10回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～3 季節や行事の動くカード作り(2) (目標2・3)
	第11回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～4 紙すき (目標1・2)
	第12回	共同制作(目標1・2・3)
	第13回	共同制作(目標1・2・3)
	第14回	共同制作(目標1・2・3)
	第15回	相互鑑賞, 総まとめ 提出物確認(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習	次回の内容に応じた調べ学習
	復習	制作の仕上げ 作品のファイリング 毎回の学習内容を発想とした題材企画を考え, ワークシートに記入
	展開	題材企画のアイデアを検討し合い, 実際の制作活動に役立てる。
成績評価	評価の基準	乳幼児期の造形活動に関して、授業で扱った基礎的な内容や技能を理解できていること。授業内容を基に造形教育のあり方について自らの考えを発想しながら実技や作品制作に創造的に取り組んでいることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点20%, ワークシートの提出30%, 提出作品50%の成績を総合する。ただし, この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業に合わせて、資料等配布する。
推薦図書等	書籍名 著者名 出版社 価格 ISBN・ISSN 特になし
参考URL	
備考	F 6 サイズのスケッチブック, のり, はさみ, 絵の具等の持参 その他授業内容の応じて説明・連絡する。

保育の表現技術（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	12345678
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術（言語表現）
科目責任者	鈴木 朱美
担当教員	植草 一世 小笠原 晴代
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30013401 30013402
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識や技術を習得し、活用する。 2. 言語表現の表現活動に関する知識や技術を習得し、活用する。 3. 表現活動に関わる教材（絵本、素身芝居、人形劇、ストーリーテリング等）の活用および作成と、環境構成および具体的展開のための技術を習得する。	
学生の達成目標	1.	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な言語表現に関する技術を習得する。
	2.	言語表現活動にかかる教材等の活用および作成と、保育の表現構成および具体的展開のための技術を習得する。
授業内容	第1回	第1回 本科目の目標、授業の概要。受講者の心得。授業形態と実技演習予定 他 第2回 描いたもの、作ったもので遊ぶ。お面づくり「大きなかぶ」 第3回 絵本、紙芝居等の扱い方：絵本、紙芝居をみんなの前で読んでみる。

- 第4回 手遊び：パネルシアター
 第5回 パネルシアターを作る。
 第6回 パネルシアターを演じてみる。
 第7回 保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方
 第8回 保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方・人形作成
 第9回 教材研究：①どんなお話 役決め 舞台構成等
 第10回 教材研究：②人形作り 背景作り
 第11回 教材研究：③人形作り 背景作り
 第12回 教材研究：発表
 第13回 教材研究：発表
 第14回 相互評価
 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	幼児期の言語発達について日ごろから興味関心を持ち，関連するもの（絵本・紙芝居・童話・その他の書物等）をみたり読んだりしておくこと。 事前に示す事柄について調べ，当日の授業に活かせるようにしておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示された課題やレポートを期限までに提出すること。
	展開	言語表現活動における技術を身につけ，子どもの遊びを豊かにできるように保育技術や知識を広げていく。

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%），発表（30%），作品（30%），授業への参加度（10%）

教科書	書籍名	保育の表現活動
	著者名	植草一世 他
	出版社	学文社
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	遊びの指導
	著者名	財団法人幼少年教育研究所
	出版社	同文書院
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	保育雑誌『POT』
	著者名	

出版社 (株)チャイルド本社

価格

ISBN・ISSN

書籍名 実習に役立つパネルシアターハンドブック

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅱ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP401

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅱ（身体表現）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013901
30013902

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

身体の表現を通して、他者と関わる楽しさを知る。具体的な運動あそびを題材にして創作活動を行う。実際に指導計画を作成した上で模擬保育を実践し、他者からの評価を加え振り返りを行う。

学生の達成目標

1. 保育育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するに必要な知識や技術を習得する。
2. 身体表現に関する知識や技術を習得する。
3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
4. 実際に指導計画を立案し、模擬保育の実践を通して具体的に学んでいく。

授業内容

- 第1回
- 第1回 オリエンテーション（目標1）
 - 第2回 パラバルーンを使ったあそびと指導ポイントの確認①（目標1）
 - 第3回 パラバルーンを使ったあそびと指導ポイントの確認②（目標1）
 - 第4回 模倣体操と指導ポイントの確認①（目標1・2）
 - 第5回 模倣体操と指導ポイントの確認②（目標1・2）

	第6回 マラカスを使ったあそびと指導ポイントの確認①（目標3）	
	第7回 マラカスを使ったあそびと指導ポイントの確認②（目標3）	
	第8回 縄を使ったあそびと指導ポイントの確認①（目標3）	
	第9回 縄を使ったあそびと指導ポイントの確認②（目標3）	
	第10回 環境設営の事例と指導ポイントの確認（目標3）	
	第11回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）①（目標4）	
	第12回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）②（目標4）	
	第13回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）③（目標4）	
	第14回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）④（目標4）	
	第15回 まとめ（目標4）	
	予習・復習の内容	予習 関連する図書を読んだり、日頃から身体表現に関心を持ち理解していくこと。
		復習 毎回、授業の要旨を実技ノートに図解してまとめる。
		展開 実際に保育現場で活用できるよう、知識や技術を身につける。
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や発表の成果を総合的に加味して評価する。
	評価の方法	実技試験（50%）・実技ノート（30%）・発表(10%) 授業への参加度（10%）
教科書	書籍名	幼児体育 理論と実践
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	幼児体育 基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	1,900円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

科目責任者 石井 恵子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013601
30013602

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

人前で臆せず範唱できるための歌唱テクニックや気構えを、実際の声楽曲演奏を通して学ぶ。正しい姿勢、正しい音程を常に注意し、豊かな声量をめざす。何より独唱、重唱の楽しさに触れたい。

学生の達成目標

1. 生涯を通じてもっとも音感が鋭敏な幼児期の音楽教育は、大変重要である。その指導に歌唱の役割は大きい。
2. 子供達が初めて体験する歌が楽しく、正しく、豊かなものであるよう、指導者は自らの歌唱技術を磨かねばならない。
3. 自然な発声、読譜力を習得し、子供の歌のレパートリー増大を計り、その指導法を習得する。又、自然や物の音や音色に親しむ保育活動について考察する。

授業内容

第1回

第1回～第8回

- ①発声練習（毎回）
- ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。
- ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。
- ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。

第5回 リズムテスト／移調譜作成 ⑤ソルフェージュでは、音名唱（コールユーブンゲン）の訓練により、読譜力を向上させる。 第8回 歌唱テスト 第9回～第15回 ④⑤を継続 ⑥「身近な音」の採集 第11回 コールユーブンゲンテスト／移調譜作成 第14回～第15回 歌唱テスト		
予習・復習の内容	予習	ソルフェージュのプリント配布後は、ピアノを使ってさらっておく。
	復習	習得した歌を機会をとらえて歌う。
	展開	アカペラでも正確に良い発声で歌えることで、保育のあらゆる場面で歌を用いることができる。
成績評価	評価の基準	ソルフェージュ，歌唱テスト，移調課題，出席点
	評価の方法	ソルフェージュ，歌唱テスト，移調課題，出席点
教科書	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原雅之他
	出版社	教育芸術社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	「年間授業計画」は、全15回を通し学習を進める。	

保育の表現技術Ⅱ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP402

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅱ（造形表現）

科目責任者 吉野 泰男

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30013701
30013702

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

造形的な活動を通じて創造的に表現する技能を活用しながら、保育・教育の場での応用方法を開発し、実践する。

学生の達成目標

1. 保育・教育の場に応じ、さまざまな造形活動を通じて、保育の表現技術Ⅰの学習内容を発展的に扱うことができる。
2. 保育・教育のさまざまな現状を踏まえたうえで、子どもの興味・関心・発達段階を基にした造形活動の活用方法を発想することができる。
3. 個別の保育・教育の場における造形題材を、自ら研究・探求し、開発・制作した後、実演することができる。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|--|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション
表現技術Ⅰの制作と題材企画（ワークシート）の振り返り（目標1・2） |
| | 第2回 | 光を組み合わせる題材（目標1・2） |
| | 第3回 | 高いところからぶら下げる題材（目標1・2） |
| | 第4回 | 保育の現場での時事課題と、題材開発（目標2・3） |

	第5回	現場に即した題材の開発とその計画，試作の開始（目標2・3）
	第6回	題材の決定と具体的計画，指導案作成（目標2・3）
	第7回	開発制作・中間審査（目標2・3）
	第8回	開発制作（目標2・3）
	第9回	開発制作（目標2・3）
	第10回	開発制作（目標2・3）
	第11回	提出期間（目標2・3）
	第12回	提出期間（目標2・3）
	第13回	発表・デモンストレーション，鑑賞，審査（目標2・3）
	第14回	発表・デモンストレーション，鑑賞，審査（目標2・3）
	第15回	総まとめ・ワークシート提出，作品返却（目標2・3）
予習・復習の内容	予習	新たな素材の活用方法や既存の題材等を調べ，資料として授業に活かす。
	復習	制作を進める
	展開	選択した素材・技法が，自分の考えた題材の意図に適しているか熟考する。
成績評価	評価の基準	乳幼児期の造形活動に関して、授業で扱った基礎的な内容や技能をを理解したうえで，発展的に扱えること。保育の現場での時事課題に関心を持ち，造形教育のあり方について自分の考えを取り入れながら実技や題材開発に創造的かつ主体的に取り組んでいることを合格基準とする。 （題材は，独自の発想＝オリジナル性が重視される）
	評価の方法	平常点およびワークシート20％，提出作品50％，発表点30％の成績を総合する。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業に合わせて、資料等配布する。	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	

参考URL

備考

授業は個人制作が基本となり，個々に対応した質疑応答を積み重ねていく。

保育の表現技術Ⅲ（音楽表現）ピアノ

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP202

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅲ（音楽表現）ピアノ

科目責任者 黒田 静江

担当教員 柴辻 純子
池田 仁美
石橋 葉子
額田 優美
水村 明子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30019101
30019102

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前期「保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）」での学習をさらに深めて、音楽に関する保育に必要な知識やピアノ演奏技術を向上させる。小グループでの指導や個人指導を行う。伴奏を弾く側と歌う子どもの側との両方に意識が持てるようにする。歌いたい気持ちを持ち上げるような導入や教材などを準備し、伴奏と共に発表しあう。

学生の達成目標

1. 基礎的演奏技術を向上させ、弾き歌いに慣れる。
2. 簡単なコードネームを理解しながら、伴奏を弾けるようにする。
3. 幼児の音楽表現活動について計画立案し、伴奏とともに発表する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション 授業概要・達成目標・歌の伴奏を弾く時気を付けたいこと。
第2回 季節の歌（1）春（目標1）
第3回 課題「保育教材を活用した音楽表現活動」（目標3）

- 第4回 季節の歌（2）夏（目標1）
- 第5回 季節の歌（3）秋・冬（目標1）
- 第6回 「保育教材を活用した音楽活動」発表（目標3）
- 第7回 コードネームで表された歌の伴奏（1）（目標2）
- 第8回 コードネームで表された歌の伴奏（2）（目標2）
- 第9回 子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（1）（目標1・3）
- 第10回 子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（2）（目標1・3）
- 第11回 子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（3）（目標1・3）
- 第12回 課題曲について（目標1）
- 第13回 発表・振り返り（目標1）
- 第14回 実習準備のための曲（1） 生活の歌（目標1）
- 第15回 実習準備のための曲（2） まとめ（目標1）

予習・復習の内容	予習	各自で設定した課題曲を毎回1～2曲仕上げる。知っている子どもの歌を積極的に弾いてみる。
	復習	授業の中で指摘されたことを確認しながら、練習する。今まで仕上がった曲を時々復習する。
	展開	子どもと一緒に歌っている時を想定したり、就職試験を想定して練習する。

成績評価	評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができるようにする。 期末試験・中間試験・各自の進度に合わせた課題曲の達成度		
	評価の方法	期末試験（40%）	中間試験（30%）	課題曲の達成度（30%）

教科書

書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
著者名	黒田 静江 著
出版社	音楽教育研究協会
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	978-4-87136-717-2

書籍名	幼児のための音楽教育
著者名	神原 雅之 編著
出版社	音楽芸術社
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	978-87788-443-7

書籍名	おとなのためのバイエル
著者名	坂東 貴余子 著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1,200円＋税

ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
-----------	---------------

推薦図書等	書籍名	やさしい伴奏による子どものうた
	著者名	東 保 著
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング SEP403

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

科目責任者 黒田 静江

担当教員
石井 恵子
柴辻 純子
石橋 葉子
木村 憲子
水村 明子
石井 博子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30019201
30019202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

小グループ内での個人レッスンを通して、「保育の表現技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（音楽表現）」で習得した技能を更に高めながら、子どもの歌とその伴奏法やアレンジの仕方を学ぶ。保育現場を想定したいくつかの課題を発表・討議し、保育実践力を養う。また生活の中から生まれる歌も保育をする時は大切なので、音楽づくり（創作）を体験し、保育シミュレーションとして発表する。

学生の達成目標

1. 伴奏のアレンジ方法を活用し、弾き歌いのレパートリーを増やす。
2. 保育を想定しさまざまな音楽活動を発表し、実践力を養う。
3. 与えられたメロディーを発展させて音楽を創作し、保育シミュレーションの形で発表する。

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション 進度に合わせた授業計画を各自で作成
	第2回	第2回 伴奏のアレンジについて（1）コードネームの確認・ハ・ト長調の曲（目標1・2）
	第3回	第3回 伴奏のアレンジについて（2）ヘ長調の曲（目標1・2）
	第4回	第4回 伴奏のアレンジについて（3）二長調の曲（目標1・2）
	第5回	第5回 「子育て支援」における音楽活動（1）子育て支援と音楽活動（目標1・2）
	第6回	第6回 「子育て支援」における音楽活動（2）実技発表（目標1・2）
	第7回	第7回 動きをイメージした音楽（1）動きをイメージする音・音楽を探す（目標1・2）
	第8回	第8回 動きをイメージした音楽（2）ある場面を想定した音・音楽を考える（目標2）
	第9回	第9回 動きをイメージした音楽（3）発表（目標2）
	第10回	第10回 課題曲の説明（目標1）
	第11回	第11回 発表と振り返り（目標1）
	第12回	第12回 音楽表現課題「音楽の創作と保育実技」（1）創作（歌詞・伴奏）（目標3）
	第13回	第13回 音楽表現課題「音楽の創作と保育実技」（2）保育シミュレーション（目標2・3）
	第14回	第14回 音楽表現課題「音楽の創作と保育実技」（3）発表（目標2・3）
	第15回	第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	各自の考えた学習計画に沿って、毎回1～2曲合格するように練習しておく。 また小課題も時々出されるので、保育現場を想定した準備をする。
	復習	発表後の振り返りや、合評を通して学んだことをまとめておく。 合格した曲をいつでも弾けるように、時々復習する。
	展開	歌や動きを使った表現活動について、子どもの発達を考慮し、環境との関わりや関連領域との総合的保育について考える。
成績評価	評価の基準	各自の進度に合わせて設定した課題曲を仕上げ、ピアノの技術を向上させる。 保育を想定した音楽表現課題をこなす。
	評価の方法	ピアノ実技試験（30%） 期末試験（30%） 課題曲達成度（30%） 授業への参加度（10%）
教科書		
	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原 雅之 著
	出版社	教育芸術社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-87788-443-7
	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江 著

出版社	音楽教育研究協会
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	978-4-87136-717-2 C3073

書籍名	おとなのためのバイエル
著者名	坂東 貴余子 著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1,200円＋税
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	「音楽指導ブック 子どものためのたのしい音遊び」
著者名	柴田 礼子 著
出版社	音楽之友社
価格	2,000円＋税
ISBN・ISSN	10-4778502515

推薦図書等

書籍名	「子どもの歌から広がる音楽表現」
著者名	伊藤 嘉子 著
出版社	共同音楽出版
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	10-4778502515

参考URL

備考

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP305
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30005601
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 知的障害のある子どもの心理や発達の特徴と生理・病理について学び、知的障害のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

- | | | |
|----------------|----|---|
| 学生の達成目標 | 1. | 知的障害のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 |
| | 2. | 知的障害のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 |
| | 3. | 具体的な事象や事例から、知的障害のある子どもの行動背景を考えられるようになる。 |

授業内容	第1回	第 1 回	知的障害の生理・病理
			① 遺伝子の異常
			② 染色体の異常
			③ 胎生期、周産期の異常
			④ てんかん
			⑤ 障害の発見と対応
		第 2 回	知的障害観の変遷と知的障害の定義 (目標1・2)
		第 3 回	知能と知能検査 (目標1・2)

第4回	知的障害の子どもの認知特性（目標1）
第5回	知的障害の子どもの社会性の発達（目標1）
第6回	知的障害と自閉症（目標1・2）
第7回	知的障害の子どもの心理（目標2・3）
第8回	知的障害の子どもの進路（目標3）

第1回	担当：高野
第2回～8回	担当：相磯

予習・復習の内容	予習	知的障害の子どもに関する本を読む。
	復習	知的障害に関するキーワードを整理する。
	展開	知的障害の子どもと関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP306
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30005701
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について学び、肢体不自由のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

- | | |
|----------------|---|
| 学生の達成目標 | 1. 肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 |
| | 2. 肢体不自由のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 |
| | 3. 具体的な事象や事例から、肢体不自由のある子どもの行動背景を考えられるようになる。 |

授業内容	第1回	第1回	肢体不自由の生理・病理 ① 脳損傷性肢体不自由と非脳損傷性肢体不自由
			② 脳性まひ、二分脊椎
			③ 重複障害
		第2回	肢体不自由の定義 (目標1)
		第3・4回	肢体不自由の子どもの教育と心理 (目標1・3)
		第5・6回	重複障害児・者の心理 (目標1・3)
		第7回	重度心身障害と医療的ケア (目標1・2)

第8回 肢体不自由の子どもの事例検討 (目標3)

第1回 担当：高野

第2回～8回 担当：相磯

予習・復習の内容	予習	肢体不自由の子どもに関する本を読む。
	復習	肢体不自由に関するキーワードを整理する。
	展開	肢体不自由の子どもに関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP307
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30005801
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 病弱の子どもの心理・生理・病理について学び、病弱の子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

- | | |
|----------------|--|
| 学生の達成目標 | 1. 病弱の子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 |
| | 2. 病弱の子どもに関する最新の研究知見を知る。 |
| | 3. 具体的な事象や事例から、病弱の子どもの行動背景を考えられるようになる。 |

授業内容	第1回	第1回	「病弱」の生理・病理 ① 「病弱」の起因と疾患 ② 小児気管支喘息 ③ 筋ジストロフィー ④ ネフローゼ ⑤ 自律神経失調症 ⑥ 小児慢性特定疾患等 ⑦ 重度重複障害
		第2回	病弱の教育上の定義 (目標1)
		第3・4回	社会的企業について (目標2)

第5・6回 病弱児・者の心理（目標3）
第7回 院内学級・訪問学級（目標1・2）
第8回 障害受容について（目標1・2・3）

第1回 担当：高野
第2～8回 担当：相磯

予習・復習の内容	予習	病弱の子どもに関する本を読む。
	復習	病弱の子どもに関するキーワードを整理する。
	展開	病弱の子どもの教育に関する文献を読む。 病弱の子どもの指導案を考え作成する。
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP402

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育 I

科目責任者 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30005901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別支援学校教諭2種免許状取得の必修科目であり、知的障害教育に関する歴史的変遷や現状及び学習指導要領と教育課程の考え方・編成等について学び、知的障害教育の在り方や進め方について理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の歴史的変遷や現状について理解する。
2. 知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解する。
3. 知的障害特別支援学校・特別支援学級における望ましい教育課程編成について自分の考え定める。

授業内容

- 第1回 知的障害教育の歴史的変遷と現状等(目標1)
第2回 知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成(目標2)
知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順(目標2)
第3回 知的障害教育の教育課程の特色(目標1・2・3)
知的障害特別支援学級の教育課程(目標1・2・3)
第4回 知的障害教育における教科の指導(目標1・2・3)
第5回 知的障害教育と自立活動(目標1・2・3)

第6回 知的障害教育と特別活動・「総合的な学習の時間」 (目標1・2・3) 第7回 個別の教育支援計画と個別の指導計画(目標1・2・3) 第8回 知的障害特別支援学校・特別支援学級の望ましい教育課程 編 成、まとめ(目標3)		
予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、特別支援学校学習指導要領等教科書に目を通し、理解を深めるとともに、不明な点・疑問点等を確認する。
	復習	授業内容に応じ、知的障害教育の在り方や進め方について、関係文献や実習校の教育課程資料を調べ再確認をし、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の実習事前・事後に、実習校の教育課程について特色等を理解、説明する。
成績評価	評価の基準	知的障害教育の教育課程に等に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること、授業内容を基に自らの考えをもち、それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末テスト80%、授業への参加姿勢20%（小テスト等を含む）。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q&A」
	著者名	千葉大学教育学部附属特別支援学校
	出版社	K&H
	価格	1900(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN4-9901197-6-2 C3037
	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	450(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902

推薦図書等	書籍名	「生活中心教育の理念と方法」
	著者名	小出進
	出版社	K&H
	価格	1900(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-9901197-2-0 C3037
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	740(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0906
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	200(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0903
参考URL		
備考		

知的障害教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP406

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育Ⅱ

科目責任者 山本 邦晴

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、実習経験や参観等を踏まえ、協議・発表も取り入れる。実際の授業場面のDVD等も多く活用し、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の指導法の特徴である「合わせた指導」について理解する。
2. 「合わせた指導」の生活単元学習や作業学習等の計画と指導の実際について、その在り方と進め方の理解を深める。
3. 知的障害特別支援学校・特別支援学級の進路指導・キャリア教育の在り方や進め方について、卒業後の課題等も含め理解を深める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 知的障害とは何か？改めて、考える！（目標1・2・3）
第2回 「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方（目標1・2・3）
第3回 生活単元学習の計画と指導の実際1（目標1・2）
第4回 生活単元学習の計画と指導の実際2（目標1・2）
第5回 遊びの指導の計画と指導の実際（目標1・2）
第6回 作業学習の計画と指導の実際（目標1・2・3）

第7回 日常生活の指導の計画と指導の実際（目標1・2）

第8回 進路指導・キャリア教育と卒業後の課題（目標3）

予習・復習の内容	予習	教科書として使用している「知的障害教育・基礎知識Q & A」等に通し予備知識を備えるとともに、疑問点等を自分なりにまとめておく。
	復習	毎授業の終わりに、授業の要点を確認するとともに、必要に応じてレポートの提出や小テストを行い、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の教育実習の精練授業等に向けて、指導案の作成や教材・教具の工夫などについて調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、必要に応じて実施する小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への取り組み態度、必要に応じて行う小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。

教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q & A」
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
	出版社	K & H
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版株式会社
	価格	440円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版株式会社
	価格	450円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版株式会社

価格	7 4 0 円
ISBN・ISSN	
書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版株式会社
価格	2 0 0 円
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP308

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 肢体不自由教育

科目責任者 小久保 元

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
30006101
30006102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
2. 肢体不自由児の視点に立って教育活動を考える。
3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

学生の達成目標

1. 特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知る。
2. 教育職として必要な心構を身につけるために教育内容や指導方法について学ぶ。

授業内容

第1回	第1回 肢体不自由の子どもについて考える(講義及びレポートの視点として)(目標1, 2)
第2回	子ども観・指導観・教育観(目標1)
第3回	子どもの自立と学力について考える(目標1, 2)
第4回	子どもの自立と個別の教育支援計画が果たす役割(目標1, 2)
第5回	子どもの自立と個別の指導計画作成の視点(目標2)
第6回	子どもの自立と個別の指導計画の活用のしかた(目標2)
第7回	肢体不自由児の教育課程と学習指導要領の関係(目標1, 2)
第8回	学習活動(教科)(目標2)
第9回	学習活動(総合的な学習)(目標2)

第10回 学習活動（自立活動・個の成長）（目標 1， 2） 第11回 学習活動（自立活動・コミュニケーション）（目標 1， 2） 第12回 コミュニケーション支援の具体的な方法（目標 1， 2） 第13回 医療的ケア（現状と課題）（目標 1） 第14回 医療的ケア（実践-教育としての取組み）（目標 2） 第15回 訪問教育（目標 1， 2）		
予習・復習の内容	予習	肢体不自由児の生活について考えたり，調べておくこと。（困難さ，不便さについて）
	復習	毎回の授業の要旨をまとめ，自身の考えとしてレポートにすること。
	展開	肢体不自由児の学習観を確立させるための工夫や実際を実践報告や研究成果で調べ知識や理解を深めると同時に教育観を練る。
成績評価	評価の基準	肢体不自由児教育について授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。特別支援教育のあり方について，自らの考えを持ち，それを教育観としての確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回提出するレポートの内容(70%)授業への姿勢(30%)等を考慮し，総合的に判断する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書を用いずに必要な資料を毎回配布する。	
推薦図書等	書籍名	新たな肢体不自由教育実践講座
	著者名	全国肢体不自由養護学校長会編著
	出版社	ジアーズ教育新社
	価格	
ISBN・ISSN		
参考URL		
備考		

病弱教育 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP309

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 病弱教育 児童

科目責任者 昆 俊雄

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、レポートやグループ討議等で考える機会を設けていく。

学生の達成目標 1. 病弱教育の歴史や意義,病弱の子どもの心理特性,医療と教育・学校との関係,病弱教育の現代的課題等,概観しながら教育内容・指導法等について学び,基礎的理解を深める。

授業内容

第1回	第1回 病弱教育の歴史
	第2回 病気治療における教育の役割
	第3回 病気の子の理解・子どもの病気と心のケア
	第4回 病弱の特別支援学校における教育の実際
	喘息,慢性疾患,肥満,小児ガン,心身症,心臓疾患,重症心身障害,腎疾患,筋ジス等の筋疾患,等の教育
	第5回 院内学級,特別支援教室等の教育の実際
	第6回 病弱教育の教育課程
	第7回 医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携
	第8回 まとめ

予習・復習の内容 予習 教育内容に示しているキーワード等、事前に指示するテーマについて調べておくこと。

	復習	授業後の要旨をまとめ、整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	試験，レポート等で総合的に評価
	評価の方法	試験，レポート等で総合的に評価
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会 編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	他（資料等）
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PART V （病弱教育の視点からの医学事典）
	著者名	西間三馨・横田雅史
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP403

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論

科目責任者 根本 匡文
伊藤 和男

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

視覚障害教育総論（伊藤 和男）

見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。

聴覚障害教育総論（根本匡文）

聴覚障害に関する生理・病理・心理面からの理解を基盤として、聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な資質を養う。

学生の達成目標

1. （伊藤和男）
視覚障害教育を概括的に学習し、視覚障害児の特性と指導法を理解する。
2. 特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。
3. （根本匡文）
聴覚障害の現れ方、聴覚障害幼児・児童・生徒のコミュニケーションの方法について理解する。
4. わが国の聴覚障害教育の状況を理解し、教育と支援のあるべき姿を考える。

授業内容	第1回	(伊藤和男)
	第1回	【視覚障害教育の概要】 視覚機構と視覚障害 視機能の検査（教育的評価） 視覚障害児童生徒の実態と教育の場
	第2回	【教育課程と指導法】 教育課程・指導計画の作成 盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮 視覚障害児のための教材・教具（教科書）
	第3回	【自立活動の基本と指導】 視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 特設時間における指導の進め方と指導内容
	第4回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害幼児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害幼児の援助
		(根本匡文)
	第1回	生理・病理・心理面からの聴覚障害の理解（目標3） 聴覚器官の構造 聴覚障害の原因と分類 聴力レベルとオーディオグラム 聴覚補償の方法 活動の制限・参加の制約の状況
	第2回	聴覚障害幼児・児童・生徒のコミュニケーションの方法 （目標3） 言語の構成要素 聴覚障害者の言語 手話の種類と特徴 指文字 聴覚口話法 トータルコミュニケーション バイリンガル・バイカルチュラルアプローチ
	第3回	聴覚障害者を対象とする特別支援学校における教育（目標4） わが国の聾学校の概況 就学前指導・乳幼児教育相談における支援 幼稚部・小学部・中学部・高等部の教育内容と方法
	第4回	聾重複障害児童・生徒の教育，通常の学校で学ぶ聴覚障害児 児童・生徒の支援（目標4） 聾知的障害児童生徒・盲聾児童生徒の教育 聾重複障害者における言語の役割 難聴学級・通級指導教室における支援 通常の学級における支援 難聴児童生徒への対応の実際

予習・復習の内容	予習	(伊藤和男) 予めテキストを読み、関連事項を図書館等で調べるなどして授業に備える。 (根本匡文) 聴覚障害者や聴覚障害教育について日ごろから関心を持ち、関連する図書を読んだり、関連する報道について理解しておく。
	復習	(伊藤和男) 授業で配布されたプリントやノートを読み直すと共に、実践例などを視覚特別支援学校のホームページや関連参考書で確認して定着を図るように心がける。

	展開	(根本匡文) 授業中に配布された資料をもとにして、毎回の授業の要旨をまとめておく。
		(伊藤和男) それぞれが興味を持った内容について、視覚障害教育の専門書により、さらに学習を深める。 (根本匡文) 授業中に関連する図書を紹介するので、精読して聴覚障害者や聴覚障害教育に関する理解を深める。
成績評価	評価の基準	(伊藤和男) 視覚障害児の特性を理解したうえで、視覚障害教育における自立活動や教科指導の基本的な事項を習得することを目的に行う指導であることから、その学習に対する意欲や態度、理解度などを総合的に勘案して評価する。 (根本匡文) 聴覚障害の現れ方や聴覚障害幼児・児童・生徒の教育について、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること、および、授業内容をもとにして聴覚障害教育のあり方について自らの考えを持ち、それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	(伊藤和男) 出席時数40点、レポート60点、合計100点として評価する。 (根本匡文) 毎回の授業時に提出する小レポート40%、最終レポート60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
	著者名	香川邦生 編著
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	改訂版聴覚障害教育の基本と実際
	著者名	中野善達・根本匡文
	出版社	田研出版
	価格	2500円+税
	ISBN・ISSN	9784860890186
参考URL		
備考		

言語障害教育総論 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP405
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	言語障害教育総論 児童
科目責任者	堀 彰人
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30006501
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、その中で事例の紹介や、指導に関する実技等も含めて理解を深めていく。
-----------	---

学生の達成目標	1. 構音障害,吃音,言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。 2. 子どもの言語障害に関する指導について,事例を通して学ぶ。 3. 学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。
---------	--

授業内容	第1回 第1回 言語障害の概要,指導の場や指導方法等の概略について学習する。 第2回 言語発達の基礎について学習する。 第3回 言語発達の遅れ,言語性学習障害等に関するアセスメント,指導(AACを含む)について学習する。 第4回 構音障害の基礎について学習する。 第5回 構音障害に関するアセスメント,指導について学習する。 第6回 吃音の基礎について学習する。 第7回 吃音に関するアセスメント,指導について学習する。 第8回 まとめ
------	---

予習・復習の内容	予習	子どもとのコミュニケーションやその支援について、自らの体験を通した課題意識をもち、それを整理して表現できるようにしておくこと。
	復習	毎回の授業の内容を振り返り、ポイントを整理しておくこと。
	展開	関心をもった領域について、さらに知識を得たり、その後の体験の中で、自らと子どもとの関係を見つめながら、さらに考察を深めていく。
成績評価	評価の基準	子どもに日常的に関わる専門職として、子どもの言語障害とその支援について、授業で扱った基礎的な内容を理解できていること。
	評価の方法	1. レポートの提出30%, 2. 期末テスト70%。 ただし、この比率は、授業への参加態度を加味することも含め、最終的に若干の変更を行う場合がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等	書籍名	子供がどう感じていると感じたら
	著者名	廣瀨・堀
	出版社	大月書店他
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	随時紹介する。
	著者名	
参考URL	http://nangen.jp	
	http://forum.nise.go.jp/kotoba/htdocs/	
	http://zengenren.org/	
	http://kituonkenkyu.org/	
	http://www.kitsuon-portal.jp/	
備考		

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR311

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 特別支援教育実習

科目責任者 高倉 誠一

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
漆澤 恭子
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30016601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 特別支援学校での教育実習を通して、特別支援学校の教員としての資質・能力を高める。

- 学生の達成目標
1. 特別支援教育で求められる専門的な知識・技能を身につける。
 2. 子どもへの適切な指導・支援を学び実践する。
 3. 教員の職務とその使命を理解する。

授業内容 第1回 特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して、次の内容を学ぶ。

1. 特別支援学校の学校生活の計画と実際を理解する。
 - ・ 一日、一週間、一年間の生活の流れ
 - ・ 教育課程の概要 など
2. 指導・指導計画の作成や授業の進め方を学ぶ。
 - ・ 各授業の年間計画や単元計画の実際
 - ・ 指導計画や支援（指導）案の作成
 - ・ 授業計画の実際 など
3. 障害のある子どもへの適切な指導・支援を学ぶ。
 - ・ 子ども個々の様子の把握の仕方
 - ・ 個別の指導（支援）計画
 - ・ 支援の実際ー「できる状況づくり」の工夫
 - ・ 授業中の声かけや手助け など
4. 教師のあり方やなすべき様々な仕事の理解
 - ・ 望ましい教師の姿
 - ・ 教材準備や学級便り作成等、教師の仕事の実際 など

予習・復習の内容	予習	実習配属先の学校要覧を取り寄せ、実習先の方針や児童生徒の概要の把握に努める。
	復習	授業のポイントを整理し、指導案・支援案の作成に生かす。
	展開	個々の様子の把握、個々に応じた支援・指導の工夫を、他の実習等に生かす
成績評価	評価の基準	実習中の姿勢や意欲、指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。
	評価の方法	実習先からの評価表90%と実習に関わる記録簿、指導案等の課題の提出10%をもとに評価を行う。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR310

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 特別支援教育実習事前事後指導

科目責任者 高倉 誠一

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 特別支援教育の教育課程の特色及び指導法の他、実習校の概要の理解を深める。
3. 支援（指導）案、記録簿の書き方や、子どもの様子の把握と支援等について学ぶ。

学生の達成目標

1. 特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して、特別支援学校教育従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける。

授業内容

第1回

1. 事前指導
 - ・実習の意義と目的
 - ・特別支援学校の概要の理解
 - ・児童・生徒への支援的対応について
 - ・実習における態度
 - ・実習における自己目標の設定
 - ・実習にあたっての手続き
 - ・指導案の書き方
 - ・実習日誌の意義と記入の仕方
 - ・実習先でのオリエンテーション
2. 特別支援学校での実習
3. 事後指導

- ・実習日誌の整理
- ・実習の自己評価
- ・意見交換と反省・まとめ
- ・実習校との手続き（礼状、日誌の受け取り等）

予習・復習の内容	予習	実習先の学校要覧をもとに、実習先のカリキュラムや児童生徒の概要の把握をする。
	復習	授業のポイントについて整理をする。
	展開	実際の特別支援学校での実習で学んだことを生かす。

成績評価	評価の基準	授業の参加姿勢の他、レポート等課題の提出状況を総合して評価する。
	評価の方法	授業の参加姿勢50%、レポート等課題の提出状況50%とする。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	462
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9

教科書	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編等
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0

	書籍名	支援案の書き方 個別の支援計画
	著者名	太田俊己監修 千葉大学教育学部附属養護学校著
	出版社	K&H
	価格	1995
	ISBN・ISSN	978-4-99001197-3-7

推薦図書等	書籍名	感じ合い 分かり合い 支え合い
	著者名	小出進
	出版社	
	価格	1000

ISBN・ISSN

☐上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

ボランティア体験実習（児）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 ボランティア体験実習（児）

科目責任者 田村 光子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼児教育、保育、障害児者福祉関係のボランティア活動に参加し、現場での子どもたちとの実際的な関わりやコミュニケーションをはかることにより、専門職として働くことの意義を知り、自己を見つめなおし、2年次の本格的な実習への目的意識を高める。

学生の達成目標

1. 幼児教育、保育、障害児者福祉の各領域・分野から各自の興味に合わせた活動を選択し、現場の活動に参加する。現場での関わりを通して、具体的・実際的な支援の必要性を知る。
2. 体験の導入と振り返りの指導により、人間関係力・社会関係力を身につけ、よりよい職業選択につなげる。

授業内容

- 第1回
1. ボランティア・進路ガイダンス
履修の心得、ボランティア活動参加における心構えについてのオリエンテーション
 2. ボランティアコーディネーターによる面接指導
各領域別にボランティアコーディネーターによる面接指導
活動参加への迷いや不安の相談、よりよい職業選択につながる活動選択について指導を行う
 3. 領域・分野別活動参加
次の領域・分野のうち1つあるいは複数を選択し、活動参加する。活動参加時間は通算5日以上（40時間以上）を必要とする。

実習や他の授業、その他資格取得等での実習、講座としての参加については時間数として認めない。

- (1) 「幼児教育・保育」に関する活動体験
幼稚園、保育園でのボランティア参加
子育て支援センターや子育てリラックス館におけるボランティア参加
その他幼児教育・保育の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加
- (2) 「障害児教育・福祉」に関する活動体験
障害児入所施設における施設ボランティア参加
障害児地域生活支援団体における外出支援ボランティア参加
特別支援学校における行事参加ボランティア参加
その他、障害児教育、障害児福祉の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加
- (3) その他、地域における教育、福祉に関する活動体験
上記の(1)、(2)の領域に関連するボランティア依頼のあった団体への活動参加
※担当教員、コーディネーターにより適当と認められたもののみ時間数とする

4. ボランティア講演会への参加

ボランティア活動について、また地域子育て支援に関する講師を招いて講演会を実施する。

学生は講演会に参加し、感想シート（800字程度）を作成する。

5. 活動参加記録シート、まとめレポート（1000字以上、領域が異なる場合は領域別に500字以上）を作成する。記録シート、講演会感想シート、まとめレポートをあわせて表紙（「ボランティア参加記録レポート」・番号・氏名を記名）をつけて提出。

予習・復習の内容	予習	ボランティア参加のための事前準備（ボランティア先のアポイントメント、出欠席や持ち物などの諸連絡、あいさつ等）各自責任を持って対応すること。
	復習	講演会への参加については欠席のないようにすること。また講演会についての感想レポートも必ず提出する。 ボランティア実習計画、活動記録、まとめシート等、指示されたレポート課題を期限までに提出する。
	展開	事前準備に関してわからない点は、教員またはコーディネーターに相談すること。
成績評価	評価の基準	ボランティア活動への参加とレポート作成（８０％） 授業および講演会への参加状況（１５％） その他（５％）
	評価の方法	規定時間における活動参加に加え、ガイダンス、講演会への参加を基本とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	活動計画や参加記録、また講演会の感想等のシートは配布する	
推薦図書等		
参考URL		

保育実習Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR202

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習Ⅰ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30014301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・ 保育所における保育の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な人間性を養い、専門的な知識や技能を身につける。
- ・ 乳幼児への理解を深めながら、保育所の機能と保育士の職務について理解する。

学生の達成目標

1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、子どもの関わりを通して子どもへの理解を深めていく。
2. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業内容	第1回	1, 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ(目標1) (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開(目標1) 2, 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解(目標1) (2) 子どもの発達過程の理解(目標1) (3) 子どもへの援助やかかわり(目標1) 3, 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容(目標1・2) (2) 子どもの発達過程に応じた保育環境(目標1・2) (3) 子どもの健康と安全(目標1・2) 4, 保育の計画・観察・記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用(目標2) (2) 記録に基づく省察・自己評価(目標2) 5, 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容(目標3) (2) 職員間の役割分担や連携(目標3) (3) 保育士の役割と職業倫理(目標3)
予習・復習の内容	予習	翌日の実習へのねらいを明確に持つ。 実習クラスの子どもの発達過程について保育所保育指針等で確認する。
	復習	実習のねらいに沿って省察し、保育の振り返りを実習記録簿に記入する。 実習記録簿等、実習先から指導された事項について修正を行う。
	展開	保育の現状と課題について関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育士としての資質向上に努める。
成績評価	評価の基準	実習先における評価は、内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等により行う。
	評価の方法	原則として実習先における評価基準に準ずるが、学内担当教員の評価も加味して評価する。 評価の割合は、実習委員会の合議による。
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館

価格 1 9 0 円

ISBN・ISSN

参考URL

備考

保育実習Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR305

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習Ⅰ（施設）

科目責任者 田村 光子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30014401

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける

学生の達成目標

1. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設での生活について体験的に理解する。
2. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ

授業内容

第1回 実習施設でのオリエンテーション
実習施設における実習(実習中の巡回指導を含む)

実習施設での事後指導

予習・復習の内容	予習	オリエンテーションおよび実習初日までに、事前に必要な準備（訪問日の電話および約束、必要な書類等の準備等）を各自責任をもって行う。 実習中は日々の記録を振り返り、翌日の課題を明らかにしておく。
	復習	事前訪問報告書を提出する。 日々の記録作成、実習後の反省、感想を作成をする。
	展開	実習について不明な点については、すぐに明らかになるように努める。実習中は、実習指導担当者の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する
	評価の方法	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR307

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習Ⅱ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

中坪 晃一
佐藤 愼二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 蘭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30014501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・ 保育所における実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な人間性を豊かにし、より専門的な知識や技能を身につける。
- ・ 現代の子どもや家庭が抱えるニーズを踏まえ、子育て支援や地域社会との連携を理解する。

学生の達成目標

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めると共に子どもの観察や関わりの視点を明確にしていく。
2. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。

3. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。

授業内容

- 第1回
- 1, 保育所の役割と機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となつて行われる保育 (目標 1)
 - (2) 保育所の社会的役割と責任 (目標 1)
 - 2, 観察に基づく保育理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (目標 1)
 - (2) 保育士等の動きや実践の観察 (目標 1)
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 (目標 1)
 - 3, 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (目標 2)
 - (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (目標 2)
 - (3) 地域社会との連携 (目標 2)
 - 4, 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (目標 3)
 - (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 (目標 3)
 - 5, 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (目標 4)
 - (2) 多様な保育の展開と職業倫理 (目標 4)
 - 6, 自己の課題の明確化 (目標 4)

予習・復習の内容

- 予習
- 翌日の実習へのねらいを明確に持つ。
実習クラスの子どもの発達過程について保育所保育指針等で確認する。
責任実習においては、当該クラスの様子をよく観察した上で実習担当者に相談し準備を行う。
- 復習
- 実習のねらいに沿って省察し、保育の振り返りを実習記録簿に記入する。
実習記録簿等、実習先から指導された事項について修正を行う。
- 展開
- 保育の現状と課題に関心を持ち調べる。
自己を振り返り、保育士としての資質向上に努める。

成績評価

- 評価の基準
- 実習先における評価は、内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。
学内担当教員の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等により行う。
- 評価の方法
- 原則として実習先における評価基準に準ずるが、学内担当教員の評価も加味して評価する。
評価の割合は、実習委員会の合議による。

教科書

- 書籍名
- 実習の手引き
- 著者名
- 本学実習委員会編
- 出版社
- 正文社

	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育実習Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR309

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習Ⅲ（施設）

科目責任者 田村 光子

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30014601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける

学生の達成目標

1. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設での生活について体験的に理解する。
2. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ

授業内容	第1回	実習施設でのオリエンテーション 実習施設における実習(実習中の巡回指導を含む) 実習施設での事後指導
予習・復習の内容	予習	オリエンテーションおよび実習初日までに、事前に必要な準備（訪問日の電話および約束、必要な書類等の準備等）を各自責任をもって行う。 実習中は日々の記録を振り返り、翌日の課題を明らかにしておく。
	復習	事前訪問報告書を提出する。 日々の記録作成、実習後の反省、感想を作成する。
	展開	実習について不明な点については、すぐに明らかにするように努める。実習中は実習指導担当者の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する
	評価の方法	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導Ⅰ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30014701
30014702

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次・1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にする。
2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業内容

- 第1回 第1回～第2回
1. 保育実習の意義
 - （1）実習の目的（目標1）
 - （2）実習の概要（目標1）
- 第3回～第4回
2. 実習の内容と課題の明確化
 - （1）実習の内容（目標1）
 - （2）実習の課題（目標1）

第5回～第7回

3. 実習に際しての留意事項

(1) 子どもの人権と最善の利益の考慮(目標2)

(2) プライバシーの保護と守秘義務(目標2)

(3) 実習生としての心構え(目標2)

第8回～第12回

4. 実習の計画と記録

(1) 実習における計画と実践(目標3)

(2) 実習における観察、記録及び評価(目標3)

第13回～第15回

5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化

(1) 実習の総括と自己評価課題の明確化(目標4)

予習・復習の内容

予習	実習の手引きの内容を理解する。 実習先について調べる。
復習	実習に必要な準備や練習等を行う。
展開	実習に臨む姿勢や留意すべき事項について確認する。

成績評価

評価の基準	実習への取り組む姿勢及び保育士としての知識と技能
評価の方法	授業への参加度(70%)・提出物(10%)・ レポート(20%)

教科書

書籍名	実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	正文社
価格	
ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル館
価格	190円
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育実習指導Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR304

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導Ⅰ（施設）

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30014801
30014802

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験に向けて、基礎的な知識・態度を学習、体得し、よりよい実習にむけての基礎を養う。

学生の達成目標

1. 実習にむけて、実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習に臨めるように準備する
2. 実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する

授業内容

- 第1回
- 学内での事前指導
- ・実習の意義と目的
 - ・実習施設の理解
 - ・子ども・利用者への支援的対応について
 - ・実習における態度
 - ・自己目標の設定
 - ・実習にあたっての手続き
 - ・記録の意義と記録簿の記入の仕方

- 学内での事後指導
- ・自己評価と今後の課題の明確化

予習・復習の内容	予習	実習の手引きを参照に実習の意義と目的、実習における態度について事前に確認する。
	復習	実習にむけた自己目標を作成する。 実習施設についての理解、子ども・利用者への支援的対応についてまとめておく。
	展開	不明な点については、すぐに明らかになるように努める。実習事前、事後指導の中でわからない点については、担当教員の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
	評価の方法	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR306

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導Ⅱ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30014901
30014902

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び、既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
2. 保育の観察や、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
3. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業内容

- 第1回 第1回～第2回
1. 保育実習による総合的な学び
(1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解（目標1）
(2) 子どもの保育と保護者支援（目標1）
- 第3回～第4回
2. 保育実践力の育成
(1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり（目標1）

- (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 (目標 1)
- 第 5 回～第 10 回
3. 計画と観察、記録、自己評価
- (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (目標 2)
- (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (目標 2)
- 第 11 回～第 12 回
4. 保育士の専門性と職業倫理 (目標 3)
- 第 13 回～第 15 回
5. 事後指導における実習の総括と評価
- (1) 実習の総括と自己評価 (目標 4)
- (2) 課題の明確化 (目標 4)

予習・復習の内容	予習	実習の手引きの内容を理解する。 実習先について調べる。
	復習	実習に必要な準備や練習等を行う。
	展開	実習に臨む姿勢や留意すべき事項について確認する。
成績評価	評価の基準	実習への取り組む姿勢及び保育士としての知識と技能
	評価の方法	授業への参加度 (70%) ・ 提出物 (10%) ・ レポート (20%)
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR308

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導Ⅲ（施設）

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30015001
30015002

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験に向けて、基礎的な知識・態度を学習、体得し、よりよい実習にむけての基礎を養う

学生の達成目標

1. 実習にむけて、実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習に臨めるように準備する
2. 実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する

授業内容

- 第1回
- 学内での事前指導
- ・実習の意義と目的
 - ・実習施設の理解
 - ・子ども・利用者への支援的対応について
 - ・実習における態度
 - ・自己目標の設定
 - ・実習にあたっての手続き
 - ・記録の意義と記録簿の記入の仕方

- 学内での事後指導
- ・自己評価と今後の課題の明確化

予習・復習の内容	予習	実習の手引きを参照に実習の意義と目的、実習における態度について事前に確認する
	復習	実習に向けた自己目標を作成する。 実習施設についての理解、子ども・利用者への支援的対応についてまとめておく。
	展開	不明な点については、すぐにあきらかになるように努める。実習事前、事後指導の中でわからない点は、担当教員の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
	評価の方法	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅰ（参観実習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR102

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習Ⅰ（参観実習）

科目責任者 相磯 友子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30014101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 幼稚園、特別支援学校等で、観察・参観実習を行う。
2. 1 に向けてのオリエンテーションを実施する。

学生の達成目標

1. 幼稚園の保育に接し、保育や子どもを見る際の観点をつかむ。
2. 特別支援学校に在籍する子どもたちと触れ合うことを通して、障害ややさしい支援の在り方を考えるきっかけとする。

授業内容

第1回 〈幼稚園における参観実習〉
（1）幼稚園の保育を見学し、保育の流れ・保育者の動き・子どもの様子等を参観する。子どもたちの活動の中に入り、一緒に遊

ぶ。

（２）幼稚園の園行事に参観し、行事のねらいに沿って展開される保育を体験する。子どもの様子や保育者の動き、保育者が保護者と関わる様子を観察する。

（３）幼稚園における保育の様子及び幼稚園の園行事に参加した記録をまとめる。

〈特別支援学校における参観実習〉

（１）特別支援学校の各教室で子どもたちの様子を観察したり、ともに活動したりする。

（２）特別支援学校の概要及び役割に関する講義を受ける。

（３）特別支援学校における参観実習の記録をまとめる。

予習・復習の内容

予習	自分の住んでいる地域にどのような幼稚園、特別支援学校があるか調べる。
復習	参観実習での記録をまとめる。
展開	幼稚園、特別支援学校でのボランティアに参加する。

成績評価

評価の基準	授業及び実習の出席 参観記録の提出とその内容
評価の方法	授業・実習の出席と参観記録の提出・内容から総合的に評価

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
必要に応じて資料を配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

教育実習Ⅱ（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR303

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習Ⅱ（幼稚園）

科目責任者 浅川 繭子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30014001

教室

単位数 3

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・幼稚園における教育・保育の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うと共に、専門的な知識・技能を身につける。
- ・子どもの生活の場である幼稚園の様子を体験的に理解する。

学生の達成目標

1. 幼稚園の役割や機能と幼稚園教諭の役割について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもとのかかわりを通して、子どもを理解する力を高める。
3. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組む。

4. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより今後の学習課題を明確にする。

授業内容

- 第1回
- ・実習園の概要を知る（目標1）
 - ・子どもたちの生活の実態を知る（目標2）
 - ・幼稚園における保育者の役割を知り、その一部を実際に経験する（目標1）
 - ・実習記録を毎日提出して担当教諭の指導を受け、子どもの理解と保育者の援助の理解を深める（目標2.3）
 - ・指導計画を立て、計画に基づいて準備・実践・評価を行う（目標3.4）

予習・復習の内容

- 予習
- 翌日の保育の予定を確かめ、教材等の準備をする。
部分実習や責任実習の指導案を作成し、指導を受け、準備する。
- 復習
- その日の保育を振り返り、ねらいに沿って省察し、実習記録簿に記録する。指導された事項について修正を行う。
- 展開
- 幼稚園教育の現状と課題について関心を持つ。
自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。

成績評価

- 評価の基準
- 実習園の評価は、内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。学内担当の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等によって行う。
- 評価の方法
- 実習園の評価に、学内担当の評価を加味して評価する。

教科書

- 書籍名
- 実習の手引き
- 著者名
- 出版社
- 価格
- ISBN・ISSN
- 書籍名
- 幼稚園教育要領解説
- 著者名
- 文部科学省
- 出版社
- フレーベル館
- 価格
- 190円
- ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

事前指導を受けた者のみが参加できる。

教育実習Ⅲ（特別支援学校・学級）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR203

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習Ⅲ（特別支援学校・学級）

科目責任者 相磯 友子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30014201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実習先の特別支援学校等で事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日日誌を提出する。

学生の達成目標

1. 特別支援学校等での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 特別支援学校等において実習を行う。
3. 実習を記録簿にまとめる。

授業内容	第1回	特別支援学校・小学校特別支援学級での実習 ・実習校でのオリエンテーション ・特別支援学校等における実習 ・観察、参観、部分実習（1週間） ・実習校での反省会
予習・復習の内容	予習	特別支援学校にどのような種類があるのかを調べる。
	復習	自分の実習先の特別支援学校の教育課程について調べ、まとめる。
	展開	朝の会などを想定し、指導案（略案）を作成する。
成績評価	評価の基準	実習先の特別支援学校等による評価、実習先への記録簿の提出状況、記録簿の内容
	評価の方法	実習先の特別支援学校等による評価、実習先への記録簿の提出状況、記録簿の内容等により総合的に評価する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		適宜プリントを配布する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR302

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

科目責任者 浅川 繭子

担当教員 相磯 友子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限
30015101
30015102

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園、特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。

学生の達成目標

1. 実習での学習課題を明確にし、実習までに必要な準備を整える。
2. 保育、教育の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を学び、考える。
3. 実習での体験を踏まえて、今後の学習への意欲を高める。

授業内容

- 第1回 〈教育実習Ⅱ事前・事後指導〉
- 第1回 実習の目的・概要等のオリエンテーション（目標1）
- 第2回 書類作成と実習中の心構え（目標1.2）
- 第3回 幼稚園の実際・子どもへのかかわり方（目標2）
- 第4回 記録簿の書き方①（目標1）
- 第5回 記録簿の書き方②（目標1）
- 第6回 幼稚園の教育課程と指導計画（目標1.2）
- 第7回 指導計画の立て方①（目標1）
- 第8回 指導計画の立て方②（目標1）

第9回 自己目標の明確化・直前指導（目標1.2）

第10回 実習のまとめ（目標3）

〈教育実習Ⅲ事前・事後指導〉

第1回 実習の目的・概要等のオリエンテーション（目標1）

第2回 特別支援学校の概要（目標1.2）

第3回 特別支援学校の教育課程とキーワード（目標1.2）

第4回 記録簿の書き方（目標1）

第5回 実習のまとめ（目標3）

予習・復習の内容	予習	実習の手引きに目を通し、内容を理解して疑問点を明確にしておく。実習先の園や学校について、インターネット等で調べる。
	復習	必要な準備や練習等を行う。
	展開	幼稚園教諭としての心得や、保育・教育現場での留意すべき事柄について確認する。

成績評価	評価の基準	実習の目的、概要、授業で取り扱った内容を理解し、記録簿や関係書類を適正に整え、心身の備えを含めて実習の準備を行うことができる。 実習終了後、実習を振り返り、今後に向けて課題を的確にとらえることができる。
	評価の方法	レポート・課題への取り組みと達成度70% 参加態度や姿勢30%

	書籍名	実習の手引き
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
教科書	書籍名	幼稚園教育要領解説書
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	実践で語る幼稚園教諭への道
	著者名	横山洋子 中島千恵子
	出版社	大学図書出版
	価格	2 0 0 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教職実践演習（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR401

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教職実践演習（幼稚園）

科目責任者 佐藤 慎二

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限
50000001
50000002
50000003
50000004
50000005
50000006
50000007
50000008
50000009
50000010
50000011

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園教諭(保育者)としての資質、能力をどの程度身につけたかを確認し、得意を伸ばし、課題を補い、幼稚園教諭として自信と意欲をもって出発できるようにする。

学生の達成目標

1. ○障害の有無にかかわらず、どの子どもも支える学級経営の基本を理解する。
2. ○学級経営や日常の保育における具体的な支援方法を身につける。
3. ○保護者との連携の基本を身につける。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション(目標1. 2. 3)
第2回 現役教諭による講話と演習「子どもが求める保育者像」(目標1)
第3回 現役教諭による講話と演習「保護者が求める保育者像」(目標1. 3)
第4回 幼稚園における教師の責任、倫理、服務規律の確認、チームティーチング、保護者対応の確認」(目標1. 2. 3)
第5回 救急救命講習会(目標2)
第6回 子どもの前に立つー絵本・紙芝居の模擬授業(目標2)
第7回 子どもの前に立つー手遊びの模擬授業(目標2)
第8回 子どもの前に立つー室内ゲームの模擬授業(目標2)
第9回 子どもの前に立つーピアノなどなど取り入れた音楽遊びの模擬授業(目標2)
第10回 子どもの前に立つー図工的な保育・遊びの模擬授業(目標2)
第11回 子どもの前に立つー季節に応じた遊びの検討会(目標2)
第12回 保護者との連携ー保護者会の实际的検討(目標3)
第13回 保護者との連携ー個別相談支援の实际的検討(目標3)
第14回 保護者との連携ーたより、電話連絡等の实际的検討(目標3)
第15回 保育室及び園環境全体のレイアウトの实际的検討(目標1. 2)

予習・復習の内容

- 予習 ○指示された事前の練習や準備を行うこと。
- 復習 ○指摘を受けた内容については繰り返し練習すること。
- 展開 ○ボランティア先で、率先して実践すること。

成績評価

- 評価の基準 各課題の理解度及び参加態度
- 評価の方法 模擬授業の様子及びそれへの討論の内容・姿勢、レポートなどを踏まえ、総合的に評価する。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（中坪）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（中坪）
科目責任者	中坪 晃一
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	50001001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 これまで学修を踏まえ、障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って卒業研究をまとめ、保育・障害支援についての理解を一層深める。

- 学生の達成目標**
1. 障害等のある子どもの保育・教育・生活の場での参観・実習・ボランティア活動等を通して、生活の整え方や、障害への支援の仕方等について理解を深める。
 2. 設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション（授業の進め方）。（目標1・2）
		第2回	卒業研究の意義と方法について。（目標1・2）
		第3回～第4回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、テーマ設定について検討。（目標1・2）
		第5回～第6回	テーマ設定に基づき、参観・ボランティア先の決定。（目標1・2）
		第7回	参観記録の方法、問題の明確化等について検討。（目標1・2）
		第8回～第9回	各自の研究テーマの発表・協議。（目標1・2）
		第10回～第18回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
		第19回～第20回	参観先の様子とテーマ設定についての発表（中

		間発表)。(目標1・2)
		第21回 論文の構成・体裁，執筆方法等について。(目標1・2)
		第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究。(目標1・2)
		第24回～第28回 論文の執筆過程での相談支援。(目標1・2)
		第29回 論文の加除・修正。論文の提出。(目標1・2)
		第30回 卒業研究発表会。(目標1・2)
予習・復習の内容	予習	設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査研究活動の事前準備を行い実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や研究テーマ発表会・中間発表会等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連するテーマや他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10% 調査研究活動への取り組み10%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に用いない。必要な資料・文献等を適宜紹介する。	
推薦図書等	書籍名	「今を豊かに生きる」
	著者名	小出進監修 名古屋恒彦・高倉誠一編著
	出版社	大揚社
	価格	2000円(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN4-7952-4393-x C0037
	書籍名	「生活中心教育の展開」
	著者名	小出進監修 生活中心教育研究会編
	出版社	大揚社
	価格	2800円(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN4-7952-4370-0
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（佐藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）（佐藤）

科目責任者 佐藤 慎二

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001002

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育所・幼稚園等における「気になる」子ども、発達障害のある子どもの理解と支援の在り方について実践的な研究(具体的な支援方法を含む)を深める。

学生の達成目標

1. ○「気になる」子どもや発達障害のある子どもの思いの理解。
2. ○授業で取り上げる具体的な支援方法を身につける。
3. ○卒業研究としてまとめる。

授業内容

第1回

第1回～第5回

- 授業の進め方や年間の見通しについての確認。
- 各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。
- 卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。
- 実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。
- 個別面談方式による相談会(目標1. 2. 3)

第6回～第10回

- 卒業研究の執筆過程での相談支援。
- 特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標3)

第11回～第15回

○執筆と相談(目標3)
第16回
○中間発表会 I(目標3)
第17回～第22回
○執筆と相談(目標3)
第23回
○中間発表会 II(目標3)
第24回～第29回
○執筆と相談→提出(目標3)
第30回
○卒業研究発表会(目標3)

予習・復習の内容

予習	積極的に資料収集を行い、具体的な支援方法を調べること。
復習	指摘を受けた点をすぐに論文作成に反映すること。
展開	○周辺領域の課題について資料にあたること。 ○ボランティア先で、積極的に実践すること。

成績評価

評価の基準	「気になる」、発達障害のある子どもの思いの理解と具体的な支援方法の習得度及び卒業研究の内容。
評価の方法	卒業研究への努力、熱意、研究内容等を総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
学生のテーマに合わせて、参考文献、資料等を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（山本）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）（山本）

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001003

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

これまで学修を踏まえ、障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って卒業研究をまとめ、保育・障害支援についての理解を一層深める。

学生の達成目標

1. 障害等のある子どもの保育・教育・生活の場での参観・実習・ボランティア活動等を通して、実際にその場での生活を体験し、生活の整え方や、障害への支援の仕方等について理解を深める。
2. 設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。

授業内容

第1回 第1回～第5回（目標1・2）
○授業の進め方や年間の見通しについての確認。
○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。
○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。
○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。
○個別面談方式による相談会
第6回～第10回（目標1・2）
○卒業研究の執筆過程での相談支援。
○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。
第11回～第15回（目標1・2）
○執筆と相談

第16回（目標 1・2）
○中間発表会 I
第17回～第22回（目標 1・2）
○執筆と相談
第23回（目標 1・2）
○中間発表会 II
第24回～第29回（目標 1・2）
○執筆と相談 →提出
第30回（目標 1・2）
○卒業研究発表会

予習・復習の内容

予習	設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査研究活動を行い実際の状況を把握する。
復習	別の協議や研究課題発表会・中間発表会等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。

成績評価

評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
必要な資料・文献等を適宜紹介する。

推薦図書等

書籍名	「今を豊かに生きる」
著者名	小出進監修 名古屋恒彦・高倉誠一編著
出版社	大揚社
価格	2.000円(+消費税)
ISBN・ISSN	
書籍名	「生活中心教育の展開」
著者名	小出進監修 生活中心教育研究会編
出版社	大揚社
価格	2.800円(+消費税)
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（漆澤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）（漆澤）

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001004

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- 1 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する
- 2 テーマや進路先とも関連させながら個別的な支援をおこない、全体での交流・発表の場を適宜設定する
- 3 進路などの相談には授業時間以外にも適宜設定する

学生の達成目標

1. 特別な教育的支援を必要とする幼児の保育法・指導法に関連したテーマについて各自が文献研究や実践などを通し考察し卒業研究をまとめる

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回	卒業研究の意義と方法について
	第3,4回	それぞれの関心などについて意見交換し、課題設定
	について	検討
	第5,6回	課題設定に基づく研究方法の検討
	第7,8回	各自の研究課題の発表・協議
	第9~18回	各自の課題に沿った研究活動・相談支援
	第19,20回	中間発表
	第21回	論文の構成、体裁、執筆方法について
	第22~28回	執筆と相談
	第29回	加筆 修正 提出
	第30回	卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習	日頃から保育・特別支援教育などに関心を持ち、広く情報収集を行うこと
	復習	協議での意見をまとめておくこと
	展開	常に課題にそった研究や実践になっているか振り返りながら進めること
成績評価	評価の基準	計画的に研究をしているか 自己の考えを持っているか 課題にそった実践を行っているか
	評価の方法	卒業研究への努力　熱意　研究内容などを総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし。課題に即した資料を必要に応じて作成・配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（高倉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）（高倉）

科目責任者 高倉 誠一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001005

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

これまでの学修を踏まえ、障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って卒業研究をまとめ、保育・障害支援についての理解を一層深める。

学生の達成目標

1. 知的障害のある子ども、青年、大人の生活の場ー幼稚園、保育所、特別支援学校、各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア等を積み重ねて、生活の整え方や障害のある人への支援について理解を深める。

授業内容

- | | | |
|-----|-----------|---------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション（授業の進め方）。 |
| | 第2回 | 卒業研究の意義と方法について。 |
| | 第3回～第4回 | 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。 |
| | 第5回～第6回 | 課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定。 |
| | 第7回 | 参観記録の方法、問題の明確化等について検討。 |
| | 第8回～第9回 | 各自の研究課題の発表・協議。 |
| | 第10回～第18回 | 参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。 |
| | 第19回～第20回 | 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）。 |
| | 第21回 | 論文の構成・体裁、執筆方法等について。 |
| | 第22回～第23回 | 関係資料の収集・文献研究。 |
| | 第24回～第28回 | 論文の執筆過程での相談支援。 |

	第29回 第30回	論文の加除・修正。論文の提出。 卒業研究発表会。
予習・復習の内容	予習	設定したテーマにそって、参考文献をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うと共に、ボランティア活動等、調査研究活動を行い、実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・結果・考察等の妥当性・成果及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		なし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（黒田）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）（黒田）

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001006

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもを取り巻く様々な課題の中から、自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定し、調査・研究活動に取り組み、報告書にまとめる。研究発表を行うことで、幼児の音楽についての知識を広げたり、実践力を養う。また自分たちで協力しあいながら、参加者と共に楽しめる音楽会を開催する。

学生の達成目標

1. 各自でテーマに基づいて、主体的に調査・実践・研究等を行い、卒業研究としてまとめ発表する。
2. 幼児の音楽について知識を広げながら、保育の中で豊かな表現活動を実践できる力を養う。
3. 皆で協力しあいながら、参加者とともに楽しめる音楽会を開催する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション
第2回 卒業研究の意義と方法・資料収集などについて（目標1）
第3回～第4回 各自で興味・関心のあるテーマについて発表したり、研究計画立案。（目標1）
参加者と楽しむ音楽会の企画をする。（目標3）
第5回～第8回 音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標2）
第9回～第10回 各自の研究課題の発表・協議（目標1）

第11回～第13回 参加者と楽しむ音楽会準備・実施（目標２・３）
 第14回～第18回 各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標１）
 第19回～第20回 中間発表（目標１）
 第21回 論文の構成・体裁、執筆方法などについて（目標１）
 第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究（目標１）
 第24回～第27回 論文の執筆課程での相談支援（目標１）
 第28回 論文の加筆・修正・論文の提出（目標１）
 第29回～第30回 卒業研究発表会（目標１）

予習・復習の内容

予習 音楽表現を中心とした保育活動を計画し、発表できるようにする。保育や子どもに関することで、考えたことを3分くらいにまとめ発表できるように準備する。

復習 毎回の授業内容をノートにまとめておく。各自のテーマに関連したことを情報収集する。

展開

成績評価

評価の基準 発表・協議への参加内容・レポートの作成過程とその内容

評価の方法 発表・協議への参加内容（30%） レポート作成過程（30%） レポート内容（40%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

推薦図書は、必要に応じて参考文献などを紹介する。

保育実践演習（保育・障害支援）（松原）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（松原）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	50001007
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。 ・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。
-----------	---

学生の達成目標	1. 各自、興味関心のある研究テーマの検討をしていく。 2. 各自、参観、実習、ボランティアなどの調査研究を進める。 3. 卒業研究論文の発表と協議を行う。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方）（目標1） 第2回 卒業研究の意義と方法について（目標1） 第3回～第4回 一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討（目標1） 第5回～第6回 課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定（目標1・2） 第7回 参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討（目標2） 第8回～第9回 各自の研究課題の発表・協議（目標2） 第10回～第18回 参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
------	-----	---

第19回～第20回 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標2）
第21回 論文の構成・体裁と執筆方法について（目標2）
第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究（目標2）
第24回～第28回 論文の執筆（目標2）
第29回 論文の検討・修正（目標2・3）
第30回 卒業研究発表会（目標3）

予習・復習の内容	予習	関連する図書を読んだり、報道について理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	卒業研究（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	逐次状況に応じてプリントを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（浅川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（浅川）
科目責任者	浅川 繭子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	50001008
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもをとりまく様々な課題の中から、興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組む。発表・協議を行い卒業研究にまとめる。
-----------	--

- | | |
|---------|---|
| 学生の達成目標 | <ol style="list-style-type: none">1. 各自の興味関心から、研究テーマを設定する。2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。3. 発表・協議を重ね、卒業研究を作成する。 |
|---------|---|

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション 第2回 卒業研究における資料・図書の使い方について（目標1.2） 第3回 各自の興味関心についての意見交換と研究テーマ設定について検討する（目標1） 第4回 各自の興味関心についての意見交換と研究テーマ設定について検討する（目標1） 第5回 研究テーマを決定する。テーマについて意見交換、文献調査等を行い理解を深める（目標1） 第6回 研究テーマを決定する。テーマについて意見交換、文献調査等を行い理解を深める（目標1） 第7回 研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する（目標2）
------	-----	--

第8回 研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する
（目標2）
第9回 中間発表（目標3）
第10回 中間発表（目標3）
第11～18回 各自で調査研究を行う（目標2）
第19回 卒業研究の作成について（目標3）
第20～26回 各自で卒業研究を作成する（目標3）
第27～29回 卒業研究を検討・修正する（目標3）
第30回 まとめ・卒業研究発表会（目標3）

予習・復習の内容	予習	各自の研究テーマを明確にするために、関心のあることについて調べたり、体験したりする。
	復習	研究テーマに関する進捗状況や毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	課題を見つけて対応していく態度を身につけ、卒業後、テーマを持って日々の保育に取り組めるようにする。

成績評価	評価の基準	卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況等により総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	各自のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（田村）

シラバス基本情報

科目ナンバリング STR301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）（田村）

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001009

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

地域での子育て支援の現場における実際の体験を通して、保育者として必要な子ども支援の知識・技術を学ぶとともに、自らの実際の体験経過を仲間とともに振り返り、子どもの心に寄り添い保育について検討を深め、卒業研究とする。

学生の達成目標

1. 地域子育て支援の現場での実際の体験を通して、子ども・保護者を取り巻く様々な課題を学ぶ
2. 子ども参画の企画の策定、実施、モニタリングを通して、実際の保育力を身につける
3. 子ども支援の実際の体験の経過を報告書にまとめることを通して、子どもの心に寄り添う保育について検討する

授業内容

第1回 第1回～第5回
○授業の進め方や年間の見通しについての確認
○進路を含めた卒業研究の方向性についての個別面談
○参与観察の方法・記録について
第6回～第10回
○地域子育て支援の現場の視察
○子ども企画のための情報収集・企画の策定
○子ども企画の実施
○子ども企画の実施後の報告・討議・再策定

		○子ども企画の再実施 第11回～第15回 ○論文の構成・体裁・執筆方法について ○参与観察記録の方法について ○各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談 第16回 ○中間報告会Ⅰ 第17回～第22回 ○各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談 第23回 ○中間報告会Ⅱ 第24回～第29回 ○各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談 第30回 ○卒業研究発表会
予習・復習の内容	予習	子ども参画企画の策定および実施については、グループで協力し事前準備をしておくこと
	復習	実際の体験を踏まえて、子どもとのかかわりについて記録にまとめておくこと
	展開	現代の子ども・保護者が抱える課題について新聞やテレビなどで情報を得ること 参与観察の仕方や記録の取り方について、知識・理解をふかめておくこと
成績評価	評価の基準	卒業研究への努力、熱意、研究内容等を総合的に評価する
	評価の方法	参与観察における努力・熱意（30%） 子ども参画企画の取り組み評価（20%） 報告書の成果（40%） その他総合的に判断される努力・熱意（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（相磯）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（相磯）
科目責任者	相磯 友子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	50001010
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもを取り巻く様々な事象、課題の中から、自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定し、調査・研究活動に取り組む。中間発表や検討を行い卒業研究を作成する。
-----------	--

- | | |
|---------|--|
| 学生の達成目標 | <ol style="list-style-type: none">1. 興味関心と関連する文献調査から、研究テーマを設定する。2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。3. 研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ卒業研究を作成する。 |
|---------|--|

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーションで、授業の進め方を説明する。
		第2回～第4回	研究テーマについて、意見交換、文献調査等により理解を深める。
		第5回～第6回	研究テーマに基づいて、フィールドを検討し、決定する。
		第7回～第8回	研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する。
		第9回～第10回	中間発表を行う。
		第11回～第18回	フィールドで調査等を実施する。
		第19回～第21回	卒業研究の構成の検討と体裁、執筆方法の説

明を行う。
第 22回～第 26回 卒業研究を執筆する。
第 27回～第 29回 卒業研究を検討・修正する。
第 30回 卒業研究を提出する。

予習・復習の内容	予習	文献収集の方法を調べる。
	復習	自らの興味・関心に合わせて、文献を収集・整理し課題を明確にする。
	展開	研究成果をわかりやすくまとめプレゼンテーションする。
成績評価	評価の基準	卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（根本）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（根本）
科目責任者	根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	50001011
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもをとりまく様々な問題から興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い、卒業研究としてまとめる。
-----------	--

学生の達成目標	1.	ボランティア、実習など実際にに関わり、自ら問題意識を深める
	2.	研究テーマに基づき、資料を収集するなど研究を進める。
	3.	研究したテーマを論文にまとめる

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回～第4回 第5回～第6回 第7回 第8回～第9回 第10回～第18回 第19回～第20回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方） 総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について 一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討 課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定 参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討 各自の研究課題の発表・協議 参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等） 参観先の様子と課題設定についての発表（中
------	-----	--	--

	間発表)	
	第 21回	論文の構成・体裁と執筆方法について
	第 22回～第 23回	関係資料の収集・文献研究
	第 24回～第 28回	論文の執筆
	第 29回	論文の検討・修正
	第 30回	卒業研究論文の発表と協議
予習・復習の内容	予習	各自の研究テーマについて、日常的に関心を高め、資料収集に努める。
	復習	資料に基づき、自らの考えを深め考察をする。
	展開	中間発表などを通し、互いの研究を確認、再考する。
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 50%） 研究過程（ 30%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門基礎科目

授業科目名 キャリアガイダンス

科目責任者 佐藤 慎二

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12001105

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

○「人生」や「仕事」、更に「キャリア」、「働くこと」について、各職場で働く先輩の話、さらには、ビジネスマナー等の講習会、ワークシートでの演習等を通して学ぶ。

学生の達成目標

1. ○ありたい自分の将来像を描く。
2. ○具体的な仕事を選択する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション・ワークシートでの演習（自己理解他）
第2回 教育・保育の各職種及び試験準備の説明会(目標1. 2)
第3回 公務員試験講座 I－公務員の自覚(目標1. 2)

- 第4回 公務員試験講座Ⅱ－公立保育所の役割(目標1. 2)
第5回 公務員試験講座Ⅲ－保育者の在り方(目標1. 2)
第6回 教育採用試験講座Ⅰ－教育公務員の自覚(目標1. 2)
第7回 教育採用試験講座Ⅱ－教師の在り方(目標1. 2)
第8回 卒業生の話を聞く会(目標1. 2)
第9回 教員採用試験講座Ⅳ－特別支援学校(目標1. 2)
第10回 教育採用試験講座Ⅴ－通常の学校(目標1. 2)
第11回 就職活動・履歴書及び模擬面接講座(目標1. 2)
第12回 作文添削講座(目標1. 2)
第13回 公務員試験講座Ⅳ－公務員服務規程(目標1. 2)
第14回 ビジネスマナー講座(目標1. 2)
第15回 卒業オリエンテーション(目標1. 2)

予習・復習の内容	予習	○「キャリアガイドブック」の指定箇所を読んでおく こと。
	復習	○毎回の授業要旨をノート整理すること。
	展開	○公務員試験等の準備を自主的に進めること。
成績評価	評価の基準	先の達成目標に到達できたかで判断する。
	評価の方法	振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP304
開講年度	2014年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	特別支援教育原論
科目責任者	漆澤 恭子
担当教員	佐藤 慎二
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30004701
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援学校学習指導要領解説書などを参考に、特別支援教育の在り方を考える。 2. 講義を中心とするが、調査・発表・討論も取り入れる。
-----------	--

学生の達成目標	1. 特別支援教育に至る背景や関係法などを理解することができる 2. 特別支援教育の意義やその方法を理解することができる 3. 教師として特別支援教育をいかに進めるべきか具体的に考え意見を交換することができる
---------	--

授業内容	第1回 第1回～第5回 特別支援教育の意義 ①能力に応じる教育からニーズに応じる教育 ②インクルージョン教育への道程 …ノーマライゼーション、メインストリーミング、インテグレーション ③特別な教育的ニーズの理解 ④特別支援教育の対象と関連教育法規の確認 ⑤個別の教育支援計画の意義と実際 第6回～第10回 特別支援教育の方法 I ①特別支援学校の目的・機能・その実際
------	---

②特別支援学級の目的・機能・その実際 ③通級指導教室の目的・機能・その実際 第11回～第15回 特別支援教育の方法 II ①通常の学校における特別支援教育 ②特別支援教育コーディネーターと校内支援体制の構築 ③巡回指導他の様々な校外リソースとのコラボレーションの実際		
予習・復習の内容	予習	・特別支援学校等での実習体験をまとめておくこと
	復習	・指示されたレポート課題を期限までに提出すること
	展開	・特別支援教育関連の書物には日頃から目を通し、情報を収集しておくこと
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習態度 小テスト 定期テストから総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回資料を配付する。参考書を手元に置くことが望ましい。	
	書籍名	日本LD学会LD/ADHD等関連用語集
	著者名	日本LD学会編
	出版社	日本文化科学社
	価格	1190
推薦図書等	ISBN・ISSN	4-8210-7333-1
	書籍名	LD ADHD等関連用語集 第2版
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1190円
	ISBN・ISSN	ISBN4-8210-7333-1
参考URL		
備考		

障害教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育方法史

科目責任者 名古屋 恒彦

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35001001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

戦後の我が国の特別支援教育の理念等を知的障害教育の歴史の変遷を中心に理解する。その上で、今日の特別支援教育に普遍的に求められる理念や実践の在り方を歴史を通して理解する。

学生の達成目標

1. 戦後の障害教育方法の変遷過程を理解できる。
2. 戦後の知的障害教育の歩みを知り、その教育の目標・内容・方法の変遷を理解できる。
3. 今後の特別支援教育に求められる理念や実践の在り方を理解できる。

授業内容

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 第1回 | 第1回 知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」 |
| | 第2回 生活を大切にする教育の始まり |
| | 第3回 本物の生活づくりの徹底 |
| | 第4回 生活を大切にする教育の変容と後退 |
| | 第5回 生活主義教育批判・反省の総括的論点 |
| | 第6回 障害の重度化・重複化と知的障害教育 |
| | 第7回 障害の重度化・重複化と生活主義教育 |
| | 第8回 生活中心教育における生活単元学習の再興 |
| | 第9回 教育課程編成と学校生活づくり |
| | 第10回 学校生活の集団化と個別化 |

第11回 生活中心教育の総括的主張点 第12回 今日における知的障害教育方法の具体的展開① 第13回 今日における知的障害教育方法の具体的展開② 第14回 今日における知的障害教育方法の具体的展開③ 第15回 まとめと討論		
予習・復習の内容	予習	教科書に即して進行するので、事前に学習予定の教科書部分を読んでおくこと。
	復習	実施した内容について、必要に応じてノート等を参照しながら、教科書を再読し、理解を確認しておくこと。
	展開	知的障害教育の現在の実践について図書等で学び、歴史的背景との関連への理解を深める。
成績評価	評価の基準	戦後の我が国の特別支援教育の理念等を知的障害教育の歴史的変遷を中心に理解できるか、今日の特別支援教育に普遍的に求められる理念や実践の在り方を歴史を通して理解できるかを基準とする。
	評価の方法	試験70%，授業での発言等30%
教科書	書籍名	テーマのある学校生活 子ども主体の特別支援教育
	著者名	山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修
	出版社	コレール社
	価格	2,500円（税別）
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	なし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

障害者の人権と社会参加

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害者の人権と社会参加

科目責任者 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35001201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

共生社会の実現が言われる中、障害者が人として当たり前に行きわたる社会の実現は喫緊の課題であり、それを阻害する状況・条件や課題解決の方策等を学び、考え、理解を深めるとともに、障害者の支援者としての考え方・生き方を豊にする。

学生の達成目標

1. 障害者(特に知的障害者を中心に)の人権と社会参加の状況について、事例を通して、どのような問題と支援の仕組みがあるか、ライフステージに沿って理解する。

授業内容

第1回	第1回	障害者の人権と社会参加の動向(目標1)
	第2回～第3回	家族支援(障害の受容、相談支援)(目標1)
	第4回～第5回	成年後見制度(目標1)
	第6回～第7回	施設から地域生活への移行(目標1)
	第8回	警察による権利侵害(目標1)
	第9回～第10回	職場における権利侵害(目標1)
	第11回～第12回	地域生活を支えるしくみ(目標1)
	第13回～第14回	本人活動、地域でくらす人たち(目標1)
	第15回	差別禁止の法整備 まとめ(目標1)

予習・復習の内容	予習	発表事例について、参考文献・新聞報道等をもとに、発表資料の作成と発表内容の理解を深めるとともに、協議主題等について確認する。
	復習	講義・発表・協議等で出された課題等について、参考文献等で再学習・再確認し、一層の理解を深める。
	展開	関連する折り折りの報道や図書等に触れ、障害者の人権と社会参加について理解を深める。
成績評価	評価の基準	「障害者の人権と社会参」に関して、取り上げられた事例の問題点や今後に向けての課題等を理解すること。個々の事例に自分の考えをもち、的確に判断し、述べるができること。
	評価の方法	期末レポート40%、事例発表レポート40%、授業への参加姿勢20%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	「権利擁護・成年後見情報誌 Panda-j」
	著者名	
	出版社	NPO法人Panda-j
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	「感じ合い 分かり合い 支え合い」
	著者名	小出進著 日本生活中心教育研究会編
	出版社	自費出版
	価格	1000
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

社会福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 社会福祉論

科目責任者 根本 曜子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35001401

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別支援の現場で福祉支援の必要な子ども・家庭を理解し、適切な支援に結びつける知識、技術を身につける。

学生の達成目標

1. 現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何か、また社会福祉を支える理念について検討していく。
2. 社会福祉の政策的動向を踏まえつつ、ここでは特に児童、障害児者への生活支援を中心に引き上げつつ、検討していく。
3. ソーシャルサポートネットワークについての理解を深める。

授業内容

- | | | |
|-----|------|--------------------|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション |
| | 第2回 | 自分と社会福祉 |
| | 第3回 | 低所得者問題 ① |
| | 第4回 | 低所得者問題 ② |
| | 第5回 | 現代の家族について |
| | 第6回 | 障害のある子の保育 |
| | 第7回 | 社会的養護① |
| | 第8回 | 社会的養護② |
| | 第9回 | 学童保育について |
| | 第10回 | ノーマライゼーションについて |
| | 第11回 | 人権尊重について、自己選択・自己決定 |

第12回 地域に暮らすということ
第13回 障害のある子が地域に暮らす
第14回 障害のある子のいる家庭を地域で支える
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	普段から現代社会の現状や福祉問題に関心を持ち、関連した報道を理解する。
	復習	授業の中で課題として捉えた問題に関して、資料棟で再考する。
	展開	実際に問題をかかえる子ども、家庭を支援する知識、技術を習得する。
成績評価	評価の基準	障害者を支援する者として、福祉の理念、視点を理解し、考察して深め、意見として伝えることができる
	評価の方法	試験 50% レポート50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に指定なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育論

科目責任者 太田 俊己

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35001601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害のある幼児が幼稚園や保育所で共に生活する意義とよりよくするための保育のあり方を考え理解する。

学生の達成目標

1. 障害のある幼児が共に生活する意義を理解する。
2. 統合保育・インクルーシブ保育をよりよく進める保育について考え理解する。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーションと受講者の問題意識の紹介（目標1）
第2回 統合保育、障害児保育、インクルーシブ保育の考え方（目標1、2）
第3回 障害のいろいろと保育 その1（目標1、2）
第4回 " その2（目標1、2）
第5回 " その3（目標1、2）
第6回 実践現場参観 オリエンテーション（目標1、2）
第7回～第9回 統合保育の現場参観 （授業日と別日程）（目標1、2）

第10回 参観のふり返りと意見交換（目標1、2）
第11回 統合保育をめぐる諸問題 その1（目標1、2）
第12回 " その2（目標1、2）
第13回 保育からインクルーシブ教育システムへ（目標1、2）

予習・復習の内容	予習	いろいろな障害とその困難性について調べてみよう。障害幼児にとってよい保育とは何か考えておこう。
	復習	障害幼児がのびのびとすごす生活を送るために必要な支援とは何かを考えながら受講しよう。
	展開	幼児期が抱える課題と幼児期の意義を考えることはその後の時期の意義を考えることにつながる。それぞれの進路先との関連も考えてみよう。
成績評価	評価の基準	授業への参加と小レポート 30% 期末レポート 60% 実践参観への積極的な参加 10%
	評価の方法	授業への参加度・発言 授業中の小レポートでの目標達成評価 期末レポートでの目標達成評価 参観での積極的な姿勢
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	インクルーシブ保育っていいね
	著者名	小山望、太田俊己、加藤和成、河合高鋭
	出版社	福村出版
	価格	2200円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-571-12121-0
参考URL		
備考	できるだけ実践参観を行いたいと思います。日程調整等に協力してください。	

幼児の生理と健康

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 幼児の生理と健康

科目責任者 林 悠佳

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35004801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心に、運動実技や測定実習などを行いながら、生理学の基礎と幼児の健康に関わる基礎的な知識の理解を深める。

学生の達成目標

1. ヒトの発育発達の基盤となる幼児の健康において、身体運動と生理機能の相互関係を理論的に学習する。
2. また、実際の運動実践場面で、どのような生理的応答を示すか、実習を通して理解を深め、考察する。

授業内容

- 第1回
- 第1回 幼児の健康と環境
 - 第2回 幼児の身体的発達
 - 第3回 なぜ運動が必要か
 - 第4回～第5回 脳神経系機能
 - 第6回 呼吸・循環反応
 - 第7回 体温調節反応
 - 第8回 免疫とアレルギー
 - 第9回 体性感覚
 - 第10回 幼児の運動機能
 - 第11回 幼児の運動発達
 - 第12回～第14回 幼児の運動・遊び（実技・測定実習・考察）
 - 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	シラバスの授業内容について事前に調べておくこと。
	復習	授業で配布した資料を熟読する。
	展開	ヒトの生理機能や幼児の発育発達に興味や疑問を持ち、実際に身体を動かして理解を深める。
成績評価	評価の基準	学習態度，期末レポート等を総合して評価する。
	評価の方法	学習態度，期末レポート等を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要に応じてプリント等を配布する。	
推薦図書等	書籍名	なし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

発達障害と自閉症

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達障害と自閉症

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35005001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 疑似体験などを通じて、発達障害の子どもたちの感じ方や日常生活のストレスなどについて考える。
2. 実習の経験や授業参観、研究発表会への参加などを通して実践に役立つ教育方法を考え発表する。

学生の達成目標

1. 自閉症を中心とする広汎性発達障害の認知特性について理解を深める
2. LD、ADHD、高機能自閉症などについて理解を深める
3. 学習した事柄、教育実習での経験、研究発表会などで得た知見を通して具体的な教育方法を考える

授業内容

- | | | | |
|-----|---------|-------------------|------|
| 第1回 | 第1回 | 発達障害概論 | |
| | 第2～4回 | LD ADHD、高機能自閉症の理解 | |
| | 第5,6回 | 自閉症の理解 | |
| | 第7回 | 実態把握の方法 | |
| | 第8回 | 情緒障害：不登校と被虐待児 | |
| | 第9回 | アセスメントの基本 | |
| | 第10回 | 認知特性に配慮した教育方法 | 学習 |
| | 第11回 | 認知特性に配慮した教育方法 | 行動 |
| | 第12回 | 認知特性に配慮した教育方法 | 社会生活 |
| | 第13～14回 | グループ討論 | |

第15回 学習のまとめ

実習 現場実践 研究発表会 参観などの時期により順を入れ替えることもある

予習・復習の内容	予習	日頃より、発達障害について、関心を持ち、情報の収集に努めること
	復習	自分の実習、ボランティア体験をまとめ、学習した知識と関連づけておくこと。
	展開	研究所参観、授業参観等で積極的に新しい知識や教育方法などを学んでいくこと

成績評価	評価の基準	発達障害や自閉症について正しい知識を身につけていること、望ましい教育支援の方法を具体的に考え、発表できることを基準とする。
	評価の方法	授業参加態度 発表 提出物 を総合して評価する

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じて、参考図書を指示する。
-----	--

推薦図書等	書籍名	自閉症だったわたしへ / ペアレントトレーニング
	著者名	ドナ ウィリアムス / 上林靖子
	出版社	新潮社 / 講談社
	価格	2000 / 1300
	ISBN・ISSN	/978-4-06-259651

参考URL

備考

児童相談事例研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 児童相談事例研究

科目責任者 田村 光子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35005201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもの視点から暮らしを見る力を養い、地域子育て支援とその中で必要な相談支援について事例を通して考える

学生の達成目標

1. 地域子育て支援と相談支援について知る
2. 「子どもの貧困」をテーマに文献研究に取り組む
3. 実践的な地域子育て支援や障害のある子どもへの支援の現場に赴く

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス
第2回～第8回 子どもの視点から相談の必要性を知る
～「子どもの貧困」から
第9回～第12回 地域子育て支援の活動に見学・参観する
第13回～第15回 事例研究
～「いま求められる子育て支援」とは

予習・復習の内容

予習 事前に指示する内容についてレポートを作成する。
その内容について当日発表できるようにしておくこと。

復習 毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

	展開	子どもの貧困や社会的排除に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業への参加状況（３０％） レポートの作成（５０％） 授業への参加態度（２０％）
	評価の方法	授業への参加状況、態度、およびレポート提出等を総合して評価する
教科書	「子どもの貧困」「子どもの貧困白書」（明石書店）を参考とする	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害論

科目責任者 高倉 誠一

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30004901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

WHO（世界保健機構）が提唱した新しい障害観を基に、あたためて障害とは何か、障害をどう理解し、どう定義するかを検討する。さらに、新しい障害観に立って、障害への基本的対応のあり方について考える。

学生の達成目標

1. 障害の見方・考え方は、多様で多面的であることを知る。
2. 障害観は、個人に属する問題よりも、環境的側面を重視するようになったことを学ぶ。
3. 最新の障害定義を学び、新しい障害観に立つ、障害への基本的対応のあり方について考える。

授業内容

第1回	第1回～第3回	障害の三つの階層・側面－Impairments, Disabilities, Handicapsについて
	第4回～第5回	社会的不利益を重要視する障害観－障害を「社会的に負わされた不利益」ととらえる障害観。
	先	社会的不利益を最重要視し、それへの対応を最優先する教育観
	第6回～第7回	障害とは何か、障害をどう定義するか－発達に障害

		に 第 8 回～第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回～第 14 回 第 15 回 第 16 回	があって、そのため生じる社会的不利を解消する は、特別な教育的支援を必要とする状態 教育上問題にされる各障害－視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、内部障害、言語障害、自閉症、ADHD、LD等々 能力の劣弱と教育的対応－視力、聴力、知能、運動能力等が劣ることと、それらを支える対応 社会的不利と教育的対応－障害から生じる社会的不利と、社会的不利の解消を優先する教育。「できる状況づくり」としての支援 障害と関わる特別な教育的ニーズ－障害観と教育的ニーズ、障害と教育的ニーズ ICFの障害観と対応の変化 まとめ 試験
--	--	--	--

予習・復習の内容	予習	配付プリントや参考文献にあらかじめ目を通し、疑問点等を明らかにしておく。
	復習	授業内容のポイントについて整理をする。
	展開	新しい障害観をもとに、障害のある人への福祉・教育のありようを考える。

成績評価	評価の基準	授業参加の姿勢、レポート等課題の提出状況や期末テストの評点を基に、総合的に評価する。
	評価の方法	授業参加の姿勢10%、レポート等課題の提出状況10%や期末テストの評点80%を基に、総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
-----	---------------------------	--

推薦図書等	書籍名	ICF 国際生活機能分類
	著者名	世界保健機関（WHO）
	出版社	中央法規
	価格	3675
	ISBN・ISSN	4-8058-4417-5
	書籍名	発達障害指導事典第2版
	著者名	編集代表小出進
	出版社	学習研究社
	価格	
	ISBN・ISSN	4-05-401096-2
	書籍名	知的障害 定義、分類および支援体系

著者名	AAMR米国精神遅滞協会
出版社	日本知的障害者福祉連盟
価格	6000
ISBN・ISSN	4-902448-0107

参考URL

備考

障害教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育課程論

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35007001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校学習指導要領及び解説書を中心教材として教育課程編成の基礎的理解を深める。
2. 講義を中心とするが、特別支援学校・特別支援学級等を実際に参観・体験したり調べたりして、障害種別ごとの教育課程編成の在り方と特色について理解する。
3. 望ましい教育課程の編成について、自分なりに考察する。

学生の達成目標

1. 教育課程の基準（特別支援学校学習指導要領等）についての基礎的理解を深める。
2. 県内の特別支援学校を中心に、教育課程編成について調べ、その特色について確認し理解を深める。
3. 望ましい教育課程の在り方について、自分の考えをレポートとしてまとめ、発表し合いより理解を深める。

授業内容

- 第1回 第1回～第5回 <学習指導要領における教育課程の基準>（目標1・2）
- ① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係
 - ② 特別支援学校学習指導要領の特色
 - ③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容
 - ④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。
 - ⑤ 特別支援学級の教育課程

第 6 回～第 13 回　＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標 1・2）
①　県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。
②　特別支援学級についても同様に行う。
第 14 回～第 15 回　＜望ましい教育課程編成の在り方＞（目標 1・2・3）

第 13 回までの授業を踏まえて、望ましい教育課程について発表を行う。（目標 1・2・3）

予習・復習の内容

予習	授業内容に合わせて、特別支援学校学習指導要領及び解説書に目を通し、下調べをするとともに疑問点等をまとめておく。
復習	授業内容に応じて、教育課程編成の在り方や特色について、必要に応じて関係文献や参観校の資料等で再確認し、より理解する。
展開	特別支援学校の教育実習等で、学んだことや調べたことを活かし、スムーズに実習に取り組めるようにするとともに理解を深める。

成績評価

評価の基準	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
評価の方法	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。

教科書

書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
著者名	文部科学省
出版社	海文堂
価格	4 4 0 円
ISBN・ISSN	

書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
著者名	文部科学省
出版社	海文堂
価格	4 5 0 円
ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	新しい教育課程と学習活動Q & A
	著者名	全国特別支援学校知的障害教育校長会
	出版社	東洋館出版社
	価格	1 . 8 0 0 円
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

障害教育指導法研究Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育指導法研究Ⅰ

科目責任者 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30005001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別支援学校(主に知的障害教育)における指導法について体験的に学び、子どもに寄り添う支援の在り方を学ぶ。

学生の達成目標

1. ○知的障害教育の指導法の理解
2. ○遊びの指導の計画・展開・評価を実際に行う。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 教育課程と指導法概説(目標1) |
| | 第2回 教育課程・指導計画と個別の指導計画(目標1) |
| | 第3回 個別の指導計画と授業計画(目標1) |
| | 第4回 個別の指導計画と個別移行支援計画、個別の教育支援計画(目標1) |
| | 第5回 学校生活づくりと「できる状況づくり」(目標1) |
| | 第6回 知的障害教育に関連する様々な指導法・指導技法の概説(目標1) |
| | 第7回 知的障害教育と「合わせた指導」(目標1) |
| | 第8回 「遊びの指導」の理論(目標1.2) |
| | 第9回 「遊びの指導」の実際の展開の要因(目標1.2) |
| | 第10回 遊び場の構想の流れ(目標1.2) |
| | 第11回 遊び場づくりの実際(目標1.2) |
| | 第12回 子どもを招待して遊ぶ(目標1.2) |
| | 第13回 子どもの遊びを高めるための補助的遊具・教師の支援(目 |

標 1.2)

第14回 遊び場の片付け(目標 1.2)

第15回 「遊びの指導」の有用性の検証・評価(目標 1.2)

予習・復習の内容	予習	遊びの指導に関心をもち、図書館の書籍や雑誌に事前に目を通して おくこと。
	復習	授業の要点をまとめておくこと。
	展開	ボランティアに際して、子どもとの遊びの中で確かめること。
成績評価	評価の基準	指導法の理解度及び遊びの指導の計画・展開・評価の習得度
	評価の方法	授業参加の意欲、レポート等の内容を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要に応じて資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育指導法研究Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育指導法研究Ⅱ

科目責任者 山本 邦晴

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30005101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援教育の理念について学び、全ての学校（通常学級～特別支援学校）で特別支援教育を推進・充実を図る必要について理解する
2. 教育実習の事前・事後において、学習指導案の作成及び具体的な指導・支援の方法等を協議検討し、より理解を深める。

学生の達成目標

1. 特別支援教育の理念を学び、多様な場で特別支援教育が展開され、適切な指導・支援体制の確立について理解を深める。
2. 子どもたちが生き生きと取り組む授業づくりを想定して、学習指導案を作成及び模擬授業を行い、実践的に理解を深める。
3. 各校の公開研究会等に参加して、実際の教育現場の授業づくりから学び、より理解を深める。

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 第1回 「特別支援教育」の理念について（目標1） |
| | 第2回 個別の指導計画（目標1・2） |
| | 第3回～第6回 学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1・2・3） |
| | 第7回～第11回 学習指導案の作成（目標1・2・3） |
| | 第12回～第14回 模擬授業と協議（目標1・2・3） |

第15回 まとめ（目標1・2・3）
※実習、研究会などの時期により、順を入れ替えることがあります。

予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、関係文献や資料等に目を通して理解を深めるとともに疑問点等をまとめる。
	復習	授業内容に応じて、関係文献や資料等で再確認し、より確実に理解を深める。
	展開	実習の事前・事後において、学習指導案の作成や模擬授業を行い、活用できるようにする。

成績評価	評価の基準	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
-----	---------------------------

推薦図書等	書籍名	「特別支援の「子ども理解」」
	著者名	太田俊己 高倉誠一 中坪晃一 監修
	出版社	K & A
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP402

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育 I

科目責任者 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30005901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別支援学校教諭2種免許状取得の必修科目であり、知的障害教育に関する歴史的変遷や現状及び学習指導要領と教育課程の考え方・編成等について学び、知的障害教育の在り方や進め方について理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の歴史的変遷や現状について理解する。
2. 知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解する。
3. 知的障害特別支援学校・特別支援学級における望ましい教育課程編成について自分の考え定める。

授業内容

- 第1回 知的障害教育の歴史的変遷と現状等(目標1)
第2回 知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成(目標2)
知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順(目標2)
第3回 知的障害教育の教育課程の特色(目標1・2・3)
知的障害特別支援学級の教育課程(目標1・2・3)
第4回 知的障害教育における教科の指導(目標1・2・3)
第5回 知的障害教育と自立活動(目標1・2・3)

第6回 知的障害教育と特別活動・「総合的な学習の時間」 (目標1・2・3) 第7回 個別の教育支援計画と個別の指導計画(目標1・2・3) 第8回 知的障害特別支援学校・特別支援学級の望ましい教育課程 編 成、まとめ(目標3)		
予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、特別支援学校学習指導要領等教科書に目を通し、理解を深めるとともに、不明な点・疑問点等を確認する。
	復習	授業内容に応じ、知的障害教育の在り方や進め方について、関係文献や実習校の教育課程資料を調べ再確認をし、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の実習事前・事後に、実習校の教育課程について特色等を理解、説明する。
成績評価	評価の基準	知的障害教育の教育課程に等に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること、授業内容を基に自らの考えをもち、それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末テスト80%、授業への参加姿勢20%（小テスト等を含む）。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q&A」
	著者名	千葉大学教育学部附属特別支援学校
	出版社	K&H
	価格	1900(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN4-9901197-6-2 C3037
	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	450(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902

推薦図書等	書籍名	「生活中心教育の理念と方法」
	著者名	小出進
	出版社	K&H
	価格	1900(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-9901197-2-0 C3037
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	740(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0906
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	200(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0903
参考URL		
備考		

知的障害教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP406

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育Ⅱ

科目責任者 山本 邦晴

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、実習経験や参観等を踏まえ、協議・発表も取り入れる。実際の授業場面のDVD等も多く活用し、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の指導法の特徴である「合わせた指導」について理解する。
2. 「合わせた指導」の生活単元学習や作業学習等の計画と指導の実際について、その在り方と進め方の理解を深める。
3. 知的障害特別支援学校・特別支援学級の進路指導・キャリア教育の在り方や進め方について、卒業後の課題等も含め理解を深める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 知的障害とは何か？改めて、考える！（目標1・2・3）
第2回 「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方（目標1・2・3）
第3回 生活単元学習の計画と指導の実際1（目標1・2）
第4回 生活単元学習の計画と指導の実際2（目標1・2）
第5回 遊びの指導の計画と指導の実際（目標1・2）
第6回 作業学習の計画と指導の実際（目標1・2・3）

第7回 日常生活の指導の計画と指導の実際（目標1・2）

第8回 進路指導・キャリア教育と卒業後の課題（目標3）

予習・復習の内容	予習	教科書として使用している「知的障害教育・基礎知識Q & A」等に通し予備知識を備えるとともに、疑問点等を自分なりにまとめておく。
	復習	毎授業の終わりに、授業の要点を確認するとともに、必要に応じてレポートの提出や小テストを行い、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の教育実習の精練授業等に向けて、指導案の作成や教材・教具の工夫などについて調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、必要に応じて実施する小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への取り組み態度、必要に応じて行う小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。

教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q & A」
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
	出版社	K & H
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版株式会社
	価格	440円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版株式会社
	価格	450円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版株式会社

価格	7 4 0 円
ISBN・ISSN	
書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版株式会社
価格	2 0 0 円
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP308

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 肢体不自由教育

科目責任者 小久保 元

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
30006101
30006102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
2. 肢体不自由児の視点に立って教育活動を考える。
3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

学生の達成目標

1. 特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知る。
2. 教育職として必要な心構を身につけるために教育内容や指導方法について学ぶ。

授業内容

第1回	第1回 肢体不自由の子どもについて考える(講義及びレポートの視点として)(目標1, 2)
第2回	子ども観・指導観・教育観(目標1)
第3回	子どもの自立と学力について考える(目標1, 2)
第4回	子どもの自立と個別の教育支援計画が果たす役割(目標1, 2)
第5回	子どもの自立と個別の指導計画作成の視点(目標2)
第6回	子どもの自立と個別の指導計画の活用のしかた(目標2)
第7回	肢体不自由児の教育課程と学習指導要領の関係(目標1, 2)
第8回	学習活動(教科)(目標2)
第9回	学習活動(総合的な学習)(目標2)

第10回 学習活動（自立活動・個の成長）（目標 1， 2） 第11回 学習活動（自立活動・コミュニケーション）（目標 1， 2） 第12回 コミュニケーション支援の具体的な方法（目標 1， 2） 第13回 医療的ケア（現状と課題）（目標 1） 第14回 医療的ケア（実践-教育としての取組み）（目標 2） 第15回 訪問教育（目標 1， 2）		
予習・復習の内容	予習	肢体不自由児の生活について考えたり，調べておくこと。（困難さ，不便さについて）
	復習	毎回の授業の要旨をまとめ，自身の考えとしてレポートにすること。
	展開	肢体不自由児の学習観を確立させるための工夫や実際を実践報告や研究成果で調べ知識や理解を深めると同時に教育観を練る。
成績評価	評価の基準	肢体不自由児教育について授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。特別支援教育のあり方について，自らの考えを持ち，それを教育観としての確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回提出するレポートの内容(70%)授業への姿勢(30%)等を考慮し，総合的に判断する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書を用いずに必要な資料を毎回配布する。	
推薦図書等	書籍名	新たな肢体不自由教育実践講座
	著者名	全国肢体不自由養護学校長会編著
	出版社	ジアーズ教育新社
	価格	
ISBN・ISSN		
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング SSP403

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論

科目責任者 根本 匡文
伊藤 和男

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

視覚障害教育総論（伊藤 和男）

見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。

聴覚障害教育総論（根本匡文）

聴覚障害に関する生理・病理・心理面からの理解を基盤として、聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な資質を養う。

学生の達成目標

1. （伊藤和男）
視覚障害教育を概括的に学習し、視覚障害児の特性と指導法を理解する。
2. 特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。
3. （根本匡文）
聴覚障害の現れ方、聴覚障害幼児・児童・生徒のコミュニケーションの方法について理解する。
4. わが国の聴覚障害教育の状況を理解し、教育と支援のあるべき姿を考える。

授業内容	第1回	(伊藤和男)
	第1回	【視覚障害教育の概要】 視覚機構と視覚障害 視機能の検査（教育的評価） 視覚障害児童生徒の実態と教育の場
	第2回	【教育課程と指導法】 教育課程・指導計画の作成 盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮 視覚障害児のための教材・教具（教科書）
	第3回	【自立活動の基本と指導】 視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 特設時間における指導の進め方と指導内容
	第4回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害幼児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害幼児の援助
		(根本匡文)
	第1回	生理・病理・心理面からの聴覚障害の理解（目標3） 聴覚器官の構造 聴覚障害の原因と分類 聴力レベルとオーディオグラム 聴覚補償の方法 活動の制限・参加の制約の状況
	第2回	聴覚障害幼児・児童・生徒のコミュニケーションの方法（目標3） 言語の構成要素 聴覚障害者の言語 手話の種類と特徴 指文字 聴覚口話法 トータルコミュニケーション バイリンガル・バイカルチュラルアプローチ
	第3回	聴覚障害者を対象とする特別支援学校における教育（目標4） わが国の聾学校の概況 就学前指導・乳幼児教育相談における支援 幼稚部・小学部・中学部・高等部の教育内容と方法
	第4回	聾重複障害児童・生徒の教育，通常の学校で学ぶ聴覚障害児 児童・生徒の支援（目標4） 聾知的障害児童生徒・盲聾児童生徒の教育 聾重複障害者における言語の役割 難聴学級・通級指導教室における支援 通常の学級における支援 難聴児童生徒への対応の実際

予習・復習の内容	予習	(伊藤和男) 予めテキストを読み、関連事項を図書館等で調べるなどして授業に備える。 (根本匡文) 聴覚障害者や聴覚障害教育について日ごろから関心を持ち、関連する図書を読んだり、関連する報道について理解しておく。
	復習	(伊藤和男) 授業で配布されたプリントやノートを読み直すと共に、実践例などを視覚特別支援学校のホームページや関連参考書で確認して定着を図るように心がける。

	展開	(根本匡文) 授業中に配布された資料をもとにして、毎回の授業の要旨をまとめておく。
		(伊藤和男) それぞれが興味を持った内容について、視覚障害教育の専門書により、さらに学習を深める。
成績評価		(根本匡文) 授業中に関連する図書を紹介するので、精読して聴覚障害者や聴覚障害教育に関する理解を深める。
	評価の基準	(伊藤和男) 視覚障害児の特性を理解したうえで、視覚障害教育における自立活動や教科指導の基本的な事項を習得することを目的に行う指導であることから、その学習に対する意欲や態度、理解度などを総合的に勘案して評価する。
		(根本匡文) 聴覚障害の現れ方や聴覚障害幼児・児童・生徒の教育について、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること、および、授業内容をもとにして聴覚障害教育のあり方について自らの考えを持ち、それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	(伊藤和男) 出席時数40点、レポート60点、合計100点として評価する。
教科書		(根本匡文) 毎回の授業時に提出する小レポート40%、最終レポート60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
	書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
	著者名	香川邦生 編著
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	
推薦図書等	ISBN・ISSN	
	書籍名	改訂版聴覚障害教育の基本と実際
	著者名	中野善達・根本匡文
	出版社	田研出版
	価格	2500円+税
参考URL	ISBN・ISSN	9784860890186
備考		

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP404
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	学習障害・重複障害等教育総論
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	30006401
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、幼稚園教諭免許状取得のための特別支援学校での実習経験や参観をふまえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして理解を深める。		
学生の達成目標	1.	LD、ADHD、広汎性発達障害などの障害特性について基本的な理解を図る	
	2.	重複障害について基本的な理解を図る	
	3.	望ましい教育的支援の方々について学ぶ	
授業内容	第1回	第1回	発達障害の理解
		第2回	学習障害の基本的理解
		第3回	学習障害の教育的支援
		第4回	ADHDの基本的理解
		第5回	ADHDの教育的支援
		第6回	自閉症を中心とする広汎性発達障害の理解と支援
		第7回	重複障害の理解と教育的支援の方法（特別支援学校での教育実践を中心に）
		第8回	学習のまとめ

予習・復習の内容	予習	1年次に学んだ障害関係の授業について復習をしておくこと
	復習	協議で出た意見については聞き流すことなくまとめておくこと
	展開	日頃からLD、ADHD、自閉症等に関連する書物には目を通しておくこと
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習態度 提出物 定期試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	書籍名	LD ADHD等関連用語集
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1190円
	ISBN・ISSN	isbn4-8210-7333-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育研究Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育研究Ⅰ

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35008001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害を持つ子どもも含めた子どもたち一人ひとりが見たり感じたりする枠組みについて共感的に理解することを通して、保育者の専門性について考える。

学生の達成目標

1. 事例研究や制作、体験活動を通して、障害を持つ子どもも含めた子どもたち一人ひとりに合った援助について考え、インクルーシブ保育の理解を深める。
2. 幼児における障害理解について学ぶ。

授業内容

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価について |
| 第2回 | インクルーシブ保育における「遊び」とは（1）（目標1） |
| 第3回 | インクルーシブ保育における「遊び」とは（2）（目標1） |
| 第4回 | インクルーシブ保育における「遊び」とは（3）（目標1） |
| 第5回 | 季節を感じる・時間の流れを感じる（1）（目標1） |
| 第6回 | 環境による保育とは（1）（目標1） |
| 第7回 | 環境による保育とは（2）（目標1） |
| 第8回 | 障害理解教育とは（1）（目標2） |
| 第9回 | 障害理解教育とは（2）（目標2） |
| 第10回 | インクルーシブ保育の実践（1）（目標1.2） |
| 第11回 | インクルーシブ保育の実践（2）（目標1.2） |
| 第12回 | インクルーシブ保育の実践（3）（目標1.2） |

第13回 インクルーシブ保育の実際（4）（目標1.2）
第14回 季節を感じる・時間の流れを感じる（2）（目標1）
第15回 まとめ（目標1.2）

予習・復習の内容	予習	子どもや保育について関心を持ち、必要に応じて調べる。
	復習	授業で配布されたプリントを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	特別支援学校での教育を保育の視点から見つめ学びを深める。
成績評価	評価の基準	・積極的に授業に参加している ・意見を交換しながら課題に対する理解を深めることができる ・授業の内容を理解することができる ・課題に対する自己の考えを適切に述べるができる
	評価の方法	授業への取り組み態度35% 授業で取り上げた内容の理解65%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育研究Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育研究Ⅱ

科目責任者 田村 光子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35008101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「まち」と「子ども」をテーマに子ども主体の生活づくりにおける地域との連携について考える。障害のある子どもの地域での生活支援に参加し、必要な支援について考える。

学生の達成目標

1. 子ども主体の生活の視点を学ぶ
2. 実践を通して、地域における子どもへの支援について考える

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス
第2回～第8回 子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から
第9回～第12回 地域子育て支援の活動に見学・参観する
第13回～第15回 事例研究 いま求められる子育て支援とは

予習・復習の内容

予習 事前に指示する内容についてレポート作成する。
その内容について当日発表できるようにしておくこと。

復習 毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

展開	子ども主体の生活づくりや地域子育て支援に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
----	--

成績評価

評価の基準	出席 15% レポート 80% その他加点 5%
評価の方法	授業の出席を重視する。また授業を通してのレポート作成、提出を重視する。

教科書

「子どもの道くさ」（東信堂）を参考図書とする

推薦図書等

参考URL

備考

統合保育研究Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育研究Ⅲ

科目責任者 黒田 静江

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35008201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育・教育現場における音楽活動・音楽療法の果たす役割を考え、指導法を研究したり、指導計画立案・発表・討議を行う。また統合保育が行われている保育現場へ見学参加実習に行き、統合保育に対する理解を深める。

学生の達成目標

1. 音楽療法についての様々な指導法を学び、指導計画立案・発表を通して、実践力を養う。
2. 感覚統合を目指すリズム運動について学ぶ。
3. 統合保育がどのように行われているのかを理解する。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション
- 第2回 音楽教育の目的・保育現場での音楽活動（目標1）
- 第3回 音楽療法（1）音楽療法とは何か（目標1）
- 第4回 音楽療法（2）音楽療法と障害児（目標1）
- 第5回 音楽療法（3）身体接触遊び・模倣遊び（目標1）
- 第6回 音楽療法（4）粗大運動・協応動作（目標1）
- 第7回 音楽療法（5）2人組遊び・集団遊び（目標1）
- 第8回 音楽療法（6）楽器操作（楽器遊び）（目標1）
- 第9回 音楽療法（7）合奏（目標1）
- 第10回 感覚統合を目指したリズム運動（目標2）
- 第11回～第12回 幼稚園での統合保育（観察参加実習）（目標

3)
第13回～第14回 幼稚園での統合保育（観察参加実習）（目標
3)
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	簡単な音楽をピアノで弾けるようにしたり，指導計画発表のための準備をする。
	復習	学習内容をノートにまとめたり，弾けるようになったピアノ曲を時々弾いてみる。
	展開	

成績評価	評価の基準	レポート・研究発表・授業への参加態度などを総合的に評価する。
	評価の方法	レポート（40%） 研究発表（40%） 授業への参加態度（20%）

教科書	書籍名	子どもの豊かな世界と音楽療法－障害児の遊び&コミュニケーション
	著者名	加藤 博之 著
	出版社	明治図書
	価格	1,800円＋税
	ISBN・ISSN	4-18-058772-X

推薦図書等	書籍名	子どもの世界をよみとく音楽療法
	著者名	加藤 博之 著
	出版社	明治図書
	価格	2,400円＋税
	ISBN・ISSN	10-4180584204

推薦図書等	書籍名	必ずラポールは築ける50のリズム歌あそび
	著者名	城谷 敬子 著
	出版社	あおぞら音楽社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	10-4904437020

参考URL	
-------	--

備考	
----	--

修了研究 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究 I

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009101

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・ 幼児の運動や健康に関する内容など、各自が自ら設定したテーマで研究に取り組み、修了研究をまとめる。

学生の達成目標

1. 自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定していく。
2. 調査・研究活動に取り組む。
3. 発表・協議を重ね、報告書にまとめていく。

授業内容

第1回	第 1 回	オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標 1）
	第 2 回～第 3 回	一人ひとりの関心等について意見交換し、課題設定について検討する。（目標 1）
	第 4 回～第 33 回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。（目標 2）
	第 34 回	各自の研究課題の発表・協議（目標 2・3）
	第 35 回～第 49 回	関係資料の収集・文献研究（目標 2・3）
	第 50 回	中間発表（目標 2・3）
	第 51 回～第 52 回	論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標 3）
	第 53 回～第 57 回	論文の加筆過程での相談支援（目標 3）

第 58回～第 59回 論文の加筆・修正 論文の提出（目標 3）
第 60回 修了研究発表会（目標 3）

予習・復習の内容	予習	関連する図書を読んだり、報道について理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	取り組みへの姿勢を考慮し、研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	修了研究（60％）・研究過程（20％）・授業への参加態度（20％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自のテーマに合わせて、参考書籍を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究Ⅱ

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009102

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

地域での子育て支援および相談支援にかかわる研究テーマを設定し、各自研究に取り組み、修了研究としてまとめる。

学生の達成目標

1. 実際の生活の場にかかわりをもって、自ら問題意識を深める
2. 個別の支援・指導を基本に、中間発表会等全体で集まる機会を適宜設ける

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション（修了研究の進め方）。
	第2回～第3回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
	第4回～第33回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
	第34回	各自の研究課題の発表・協議。
	第35回～第49回	関係資料の収集・文献研究。
	第50回	中間発表
	第51回～第52回	論文の構成・体裁、執筆方法等について。
	第53回～第57回	論文の加筆過程での相談支援。
	第58回～第59回	論文の加筆・修正。論文の提出
	第60回	修了研究発表会

予習・復習の内容	予習	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組み、わかったことについてまとめておくこと。
	復習	経過的指導を受けられるようにまとめておく。 また、指導を受けた内容についても、ポイントを整理し、論文に加筆・修正できるようにしておく。
	展開	中間発表では、これまで研究の経過や明らかにしたい研究目的について明確にしておくこと。
成績評価	評価の基準	レポート作成過程（３０％） レポート内容（４０％） 授業への参加態度（３０％）
	評価の方法	レポートの作成過程とその内容
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	随時参考文献など紹介する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究Ⅲ

科目責任者 高倉 誠一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009103

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って修了研究をまとめ、障害児者の支援について理解を一層深める。

学生の達成目標

1. 知的障害のある子ども、青年、大人の生活の場―幼稚園、保育所、特別支援学校、各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア等を積み重ねて、生活の整え方や障害のある人への支援について理解を深める。
2. 各自が設定したテーマに沿って、論文してまとめる

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表。
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。
第60回 修了研究発表会。

予習・復習の内容	予習	設定したテーマにそって、参考文献をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うと共に、ボランティア活動等、調査研究活動を行い、実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・結果・考察等の妥当性・成果及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		特になし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究Ⅳ

科目責任者 佐藤 慎二

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009104

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する。
2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行うことを重視する。

学生の達成目標

1. 保育や教育の場、あるいは、学校教育卒業後の場における、発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症等）、知的障害等のある子ども・青年の理解や支援に関連したテーマで実践研究に取り組み、修了研究をまとめる。

授業内容	第1回	第1回　オリエンテーションー修了研究の進め方や年間の見通しについての確認(目標1)
	第2回～第4回	各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談(目標1)
	第5回～第8回	修了研究のテーマ, その構成の仕方, 執筆方法についてのモデルの提案と検討(目標1)
	第9回～第30回	資料収集・文献研究(目標1)
	第31回	各自の研究課題の発表と協議(目標1)
	第32回～第49回	資料整理・論文執筆(目標1)
	第50回	中間発表会(目標1)
	第51回～第59回	論文の加筆・修正・提出(目標1)
	第60回	修了研究発表会(目標1)
予習・復習の内容	予習	○積極的に関連の資料を収集する。 ○自発的に収集した資料をまとめる。
	復習	授業で確認された点をすぐに論文作成に反映すること。
	展開	自発的に周辺領域の文献・資料にあたること。
成績評価	評価の基準	修了研究への意欲・熱意, 修了研究の成果等を総合的に評価する。
	評価の方法	修了研究への意欲・熱意, 修了研究の成果等を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	学生のテーマに合わせて, 参考文献・資料等を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究Ⅴ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究Ⅴ

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009105

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園、保育所等の子どもの生活や保育者の援助に関する研究テーマを設定し、研究活動に取り組み、論文の作成を通してテーマに関連する知識・理解を深める。

学生の達成目標

1. 各自の興味関心と関連する文献調査から、研究テーマを設定する。
2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。
3. 発表・協議を重ね、修了研究を作成する。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）
第2回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討する（目標1）
第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討する（目標1）
第4回～第 33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む（目標2）
第 34回 各自の研究課題の発表・協議（目標2）
第 35回～第 49回 関係資料の収集・文献研究（目標2）
第 50回 中間発表（目標3）
第 51回 論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標3）
第 52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標3）
第 53回～第 57回 論文の加筆過程での相談支援（目標3）

第 58回 論文の加筆・修正（目標3）
第 59回 論文の加筆・修正 論文の提出（目標3）
第 60回 修了研究発表会（目標3）

予習・復習の内容	予習	各自の研究テーマを明確にするために、関心のあることについて調べる。
	復習	研究テーマに関する進捗状況や毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	課題を見つけて対応していく態度を身につけ、卒業後保育・教育現場でテーマを持って取り組めるようにする。
成績評価	評価の基準	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	修了研究の内容と作成過程70% 発表、討論への参加状況等30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究Ⅵ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究Ⅵ

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009106

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもの音楽や表現活動に関する研究テーマを設定し、文献や保育・教育現場でのボランティア等から、情報収集して分析・検討を行い、報告書にまとめる。保育・教育の場に関わりをもって、自らの問題意識を高めることを重視する。

学生の達成目標

1. 各自が抱いている問題意識や関心事の中から、研究テーマを設定し、様々な情報収集を行う。
2. 保育・教育現場での実習やボランティアなどを経験しながら研究を深める。
3. 研究結果を適切にまとめる。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション（修了研究の進め方）
	第2回～第3回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討（目標1）
	第4回～第33回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む（目標1・2）
	第34回	各自の研究課題の発表・協議（目標3）
	第35回～第49回	関係資料の収集・文献研究（目標1・2）
	第50回	中間発表（目標3）
	第51回～第52回	論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標3）

第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援（目標3）
第58回～第59回 論文の加筆・修正論文の提出（目標3）
第60回 修了研究発表会（目標3）

予習・復習の内容	予習	興味や関心のあることに関連した著書を読んだり，情報収集を行う。		
	復習	発表・討議を通して学んだことや気づいたことを整理し，積極的に研究活動を行う。		
	展開			
成績評価	評価の基準	自分なりにテーマに向き合い，努力して研究を進められたか。また意見や助言を受けとめ意欲的に研究できたかなども考慮し，研究報告の成果を総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（50%）	研究過程（30%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	各自のテーマに合わせて，参考文献を紹介する。			
推薦図書等	書籍名	よくわかる卒論の書き方		
	著者名	白井 利明 著		
	出版社	ミネルヴァ書房		
	価格	2,500円＋税		
	ISBN・ISSN	10-4623065723		
参考URL				
備考				

修了研究Ⅶ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究Ⅶ

科目責任者 中坪 晃一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009107

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って修了研究をまとめ、障害児者支援についての理解を一層深める。

学生の達成目標

1. 知的障害等のある子どもや青年・大人の生活の場－特別支援学校や各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア活動等を積み重ね、生活の整え方や障害のある人の支援のありようについて理解を深める。
2. 各自が設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。

授業内容	第1回	第 1 回	オリエンテーション（修了研究の進め方）。（目標1）
		第 2 回～第 3 回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。（目標1）
		第 4 回～第 33回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
		第 34回	各自の研究課題の発表・協議。（目標1・2）
		第 35回～第 49回	関係資料の収集・文献研究。（目標1・2）
		第 50回	中間発表。（目標1・2）
		第 51回～第 52回	論文の構成・体裁、執筆方法等について。（目標1・2）
		第 53回～第 57回	論文の加筆過程での相談支援。（目標1・2）
		第 58回～第 59回	論文の加筆・修正。論文の提出。（目標1・2）
		第 60回	修了研究発表会。（目標1・2）
予習・復習の内容	予習	設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査研究活動の事前準備を行い、実際の状況を把握する。	
	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。	
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連するテーマや他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。	
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。	
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10% 調査研究活動への取り組み10%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。	
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
	特に用いない。必要な資料・文献等を適宜紹介する。		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

修了研究Ⅷ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究Ⅷ

科目責任者 相磯 友子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009108

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別なサポートを必要とする子ども・青年・成人に関する事象について、各自が設定したテーマで研究活動に取り組み、論文の作成と通してテーマに関連する知識・理解を深める。調査等の実施方法、論文の作成方法を習得する。

学生の達成目標

1. 興味関心と関連する文献調査から、研究テーマを設定する。
2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。
3. 研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ修了研究を作成する。

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）
	第2回～第3回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討
	第4回～第33回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む
	第34回	各自の研究課題の発表・協議
	第35回～第49回	関係資料の収集・文献研究
	第50回	中間発表
	第51回～第52回	論文の構成・体裁、執筆方法等について
	第53回～第57回	論文の加筆過程での相談支援
	第58回～第59回	論文の加筆・修正、論文の提出
	第60回	修了研究発表会
予習・復習の内容	予習	文献収集の方法を調べる。
	復習	自らの興味・関心に合わせて、文献を収集・整理し課題を明確にする。
	展開	研究成果をわかりやすくまとめプレゼンテーションする。
成績評価	評価の基準	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究IX

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究IX

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009109

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を中心に行うが、全体での検討会も適宜設けお互いの研究視野を広げる。

学生の達成目標

1. 通常の学級における特別な教育支援を必要とする子供たちへの対応および学級経営に関連した内容について、各自が設定したテーマで研究活動に取り組み修了研究としてまとめる

授業内容

- 第1回
- 1 オリエンテーション(修了研究の進め方)
 - 2～3 一人一人の関心などについて意見交換をし、課題設定について
 - 4 構成の仕方、執筆方法などについて
 - 5～33 テーマに基づく参観や資料収集
 - 34 各自の研究課題の発表・協議
 - 35～49 関係資料の収集・文献研究
 - 50 中間発表
 - 51～59 論文の加筆・修正・提出
 - 60 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習 自身の研究の目的を明らかにし、それに向かって進めること

	復習 協議で出た意見についてまとめ、様々な見方、考え方を知ること 協議では、自分の論説が他にわかりやすいかどうか、正しく伝わるかなども確認する
	展開 研究にあたっては、仮説を持ち臨むこと 常に情報を収集すること
成績評価	評価の基準 取り組みの姿勢 論理性 論文構成
	評価の方法 研究活動の態度、論文内容、成果などを総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要とする参考文献等は紹介する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

修了研究 X

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究 X

科目責任者 根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009110

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもをとりまく様々な課題の中から、興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い、修了研究としてまとめる。

学生の達成目標

1. 実習、ボランティアなど実際にに関わり、自ら問題意識を深める。
2. 研究テーマに基づき、資料を収集するなど研究を進める。
3. 研究したテーマを論文にまとめる。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表。
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出
第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容	予習	各自の研究テーマについて、日常的に関心を高め、資料収集に努める。		
	復習	資料に基づき、自らの考えを深め考察をする。		
	展開	中間発表などを通し、互いの研究を確認、再考する。		
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 50%）	研究過程（ 30%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	なし			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

修了研究（山本）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究（山本）

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009111

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って修了研究をまとめ、障害児者支援についての理解を一層深める。

学生の達成目標

1. 知的障害のある子どもや青年・大人の生活の場～特別支援学校や各種障害関係施設等を中心に、参観やボラティア活動等を積み重ね、生活の整え方や障害のある人の支援のありようについて理解を深める。
2. 各自が設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーションー修了研究の進め方や年間の見通しについての確認。（目標1・2）
第2回～第4回 各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。（目標1・2）
第5回～第8回 修了研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。（目標1・2）
第9回～第30回 資料収集・文献研究。（目標1・2）
第31回 各自の研究課題の発表と協議。（目標1・2）
第32回～第49回 資料整理・論文執筆。（目標1・2）
第50回 中間発表会。（目標1・2）
第51回～第59回 論文の加筆・修正・提出。（目標1・2）
第60回 修了研究発表会。（目標1・2）

予習・復習の内容	予習	設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査研究活動を行い実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要な資料・文献等を適宜紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門基礎科目

授業科目名 キャリアガイダンス

科目責任者 川村 博子

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12001106

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

1. 自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける
2. 将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について
	第2回	進路について考える（キャリアについて・職場定着について）
	第3回	情報収集
	第4回～第5回	グループワーク
	第6回	アサーティブ講座
	第7回	卒業生のお話を聞く会

	第8回	講演会
	第9回	ストレスマネジメント講座
	第10回	ライフプラン（保険）講座
	第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識
	第12回	ハラスメント講座
	第13回～第14回	グループ面談（進路希望）
	第15回	現場の話を聞く会

予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深める。

成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等。
	評価の方法	提出レポート、授業参加態度等、総合的に評価する

教科書	書籍名	進路ガイドブック
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護保険制度とその他の諸制度（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSU401
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護保険制度とその他の諸制度（専攻科）
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20000305
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護福祉実践の主な根拠法である「介護保険制度」および「障害者総合支援法」の仕組みや内容を把握し、介護を必要とする利用者の生活実態や介護福祉従事者の業務、役割などを理解する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 介護保険制度の仕組みとサービス内容を理解する 2. 障害者総合支援法の仕組みとサービス内容を理解する 3. その他関連する諸制度の目的を理解したうえで、利用者の生活や多職種連携の状況をイメージする。
---------	--

授業内容	第1回	第 1回 オリエンテーション:社会保障制度の概要を確認（復習）する。 第 2回 我が国の介護保険制度創設の背景と目的、変遷について理解する。 第 3回 介護保険制度の仕組みを理解する。 第 4回 介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類を把握する。 第 5回 日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。 第 6回 介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割
------	-----	---

		を理解する。
	第 7回	障害者総合支援法創設の背景と目的，動向を理解する。
	第 8回	障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ）
	第 9回	障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容，組織・団体の役割について学ぶ）
	第10回	介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等を理解する）
	第11回	介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度を理解する）
	第12回	介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度を理解する）
	第13回	介護福祉実践に関連する諸制度④（医療関係者に関する制度・法律，医療関係施設に関する制度を理解する）
	第14回	介護福祉実践に関連する諸制度⑤（生活保護法・老人福祉法・諸外国の社会保障制度を確認する）
	第15回	介護福祉専門職が諸制度を理解することの必要性を確認する（まとめ）
予習・復習の内容	予習	授業前に該当するテキスト範囲を確認し、概要を把握しておくこと
	復習	レジュメやテキストを用いて重要であると説明された内容や用語をノートに整理すること
	展開	各制度の仕組みやサービスが、介護を必要とする人々の生活とどのようにかかわっているか、また、日本における各制度の課題等を理解することができる
成績評価	評価の基準	松井：定期テスト（50%） ミニテスト（25%） 自筆ノート（25%）
		川村：定期テスト（100%）
	評価の方法	担当コマ数と評価持ち点を比例させる形で、教員2名の点数を加算して評価する 【評価持ち点】松井：80点、川村：20点
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 2 『社会と制度の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規出版
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3570-8
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書2『人間と社会－社会の理解』
	著者名	小澤温・秋元美世（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円（税別）

参考URL

備考

第1～第6回/第10～第15回：松井担当
第7回～第9回：川村担当
〈松井〉
・ 自筆ノートは、定期試験終了時に集める
・ ミニテストは4回実施する予定

介護福祉特論（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護福祉特論（専攻科）

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
松井 奈美

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 31002605

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 国家試験の合格に相応する内容に準じた卒業時共通試験に合格できる実力を養う。
2. 初回に模擬試験を行い、その解答と解説を各授業回で学びながら主体的な学習につなげていく。
3. 本試験の直前に再度模擬試験を行い、学習によって養われた自己の実力を確かめる。

学生の達成目標 1. 共通試験合格に必要な知識の習得ができる。

授業内容

- 第1回 第1回 模擬試験①（目標1）
第2回 人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション（目標1）
第3回 社会の理解（目標1）
第4回 発達と老化の理解（目標1）

第5回 認知症の理解（目標1）
第6回 障害の理解（目標1）
第7回 コミュニケーション技術（目標1）
第8回 介護の基本①（介護福祉論・介護対象論）（目標1）
第9回 介護の基本②（リスクマネジメントほか）（目標1）
第10回 こころとからだのしくみ（目標1）
第11回 生活支援技術①（総論・環境、移動、食事、入浴）（目標1）
第12回 生活支援技術②（身じたく、排泄、睡眠・終末期）（目標1）
第13回 介護過程（目標1）
第14回 総合問題（目標1）
第15回 模擬試験②（目標1）

予習・復習の内容	予習	：模擬試験前には、各科目の振り返りを行っておくこと。 ：模擬試験後は、各科目の授業において示されたキーワードについて調べておくこと。
	復習	：模擬試験の正答について調べておくこと。 ：毎回の授業で示されたポイントについて整理すること。
	展開	：介護福祉士国家試験に関する資料などを参考に各科目毎の理解を深める。

成績評価	評価の基準	共通試験の合格基準に準ずる。
	評価の方法	授業への参加度20%、共通試験での得点80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	見て覚える！介護福祉士国試ナビ2014
	著者名	いとう総研資格取得支援センター
	出版社	中央法規出版
	価格	2,592円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3834-1

推薦図書等

参考URL

備考

災害・緊急時の介護

シラバス基本情報

科目ナンバリング HSS105

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 災害・緊急時の介護

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
山田 美知代

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 20004701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 実際の事例等を通し、状況に応じた災害時の介護実践力をたかめるようにする。

学生の達成目標 1. 災害や緊急時によって生じる直後・中期・長期的な介護の問題を理解し、介護福祉士としての行動がとれるように基礎的知識と技術を養う。

授業内容
第1回
第1回 災害介護の必要性
第2回 災害・緊急時の種類と災害サイクル、トリアージの存在
第3回 人・生活に及ぼす影響
事例に見る生活保障
第4回 災害時のコミュニケーション支援
第5回 災害時支援の視点 からだところ
1) 災害の種類別にみた健康や生活の問題、災害時期別・

避難生活別に見た健康問題、日常生活問題、生活問

題

第6回 災害時の生活支援技術 1)「環境」

第7回 災害時の生活支援技術 2)「食」

第8回 災害時の生活支援技術 3)「排泄」

第9回 災害時の生活支援技術 4)「睡眠」

第10回 災害時の生活支援技術 5)「清潔」

第11回 災害時の生活不活発病の予防

第12回 社会福祉施設における災害時の対応と防災計画

第13回 災害時の働く障害者への支援と災害後の就労・継続支援

第14・15回 HUG演習・まとめ

予習・復習の内容	予習	「災害時の介護」について日常から関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	災害・緊急時の自分の対処法についてその能力を見きわめ、強化していく。

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	授業参加度とレポート、テストの総合評価

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
-----	---------------------------

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本 I（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本 I（介護福祉論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
20010501
20010505

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護の歴史を踏まえての現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務が理解できるようにする。諸外国の状況から自国の課題を見出せるようになる。

学生の達成目標

1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。
2. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。
3. 介護におけるチームケア等について、理解する。

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 第1回 ガイダンス 介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化 |
| 第2回 | 第2回 現代社会と介護―介護問題の背景①―日本の高齢化の特徴、
家族形態、家族機能 |
| 第3回 | 第3回 現代社会と介護―介護問題の背景②―老老介護、孤独死、
高齢者虐待、認知介護 |
| 第4回 | 第4回 尊厳を支える介護 福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、ICF） |
| 第5回 | 第5回 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護 |

		福祉士法 ①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護
第6回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護	
		福祉士法 ②専門職能団体の活動、職業倫理
第7回	介護実践における連携①多職種連携—チームの種類と機能、	
		連携の意義と目的
第8回	介護実践における連携②	—他の福祉職の機能と連携
第9回	介護実践における連携③	—保健医療職との連携、医療行為
第10回	介護実践における連携④地域連携—地域連携の意義と目的	
第11回	介護実践における連携⑤	—インフォーマルな社会
		資源の重要さ
第12回	介護実践における連携⑥	—地域包括支援センター
		の機能と役割、行政
第13回	海外における介護福祉の動向	
第14回	今後の介護福祉の課題	
第15回	まとめ	

予習・復習の内容	予習	家族介護について書かれている本を読み、「介護」についての関心をもつ。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	介護の専門性について最新の図書を調べ、知識理解を深める。

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	試験70%、レポート30%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本Ⅱ（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB102

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅱ（介護対象論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限
20010601
20010605

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とどう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知り、その人への介護（特に尊厳を支える介護）について考えていく。

授業内容

第1回

第1回 ガイダンス VTR
第2回 介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）
第3回 介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）
第4回 介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）
第5回 介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）
第6回 介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）
第7回 介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤）
第8回 介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域

		の存在
	第9回	介護を必要とする人の理解 II－VTR「声を取り戻した2年間」
	第10回	介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴
	第11回	介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴
	第12回	介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I
	第13回	介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II
	第14回	介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	・自らの暮らし，高齢者の暮らし，関心を持ち，一日記録してみる。 ・参考図書を読み，「介護を必要とする人」について理解しておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	高齢者，障害者，そして終末期にある人の心理について関連図書を読み，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB201
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）専攻科
科目責任者	今井 訓子
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20010705
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。
-----------	--

- | | |
|---------|--|
| 学生の達成目標 | <ol style="list-style-type: none">1. リスクマネジメントの目的を理解する。2. 介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。3. 施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。 |
|---------|--|

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス、リスクマネジメントの考え方 第2回 セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保） 第3回 リスクコントロール・リスクファイナンス 第4回 介護における安全確保とリスクマネジメント ①ヒヤリハット事例の分析 第5回 介護における安全確保とリスクマネジメント ②施設内の事故の特徴と対策 第6回 介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策 第7回 介護における安全確保とリスクマネジメント ④医療対応時（受療、服薬、医療行為）
------	-----	---

		第8回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防 第9回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時の対応 第10回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク 第11回 認知症高齢者の事故対策 第12回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在） 第13回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用） 第14回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の対策と労働安全（関係法規） 第15回 まとめ（セーフティマネジメントとの関連）
予習・復習の内容	予習	過去に起こった介護事故についてその経緯を調べ、対策を考えておくこと。
	復習	授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	利用者、介護者それぞれの視点でのリスクマネージメントを理解する。
成績評価	評価の基準	テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	試験60%、レポート30%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 3 介護の基本
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3500円＋税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	介護分野におけるリスクマネージメント
	著者名	金子努
	出版社	中央法規出版株式会社
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）専攻科

科目責任者 宮崎 陽夫
山崎 敦

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20010805

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

リハビリテーション医学から高齢者の疾患・障害像を把握し、介護におけるリハビリテーションの考え方を理解する。

学生の達成目標

1. 高齢者の肢体不自由をきたす疾患・障害についての知識を身につける。
2. リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を客観的、科学的な思考ができるようにする。

授業内容

- | | | |
|-----|------|------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | リハビリテーション概論(目標1.2) |
| | 第2回 | 障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）(目標1.2) |
| | 第3回 | 障害の医学的基礎知識（神経・生理学）(目標1.2) |
| | 第4回 | 脳血管疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| | 第5回 | 進行性疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| | 第6回 | 骨折に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第7回 | 運動麻痺に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第8回 | 言語・排尿・嚥下障害に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第9回 | 脊髄損傷・切断に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第10回 | 廃用症候群に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第11回 | 認知症に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第12回 | 終末期に対するリハビリテーション(1.2) |
| | 第13回 | 地域リハビリテーション(2) |

第14回 シーティングについて(2)

第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	毎授業内容に関するテーマを事前に調べておくこと
	復習	毎授業に配布する関係資料の理解を深めること
	展開	臨床実習においてリハビリテーション知識を応用できること
成績評価	評価の基準	授業内容の基礎的理解 毎授業の小レポート内容
	評価の方法	期末筆記試験 小レポート
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論
	著者名	編集 澤村誠志
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	¥ 2730
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3157-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎授業ごとに必要な資料は配布する。	

介護の基本Ⅴ（レクリエーション）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSB103

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅴ（レクリエーション）専攻科

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20010905

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論を概説し、介護現場におけるレクリエーション援助の方法を理解する。

学生の達成目標

1. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。
2. 「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるために、生活の一部であるレクリエーション援助の実践のための知識を習得する。

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）（目標1・2）
第2回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①（目標1・2）
第3回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②（目標1・2）
第4回 講義：レクリエーションの活動領域と意義①（目標1・2）
第5回 講義：レクリエーションの活動領域と意義②（目標1・2）
第6回 講義：レクリエーション活動の主体（目標1・2）
第7回 講義：レクリエーション計画作成及び実施（目標1・2）
第8回 講義：レクリエーション指導者の配慮（目標1・2）
第9回 講義：レクリエーション活動の実践（目標1・2）

第10回 講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際（目標1・2）
第11回 講義：レクリエーションワークの指導法（目標1・2）
第12回 集団レク援助実習1 レク計画作成（目標1・2）
第13回 集団レク援助実習2 レク計画作成（目標1・2）
第14回 集団レク援助実習3 レク計画作成（目標1・2）
第15回 まとめと評価

予習・復習の内容	予習	レクリエーション（余暇活動）に関心をもち、生活の中でどのような役割を果たすかを理解しておく。
	復習	指示されたレポートの提出。 援助実習における実践。
	展開	高齢者・障害者に対するレクリエーションの必要性を考察し、理解・知識を深める。

成績評価	評価の基準	高齢者・障害者のレクリエーション（余暇活動）について、基礎的な内容が理解できていること。また、レクリエーション計画作成及び実施の方法を理解すること。
	評価の方法	レポート課題（30%）、期末筆記試験（50%）、授業への参加度（20%）

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本VI（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB302
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本VI（介護サービス事務）
科目責任者	大塚 克巳
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20011001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	社会保険制度のひとつである介護保険制度の仕組みを理解した上で、介護報酬算定の実務知識を習得する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 介護保険制度全般を学ぶとともに、介護給付費に関わる請求事務に精通する。 2. 介護事務に関わる実務全般を習熟し、即戦力として請求事務に従事できる実力を養う。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 テキスト第一章 共通事項 第2回 テキスト第一章 共通事項 第3回 テキスト第二章 居宅サービス 1.訪問介護 2.訪問入浴介護 第4回 テキスト第二章 居宅サービス 3.訪問看護 4.訪問リハビリテーション 第5回 テキスト第二章 居宅サービス 5.居宅療養管理指導 6.通所介護 第6回 テキスト第二章 居宅サービス 7.通所リハビリテーション 8.福祉用具貸与 第7回 テキスト第二章 居宅サービス 9.短期入所生活介護 10.短期入所療養介護 第8回 テキスト第二章 居宅サービス 11.特定施設入居者生活
------	-----	--

介護 12. 居宅介護支援
 第9回 テキスト第三章 地域密着型サービス
 第10回 テキスト第四章 施設サービス
 第11回 テキスト第五章 介護給付費の請求方法 公費の請求方法
 第12回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説
 第13回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説
 第14回 模擬試験（90分）
 第15回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説
 及び振り返り

予習・復習の内容

- | | |
|----|---|
| 予習 | ・介護給付費単位数等サービスコード表の活用に当たり、各サービス種類が検索しやすいようにインデックス等で印をつけておくこと。
・各回の項目に沿ってテキストの事前読み込むを行うこと。 |
| 復習 | ・介護保険の仕組みについて理解するため、最寄りの市町村の介護保険にかかるパンフレットを取得し授業内容と照らし合わせながら今一度、振り返りを行うこと。 |
| 展開 | ・事前のテキスト読み込みで介護保険制度の大枠や仕組みを理解すること。
・介護請求事務の実践に欠かすことができない、介護給付費単位数等サービスコード表の活用を迅速かつ適切に行うことができること。 |

成績評価

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 評価の基準 | 出席状況、受講態度により総合的に評価し、認定試験において60点以上。 |
| 評価の方法 | 出席状況、受講態度により総合的に評価し、認定試験において60点以上。 |

教科書

- | | |
|-----------|--------------------|
| 書籍名 | 介護保険事務士養成テキスト（実務編） |
| 著者名 | |
| 出版社 | |
| 価格 | |
| ISBN・ISSN | |
-
- | | |
|-----------|-------------------|
| 書籍名 | 介護給付費単位数等サービスコード表 |
| 著者名 | |
| 出版社 | |
| 価格 | |
| ISBN・ISSN | |

推薦図書等

- | | |
|-----|--------------|
| 書籍名 | 必要に応じて随時資料配布 |
| 著者名 | |
| 出版社 | |

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

コミュニケーション技術Ⅰ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSC201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅰ（専攻科）

科目責任者 古川 繁子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20001105

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義形式ではあるが、全体的に事例と演習を豊富に交えながら、介護の場面に即応したコミュニケーション技術が習得できる。

学生の達成目標

1. 介護と必要とする者の理解や援助的関係・援助的コミュニケーションについて理解する。
2. また、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。

授業内容

- 第1回 第1回 介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を知る。
- 第2回 利用者・家族との関係づくり（波長合わせ・ラポールの取り方）
- 第3回 介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法、利用者の感情表現を察する技法－気づき、洞察力、その他）
- 第4回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）
- 第5回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）
- 第6回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機

		能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他) 第7回 記録による情報の共有化(介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法, 留意点) 第8回 記録による情報の共有化(記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化) 第9回 情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護。活用 第10回 介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的(報告・通知・相談の方法・留意点) 第11回 会議の意義と目的(会議の種類・方法・留意点。その他) 第12回 話を聞く技法②(傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く) 第13回 話を聞く技法③(家族とのコミュニケーションの実際) 第14回 記録の技法②(マッピング:ジェノグラム・ソシオグラム) 第15回 記録の技法③(評価:アセスメント・エバリュエーション・モニタリング)
予習・復習の内容	予習	授業で指示された語句や事柄を調べる。
	復習	予習内容を含め、自分のノートを作成し、授業内容を整理する。整理しながら、関連する項目を独自に調べ、「コミュニケーションノート」を作る。
	展開	対人援助職として、介護場面に限らず、援助場面でコミュニケーションを図ることができる。 必要な事柄を自分で調べ、まとめ、プレゼンテーションすることができる。
成績評価	評価の基準	提出物・演習レポート・定期試験により評価
	評価の方法	提出物・演習レポート・定期試験により評価
教科書	書籍名	新介護福祉士養成講座5「コミュニケーション
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
	出版社	中央法規出版
	価格	2,310(税込)
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3769-6
推薦図書等	書籍名	コミュニケーション技術－人間関係の形成と実践技術
	著者名	黒澤他編著
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

コミュニケーション技術Ⅱ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSC301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ（専攻科）

科目責任者 根本 匡文
高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20001205

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

手話（根本匡文）

聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につけ、さらに、聴覚補償やさまざまな視覚情報を活用してコミュニケーションを充実させる方法を習得する。あわせて、聴覚障害全般についての理解を深める。

点字（高橋恵子）

基本的な点字を誰でも難しく考えることなく学ぶ。その他、手引き介助については、実践的に学んでいく。

学生の達成目標

- （根本匡文）
手話や指文字を使った基本的な表現の読み取りができるようになる。
- 手話や指文字を使った基本的な表現の表出ができるようになる。
- 聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーションの方法を理解する。
- （高橋恵子）
点字の基本的な学習を行い、視覚障害を持つがゆえの特性を考慮した介護技術、視覚障害者に関する諸問題、視覚障害リハビリテーションなど、視覚障害全般について学習する。理論だけでなく、実際に役立つ事項を多く学習する。

授業内容

- 第1回 (根本匡文)
- 第1回 手話実技：あいさつ，自己紹介，家族の表現
講義：聴覚障害の原因と二次・三次障害の表れ方
- 第2回 手話実技：天気／季節，動作，好き／嫌いの表現
講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法
- 第3回 手話実技：質問，数／年齢，時間の表現
講義：手話の種類，構造，特徴
- 第4回 手話実技：月日／曜日，時制，形容の表現
講義：聴覚補償の実際
- 第5回 手話実技：可能／必要，する／される，交通機関の表現
講義：文字や視覚情報の活用
- 第6回 手話実技：比較，違う／同じ，医療の表現
講義：聴覚障害者の社会生活
- 第7回 手話実技：強い／弱い，目的／目標，食事の表現
講義：聾重複障害者，盲聾者の支援
- 第8回 手話実技：復習とまとめ
講義：聴覚障害者の生活の質の向上
- (高橋恵子)
- 第1回 視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法
- 第2回 視覚障害者補助器具の種類と機能
- 第3回 視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法
- 第4回 視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史制度
- 第5回 視覚障害者の暮らし
- 第6回 点字技術演習（1）
- 第7回 点字技術演習（2）
- 第8回 総括・討論
-

予習・復習の内容

- 予習 (根本匡文)
- テキストに目を通し，授業の概要を把握する。
- (高橋恵子)
- テキスト『初めての点訳第2版』56ページからの「視覚障害者の状況」の項を読み，視覚障害のための不自由さ等について関心を持つとともに，当事者である講師に対し，質問を準備する。
- 復習 (根本匡文)
- 授業で学習した手話表現の練習を繰り返す。
- (高橋恵子)
- テキストの点字一覧表を繰り返し読み，演習問題に取り組むことにより，点字の読み書きがスムーズにできるようにする。
- 展開 (根本匡文)
- 友人との間で，学習した手話を使ったコミュニケーションを行う。可能であれば，実際に聴覚障害者と会ってコミュニケーションを行う。
- (高橋恵子)
- 公共施設内の点字表示や食品，家電製品などに書かれている点字を読んでみる。また，視覚障害者を見かけたら，積極的に声をかけて援助する。
-

成績評価	評価の基準	(根本匡文) 基本的な手話表現の読み取りと表出ができること、聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーション手段について理解し、それを説明できることを合格基準とする。 (高橋恵子) 点字の歴史と、視覚障害者にとっての点字の意義について説明できること。また、点字の仕組みと仮名遣いを理解し、簡単な読み書きができること。
	評価の方法	(根本匡文) 小レポート20%、受講態度20%、試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。 (高橋恵子) 受講態度(40%)と試験または課題採点結果(60%)の成績を総合的に評価する。
教科書	書籍名	NHKテレビテキスト「みんなの手話」2013年10月～12月
	著者名	早瀬憲太郎
	出版社	NHK出版
	価格	380円
	ISBN・ISSN	978-4-149108636
推薦図書等	書籍名	新日本語－手話辞典
	著者名	全国手話研修センター日本手話研究所
	出版社	中央法規出版
	価格	22,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-805834503
参考URL	http://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/	
備考		

生活支援技術Ⅰ（参加・環境）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅰ（参加・環境）専攻科

科目責任者 山田 美知代

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20011105

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 生活支援にむけて、利用者の住環境や環境づくりについて理解する。
2. 生活行為場面（後期開講科目の「睡眠」「排泄」「清潔・入浴」）について、基本を理解する。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする方の生活や生活しやすい環境整備のあり方について理解することができる。
2. 居住環境整備の一つとして、ベッドメイキングをすることができる。
3. 生活支援におけるICFや社会参加について理解することができる。
4. 生活行為場面ごとの支援のあり方について理解する。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について（目標1）
- 第2回 生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について）（目標1）
- 第3回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習1）（目標2）
- 第4回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習2）（目標2）
- 第5回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習3）

(目標2) 第6回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習4) (目標2) 第7回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習5) (目標2) 第8回 居住環境の整備に向けて(ベッドメイキングの演習6) (目標2) 第9回 ICFと生活支援について1 (ICFの構成要素、ICFの生活支援への活用) (目標3) 第10回 ICFと生活支援について2 (参加に向けて; 自己実現、生きがい、地域への参加) (目標3) 第11回 居住環境の整備に向けて1 (安全な住まい、快適な室内環境、課題や問題点) (目標1) 第12回 居住環境の整備に向けて2 (暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例) (目標1) 第13回 居住環境の整備に向けて3 (施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン) (目標1) 第14回 生活行為への支援(身じたく、清潔・入浴) (目標4) 第15回 生活行為への支援(睡眠、排泄)とまとめ(目標4)		
予習・復習の内容	予習	・障害(心身機能の状態による違い)のある方が生活しやすい環境や福祉用具にどのようなものがあるかを調べる。 ・障害のある方だけでなく、障害のない方にも便利なものについても調べておく。
	復習	・適宜、指示する課題(レポートほか)を期限までに提出する。
	展開	・ベッドメイキングの習得では、各自あいている時間に自己練習をする。
成績評価	評価の基準	・参加状況(態度や意欲など)、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	・参加状況(態度や意欲、演習時の身だしなみなど)(10%)、課題(レポートほか)(10%)、試験(80%)などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600+税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史・三好春樹
	出版社	講談社
	価格	

参考URL

備考

・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き）、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品は着用しないなど）こと。

生活支援技術Ⅱ（移動）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS102
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅱ（移動）専攻科
科目責任者	山田 美知代
担当教員	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011306
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批判をしながら理解を進められる機会を設ける。

- | | |
|----------------|---|
| 学生の達成目標 | <ol style="list-style-type: none">1. 利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解することができる。2. 移動が移乗介助に必要な知識と技術を理解することができる。3. 利用者・介護者にとって安全で安心できる移動や移乗介助を実践することができる。 |
|----------------|---|

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス・自立に向けた住環境（目標1） 第2回 移動の介護の基本（目標1・2） 第3回 移動に関するアセスメントと目標設定① 本人の観点（目標1・2） 第4回 移動に関するアセスメントと目標設定② 「心身機能」「身体構造」からの観点（目標1・2） 第5回 移動に関するアセスメントと目標設定③ 「活動」「参加」からの観点（目標1・2） 第6回 安全で気兼ねなく動けることを支える介護（目標1・2） 第7回 安全で的確な移動介助の方法① 基本的留意点・アセスメ
-------------	-----	--

	ントに基づく介助（体位交換）（目標2）	
	第8回 安全で的確な移動介助の方法② 立ち上がり動作（目標2）	
	第9回 安全で的確な移動介助の方法③ ベッドからの移乗方法（目標2）	
	第10回 安全で的確な移動介助の方法④ 車椅子での移動（目標2）	
	第11回 安全で的確な移動介助の方法⑤ 歩行介助（目標2）	
	第12回 移動介護演習① （ベッド上での体位交換）（目標3）	
	第13回 移動介護演習② （移乗介助・車椅子の移動介助）（目標3）	
	第14回 移動介護演習③ （歩行介助）（目標3）	
	第15回 他の職種の役割と協働，まとめ（目標1・2）	
予習・復習の内容	予習	障害を持つ人の移動について日常から関心を持ち，関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 事前に指示するテーマについて調べ，当日発表できるようにすること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に2回程度。
	展開	移動や移乗介助に関する図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	移乗や移動に関する介護に関して，授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験60%，授業への参加度20%，平常点（小レポート）20%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全集 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3145-3
推薦図書等	書籍名	看護・介護を助ける姿勢と動作
	著者名	小川鑛一
	出版社	東京電機大学出版局
	価格	2300円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-501-41860-1

参考URL

備考

生活支援技術Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS103
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅲ（食事）
科目責任者	今井 訓子 山田 美知代
担当教員	清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20011401
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

学生の達成目標	1.	食えることが、人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。
	2.	食事介護の基本的な進め方について理解する。
	3.	安全に、おいしく食事を摂るための介護について理解する。

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的
		第2回～第3回	食事に関する利用者のアセスメント
		第4回～第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
		第6回	安全で的確な食事介助
		第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
		第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
		第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検

		討)
		第10回 誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点
		第11回 脱水予防
		第12回～第13回 食事介助（演習）
		第14回 他職種の役割と協働（経管栄養を行っている人の介護の留意点）
		第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	嚥下の仕組みについて学習しておく。 おいしい食事につながる環境についてまとめる。
	復習	授業の要旨をまとめる。
	展開	「ここからだのしくみ」の授業とあわせ、理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べるができる。 演習で学んだ技術を習得している。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度 10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅲ（食事）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS103
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅲ（食事）専攻科
科目責任者	山田 美知代
担当教員	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011405
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

- | | |
|----------------|--|
| 学生の達成目標 | 1. 食べることが、人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。 |
| | 2. 食事介護の基本的な進め方について理解する。 |
| | 3. 安全に、おいしく食事を摂るための介護について理解する。 |

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的
	第2回	食事に関する利用者のアセスメント
	第3回	食事に関する利用者のアセスメント
	第4回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
	第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
	第6回	安全で的確な食事介助
	第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
	第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
	第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）
	第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点

		第11回 脱水予防 第12回 食事介助（演習） 第13回 食事介助（演習） 第14回 他職種の役割と協働（経管栄養と行っている人の介護の留意点） 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	嚥下の仕組みについて学習しておく。 おいしい食事につながる環境についてまとめておく。
	復習	授業の要旨をまとめておく。
	展開	「こころとからだのしくみ」の授業とあわせ、理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べることができる。 演習で学んだ技術を習得している。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全集 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS201
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）専攻科
科目責任者	山田 美知代
担当教員	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011505
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	生活支援における「清潔・入浴」における支援のあり方について理解する。（特に入浴について講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台浴槽などに実際に入る。そのほか、寝たまま行う全身掃拭や洗髪について演習を行う）。
-----------	---

学生の達成目標	1. 清潔・入浴に関する意義や目的、介護の必要な方の支援の方法を理解できる。 2. 演習を通じて、清潔保持や入浴支援をすることができる。
---------	--

授業内容	第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、支援を要する利用者や清潔について（意義と目的）（目標1） 第2回 入浴における物理作用（効果とリスク）（目標1） 第3回 入浴における留意事項（高齢者の特徴を踏まえて；水分の重要性）（目標1） 第4回 入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点（目標1） 第5回 爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴）（目標1） 第6回 浴槽の種類について（目標1） 第7回 感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している
------	--

		人の介助の留意点（事例検討）（目標1） 第8回 感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している 人の介助の留意点（事例検討）（目標1） 第9回 感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している 人の介助の留意点（事例検討）（目標1） 第10回 入浴・シャワー浴の介護（演習）（目標2） 第11回 入浴・シャワー浴の介護（演習）（目標2） 第12回 洗髪，全身清拭，足浴（演習）（目標2） 第13回 洗髪，全身清拭，足浴（演習）（目標2） 第14回 洗髪，全身清拭，足浴（演習）（目標2） 第15回 グループワーク（演習の振り返り），まとめ（目標1，2）
予習・復習の内容	予習	普段当たり前のように行っている清潔保持や入浴行為について，その意義や目的，諸動作について考えてみる。
	復習	適宜，指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	自宅の入浴環境（脱衣室も含む）について，心身機能の状況に応じた使い勝手について考え，理解を深める。
成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲，演習時の身だしなみなど），課題（レポートほか），試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲，演習時の身だしなみなど）（10%），課題（レポートほか）（10%），試験（80%）などを総合的に評価する。ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	生活支援技術Ⅰ 基本編
	著者名	
	出版社	メジカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史
	出版社	講談社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	技術演習時は，動きやすい服装（原則，ジャージ。ジーンズ不可。上履き），身だしなみを整える（爪は短くする，長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品は着用しないなど）こと。	

生活支援技術Ⅴ（身じたく）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS202
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅴ（身じたく）専攻科
科目責任者	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20011605
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身じたく・整容に関する介護技術の内容である。

学生の達成目標 1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた身じたく・整容の介護技術について理解できる。

授業内容	第1回	第1回 第2回～第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	ガイダンス、自立に向けた身支度の介護：身じたくの意義と目的 身じたくに関する利用者のアセスメント 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメント 整容行動、衣生活の介助の技法（洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等） 整容行動、衣生活の介助の技法（口腔の清潔、衣服着脱） 口腔の清潔、爪切り（演習） 衣服着脱（演習）パジャマ 洗面、整髪、化粧（演習） 感覚機能が低下している人の介助（事例検討） 運動機能が低下している人の介助（事例検討） 認知機能が低下している人の介助（事例検討）
------	-----	--	--

	第14回	他職種の役割と協働
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	日常生活の中で、身支度・整容に関して関心を持ち、観察する視点を身につけられるようにする。 テキストは、最低限予習し、疑問点を明らかにしておく。
	復習	授業とテキストの内容について、自己の学びを深める。
	展開	基礎的な学びを通して、さまざまな事例について自ら考え調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	試験 50%、レポート 20%、演習態度20%、出席率 10%
	評価の方法	試験 50%、レポート 20%、演習態度20%、出席率 10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 6 生活支援技術 II
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅵ（排泄）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS203
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅵ（排泄）専攻科
科目責任者	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20011705
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	利用者に行われている排泄介護の状況が適切かどうか考えることができ、日常生活の機能拡大が図れるような具体的な工夫ができる。
-----------	--

- | | |
|---------|--|
| 学生の達成目標 | <ol style="list-style-type: none">1. 学生自身の体験を取り入れながら排泄について考えることができる。2. 利用者がその人らしい生活を過ごすことができるような排泄の介護が考えられるようにする。 |
|---------|--|

授業内容	第1回	第1回～第2回 ガイダンス、排泄の意義、目的、排泄の解剖・生理的機序 第3回 おむつ着用による排泄と生活体験（課題）のグループワークと発表、正常な排泄とできる条件について（課題）（講義、演習） 第4回～第6回 気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習） 第7回 安全的確な排泄の介助の技法（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ）（講義） 第8回 排泄ケア用品の理解と排泄に関する公的制度の活用（講義） 第9回～第10回 数種類のおむつの吸水実験と排泄の介護の技法（演習）
------	-----	---

第11回～第12回 その人らしい生活のためのよりよい排泄のケア になっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習） 第13回～第14回 他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、留置カテーテル含む）（講義、演習） 第15回 まとめ		
予習・復習の内容	予習	日常生活の中で排泄に関して関心を持ち、観察する視点を身につけられるようにする。 テキストは、最低限予習し、疑問点を明らかにしておく。
	復習	課題、発表を通して、他者の学びも共有し、さらに自己の学びを深めるようにする。
	展開	基礎的な学びを通して、さまざまな事例について自ら考え調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	テスト（70%） 課題レポート（30%）
	評価の方法	テスト及び課題発表により評価する。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600+税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書等については、適宜提示する。	

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS204
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）専攻科
科目責任者	山田 美知代
担当教員	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20011805
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	睡眠に関する安楽な技法を理解するために自己の体験発表やグループワークを取り入れる。緊急時の対応を理解すると共に、在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて考えられるようになる。
-----------	--

学生の達成目標	1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重する。睡眠に関するアセスメントができ、安楽な支援ができる。 2. 緊急時や終末期の援助技術、またグリーフケアが理解できる。
---------	---

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的 第2回 睡眠に関するアセスメント 第3回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境 第4回 利用者の状況による介助の留意点 第5回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習） 第6回 緊急時のアセスメント 第7回 緊急事故時の状況観察と応急手当（演習） 第8回 終末期における介護の意義と目的（事前意思確認） 第9回 利用者のアセスメントと医療との連携（ICFに基づく看取
------	-----	--

りのための制度)		
第 10回 終末期における介護、緩和ケア		
第 11回 臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置		
第 12回 死後の処置（演習）		
第 13回 グリーフケア		
第 14回 事例検討		
第 15回 事例を通してのまとめ		
予習・復習の内容	予習	テキストは、最低限予習し、疑問点を明らかにする。
	復習	授業とテキストの内容について、自己の学びを深める。
	展開	基礎的な学びを通して、さまざまな事例について自ら考え調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	試験 70%、レポート 30%
	評価の方法	試験 70%、レポート 30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	適宜紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅷ（障害別）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS301
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅷ（障害別）専攻科
科目責任者	井口 ひとみ
担当教員	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20011905
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

心身の障害とその障害を持つ人々の状況を理解し、生活支援が理解できる。課題学習をしたことをプレゼンテーションできる。

授業のねらい・概要

- | | |
|---------|--|
| 学生の達成目標 | 1. 運動機能障害を持つ人の状況を理解し、それらの人への生活支援が理解できる |
| | 2. 感覚機能障害を持つ人の状況を理解し、それらの人への生活支援が理解できる |
| | 3. 内部障害を持つ人の状況を理解し、それらの人への生活支援が理解できる。 |
| | 4. 課題学習をしたことをプレゼンテーションできる。 |

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス （各回内容の組立ての決定については初回ガイダンス時お知らせする） 第2回 片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人）
------	-----	--

	第3回 運動および知覚機能に障害がある人の生活支援 (例：脊髄損傷の人)	
	第4回 関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援 (例：慢性関節リウマチの人)	
	第5回 振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援 (例：パーキンソン病の人)	
	第6回 失語症や構音障害のある人の生活支援	
	第7回 視覚機能障害のある人の生活支援、聴覚機能障害のある人の生活支援	
	第8回 難病で在宅療養している人の生活支援 (例：ALSまたは筋ジストロフィーの人)	
	第9回 重度心身障害のある人の生活支援	
	第10回 心臓機能障害のある人の生活支援	
	第11回 呼吸機能障害のある人の生活支援	
	第12回 腎臓機能障害のある人の生活支援	
	第13回 排泄機能障害のある人の生活支援	
	第14回 学習作業、中間のまとめ等適宜	
	第15回 まとめ	
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示している項目内容について、事前に調べておくこと。事前に決定したテーマについて調べ、発表できるようにする。
	復習	他者の発表を通して、自らの学びも深めていく。
	展開	プレゼンテーションを通して学びを深める。
成績評価	評価の基準	テスト50%，課題レポート・発表50%
	評価の方法	テスト及び課題レポート，発表を総合する。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 6 生活支援技術 II 障害編
	著者名	谷口敏代他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円＋税
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3146－0
推薦図書等		
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅰ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS302

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅰ（専攻科）

科目責任者 廣橋 比刀美

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20002005

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

家事の意義や目的、洗濯、掃除、裁縫、家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。

授業のねらい・概要

学生の達成目標

1. 自立に向けた家事の援助・介助に関する知識と技術を身につける。
2. 自分自身の生活のなかで自立して家事全般ができること。
3. 快適で豊かな生活を送るにはどうすればよいか考えることができる。

授業内容

第1回 第1回 授業オリエンテーション、注意事項、自己紹介
家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント
第2回 被服・繊維について…繊維の講義、繊維の実験の準備
第3回 被服・繊維について…繊維の実験（燃焼性・吸水性）
第4回 被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜き準備
第5回 しみ抜きの実習
第6回 洗濯の実習（セーターの洗濯）
第7回 しみ抜き・洗濯のまとめ
第8回 被服実習…基本の縫い方・繕いについて
第9回～第13回 被服実習…おむつ・袋を縫う（ボタンづけの練習など）

第14回 感覚・運動機能，認知・知覚機能が低下している人の家事援助の留意点
第15回 まとめ…家事援助に求められる事

予習・復習の内容	予習	特になし
	復習	授業で行った家事技術を自宅で再度行ってみる。
	展開	日々の家事を行う事で授業内容を確実なものとし、自分の生活、家事援助へつなげていく。
成績評価	評価の基準	試験60%，レポート・製作物40%，授業への出席
	評価の方法	試験60%，レポート他40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	生活支援技術 I
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅱ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSS401

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅱ（専攻科）

科目責任者 三幣 周子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。

学生の達成目標

1. 高齢者，障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。
2. 食生活の中での栄養学，食品学，調理学等の知識を養い，実践的な技術を学び，支援が個々の生活に対応できる能力を養う。

授業内容

- 第1回
- 第1回 食生活の意義（健康と栄養，状態別の栄養（年齢と栄養）
 - 第2回 高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方（生活習慣病の予防も含む）
 - 第3回 献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法）
 - 第4回 調理実習（1）…日常食から介護職への展開
 - 第5回 調理実習（1）…日常食から介護職への展開
 - 第6回 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）
 - 第7回 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）
 - 第8回 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）
 - 第9回 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）

第10回 調理実習（４）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて） 第11回 調理実習（４）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて） 第12回 調理実習（５）…郷土食 第13回 調理実習（５）…郷土食 第14回 調理実習（６）…支援したい食事をグループで作る。 第15回 まとめ		
予習・復習の内容	予習	後期の授業内容に基づき、調べる。普段から自分の食事についても関心をもち、介護に関係するニュース、新聞、雑誌などの記事に目をむけて読み、内容を記録する。
	復習	毎回授業内容をまとめて、きちんとノートに整理しておく。ノート・プリント等の提出あり。
	展開	生活技術全般の総理解をもとに、その人の生活歴を含め知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	内容は広範囲になるが、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末テスト80%、欠席レポート提出10%、授業態度10%
教科書	書籍名	生活支援技術Ⅳ
	著者名	
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	これからの調理
	著者名	
	出版社	教育図書
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	食品成分表
	著者名	
	出版社	教育図書
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		

備考

その他必要に応じてプリントを配布

※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明します。

介護過程Ⅰ（総論）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSP201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅰ（総論）専攻科

科目責任者 松井 奈美

担当教員
川村 博子
清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20012205

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容を理解する。

- 学生の達成目標
1. 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。
 2. 介護過程の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回 第4回～第5回 第6回 第7回 第8回	介護過程とは、意義と目的 介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護） 介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程、介護課程のプロセス説明） ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法 アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて） アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム） 計画の立案とは、目標の設定
------	-----	---	---

	第9回	計画の立案の実践
	第10回	実施とは、準備と留意点
	第11回	評価とは
	第12回～第13回	事例に基づく介護課程の展開の実際
	第14回	介護課程の展開の実際（2年生の発表会出席）
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－3421－3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅱ（演習）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSP301

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅱ（演習）専攻科

科目責任者 松井 奈美

担当教員
川村 博子
清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20012305

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護過程を展開する。

- 学生の達成目標
1. 様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。
 2. 自分の考える介護について説明することができる。

授業内容

第1回 【グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例を用いて介護過程の展開を行う】

第1回～第2回 オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成

第3回～第4回 ガイダンス、事例Aの説明

第5回～第6回 アセスメント

第7回～第8回 計画・実施・評価

第9回～第10回 ガイダンス、事例Bの説明

第11回～第12回 アセスメント

第13回～第14回 計画・実施・評価

第15回～第16回 ガイダンス、事例Cの説明
第17回～第18回 アセスメント
第19回～第20回 計画・実施・評価
第21回～第22回 ガイダンス、事例Dの説明
第23回～第24回 アセスメント
第25回～第26回 計画・実施・評価
第27回～第28回 発表準備
第29回～第30回 発表

予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにする。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。

成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座9『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3

推薦図書等	書籍名	「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」
	著者名	
	出版社	日総研
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

介護過程Ⅲ（チームアプローチ）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP401
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅲ（チームアプローチ）専攻科
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子 清宮 宏臣 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20012405
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。

- 学生の達成目標
1. 他職種の役割や機能を理解する。
 2. 介護場面におけるチームアプローチの在り方を学ぶ

授業内容	第1回	第 1回 ガイダンス、グループ分け 第 2回 看護業務：役割と連携について 第 3回 ケアマネージャーの役割と連携について 第 4回 作業療法士（OT）の業務・役割と連携について 第 5回 理学療法士（PT）の業務・役割と連携について 第 6回 歯科医又は言語聴覚士（ST）の業務・役割連携について 第 7回 OJT等について 第 8～11回 研究事例発表大会参加とまとめ 第12回 教科書以外から学ぶチームアプローチ 第13～14回 チームアプローチの事例
------	-----	--

予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅳ（事例研究）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング CSP402

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅳ（事例研究）専攻科

科目責任者 川村 博子

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20012505

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。

学生の達成目標 1. 実習での事例を振り返り、介護過程展開の意義や方法の理解を深める。

授業内容
第1回 第1回 ガイダンス（全体）
第2回～第5回 実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
第6回～第10回 実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
第11回 発表準備・印刷（全体）
第12回 発表準備・製本（全体）
第13回～第14回 発表（全体）
第15回 まとめ、感想文（実習担当教員のグループで行う）

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2 2 0 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」
	著者名	
	出版社	日総研
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護総合演習Ⅰ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE101
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅰ（専攻科）
科目責任者	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20002605
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 介護実習（実習区分Ⅰ）に向けて、心構え、予備知識、動機づけなどの準備をおこない自己の実習目標を明確にする。 2. 巡回指導教員並びに実習指導者の助言を受け入れて学びに生かすとともに、指示に従って行動することができる。 3. 実習中に生活支援の実際の学びに向けて主体的に実習目標を掲げ、それを達成していくために、その具体的な方法を考案し、実習指導者に願い出て積極的に実習機会を得つつ、利用者と実際に係わることのできる実践力を身につける。
-----------	--

学生の達成目標	1. 介護実習(実習区分Ⅰ・Ⅱ)における学び方を理解するために自らの考えを表明したり、体験を語ったり、意見を述べ合ったりすることができる。 2. 介護実習先について各自で調べることができ、理解したうえで発表することができる。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方、実習の時期や概要） 介護福祉士の実習について（意義、目的、心得など） 第2回 認知症高齢者グループホーム実習に向けて（1）（意義、目的、心得など） 第3回 認知症高齢者グループホーム実習に向けて（2）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
------	-----	--

第4回 児童福祉施設実習に向けて（１）（意義、目的、心得など）
第5回 児童福祉施設実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
第6回 入居生活施設実習に向けて（１）（意義、目的、心得など）
第7回 入居生活施設実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
第8回 実習Ⅰおよび実習Ⅱへの準備（学生個人票、実習目標など提出書類の作成）
第9回 居宅介護実習に向けて（１）（意義、目的、心得など）
第10回 居宅介護実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
第11回 記録の書き方（記録の意義や目的、基本的な書き方や文体など）
第12回 実習において予測される諸問題（身だしなみ、指導者や利用者との関わり、実習課題への取り組み方、カンファレンスへの臨み方など）
第13回 実習先別学内オリエンテーション（介護実習Ⅰ・Ⅱ）
第14回 まとめ
第15回 実習Ⅰの実習直前学内オリエンテーション

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。
	評価の方法	提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護総合演習Ⅱ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE201
開講年度	2014年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅱ（専攻科）
科目責任者	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	20002705
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 介護実習における学び方を理解するために自らの考えを表明したり、体験を語ったり、意見を述べ合ったりする。 2. 実習において体験学習してきた事例の発表を通して学びを深め合う。
-----------	--

学生の達成目標	1. 介護実習(実習区分Ⅱ)に向けて、心構え、予備知識、動機づけなどの準備をおこない自己の実習目標を明確にする。 2. 実習中に介護過程の展開の学びに向けて主体的に実習目標を達成していくためにご協力いただく利用者の理解を深め、ご本人にとっての主目標の達成を支援するためにより良い係わりのできる実践力を身につける。 3. 介護実習後は、十分な振り返りをおこなうことで学びを深め自己の介護観の涵養に役立てる。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 実習Ⅱの実習直前学内オリエンテーション 第2回 実習Ⅰの振り返り（1）（児童福祉施設実習） 第3回 実習Ⅰの振り返り（2）（認知症高齢者グループホーム実習） 第4回 実習Ⅱの振り返り（3）（居宅介護実習） 第5回 実習Ⅱの振り返り（4）（入居生活施設実習） 第6回 実習課題「介護過程の展開」の振り返り（学びと課題）（1）
------	-----	--

第7回 実習課題「介護過程の展開」の振り返り（学びと課題）
（2）
第8回 実習で実際に体験した事例・出来事について（疑問点、問題意識や課題提起など）（1）
第9回 実習で実際に体験した事例・出来事について（疑問点、問題意識や課題提起など）（2）
第10回 介護福祉における研究の視点（上記の問題意識や課題提起に関連した先行研究、事例研究について）（1）
第11回 介護福祉における研究の視点（上記の問題意識や課題提起に関連した先行研究、事例研究について）（2）
第12回 実習で課題となった生活支援技術について（振り返りと学びなおし）（1）
第13回 実習で課題となった生活支援技術について（振り返りと学びなおし）（2）
第14回 介護実習（実習区分Ⅱ）のまとめ反省会
第15回 実習全体を通しての学び（「介護観」について）・まとめ

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。
評価の方法 提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。

教科書

書籍名 最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
著者名 坪内孝・能田茂代編
出版社 メヂカルフレンド社
価格
ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

介護実習Ⅰ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CST101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習Ⅰ（専攻科）

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
石原 富子
山田 美知代

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20002905

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。
2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。
3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。

学生の達成目標

1. 福祉施設において利用者はどのような介護ニーズをもって生活しているか理解する。
2. 福祉施設において職員は利用者の介護ニーズに応えるためにどのような支援をしているか理解する。

3. 心身に関して介護を要する児童の利用者が福祉施設においてどのように日中を過ごしているか理解する。

授業内容	第1回	* 実習時期 ・ 児童福祉施設：8月～9月 ・ 認知症高齢者グループホーム：8月～9月 * 実習日数 ・ 児童福祉施設において1日の実習をおこなう。 ・ 認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）において5日の介護実習をおこなう。 * 実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する） ・ 児童福祉施設における実習：肢体不自由や知的障害のある児童が通ったり居住したりする福祉施設における日勤時間帯の実習 ・ 認知症高齢者グループホーム：1ユニット9人以下で利用者が共同生活するグループホームにおける日勤時間帯の実習
予習・復習の内容	予習	グループホーム・児童福祉施設について調べておくこと。介護総合演習での学びを生かし実習目標を作成しておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	グループホーム・児童福祉施設に関する最新の情報をしらべ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。
	評価の方法	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		介護実習の手引き
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護実習Ⅱ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング CST201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習Ⅱ（専攻科）

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
中西 正人
松井 奈美
石原 富子
山田 美知代

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20003005

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。
2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。
3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。

学生の達成目標

1. 介護過程の展開実習を通して利用者を全人間的に支援するかわりの重要性を理解する。
2. 実際に真のニーズを理解しそれに応えていくために生活支援技術をいかに生かしていったらよいのかを理解する。

3. ホームヘルプ、デイサービス、ショートステイなどの居宅生活支援事業の重要性を理解する。

授業内容

- 第1回
- * 実習時期：10月（定められた実習期間が終了し次第後期授業開始となる）
 - * 実習日数：合計20日
 - ・ 入居生活する福祉施設において30日の期間中に18日の介護過程の展開実習をおこなう。
 - ・ ホームヘルパーと同行するなどして介護過程の展開実習と同じ30日の期間中に2日の居宅介護実習をおこなう。
 - * 実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する）
 - ・ 介護過程の展開実習：入居生活する福祉施設における、早番、遅番、夜勤などの勤務時間の違う実習
 - ・ 居宅介護実習：訪問介護または訪問入浴介護事業所からの同行訪問、支援センターでの支援業務のいずれかの実習
- ※なお、上記と同じ期間において、実習先の状況や学生の学習状況によって、デイサービスやデイケアなどの通所事業所の実習を実施する場合もある。

予習・復習の内容

- 予習
- 介護過程についての事前学習を振り返る。介護技術の総点検を行い、自分の課題を明確にしておく。
- 復習
- 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
- 展開
- 「介護観」として「介護論」理解のため、文献学習を行い、知識の定着をはかる。

成績評価

- 評価の基準
- 実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。
- 評価の方法
- 実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。

教科書

- 教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
- 介護実習の手引き

推薦図書等

- 書籍名
- 最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
- 著者名
- 坪田孝・能田茂代編
- 出版社
- メヂカルフレンド社
- 価格
- ISBN・ISSN

参考URL

備考

発達と老化の理解 I（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBG101

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達と老化の理解 I（専攻科）

科目責任者 丹羽 真里

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20003305

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

高齢者の特徴を心理学的知見をもとに概説し、高齢者の生活支援の環境や支援者のありかたについて理解する。

学生の達成目標

1. 高齢者の心理学的特徴を理解する。
2. 高齢者支援の環境や課題を理解する。
3. 高齢者支援に関わる支援者のあり方を理解する。

授業内容

- 第1回 第1回 講義及びレポート等のガイダンス、高齢社会と高齢者の心理（目標1）
第2回 高齢社会と高齢者の心理学 高齢者の健康、長寿とライフスタイル（目標1・2）
第3回 老化と認知症について ビデオを観て学ぶ（目標1・2・3）
第4回 高齢者の認知症と精神疾患（1）（目標1・3）
第5回 高齢者の認知症と精神疾患（2）（目標1・3）
第6回 身体・生理・心理機能の加齢変化（目標1）
第7回 高齢者支援に関わる支援者（1）ビデオを観て学ぶ（目標3）
第8回 高齢者支援に関わる支援者（2）ビデオを観て学ぶ（目標3）

第9回 高齢者の知能・創造性・知恵の発達（目標1）
第10回 高齢期の人格、自己概念の特徴（目標1）
第11回 適応理論とサクセスフルエイジング（目標1）
第12回 高齢期の家族、対人関係と社会生活（目標1）
第13回 高齢者の支援（1）（目標1）
第14回 高齢者の支援（2）（目標2）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	高齢者に関わる事象に日常から関心を持ち、関連する資料や報道について理解する。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	授業で扱った事柄の中から、興味や関心を持った領域についてさらに調べ、理解を深める。

成績評価	評価の基準	高齢者の心理・社会的状況を理解する。授業の内容をもとに高齢者支援の基本的な知識の有無を成績評価の基準とする。
	評価の方法	平常点：レポート＝1：1　ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	高齢者心理学
	著者名	一番ヶ瀬康子監修　下仲順子，中里克治編著
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

発達と老化の理解Ⅱ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBG201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達と老化の理解Ⅱ（専攻科）

科目責任者 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20003405

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。学生は、課題学習をしながら、主体的な学びができるようにする。

学生の達成目標

1. 老化による身体的変化について理解できる。
2. 高齢者に起こりやすい疾病の特徴および日常生活での留意点などが理解できる。

授業内容

第1回	第1回	ガイダンス、加齢（老化）とは
	第2回	“老い”に対する捉え方・価値
	第3回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系）
	第4回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系）
	第5回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか）
	第6回	高齢者の病気の特徴
	第7回～第10回	生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）
	第11回～第13回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点

予習・復習の内容	予習	日常生活の中で「発達」「老化」に関心を持ち、考えを深めることができる。 テキストは最低限予習し、疑問点を明らかにする。
	復習	課題，発表を通して他者の学びも共有し，自己の学びを深めるようにする。
	展開	老化について理解を深め，特徴を理解したうえで日常生活での留意点について知識を深める。

成績評価	評価の基準	テスト70%，課題レポート30%
	評価の方法	テスト及び課題レポートを総合する。

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座11発達と老化の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-8058－3422

推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 9
	著者名	林泰史他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	9 7 8－4－8 3 9 2－3 1 4 9－1

参考URL

備考

認知症の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解 I

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20003505

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基く認知症の症状理解を行う。

学生の達成目標

1. 認知症ケアの歴史を理解する。
2. 医学的視点に基づく認知症の症状を理解する
3. 認知症のある人と家族への支援について学ぶ。

授業内容

- 第1回 第1回 認知症ケアの歴史の変遷（認知症の疫学、施策も含む）その I
第2回 医学的側面からの認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）
第3回 認知症の検査や治療法を理解
第4回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 その I 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他
第5回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 その II 徘徊・妄想・食行動異常・その他
第6回 認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）
第7回 コミュニケーション障害としての認知症
第8回 認知症のある人が抱える心理的な問題（不快、不安、混

乱、被害感等)
第9回 認知症のある人にみられるさまざまな行動（徘徊，異食，妄想，介護拒否等）
第10回 BPSDの出現原因，介護者との関係
第11回 認知症のある人の家族の心理と障害受容
第12回 認知症のある人を介護する家族への支援
第13回 若年性認知症のある人と家族の支援 そのⅠ
第14回 若年性認知症のある人と家族の支援 そのⅡ
第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習	認知症に関連する報道に関心を持ち，学習すること。
復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
展開	認知症に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。

成績評価

評価の基準	
評価の方法	レポート提出、期末テスト

教科書

書籍名	新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解
著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
出版社	中央法規
価格	
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

認知症の理解Ⅱ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解Ⅱ（専攻科）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20003605

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。

学生の達成目標

1. 認知症ケアに関する基礎的知識を習得する
2. 認知症の心理療法について理解する
3. 認知症ケアの今後の展望について理解する

授業内容

- 第1回 第1回 認知症ケアの理念について
第2回 パーソンセンタードケアについて そのⅠ
第3回 パーソンセンタードケアについて そのⅡ
第4回 認知症の心理療法 そのⅠ
第5回 認知症の心理療法 そのⅡ
第6回 認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 そのⅠ
第7回 認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 そのⅡ
第8回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 そのⅠ
第9回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 そのⅡ
第10回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 そのⅢ
第11回 認知症の予防

第12回 認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 そのⅠ
第13回 認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 そのⅡ
第14回 認知症ケアの今後の課題
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	認知症に関連する報道に関心をもち、学習すること。テキスト（特に認知症のケアの部分）を事前に読むこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果，図書や研究成果，国の政策などを調べ，知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。
	評価の方法	テスト及び小論文、授業態度により評価する。

教科書	書籍名	新・介護福祉士講座12 認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座委員会
	出版社	中央法規
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

障害の理解（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング MBH201

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害の理解（専攻科）

科目責任者 松井 奈美

担当教員 川村 博子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20003805

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害の概念、障害者福祉の理念、身体障害、精神障害・知的障害等の種類と原因と特性、家族への支援を理解する。

学生の達成目標

1. 障害のある人の心理に関する基礎的知識を学ぶ。
2. 障害のある人の日常生活上の課題を理解する。
3. 本人および家族を含めた生活支援の留意点・自立に向けた介護のあり方を理解する。

授業内容

第1回	第 1回	障害の概念
	第 2回・第3回	障害福祉の基本理念
	第 4回・第5回	肢体不自由（運動機能障害）のある人の理解
	第 6回	内部障害のある人の理解
	第 7回	視覚障害のある人の理解
	第 8回	聴覚障害のある人、言語障害のある人の理解
	第 9回	全介助を要する人および難病の人の理解
	第10回・第11回	精神障害のある人の理解
	第12回	高次機能障害のある人の理解
	第13回	発達障害のある人の理解

	第14回 第15回	家族への支援 地域におけるサポート体制、まとめ
予習・復習の内容	予習	事前にテキストで授業範囲を確認し読んでおくこと。
	復習	レジュメや講義内容をメモした自筆ノートを再読すること。
	展開	障害当事者が書いた書籍を読み理解を深める。
成績評価	評価の基準	定期試験80%、レポート、受講態度20%
	評価の方法	定期試験、レポート、受講態度により総合的な評価を行う。
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座13 障害の理解」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2 2 0 0 円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－3771－9
推薦図書等	書籍名	介護福祉士養成テキストブック12『障害の理解』
	著者名	小澤温（編）
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2600円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－623－05299－8
参考URL		
備考	・第1回～第3回、第10回～第15回の授業担当者：川村 ・第4回～第9回の授業担当者：松井	
	・定期試験は全授業終了後に実施する	

こころとからだのしくみ I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみ I

科目責任者 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20004005

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 こころとからだのしくみの基礎と代表的疾患について講義。

学生の達成目標 1. こころとからだのしくみの基本と代表的障害を学び、care workerとして必要な知識を習得する。

授業内容

第1回	第1回 欲求, 自己概念, 尊厳, 自己決定
	第2回 細胞, 生体膜, 核, DNA, ATP
	第3回 組織 (上皮, 支持, 筋, 神経)
	第4回 血液, ホメオスタシス
	第5回 皮膚, 骨格, 筋系の解剖と生理
	第6回 循環器系, 呼吸器系の解剖と生理
	第7回 消化器系の解剖と生理
	第8回 腎・泌尿器系, 内分泌系の解剖と生理
	第9回～第11回 脳神経系の解剖と生理
	第12回 感覚器系の解剖と生理
	第13回～第15回 疾病 (障害) と介護 (悪性腫瘍, 虚血系心疾患, 脳血管障害, 高血圧, 糖尿病, 感染症, 免疫異常, など)

予習・復習の内容

予習	講義の最後に, 次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
復習	講義の最後にまとめたものを復習する。

	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	
	出版社	南江堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	金芳堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	へるす出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅡ（専攻科）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみⅡ（専攻科）

科目責任者 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20004105

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できる。

学生の達成目標

1. 人体各部の名称と、日常生活に関連した身体の仕組みと心について理解できる。
2. 将来的に介護技術を行う際に身体の仕組みやこころについて関連付けて考えることができる。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|---|
| 第1回 | 第1回 | 人体部位の名称、生命の維持のしくみ |
| | 第2回 | 人体部位の名称、生命の維持のしくみ |
| | 第3回 | 移動に関連した解剖生理 |
| | 第4回 | 移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス |
| | 第5回 | 食事に関連した解剖生理
機能低下が食事に及ぼす影響 |
| | 第6回 | 栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点 |
| | 第7回 | 入浴、清潔保持に関連した解剖生理
皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響 |
| | 第8回 | 入浴、清潔保持の実践 |
| | 第9回 | 身じたくに関連した解剖生理
機能低下が身じたくに及ぼす影響 |

		第10回 身じたくの関連したところのしくみ 第11回 排泄に関連した解剖生理 機能低下が排泄に及ぼす影響 第12回 排泄に関連したところのしくみ 第13回 睡眠の構造と睡眠障害 睡眠に関連したところのしくみ 第14回 終末期の心身の状況・死後の変化 死に対するところの理解 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	生活を行ううえでの身体の仕組みや心について、関連する図書を読んだりしておく。 テキストも事前に目を通しておくこと。
	復習	解剖生理と介護援助を関連づけて考えることができるようにする。
	展開	機能低下が日常生活に及ぼす影響について、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	テスト（70%）、課題レポート（30%）
	評価の方法	テスト及び課題レポートを総合する。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第12巻こととからだのしくみ
	著者名	小坂橋喜久代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2940
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3162-0
推薦図書等	書籍名	カラー人体解剖学
	著者名	F. H. マティーニ他
	出版社	西村書店
	価格	7800+税
	ISBN・ISSN	978-4-8913-305-5
参考URL		
備考		

在宅における医療処置

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2014年度

科目区分 専門科目

授業科目名 在宅における医療処置

科目責任者 布施 千草

担当教員 井口 ひとみ
今井 訓子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 41100805

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 家族介護者が行う医療処置を支援するために看護技術の基礎知識を養う。

学生の達成目標 1. 家族介護者が行う医療処置を支援するために看護技術の基礎知識を養う。

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス：（家庭生活の基本機能・地域概念）家族介護者と医療処置の現状
	第2回～第3回 感染予防（清潔・不潔を含む）、手指消毒、ガウンテクニック
	第4回～第5回 創や褥創の処置、自己導尿、膀胱洗浄
	第6回～第7回 経管栄養、中心静脈栄養法
	第8回～第9回 酸素吸入、人工呼吸療法
	第10回～第11回 緊急時の対応、吸引
	第12回～第13回 注射法（インシュリン投与、点滴の固定と抜針）
	第14回～第15回 補習とまとめ

予習・復習の内容	予習	在宅で行われている医療処置（訪問看護）に関心を持ち学習する。	
	復習	毎回の授業要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。	
	展開	訪問看護に関する最新の図書で、知識・理解を深める。	
成績評価	評価の基準	課題レポート及び授業への参加態度などを総合的に評価する。	
	評価の方法	毎回の課題レポート（80%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
	資料を配付する。		
推薦図書等			
参考URL			
備考			